

看護学専攻

開設科目	解剖学入門	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	服部幸夫・篠原紀幸				

●授業の概要 保健学科の授業は人体の構造を基礎に形作られている部分が多い。したがって、解剖学用語が解っていないと学習が捗らない。しかも、実際の医療では解剖学用語は日本語だけでなく、しばしば英語が使われる。この現実面を踏まえて、後期の「形態学」講義は英語の教科書を用いて授業がなされる。しかし、急に英語の専門用語が出てきても戸惑うことが予測されるので、その入門編を前期に行なう。／検索キーワード 解剖学

●授業の一般目標 人体組織の部位とそれに対応する日本語、英語名を覚える。教科書を読みながら、それぞれの機能を理解しながら学習する。後期の「形態学」の導入授業

●授業の到達目標／知識・理解の観点：人体の肉眼的構造を理解する 思考・判断の観点：人体の構成と、それがいかなる機能を行っているか、を理解する 関心・意欲の観点：人体はいわば小宇宙ともいえる。その入り口に立っていることを自覚し、これからの医学知識獲得への関心を持つ。態度の観点：医学/医療には膨大な知識が必要とされる。これを理解して初めてまともな医療従事者が成立する。そのためには真摯に努力を重ねる態度が求められる。また同時に、常に医学を「科学」として眺める態度が医療従事者としての職務を豊かにしてくれる。

●授業の計画（全体）人体の構造（位置関係、名前）を頭にたたき込んで戴きます。多くのイラストを見ながら学びます。学生さんはデジタル化された「からだの地図帳」を電子辞書で英語の発音をさせながら正しい発音で脳に刻みつけてください。その作業を自分でやって授業に臨みます。授業はポストテスト形式で始まります。これは完全に IT 化されており、コンピューターに解答を記入し教官へ E-mail で送ります。専門用語のリスニングも含まれています。これが授業の 2/3 を占めます。残りの 1/3 は短時間で今回の指定範囲の overview あるいはビデオを放映する予定です。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション（概要、ソフトのインストールなど）内容 パソコンを持参する。
- 第 2 回 項目 (1) 頭と首には何があるか、(2) 頭蓋と頭の血管、(3) 脳と脊髄 (2)、(4) 眼
- 第 3 回 項目 (1) 耳、(2) 鼻、(3) 口腔と歯、(4) 咽頭と喉頭、(5) 胸部には何があるか
- 第 4 回 項目 (1) 肺と気管、気管支 (2)、(2) 肺胞とガス交換、(2) 呼吸に関係する筋肉、(3) 心臓
- 第 5 回 項目 (1) 心臓を養う血管、(2) 心拍動リズムと心周期、(3) 乳房 (4) 腹部には何があるか、(5) 食道
- 第 6 回 項目 (1) 胃と十二指腸 (2)、(2) 小腸、大腸、肛門、(3) 消化と吸収、(4) 肝臓 (2)、
- 第 7 回 項目 (1) 胆嚢と膵臓、(2) 脾臓、(3) 腎臓 (2)、膀胱と尿道
- 第 8 回 項目 (1) 男性生殖器、(3) 女性生殖器 (2)、(4) 月経のメカニズム、(5) 妊娠の成立
- 第 9 回 項目 (1) 上肢と下肢の骨と筋肉、(2) 肩関節、(3) 肘関節と手の関節、(4) 股関節と膝関節、(5) 足の関節
- 第 10 回 項目 (1) 上肢の血管、(2) 下肢の血管、(3) 上肢の神経、(4) 下肢の神経
- 第 11 回 項目 (1) 筋肉 (2)、(2) 骨と関節 (2)
- 第 12 回 項目 (1) 皮膚と毛髪 (2)、(3) 血液とリンパの流れ (2)、リンパ系
- 第 13 回 項目 (1) 神経 (4)、(2) 内分泌器官とホルモン
- 第 14 回 項目 補講
- 第 15 回

●成績評価方法（総合）本試で評価します。本試はポストテストで学んだ中から出題します。ただし、ポストテストの結果も評価の参考にします。

●教科書・参考書 教科書：「からだの地図帳」、高橋長雄 監修、講談社、1989 年；「英辞郎」、道端秀樹 監修、アルク、2002 年；翻訳の王様 v5、, IBM、2002 年；「英辞郎」+翻訳の王様 v5 を使って「からだ

の地図帳」を学びます。／参考書：ネッター解剖学アトラス, F.H.Netter, 南江堂, 2004年；「ネッター解剖学アトラス」は教科書として完成されたものです。「からだの地図帳」を補完してくれますので、是非購入することを勧めます。

- メッセージ 「英辞郎」は医学専門用語も含めた全ての単語（英和/和英,100万語）をカバーする電子辞書（CD）です。「翻訳の王様」（発音つき CD）は単語/英文の発音や英文の長文読解にも役立ちます。他の辞書は不要です。授業はほとんど IT 授業になる予定です。毎時間パソコンが必携です。
- 連絡先・オフィスアワー tel/fax 0836-22-2807 e-mail: yhattori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	形態学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	友永進, 福本哲夫, 澤田知夫				

●授業の概要 ヒトを正しく理解するための第一歩は、人体の構造と機能を理解することから始まる。この授業の目的は、人体の構造の概要を学修し、それを理解することである。従って、この授業科目は、医療分野の専門基礎教育として極めて重要なものである。また、この授業では、英語で記述された教科書を用いる。それは、人体の構造の理解と同時に医学英語にも精通することを目指すためである。授業時間が限られているため、授業外の学修に期待する部分が多い点にも留意願いたい。／検索キーワード human body, anatomy

●授業の到達目標／知識・理解の観点： To learn the structure and function of the cells and tissues. To learn organ systems of the human body. To learn the skeletal and muscular system of the human body. To learn the nervous system of the human body. To learn the cardio-vascular system of the human body. To learn the visceral system of the human body. To learn the development of the human body.
 思考・判断の観点： To learn the structure and function of the cells and tissues. To learn organ systems of the human body. To learn the skeletal and muscular system of the human body. To learn the nervous system of the human body. To learn the cardio-vascular system of the human body. To learn the visceral system of the human body. To learn the development of the human body.

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Cell and Tissues 内容 Structure and function of cells and four types of tissues: (1) Cells and cell organelles(2) Four types of Tissues(a) Epithelial tissue(b) Connective tissue(c) Muscular tissue(d) Nervous tissue 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize structure and function of cell and its organelles.
- 第 2 回 項目 Organ system 内容 Structural and functional characteristics of each organ system will be described. 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize characteristics of each organ system
- 第 3 回 項目 Integumentary system 内容 Summarize characteristics of each organ system 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize characteristics of each organ system.
- 第 4 回 項目 Skeletal System 内容 1) Macro-anatomical and microscopic structure of the bone.2) Structure and function of joints. 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Review all types of human bones.
- 第 5 回 項目 Muscular System 内容 1) Three types of muscles.2) Details of the skeletal muscles: (1) Distribution in the human body; (2) Innervation of skeletal muscles; (3) Function of the major skeletal muscles. 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Read/Review additional printed matters distributed. Review the function of your major skeletal muscles during through your daily activities.
- 第 6 回 項目 Blood and The Circulatory System 内容 1) Blood: its cellular constituents.2) Blood Vascular System: (1) Heart; (2) Artery; (3) Vein; (4) Capillary 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Describe a simplified heart in your notebook and fill out names of rooms/spaces and blood vessels. What is the portal vein?What is a sinus in Dura Matter?
- 第 7 回 項目 The Lymphatic System and Immunity 内容 1) Lymphatics, 2) Lymphocytes, Lymphatic Tissues and Immunity 授業外指示 Read thoroughly the particular chapter of the textbook. What is a function of the thymus? Describe characteristics of the lymphocytes.
- 第 8 回 項目 The Nervous System (1) 内容 Cranial Nerves and Spinal Nerves 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize the function of each cranial nerve. Describe a rough distribution of spinal nervous plexuses.

- 第 9 回 項目 The Nervous System(2) 内容 Brain and Spinal Cord 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize classification of the brain. Summarize the cerebral ventricular system; production and circulation of cerebrospinal fluid. What is the blood brain barrier?
- 第 10 回 項目 Viscera and The Respiratory System 内容 1) Characteristics of the hole organ and the parenchymatous organ, 2) The Respiratory Organs: (1) Respiratory Tract; (2) Lung 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Review examples of the hole organ. Review examples of parenchymatous organ.
- 第 11 回 項目 The Digestive System 内容 1) Alimentary Canal, 2) Digestive Glands Read the textbook thoroughly. Review the common characteristics among the respiratory tract and the digestive canal.
- 第 12 回 項目 the Urinary System 内容 1) Kidney, 2) Urinary Tract 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Review the difference of the respiratory- digestive tracts from the urinary tract. What is the blood urine barrier?
- 第 13 回 項目 The Reproductive System 内容 1) Male Reproductive Organs: (a) Testis, and Female Reproductive Organs; Ovary, Uterus, 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Review the origin of primordial germ cells. What is the perineum?
- 第 14 回 項目 Growth and Development 内容 1) Fertilization, 2) Embryogenesis, 3) Organogenesis. What is blood placenta barrier? Review the relationship between the organogenesis and malformation. 授業外指示 Read the textbook thoroughly. What is blood placenta barrier? Review the relationship between the organogenesis and malformation.

●教科書・参考書 教科書：Structure and function of the body 11th Edition, Thibodeau GA, Patton KT, Mosby, 2000 年／参考書：入門人体解剖学, 藤田恒夫, 南江堂, 2000 年；人体解剖学 42 版, 藤田恒夫, 南江堂, 2000 年；ナース版医学事典, ステッドマン, メジカルビュー, 1999 年

●連絡先・オフィスアワー tomonaga@yic.ac.jp 0836-45-1000

開設科目	生理機能学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	清水昭彦				

●授業の概要 生理機能を人体を構成している種々の系統（循環系、神経系、消化器系、呼吸器系、運動機能系、聴覚・視覚系、口腔歯科系、等）単位で学ぶ。また、生理機能を測定、検査する方法を学ぶ。／検索キーワード 生理学、検査

●授業の一般目標 人体の生理機能を理解する。また、生理機能検査法を学び正常値を把握する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：人体を構成している生理機能システムの名称を覚え、その機能を理解する。思考・判断の観点：人体を構成している生理機能システムの相互関係を思考する。関心・意欲の観点：人の生理機能の統合性を理解することに意欲を持つ。態度の観点：生理学を熱心に学ぶ

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 清水 (7・8時限)
- 第2回 項目 循環系 清水 (9・10時限) 内容 解剖生理
- 第3回 項目 消化器系 日野 (3・4時限) 内容 消化管の解剖と生理機能
- 第4回 項目 中枢神経系 野垣 (5・6時限) 内容 解剖・生理機能
- 第5回 項目 体液とその調節 藤井 (7・8時限)
- 第6回 項目 循環系 清水 (9・10時限) 内容 生理機能検査 I
- 第7回 項目 循環系 清水 (3・4時限) 内容 生理機能検査 II
- 第8回 項目 刺激伝導系 清水 (7・8時限) 内容 心電図
- 第9回 項目 内分泌系 奥屋 (7・8時限) 内容 解剖とホルモン 機能
- 第10回 項目 皮膚系 濱本 (9・10時限) 内容 解剖と生理機能、検査
- 第11回 項目 課題学習 清水 (7・8時限)
- 第12回 項目 消化器系 日野 (3・4時限) 内容 肝・胆・膵の解剖と生理機能
- 第13回 項目 課題学習 清水 (5・6時限)
- 第14回 項目 血液 山田 (7・8時限) 内容 基礎的知識
- 第15回 項目 泌尿器系 松山 (9・10時限) 内容 解剖と生理機能
- 第16回 項目 体温とその調節 清水 (3・4時限)
- 第17回 項目 免疫応答系 清水 (7・8時限) 内容 感染症
- 第18回 項目 歯科口腔系 福田 (7・8時限) 内容 口腔の基礎的知識
- 第19回 項目 視力系 相良 (9・10時限) 内容 眼球および眼球 附属器の解剖、屈折異常、弱視・斜視・斜位、色覚異常
- 第20回 項目 女性生殖系と解剖生理学 田村 (7・8時限)
- 第21回 項目 女性生殖系 田村 (9・10時限) 内容 生理機能・ホルモン
- 第22回 項目 聴覚、平衡感覚系 村上 (3・4時限) 内容 解剖と生理機能
- 第23回 項目 課題学習 清水 (5・6時限)
- 第24回 項目 課題学習 清水 (7・8時限)
- 第25回 項目 骨格、運動系 脇阪 (9・10時限) 内容 運動器の特徴
- 第26回 項目 呼吸器系 清水 (7・8時限) 内容 解剖と生理学
- 第27回 項目 呼吸器系 清水 (9・10時限) 内容 生理機能検査
- 第28回 項目 課題学習 清水 (3・4時限)
- 第29回 項目 課題学習 清水 (7・8時限)
- 第30回 項目 試験 清水 (7・8時限)

●成績評価方法 (総合) 主に試験の成績で判定する。

●教科書・参考書 教科書：シンプル生理学, 貴邑富久子、根来英雄, 南江堂, 2002年

●連絡先・オフィスアワー 清水：ashimizu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	生化学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	田中経彦				

●授業の概要 保健学科看護学学生を対象とする生化学です。現代の医学は、人体、病原体を形成している生体物質の性質、役割を知らずには理解できない。生体物質の性質、役割を勉強するのが生化学 Biochemistry です。生体物質を化学的手段で解明するのが生化学です。これから看護師として栄養学、遺伝学、微生物学、免疫学、病理学等を学ぶのですが、形態学、生理学と並ぶ医学の基礎知識生化学がないと理解できなくなります。／検索キーワード 生化学

●授業の一般目標 細胞を構成し出入りする生体物質の性質を知り、その細胞内、人体内、病原体での役割を理解できるようにし、医学の基礎常識を学ぶ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：看護師として最低限の常識的知識が備わること。 思考・判断の観点：生化学用語を使った医学に関する虚偽を見破る力をつけること。

●授業の計画（全体）教科書を中心に行う

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人体の仕組み、栄養素の消化・吸収
- 第 2 回 項目 糖質の構造とはたらき、脂質の構造とはたらき
- 第 3 回 項目 蛋白質の構造とはたらき
- 第 4 回 項目 酵素の性質とはたらき 1
- 第 5 回 項目 酵素の性質とはたらき 2 ビタミンの種類とはたらき
- 第 6 回 項目 糖質の代謝
- 第 7 回 項目 脂質の代謝
- 第 8 回 項目 アミノ酸の代謝
- 第 9 回 項目 糖新生、グリコーゲン、
- 第 10 回 項目 生体の恒常性を保つシステム
- 第 11 回 項目 エネルギーの消費と供給
- 第 12 回 項目 DNA の構造と複製
- 第 13 回 項目 蛋白質の合成
- 第 14 回 項目 期末試験
- 第 15 回

●成績評価方法（総合）正確な知識が何もないと、考えることはできない。あれば、それについて判断力が生まれる。生化学の場合、知識を取り込むのが先決と考えるので、成績評価も知識、理解についてになる。

●教科書・参考書 教科書：イラスト生化学入門栄養素の旅, 相原英孝他, 東京教学社, 1993 年

●メッセージ 生化学は、内容が多く、理解がしにくいと言われます。私は薬学部で1年間かけて生化学を習いました。保健学科でも1年かけたい所ですが、半年でしなければなりません。欲張らず基本に絞って講義したいと思います。化学を全く知らないと生化学は理解できませんが、できるだけ砕いて説明しようと思っています。

●連絡先・オフィスアワー <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html> ここから質問とその回答を掲載したページへ行けるようにします。授業の終わりに質問を受け付けるつもりですが、不足であれば金曜日の昼休みに後日連絡する教室に質問受付のためにいます。メール連絡先：tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	免疫学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	日野啓輔				

●授業の概要 1) 免疫学の概念 2) 免疫担当細胞についての基礎知識 3) 抗体-免疫グロブリンの機能 4) 補体の活性化機構とその機能 5) 主要組織適合遺伝子複合体 6) 免疫応答とその調節 7) 生体内の免疫応答 8) 抗原・抗体反応とその原理 9) 試験管内抗原・抗体反応／検索キーワード 免疫、抗原、抗体、補体、免疫グロブリン、免疫担当細胞、免疫応答

●授業の一般目標 免疫学全般についてまず概念を理解する。免疫検査の理解に必要な総論を十分に理解し、免疫反応のしくみについて学習する。

●授業の計画（全体） 授業の概要で示した内容について授業を行っていく。理解の到達度をチェックするために、随時授業中に質問を行うか小テストを行う可能性もある。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 免疫学の概念 内容 プリントに沿って授業を行う。液性免疫、細胞性免疫等の概念を説明する。

第2回 項目 免疫担当細胞 内容 抗原提示細胞、リンパ球、貪食細胞等の機能と免疫反応における役割を説明する。

第3回 項目 抗体・免疫グロブリン 内容 抗体・免疫グロブリンの構造と働きについて説明する。また、免疫学的に種々に分類された抗原、抗体の意味について説明する。

第4回 項目 補体の活性化 内容 補体の活性化経路ならびに活性化因子について説明する。

第5回 項目 補体の機能 内容 免疫反応における補体の生物学的役割について説明する。

第6回 項目 主要組織適合遺伝子複合体 内容 主要組織適合遺伝子複合体の構造と機能について説明する。また、免疫反応における主要組織適合遺伝子複合体の役割について説明する。

第7回 項目 免疫応答とその調節 内容 サイトカインを中心とした免疫応答の調節機構について説明する。

第8回 項目 免疫応答とその調節 内容 液性免疫、細胞性免疫の調節や互いの応答について説明する。

第9回 項目 生体内の免疫応答 内容 主としてアレルギー反応について解説し、分類、発現機序について説明する。

第10回 項目 抗原・抗体反応とその原理 内容 抗原・抗体反応の基本原則について解説する。

第11回 項目 抗原・抗体反応とその原理 内容 各種抗原・抗体反応の種類とその異同について解説する。

第12回 項目 試験管内抗原・抗体反応 内容 沈降反応、凝集反応について解説する。

第13回 項目 試験管内抗原・抗体反応 内容 溶解、中和反応について解説する。

第14回 項目 試験管内抗原・抗体反応 内容 免疫化学分析方法について解説する。

●成績評価方法（総合） 前期末試験の成績を最重要視する。

●教科書・参考書 教科書：臨床検査技術学 13 免疫検査学, 小島健一他, 医学書院, 1998年／参考書：臨床免疫学, 福岡良男他, 医歯薬出版株式会社, 2001年

●メッセージ 疑問点をそのままにせず積極的に質問してほしい。

開設科目	病理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	高橋睦夫				

●授業の概要 病理学は医学的知識を習得するための基本になる学問であり、医療従事者の一員としての看護師もその業務を遂行するためには、各疾患の概念、病態などを理解していることが大切である。本授業では疾病について総合的に概説し、さらに基本的な疾患についてもその概念や病因、臨床症状、診断、治療法、経過・転帰などを講義する。／検索キーワード 病因 疾患概念 病理組織

●授業の一般目標 基本的な疾患の概念や病態を理解し、各疾患の臨床病理像、治療法などを把握できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：基本的な疾患について、その概念や病因、臨床症状、診断、治療法、経過・転帰などを理解し、知識として習得できる。思考・判断の観点：臨床症状や理学的所見から疾患を推察することができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 病因、退行性病変と代謝異常
- 第 2 回 項目 循環障害、進行性病変
- 第 3 回 項目 炎症、免疫
- 第 4 回 項目 感染症、腫瘍
- 第 5 回 項目 腫瘍の続き
- 第 6 回 項目 奇形・先天異常、老化
- 第 7 回 項目 各論（循環器系）
- 第 8 回 項目 各論（呼吸器系）
- 第 9 回 項目 各論（消化器系）
- 第 10 回 項目 各論（内分泌系）
- 第 11 回 項目 各論（泌尿器系）
- 第 12 回 項目 各論（生殖器系）
- 第 13 回 項目 各論（造血器・神経系）
- 第 14 回 項目 各論（感覚器・運動器系・皮膚）

●成績評価方法（総合）定期試験と小テストで評価し、授業態度の不良者や規程の出席回数に満たないものは欠格条件とする。

●教科書・参考書 教科書：わかりやすい病理学 改訂第3版、岩田隆子、恒吉正澄、宮原晋一編、南江堂、2001年

●連絡先・オフィスアワー E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp, Tel/Fax: (0836) 22-2845, 研究室：保健学科管理棟4階(411), オフィスアワー：随時

開設科目	微生物学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	梅田昭子				

●授業の概要 病原微生物の種類・構造・感染の概念・治療と予防法についての総論、および各病原微生物についての各論の講義を行なう。／検索キーワード 病原微生物、感染

●授業の一般目標 感染について正しく理解することを目標とする。すなわち、感染の定義、病原微生物とヒトに常在する微生物との違い、常在微生物でもヒトの健康状態により感染原因となりうること、感染症の種類とその原因微生物の主要な性質、感染症の予防と治療法等について知識と理解を深め、実際の医療現場での感染症にたいして適切に対処できる応用力を養う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：一般目標に記載している通り、感染症とその原因となる病原微生物（細菌・真菌・ウイルス他）についての基礎的知識を深め、各感染症やその起因微生物に対する予防法や治療法について、何故この感染症に対してはこの治療法や予防法なのかを理解する。思考・判断の観点：感染についての知識を深めたことにより、医療従事者として感染症の患者にたいして適切な判断と対応ができる応用力を養う。関心・意欲の観点：感染症は、医療現場での患者のみならず、医療従事者本人への脅威でもある。この点をよく理解し、全ての感染症について自分自身のこととして関心を持つよう心掛ける。その他の観点：関心の観点と重複するが、現在では地球上のある地域で発生した感染症が瞬く間に世界中に広がるので、日本国内および世界での感染症の動向に注意を向けるよう心掛ける。

●授業の計画（全体）講義を主軸に、感染症とその起因微生物（細菌・真菌・ウイルス他）について解説し、各感染症にたいしての予防法と治療法を解説すると共に、対処法について各自の思考をうながす。また、ヒトの体内や表皮他には種々の常在微生物が共存しているが、そのうち鼻腔内に常在する細菌を採取する実習も組み込む予定で、環境に存在する微生物への理解を深めたい。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 微生物の種類と分類・構造・増殖機構
- 第2回 項目 微生物の感染機構
- 第3回 項目 常在細菌と感染
- 第4回 項目 滅菌と消毒
- 第5回 項目 化学療法・ワクチン
- 第6回 項目 各論1：グラム陽性・陰性球菌
- 第7回 項目 各論2：グラム陰性通性嫌気性菌（腸内細菌科）
- 第8回 項目 各論3：ヘモフィルス・レジオネラ 他
- 第9回 項目 各論4：嫌気性菌
- 第10回 項目 各論5：スピロヘータ・クラミジア・リケッチア
- 第11回 項目 ウイルス1
- 第12回 項目 ウイルス2
- 第13回 項目 真菌1
- 第14回 項目 真菌2
- 第15回

●成績評価方法（総合）主に期末試験を主として評価するが、小試験やレポートを総合して判断する。

●教科書・参考書 教科書：系統看護学講座6「微生物学」、天児和暢、南嶋洋一、医学書院、2002年／参考書：戸田新細菌学、吉田真一・柳雄介編、南山堂、2004年；標準微生物学、平松啓一・山西弘一編、医学書院、2004年

開設科目	病態学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	清水昭彦・日野啓輔				

●授業の概要 人体に起こる病気の中でも、呼吸器、腎臓、皮膚、膠原病、消化器、内分泌・糖尿病、歯科・口腔外科、整形外科、脳外科、耳鼻科に関して講義形式で行う。／検索キーワード 呼吸器、腎臓、皮膚、膠原病、消化器、内分泌・糖尿病

●授業の一般目標 呼吸器、腎臓、皮膚、膠原病、消化器、内分泌・糖尿病、歯科・口腔外科、整形外科、脳外科、耳鼻科に起こる病気の診断方法、治療に関して理解する。内容が多いので予習・復習が必要である。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：呼吸器、腎臓、皮膚、膠原病、消化器、内分泌・糖尿病、歯科・口腔外科、整形外科、脳外科、耳鼻科に関しての知識・理解 思考・判断の観点：呼吸器、腎臓、皮膚、膠原病、消化器、内分泌・糖尿病、歯科・口腔外科、整形外科、脳外科、耳鼻科の治療 関心・意欲の観点：呼吸器、腎臓、皮膚、膠原病、消化器、内分泌・糖尿病、歯科・口腔外科、整形外科、脳外科、耳鼻科への関心 態度の観点：授業への取り組み

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 消化器系 日野 (3・4 時限) 内容 食道/胃/十二指腸の疾患
- 第 2 回 項目 腎臓 藤井 (7・8 時限) 内容 腎疾患 I
- 第 3 回 項目 歯科口腔外科 福田 (7・8 時間) 内容 口腔の代表的疾患の病態と障害
- 第 4 回 項目 皮膚科 濱本 (7・8 時限) 内容 皮膚疾患の病態と検査・治療法 の総論
- 第 5 回 項目 消化器系 日野 (3・4 時限) 内容 小腸/大腸の疾患
- 第 6 回 項目 歯科口腔外科 福田 (7・8 時限) 内容 口腔内衛生状態の悪化、口腔内 のケア
- 第 7 回 項目 皮膚科 濱本 (7・8 時限) 内容 主な皮膚疾患の診断と治療及び看護上の留意点
- 第 8 回 項目 消化器系 日野 (3・4 時限) 内容 (肝炎、肝炎ウイルス)
- 第 9 回 項目 腎臓 藤井 (7・8 時限) 内容 腎疾患 II
- 第 10 回 項目 内分泌代謝学 奥屋 (7・8 時限) 内容 各種内分泌疾患の診断と治療 (I)
- 第 11 回 項目 脳外科 野村 (7・8 時限) 内容 I 脳血管障害
- 第 12 回 項目 消化器系 日野 (3・4 時限) 内容 (肝硬変、門脈圧亢進、肝細胞癌)
- 第 13 回 項目 内分泌代謝学 奥屋 (7・8 時限) 内容 各種分泌疾患の診断と治療 (II)
- 第 14 回 項目 脳外科 野村 (7・8 時限) 内容 I 脳血管障害及び II 脳腫瘍と神経外傷
- 第 15 回 項目 消化器系 日野 (3・4 時限) 内容 胆道/膵臓疾患
- 第 16 回 項目 膠原病 中村 (7・8 時限) 内容 免疫に対する基礎知識、膠原病の病態と治療
- 第 17 回 項目 整形 脇阪 (9・10 時限) 内容 運動器疾患の特徴/運動器疾患に対する診断と 検査
- 第 18 回 項目 内分泌代謝学 奥屋 (7・8 時限) 内容 糖尿病の成因、態、治療法、指導法
- 第 19 回 項目 脳外科 野村 (7・8 時限) 内容 脳神経外科看護のポイント
- 第 20 回 項目 膠原病 中村 (7・8 時限) 内容 検査目的とその評価、膠原病の身体状態
- 第 21 回 項目 整形 脇阪 (9・10 時限) 内容 主な疾患とその治療法 (I)
- 第 22 回 項目 呼吸器 清水 (3・4 時限) 内容 上気道と気管支/肺の疾患 I
- 第 23 回 項目 呼吸器 清水 (7・8 時限) 内容 肺の疾患 II
- 第 24 回 項目 内分泌代謝学 奥屋 (7・8 時限) 内容 高脂血症・痛風の病態と生活指導法
- 第 25 回 項目 膠原病 中村 (7・8 時限) 内容 SLE、強皮症、慢性関節リュウマチ、多発性筋 炎、多発動脈炎、混合性結合織炎、その他
- 第 26 回 項目 整形 脇阪 (9・10 時限) 内容 主な疾患とその治療法 (I)
- 第 27 回 項目 呼吸器 清水 (3・4 時限) 内容 症状と病態生理
- 第 28 回 項目 耳鼻科 村上 (3・4 時限)
- 第 29 回 項目 呼吸器 清水 (3・4 時限) 内容 胸膜/縦隔/横隔膜/胸部外傷/その他
- 第 30 回 項目 耳鼻科 村上 (3・4 時限)

●成績評価方法 (総合) 主として試験にて評価

●教科書・参考書 教科書：系統看護学講座専門6・7・8・9・10・11・13・14・15・17・18, , 医学書院, 2001年

●連絡先・オフィスアワー 清水：ashimizu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	病態栄養学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	長坂祐二				

●**授業の概要** 適切な栄養管理は、患者の生命維持に必須であるばかりでなく、疾病の治療・予防や周術期の管理を効果的に実施する上で基本となる治療法である。また、患者の QOL 向上させる重要な要因である。この講義では病態の改善に食事療法が重要な位置を占める代表的疾患をとりあげ、その概念、病態、診断、治療（食事療法を中心に）の原則について概説する。

●**授業の一般目標** 1. 栄養素の種類と機能に関する基礎知識をもとに栄養所要量、栄養法の種類と適応、栄養障害の評価方法、治療方法を理解する。2. 腸疾患、肝臓病、腎臓病の病態と栄養サポートに関する知識を習得する。3. 生活習慣病の考え方を理解し、肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧の病態と食事療法を中心とした治療法を理解する。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**：1. 栄養素の種類と機能を列挙できる。2. 栄養所要量がどのように設定されたか説明できる。3. 栄養法の種類と適応を列挙できる。4. 栄養障害の評価方法と治療法を説明できる。5. 腸疾患・肝臓病・腎臓病の食事療法の基本を説明できる。6. 肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧についてその病態と食事療法の意義について説明できる。7. 病態に応じて必要なエネルギー量、栄養素の配分を算出できる。

●**授業の計画（全体）** 前半では、栄養素の不足が問題となる疾患を取り上げて栄養状態の把握方法（栄養アセスメント）、栄養状態改善のための栄養サポートについて講義する。後半では、生活習慣病の予防・治療における食事療法の意義と実践方法について講義する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 栄養学の基礎知識 内容 糖質、タンパク質、脂質の消化・吸収・代謝・機能の基礎知識を確認する

第 2 回 項目 日本人の栄養所要量 内容 栄養所要量策定の根拠、現在の国民栄養の現状

第 3 回 項目 栄養法 内容 経口法、経腸栄養法、静脈栄養法

第 4 回 項目 栄養障害の栄養サポート 内容 栄養評価、PEM、術前・術後の栄養サポート

第 5 回 項目 腸疾患の栄養サポート 内容 下痢と便秘、過敏性腸症候群、炎症性腸疾患

第 6 回 項目 肝臓病の栄養サポート 内容 急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、脂肪肝

第 7 回 項目 腎臓病の栄養サポート 内容 腎炎症候群、ネフローゼ症候群、腎不全、人工透析

第 8 回 項目 生活習慣病総論 内容 成人病から生活習慣病へ、生活習慣病の EBM

第 9 回 項目 肥満 内容 肥満による健康障害、診断、治療

第 10 回 項目 高脂血症 内容 病態、診断、治療

第 11 回 項目 糖尿病（1） 内容 病態、診断

第 12 回 項目 糖尿病（2） 内容 食事療法、運動療法、薬物療法

第 13 回 項目 高血圧症 内容 病態、診断、治療

第 14 回 項目 動脈硬化症 内容 病態、虚血性心疾患、脳卒中

第 15 回

●**成績評価方法（総合）** 授業中に行う小テストと期末試験により評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：指定しない。ホームページ（<http://www.c-able.ne.jp/nagasaka/>）より講義ノートを配布する。／参考書：授業中に適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** nagasaka@yamaguchi-pu.ac.jp

開設科目	臨床薬理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	神谷晃・尾家重治				

- 授業の概要 看護の立場から必須の医薬品に関する知識（薬物の作用、級数と分布と排泄、効果と副作用、各種剤型とその特徴など）について講義する。

開設科目	保健学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山崎秀夫、高橋幸広、名越究				
<p>●授業の概要 地域で生活する人々の健康の保持・増進のための方策を公衆衛生学的な視点から教授する。 ／検索キーワード 健康、保健</p> <p>●授業の一般目標 1. 世界と日本の健康増進対策と保健対策について理解する。 2. 望まれる健康増進対策と保健対策を考察する。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：日本と世界の健康状態を述べることができる。ヘルスプロモーションを要約できる。WHOの役割と機能を説明できる。日本の健康対策とその経緯が説明できる。 思考・判断の観点：日本と世界の健康問題対策の問題点を指摘できる。</p> <p>●授業の計画（全体）講義の概要説明ヘルスプロモーション1ヘルスプロモーション2厚生労働省と健康厚生労働省と生活公衆衛生と保健学健康をめぐる諸問題1（人口問題）健康をめぐる諸問題2（環境、食に関する問題）国民の健康と保健統計疫学と疾病予防健康教育とその展開公衆衛生・保健活動の実際保健行政まとめ</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 講義の概要説明 内容 担当教員やシラバについて説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第2回 項目ヘルスプロモーション1 内容ヘルスプロモーションの背景、意義、内容等、ヘルスプロモーションの枠組みについて説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第3回 項目ヘルスプロモーション2 内容ヘルスプロモーションについて、施策的視点からアプローチし、その実際を説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第4回 項目厚生労働省と健康 内容厚生労働省の組織的構成と健康政策策定のプロセス等について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第5回 項目厚生労働省と生活 内容厚生労働省が展開する健康政策と国民の生活について、具体例を示しながら説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第6回 項目公衆衛生と保健学 内容公衆衛生と保健学の関わりや相違について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第7回 項目健康をめぐる諸問題1 内容健康問題との関わりから人口問題を取り扱い、世界人口、日本人口等について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第8回 項目健康をめぐる諸問題2 内容環境問題や食に関わる問題を保健学的視点から説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第9回 項目国民の健康と保健統計 内容国民の健康状態の実態と健康水準を示す諸指標について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第10回 項目疫学と疾病予防 内容健康問題の本質を探る手法としての疫学や疾病予防の方法等について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第11回 項目健康教育とその展開 内容健康教育の目的、目標、内容、方法、評価等について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第12回 項目公衆衛生・保健活動の実際 内容公衆衛生活動や保健活動の実際と問題点等について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第13回 項目保健行政 内容日本の保健行政を体系的に整理しながら、その仕組みや関連法令等について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第14回 項目まとめ 内容全体的なまとめを行う。</p> <p>第15回 項目試験</p> <p>●成績評価方法（総合）筆記試験と出席により評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：公衆衛生学，小野寺伸夫編，メヂカルフレンド社，2004年</p>					

開設科目	保健統計学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	山崎秀夫				

●**授業の概要** この授業は数理統計学ではなく、保健統計学である。難しい統計理論の理解を目的とするのではなく、保健情報や看護研究を考えていく上で統計学を応用できることを目的とする。具体的には、あるデータが得られた時にどの様な統計を使えるか(使うべきか)、また、その結果を読み取るにはどうしたらよいかを説明する。しかし、この学年は1年次での共通教育における統計学を選択していない学生が多いため、必要な統計学の基礎も説明する。授業では、健康指標の説明から始まり、データの種類、統計の種類、統計における基礎的な指標、統計的推定、統計的検定、相関と回帰、生存データ解析を説明する。授業の区切りで、統計パッケージを用いて、EXCELによるデータ解析を説明する。後期で講義する疫学と共に、保健師国家試験に必須の科目である。／検索キーワード 人口統計、健康指標、 χ 二乗検定、t検定、ノンパラメトリックの検定、相関

●**授業の一般目標** (1)人口統計を理解する。(2)健康指標の概念を理解する。(3)統計学の基礎となる確率・分布理論を理解する。(4)測定データから適切な検定方法を使用する。(5)EXCELを使用して検定や解析を理解する。(6)統計解析結果を考察する。

●**授業の到達目標**／知識・理解の観点：(1)人口統計を説明できる。(2)健康指標の概念を説明できる。(3)統計学の基礎となる確率・分布理論を説明できる。(4)測定データから選ぶべき適切な検定方法を説明できる。(5)EXCELを使用して検定や解析の説明をする事が出来る。(6)統計解析結果を説明できる。
思考・判断の観点：国民保健統計を読み取り、考察出来る。測定データから適切な検定方法を類別できる。
技能・表現の観点：統計解析するに当たって、Excelを使用できる。

●**授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 人口統計 (人口静態、人口動態統計)
- 第2回 項目 健康指標
- 第3回 項目 確率、 χ 二乗検定
- 第4回 項目 正規分布を基本とした統計 (1)
- 第5回 項目 正規分布を基本とした統計 (2)
- 第6回 項目 正規分布を基本とした統計 (3)
- 第7回 項目 相関と回帰
- 第8回 項目 ノンパラメトリックの検定 (1)
- 第9回 項目 ノンパラメトリックの検定 (2)
- 第10回 項目 多変量解析
- 第11回 項目 生存データの解析
- 第12回 項目 統計処理実習1
- 第13回 項目 統計処理実習2

●**成績評価方法(総合)** 出席および演習レポートおよび筆記試験で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：保健学講座(8)疫学・保健統計, 豊川裕之, メヂカルフレンド社, 2002年／参考書：統計の勉強をするに当たって、下記の本などを参考にするとよい。バイオサイエンスの統計学：著者・市原清志(南江堂) 道具としての統計学：著者・奥田千恵子(金芳堂)

●**連絡先・オフィスアワー** miwamoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：医学部保健学科4階

開設科目	環境衛生学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	岩本美江子				

●授業の概要 環境衛生学は、保健学科のカリキュラム編成に当たり、公衆衛生学の一分野であったものが独立した授業科目である。環境問題は1970年代の公害防止対策から環境影響評価、さらに地球環境問題、廃棄物や自動車公害等へと変化してきた。看護師、保健師としての立場で、身近な居住環境から地球規模の人間居住環境に至るまでの環境を説明し、さらに環境と人の健康との関わりを説明する。また食中毒や食品添加物等の食品衛生についてもこの授業で説明する。／検索キーワード 健康、公衆衛生、環境衛生、産業衛生、食品衛生

●授業の一般目標 (1) 水環境の変化と健康影響を理解する。(2) 大気環境の変化と健康影響を理解する。(3) 物理的環境の変化と健康影響を理解する。(4) 産業職場の環境変化と健康影響について理解する。(5) 地球規模の環境変化と健康影響について理解する。(6) 栄養と健康について理解する。(7) 食品衛生と健康について知る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：(1) 水環境の変化と健康影響を説明できる。(2) 大気環境の変化と健康影響を説明できる。(3) 物理的環境の変化と健康影響を説明できる。(4) 産業職場の環境変化と健康影響について説明できる。(5) 地球規模の環境変化と健康影響について説明できる。(6) 栄養と健康について説明できる。(7) 食品衛生と健康について説明できる。 思考・判断の観点：環境が及ぼす人の健康について自分の意見を述べる事が出来る。 関心・意欲の観点：生活の中で環境問題に関心をひろげ、問題意識を高める事が出来る。 態度の観点：日常生活の中で環境問題について主体的に考える事が出来る。 技能・表現の観点：地球環境問題についてプレゼンテーションする事が出来る。

●授業の計画(全体) 授業は毎回プロジェクトを用いる。プロジェクターで用いたスライドは、インターネットで見られるようにしている。さらにプリントを配布する。2回に1度の程度で宿題を出すので、レポート提出する。最後の宿題は地球環境問題についてを課し、数人の学生にパワーポイントによる発表をしてもらう。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 環境衛生概論
- 第2回 項目 生活環境と健康：上水
- 第3回 項目 生活環境と健康：下水 廃棄物
- 第4回 項目 室内環境
- 第5回 項目 環境保健：大気 汚染
- 第6回 項目 環境保健：水質 汚濁
- 第7回 項目 騒音・振動
- 第8回 項目 I. 産業職場の環境衛生(産業衛生)
- 第9回 項目 II. 産業職場の環境衛生(産業衛生)
- 第10回 項目 栄養
- 第11回 項目 食品衛生
- 第12回 項目 地球環境
- 第13回 項目 その他
- 第14回
- 第15回

●成績評価方法(総合) 期末試験で主に評価するが、宿題レポート提出状態、レポート内容、授業内でのプレゼンテーションも加味して総合評価する。

●教科書・参考書 教科書：公衆衛生学, 眞野喜洋他, 医歯薬出版株式会社, 2004年

●連絡先・オフィスアワー miwamoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：医学部保健学科4階

開設科目	疫学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	岩本美江子				

●授業の概要 疫学とは人間集団を対象にして人間の健康およびその異常を宿主、病因、環境の各面から包括的に研究し、その増進と予防を図る学問である。人間集団における健康障害の頻度と分布を研究し、そしてそのような分布が生じる原因を統計学的手法を用いて究明する事を説明する。2年後期で学んだ保健学、3年前期で学んだ保健統計学を理解しているものとして理論と例題で説明する。いずれも保健師国家試験の必須科目である。／検索キーワード 疫学的尺度、スクリーニング検査、コホート研究、ケース・コントロール研究

●授業の一般目標 (1) 疫学の定義と方法論を理解する。(2) 多様な研究デザインの利点と欠点を理解する。(3) 基礎的な疫学的尺度を理解する。(3) 疾病発生のパターンを理解する。(4) 医学的サーベイランスを理解する。(5) 疾患の集団発生を理解する。(6) スクリーニング検査を理解する。(7) コホート研究を理解する。(8) ケース・コントロール研究を理解する。(9) 実験型研究、介入研究を理解する(10) 因果関係を理解する。(11) バラツキとバイアスを理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：(1) 疫学の定義と方法論を説明できる。(2) 多様な研究デザインの利点と欠点を説明できる。(3) 基礎的な疫学的尺度を説明できる。(3) 疾病発生のパターンを説明できる。(4) 医学的サーベイランスを説明できる。(5) 疾患の集団発生を説明できる。(6) スクリーニング検査を説明できる。(7) コホート研究を説明できる。(8) ケース・コントロール研究を説明できる。(9) 実験型研究、介入研究を説明できる。(10) 因果関係を説明できる。(11) バラツキとバイアスを説明できる。思考・判断の観点：授業で取り上げた各領域について、自分の意見を論理的に述べる事が出来る。関心・意欲の観点：問題意識を高める事が出来る。

●授業の計画（全体） 授業は毎回プロジェクトを用いる。授業の最後は演習問題で要点を整理する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 疫学とは
- 第2回 項目 疫学入門
- 第3回 項目 疫学的尺度
- 第4回 項目 疫学発生のパターン
- 第5回 項目 医学的サーベイランス
- 第6回 項目 疾患の集団発生
- 第7回 項目 診断学的検査
- 第8回 項目 臨床試験
- 第9回 項目 コホート研究
- 第10回 項目 ケース・コントロール研究
- 第11回 項目 実験研究、介入研究
- 第12回 項目 バラツキとバイアス
- 第13回 項目 疫学の重要問題
- 第14回 項目 遺伝疫学
- 第15回 項目 疫学文献の読み方

●成績評価方法（総合） 学期末試験と小テスト、宿題レポートで評価する。

●教科書・参考書 教科書：医学がわかる疫学, 熊倉伸宏, 高柳満喜子監訳, 新興医学出版社, 2004年／参考書：下記の本などを参考書として薦める。疫学（基礎から学ぶために）：日本疫学会編（南光堂）疫学マニュアル：柳川洋編（南山堂）

開設科目	救急医療概論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山勢博彰、藤澤怜子、本山仁美				
<p>●授業の概要 緊急に対応を迫られる救急医療の概要と救急医療システムを解説し、救急状況にある患者とその家族の総合的理解と医療職者の医療および看護活動について、必要な知識と方法を教授する。また、救急医療で遭遇する事が多い疾患・外傷等について解説する。／検索キーワード 救急医療、救急医学、救急看護、災害医療、災害看護、外傷、外傷看護</p> <p>●授業の一般目標 1、救急医療の概要と救急医療システムを理解できる。2、救急状況にある患者とその家族の総合的理解と医療職者の医療および看護活動（災害医療を含む）について理解できる。3、救急医療で遭遇する事が多い疾患・外傷などの病態とケアについて理解できる。4、基本となる救命技術を身に付ける。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：1、救急医療の概要と救急医療システムについて説明できる。2、救急状況にある患者とその家族について説明できる。3、救急医療にかかわる医療職者および看護活動（災害医療を含む）について説明できる。4、救急医療で遭遇する事が多い疾患・外傷などの病態とケアについて説明できる。5、心肺蘇生法について説明できる。 思考・判断の観点：1、救急患者のアセスメント能力を高めることができる。2、救急医療に関する諸問題を考えることができる。 関心・意欲の観点：1、救急医療の理解を通して、救命への関心を高めることができる。 技能・表現の観点：心肺蘇生法を実施することができる。</p> <p>●授業の計画（全体） 前半は救急医療や救急医療システム、救急看護全般について解説する。その後、救急患者のアセスメント、家族ケアの考え方、災害医療、救急医療に関する諸問題について講義をし、最後に心肺蘇生術の演習を行う。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 救急医療の概要と特徴 内容 救急医療とは、救急医療の特徴、日本の救急医療システム、救急医療の今日的課題</p> <p>第2回 項目 救急疾患、患者とその家族の特徴 内容 救急疾患・救急患者の特徴、患者とその家族の心理・社会的特徴</p> <p>第3回 項目 救急患者のアセスメント1 内容 トリアージと全身の系統的観察、フィジカルアセスメントの考え方と実際</p> <p>第4回 項目 救急患者のアセスメント2 内容 中枢神経系、呼吸器系のアセスメントと主要な検査</p> <p>第5回 項目 救急患者のアセスメント3 内容 循環器系、代謝系などのアセスメントと主要な検査</p> <p>第6回 項目 救急医療でみられる特殊な疾患と外傷1 内容 CPAOA（心肺機能停止）、急性循環・呼吸障害</p> <p>第7回 項目 救急医療でみられる特殊な疾患と外傷2 内容 急性腹症、熱傷、中毒</p> <p>第8回 項目 救急医療でみられる特殊な疾患と外傷3 内容 外傷（頭部、胸部、腹部、脊髄・四肢）</p> <p>第9回 項目 救急医療でみられる特殊な疾患と外傷に対する看護 内容 急性疾患、外傷等に対する看護の考え方と実際</p> <p>第10回 項目 災害医療の概要と特徴 内容 災害医療が展開される状況、災害医療における看護の役割</p> <p>第11回 項目 救急患者への対応 救急医療をめぐる問題 内容 ・心肺蘇生術のプロトコール、救急処置と心肺蘇生術の実際（演習）・倫理的問題、脳死と臓器移植（レポート）</p> <p>第12回 項目 救急患者への対応 救急医療をめぐる問題 内容 ・心肺蘇生術のプロトコール、救急処置と心肺蘇生術の実際（演習）・倫理的問題、脳死と臓器移植（レポート）</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>					

●成績評価方法(総合) 期末試験を主にする。

●教科書・参考書 教科書：救急看護論, 山勢博彰, ノーヴェルヒロカワ, 2005年 / 参考書：急変・救急時看護スキル, 山勢博彰, 照林社, 2004年；院内エマージェンシー, 山勢博彰, メヂカルフレンド, 2004年

開設科目	医療放射線学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	松永尚文				

●授業の概要 放射線医学の診断、核医学、放射線治療の日常放射線診療の実際を理解するために、画像の成り立ちと各疾患における特徴像、臓器特異性の核種を用いて機能的情報を提供する核医学的診断、放射線診断技術の治療的応用 (IVR) や集学的治療の臨床応用など、high technology を駆使した放射線診療を学習し、低侵襲的な検査の読影と集学的治療の役割を習熟する。また、放射線治療の日常診療の実際を理解するために、悪性腫瘍の由来の性質と放射線治療に対する腫瘍の感受性を学習し、放射線治療の役割を習熟する。／検索キーワード 放射線診断、核医学、放射線治療

●授業の一般目標 1) 放射線医学の歴史を述べることができる。2) 放射線医学の基本的事項を説明できる。3) 単純 X 線写真の画像の成り立ちと所見を説明できる。4) 超音波の原理、画像の成り立ちと所見を説明できる。5) CT の原理、画像の成り立ちと所見を説明できる。6) MRI の原理、画像の成り立ちと所見を説明できる。7) 血管造影・Interventional Radiology の手技と有用性について説明できる。8) 核医学の核種、その画像の成り立ちと所見を説明できる。9) 放射線治療の有用性について説明できる。10) 放射線被曝と放射線安全防護について説明できる

●授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 放射線医学総論 内容 放射線医学の歴史、診断に利用される X 線の性質、X 線装置を理解する。
- 第 2 回 項目 X 線診断 内容 造影検査、造影剤について理解する。X 線像診断の基本的なアプローチと心がまえを理解する。
- 第 3 回 項目 X 線診断 内容 X 線検査の基本的装置、検査法の種類と、画像診断の成り立ちを理解する。
- 第 4 回 項目 CT 診断 内容 CT の原理、断層画像表示の要点、造影 CT 検査の適切な施行方法、その意義と臨床的有用性を理解する。CT による全身の断層解剖を理解し、正常像と異常像の区別を理解する。
- 第 5 回 項目 血管造影 内容 血管造影の歴史、血管造影の利点、血管造影の手技、主要な血管造影所見、臨床的有用性と合併症およびその対策を理解する。
- 第 6 回 項目 IVR 内容 Interventional Radiology の概念、種類、臨床的有用性と限界、合併症とその対策を理解する。
- 第 7 回 項目 MRI 内容 MR の原理、MR の各種撮像法の特徴、アーチファクトの種類と原因と対策、MR 検査を安全に行うために留意すべき点、MR 用造影剤についてその種類、使用法などを理解する。
- 第 8 回 項目 超音波診断 内容 超音波診断の原理、各疾患に特徴的な超音波像を理解する。
- 第 9 回 項目 核医学診断の基礎 内容 放射性同位元素の定義と性質、放射性医薬品の特徴、放射線計測原理と使用目的、シンチカメラの構造と撮像原理、各種放射性医薬品で標的臓器が描出される原理、SPECT と PET 検査の原理を理解する。
- 第 10 回 項目 核医学診断の臨床 内容 各種脳疾患におけるシンチグラフィ所見を理解する。
- 第 11 回 項目 放射線治療、1 回目 内容 放射線治療に必要な放射線物理学 (単位、装置等)、生物学的基礎 (放射線の作用機序と感受性)、放射線治療 (根治治療と対症照射) の適応、照射技術、放射線治療の副作用 (急性障害と慢性障害) を理解する。
- 第 12 回 項目 放射線治療、2 回目 内容 放射線治療の適応疾患、その有効性、放射線治療手技 (外部照射法、内部照射法)、放射線治療の副作用と対策を理解する。
- 第 13 回 項目 放射線治療、3 回目 内容 放射線治療の適応疾患、その有効性、放射線治療手技 (外部照射法、内部照射法)、放射線治療の副作用と対策を理解する。
- 第 14 回 項目 放射線障害と健康管理 内容 自然放射線、医療被曝定量的に理解する。被曝提言策、放射線防護、健康管理についても理解する。

- 教科書・参考書 教科書：臨床放射線医学、医学書院（2,000 円）／参考書：標準放射線医学（第 6 版）（CD 付）（医学書院、12,000 円）
- メッセージ 臨床放射線医学を教科書とし、教科書に沿って講義をするので、必ず予習、復習してください。
- 連絡先・オフィスアワー 松永尚文： matsuna@yamaguchi-u.ac.jp、電話 22-2282

開設科目	緩和ケア論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	東玲子、齊田菜穂子				

●授業の概要 健康レベルが終末期にある人々とその家族を理解し、終末期患者及び家族のニーズ・健康問題を解決するために必要な考え方、理論及び具体的な方法を学ぶ。また、医療現場で患者や家族を取り巻く倫理的課題や終末期患者及び家族に対する看護者の役割・姿勢、他職種者との連携の重要性を学ぶ。
／検索キーワード 終末期看護、緩和ケア、人間としての尊厳、生命の質（QOL）

●授業の一般目標 1. 緩和ケア・終末期ケアの概念・意味とその歴史的背景を理解する。 2. 終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 3. 健康レベルの低下に伴い生じてくるニーズ・問題に対して、その人らしさを重視して質の高い生活を送れるような方向で援助する方法を理解する。 4. 終末期患者や家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、他職種者との連携の重要性を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 緩和ケア・終末期ケアの概念とその歴史的背景を述べることができる。 2. 終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴を述べるができる（進行がんの一般的な病態生理、告知・病状進行・死別による生理的・心理的反応）。 3. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を述べるができる。 4. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を解決するための具体的な方法を述べるができる。 5. 終末期患者の生活の質に関わる要因とその測定方法を述べるができる。 思考・判断の観点： 1. 対象の生活・生命の質を維持・向上させるような方向で援助することの意味を述べるができる。 2. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題をアセスメントできる。 3. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を解決するための具体的な方法を選択できる。 関心・意欲の観点： レポート、グループ討議に際して人間の生と死の意味、生命・人間の尊厳、終末医療現場の現状と課題、終末期患者の生活の質（QOL）に関わる要因等の情報収集・活用ができる。 態度の観点： 1. 終末期患者や家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、他職種者との連携の重要性を述べるができる。 2. グループ討議に積極的に参加している。 技能・表現の観点： グループ討議時の発表、レポートの表現が論理的である。 明快な表現ができる。

●授業の計画（全体） 前半は緩和ケア・終末期ケアの概念・意味とその歴史的背景、終末期医療の現状と課題について教授し、人にとっての死の意味や人としての尊厳を考察する。後半は終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴、健康レベルの低下に伴い生じてくるニーズ・問題に対する具体的な援助法を教授する。具体的な事例を用いてグループ討議をし、倫理的課題や看護者の役割・姿勢を考察する。中間と終末でグループ討議・発表を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 終末期に関わる 概念と意味及び その歴史的背景 内容 人間の死の意味 緩和ケア、ターミナルケアの概念と意味
- 第 2 回 項目 終末期医療の現状と課題 終末期医療の倫理的課題 内容 告知とインフォームドコンセント 患者の権利、援助に関わる倫理的課題
- 第 3 回 項目 グループ討議 内容 テーマは授業の中で提示する。
- 第 4 回 項目 終末期患者と家族の理解 終末期患者と家族の苦痛と援助 I 内容 終末期患者の身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛と援助
- 第 5 回 項目 終末期患者と家族の苦痛と援助 II 内容 終末期患者の身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛と援助
- 第 6 回 項目 ホスピスケア 内容 ホスピスケアの理念 ホスピスの歴史 わが国のホスピスの現状と課題
- 第 7 回 項目 事例をグループ討議する。発表 内容 事例は授業の中で提示する。 授業外指示 レポート提出
- 第 8 回
- 第 9 回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

●教科書・参考書 教科書：系統看護学講座 別巻10 ターミナルケア, 柏木哲夫、藤腹明子編集, 医学書院, 2000年 / 参考書：がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア, WHO 編, 武田文和訳, 金原出版, 1994年

●連絡先・オフィスアワー 東 玲子 tel:0836-22-2813 azumar@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：研究室に在否を確認して訪室して下さい。 齊田菜穂子 tel:0836-22-2864 naho@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：研究室に在否を確認して訪室して下さい。

●備考 集中授業

開設科目	医療情報学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	清水昭彦・篠原紀幸				

●授業の概要 医療情報に関して特に倫理面・病院総合システムの概略を学ぶ、また、情報を扱い処理する演習を学ぶ／検索キーワード 基本コンピューターソフト、医療情報

●授業の一般目標 基本コンピューターソフトを扱うことができ、また、医療情報の特に倫理面・病院総合システムの概略を学んで適切に管理できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：基本コンピューターソフトの使用法を知り理解する。また、医療情報の特に倫理面・病院総合システムの概略を知り、理解する。思考・判断の観点：基本コンピューターソフトの使用法を知り理解する。また、医療情報の特に倫理面・病院総合システムの概略を知り、理解する。関心・意欲の観点：基本コンピューターソフトを使用法に関心を示し、医療情報の特に倫理面・病院総合システムに対する理解に意欲を示す。態度の観点：基本コンピューターソフトを使用法に関心を示し、医療情報の特に倫理面・病院総合システムを学ぼうとする。技能・表現の観点：基本コンピューターソフトを使用して、自分作品を発表できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション (WORD) 内容 清水 実習・レポート
- 第2回 項目 エクセルの基本操作 (I) 内容 篠原 実習
- 第3回 項目 エクセルの基本操作 (II) 内容 篠原 実習
- 第4回 項目 エクセルによるデータ解析法 内容 篠原 講義
- 第5回 項目 エクセルによるデータ解析法 内容 篠原 実習
- 第6回 項目 エクセルによるデータ解析と作図 内容 篠原 実習
- 第7回 項目 エクセルによるデータ解析と作図 内容 篠原 実習
- 第8回 項目 エクセルによるデータ解析と作図 内容 篠原 実習
- 第9回 項目 パワーポイントの基本操作 (I) 内容 篠原 実習
- 第10回 項目 パワーポイントの基本操作 (II) 内容 篠原 実習
- 第11回 項目 プレゼンテーションの実習 (I) 内容 清水 実習
- 第12回 項目 プレゼンテーションの実習・発表 (II) 内容 清水 実習・レポート
- 第13回 項目 医療における情報処理と倫理 内容 清水 講義
- 第14回 項目 総合病院システム (看護) におけるコンピュータの実際 内容 清水 講義
- 第15回

●成績評価方法 (総合) レポート、作品、出席等を総合的に判断する。

●教科書・参考書 教科書：系統看護講座・基礎(8) 情報科学, , 2004年

●連絡先・オフィスアワー 清水：ashimizu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	医療システム概論	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	清水昭彦, 市原清志				

●授業の概要 医療従事者にとってもコンピュータに関わる基本的な知識は必須である。これまでにコンピュータに関する多くの知識を身につけて来たが、今回もう一度集中講義の形式でおさらいしておきたい。8月には新設された医療情報従事者資格の認定試験があるので、これに合格することを目標とする。

●授業の一般目標 1. 医療情報技術者資格の認定試験に合格することを目標とする

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 コンピュータのハードウェア構成と役割

第 2 回 項目 2進数と2値論理、データ表現

第 3 回 項目 基本ソフトウェアの種類と役割

第 4 回 項目 ネットワークシステム

第 5 回 項目 医療情報システム（1）

第 6 回 項目 医療情報システム（2）

第 7 回 項目 医療情報システム（3）

第 8 回 項目 医療情報システム（4）

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法（総合）医療情報技師資格認定テスト合格者は受講を免除し単位（優）を与える

●教科書・参考書 参考書：資料を授業中に適宜配布

●メッセージ ハードウェア、基本ソフトウェア、応用ソフトウェア、ネットワーク、情報システム

●備考 集中授業

開設科目	保健福祉行政論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山崎秀夫				

●授業の概要 保健医療福祉活動に必要な基礎的知識である社会保障制度の概念と構成及び意義を概説し、社会保障の各種制度の理念と仕組み及び現代的課題について教授する。

●授業の計画（全体） 講義の概要説明 疫学・統計 寿命、健康寿命 地域保健・衛生行政 疾病リスクと感染症 体験学習 生活習慣病、健康管理・健康増進、公衆栄養 体験学習 母子保健・学校保健 環境保健、産業保健 調査研究 老人保健・福祉、障害者の医療と福祉、難病 国際保健、保健医療制度と法規 まとめ

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の概略説明 内容 担当教員、シラバスについて説明する。
- 第 2 回 項目 疫学・統計 内容 疫学、保健統計学について説明する。
- 第 3 回 項目 寿命・健康寿命 内容 平均寿命や健康寿命等について説明する。
- 第 4 回 項目 地域保健・衛生行政 内容 地域保健行政、衛生行政について説明する。
- 第 5 回 項目 疾病リスクと感染症 内容 疾病発症のリスクを感染症の視点から説明する。
- 第 6 回 項目 体験学習 内容 地域住民の健康を知る。
- 第 7 回 項目 生活習慣病、健康管理・健康増進、公衆栄養 内容 生活習慣病等の慢性疾患について説明する。
- 第 8 回 項目 体験学習 内容 知ったことを人に説明する。
- 第 9 回 項目 母子保健・学校保健 内容 母子保健、学校保健について説明する。
- 第 10 回 項目 環境保健、産業保健 内容 環境保健、産業保健について説明する。
- 第 11 回 項目 調査研究 内容 調査方法を学ぶ。
- 第 12 回 項目 老人保健・福祉、障害者の医療と福祉、難病 内容 老人保健、医療と福祉等について説明する。
- 第 13 回 項目 国際保健、保健医療制度と法規 内容 国際保健、保健医療制度について、法令的視点から説明する。
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 全体のまとめを行う。
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法（総合） 期末試験を行う。 毎回出席をとる。

●教科書・参考書 教科書：シンプル衛生公衆衛生学, 鈴木庄亮、久道茂編集, 南江堂, 2004 年／参考書：国民衛生の動向, 厚生統計協会, 厚生統計協会, 2005 年

開設科目	科学論文演習	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	野垣宏・辻野久美子				

●**授業の概要** 学術雑誌、国際学会等は公用語として英語が用いられている。最新の医療情報を得たり、研究成果を発表するためには、英語の論文に親しむ必要がある。前半は英文で発表された科学論文を題材にして、論文の構成や記載法を理解させ、内容について討論させることにより知識の向上とともに、英語読解力の増強を図る。後半は和文献を用いて、論文のまとめ方と書き方について演習する。／検索キーワード 英文科学論文、和文献

●**授業の一般目標** 1. 英文科学論文の内容を理解する。 2. 論文のまとめ方と書き方の基礎的知識を習得する。

●**授業の到達目標**／知識・理解の観点： 1. 英文科学論文のノイエスを説明できる。 2. 論文のまとめ方と書き方の概要がわかる。

●**授業の計画**（全体） 野垣は英文献、辻野は和文献を教材にする。

●**授業計画**（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 なぜ英語の論文を読むのか、なぜ英語で論文を書くのか。インパクトファクターとは 授業外指示 インTRODakション和訳 授業記録 配付資料（英語学術論文）

第 2 回 項目 医学に関する英文論文 内容 インTRODakション 授業外指示 対象・方法の和訳

第 3 回 項目 医学に関する英文論文 内容 対象・方法 授業外指示 結果の和訳

第 4 回 項目 医学に関する英文論文 内容 結果 授業外指示 考察の和訳

第 5 回 項目 医学に関する英文論文 内容 考察

第 6 回 項目 医学に関する英文論文 内容 まとめ

第 7 回 項目 医学に関する英文論文 内容 まとめ

第 8 回 項目 オリエンテーション、グループ編成 内容 授業の進め方、何を書くか、何を伝えたいのか 授業外指示 関心のある和文の論文を1編以上持参する。 授業記録 配付資料

第 9 回 項目 論文のまとめ方と書き方（各グループで抄読会） 内容 持参した論文のまとめ方と書き方について、検討する。 授業外指示 発表者は資料を準備する。 授業記録 配付資料

第 10 回 項目 論文のまとめ方と書き方（各グループで抄読会） 内容 持参した論文のまとめ方と書き方について、検討する。 授業外指示 発表者は資料を準備する。 授業記録 配付資料

第 11 回 項目 論文のまとめ方と書き方（各グループで抄読会） 内容 持参した論文のまとめ方と書き方について、検討する。 授業外指示 発表者は資料を準備する。 授業記録 配付資料

第 12 回 項目 論文のまとめ方と書き方（各グループで抄読会） 内容 持参した論文のまとめ方と書き方について、検討する。 授業外指示 発表者は資料を準備する。 授業記録 配付資料

第 13 回 項目 論文のまとめ方と書き方（各グループで抄読会） 内容 持参した論文のまとめ方と書き方について、検討する。 授業外指示 発表者は資料を準備する。 授業記録 配付資料

第 14 回 項目 まとめ 内容 論文のまとめ方と書き方 授業記録 配付資料

第 15 回

●**成績評価方法**（総合） 授業への参加度、授業内での発表内容、レポートにより、総合的に評価を行う。

●**教科書・参考書** 教科書：保健・医療・福祉のための論文のまとめ方と書き方、鈴木庄亮、川田智之、南江堂、1999年；英文科学論文配付

●**連絡先**・オフィスアワー nogaki@yamaguchi-u.ac.jp tsujino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	看護学原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	正村啓子				

●授業の概要 看護の真髄を流れる概念は、人間のケアである。ケアの本質、看護、人間、健康、生活について教授するとともに、ヘルスケアチームにおける看護の位置を知り、看護の概念の理解を目指す。さらに、看護倫理、看護の変遷、看護の役割について概説する。／検索キーワード 看護、ケア、健康、生活、人間、ヘルスケアチーム、

●授業の一般目標 現代社会において看護の果たすべき役割を認識し、ケアを基盤に据えた質の高い看護を実践できるために、ケア・看護・健康・生活・人間についてその本質を具体的な実践とのつながりで理解するとともに、ヘルスケアチームにおける相互協力の重要性を認識し、看護を学ぶ喜び・課題を感じとり、今後の学習に積極的に取り組むことができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 現代の社会情勢における健康問題と求められる看護について述べるができる。2. 日本の看護教育制度の変遷のポイントを説明することができる。3. ケア・看護・健康・生活・人間について連関をおさえて説明できる。4. ヘルスケアチームについて理解し、その中での看護の位置を説明できる。 思考・判断の観点：1. 提示された事例、テーマに対して、自分の意見を述べるができる。2. 学習したことと自己のそれまでの考えとの違い、他の学生との違いに気づき、自分の考えを発展させることができる。3. 学んだことをもとに自己の日常生活を評価し、活用できる。 関心・意欲の観点：1. 学習したことをさらに深く広く発展させ、疑問点を解決しようと行動できる。2. 看護における先達の遺産を原著で読むことの喜びを実感できる。 態度の観点：1. 学習したことをすすんで自己の生活に活かす取り組みができる。 技能・表現の観点：1. 学習による気づき、疑問、自己の取り組みを他者に解るように表現できる。

●授業の計画（全体） 授業は、講義形式でグループワークを取り入れながら進行する。資料の小冊子を配布し、また、随時必要な資料を配布し、上記目標達成を目指して授業を構成し展開する。重要な概念の理解は、原著ですすめる。また、看護学生の実践例も用いるので、資料をよく読んでおいて下さい。講義終了前5分間で、学んだこと・質問・意見・感想を書いてもらい、次回、参考になる学び・意見・感想を紹介し、質問に対応する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 序論（その1）：看護に期待されること 内容 1. 看護学を1年生で学ぶ意味 2. 日本の看護教育制度の変遷 3. 現代の社会情勢と健康問題 4. 21世紀に求められる質の高い看護 授業外指示 1. 課題：「入学の動機、将来の夢」についてレポート作成。次回提出。 授業記録 1. 資料 P.1-16

第2回 項目 序論（その2）：看護の学問としての累積的な発展を 内容 1. 大学で看護学を学ぶ意味 2. 看護学の構築の遅れの理由 3. 人間科学としての看護学 4. 学問としての累積的発展の必要性 5. 看護基礎教育の全体像 授業外指示 1. 次回の予習：資料 P.26-29 の看護学生の実践例のプロセスレコードを読んで、自分の考えをメモしておく。 授業記録 1. 資料 P.17-21

第3回 項目 'Care' ということ（その1）：他者の成長を助ける 'care' 内容 1. '今' 私の考える 'Care' とは、をメモする。 2. 資料の「患児を怒らせてしまった看護学生の兄へのかかわりの記録」を読んで感じたことについてグループで話し合う。 3. 2. の成果を OHP シートにまとめる。 授業外指示 次回の予習：1. 資料 P.22-25 のメイヤロフ著 'On Caring' (原文) をよく読んでおく。 2. 資料 P.37-39 の 'F. Nightingale' の 'What is a nurse?' を読んでおく。 3. 資料 P.48-53 の「もう一人の自分」を読んでおく。 授業記録 1. 資料 P.26-29 2. OHP シート

第4回 項目 'Care' ということ（その2）：Care に重要な要素 内容（前回の続き）1. グループ討議の成果を発表・質疑・応答 2. 他者の成長を助けるとはどういうことか、事例を通して考える。 3. もう一人の自分」の働き 授業外指示 1. 課題：「看護の歴史」を概観し、さらに、興味ある

- テーマを設定し、調べて、レポート提出。第6回講義時提出。授業記録 1. 資料 P.22-25,48-53
2.OHP
- 第5回 項目 'Care' ということ (その3) : 'Care' と '看護' 内容 1.care とは? On caring (Milton Mayeroff) を読む。 2. 看護学生のその後の児へのかかわりの変化 3.'Care' と '看護' の関連
授業外指示 次回の予習: 1. 資料 P.30-36 の 'Notes on nursing' の 'What it is, and what it is not.' (F.Nightingale) を原文でよく読んでおく。 授業記録 1.On caring 日本語版を配布 2. 看護学生のその後の看護の資料配布
- 第6回 項目 看護とは (その1): 看護師とは何か? 内容 1.'What is a nurse?' ('Notes on nursing':F.Nightingale) を読む。 2.'Care' と '看護' の関連について 3. 課題: 食生活調査の方法について説明 授業外指示 1. 課題: 食生活を調査・評価改善への取り組みについてレポートする。(第10回講義の時に提出) 授業記録 1. 資料 P.54-65 及び調査紙を配布
- 第7回 項目 看護とは (その2): 看護とは何か? 内容 1.F.Nightingale の 'Notes on nursing' と歴史的
背景 2.'What it is, and what it is not.' を読む 授業外指示 1. 次回の予習: 資料 P.66-73 の
「看護の定義」を原文と照らし合わせてよく読んでおく。 授業記録 1.'What it is, and what it
is not. の解説資料配布
- 第8回 項目 看護とは (その3): 看護の定義 内容 1. 前回の F.Nightingale の看護とは何か、のまとめ
2.Henderson Virginia; Basic Principle of Nursing Care: 看護の基本となるもの 3.ICN 4. 日
本看護協会 5. 保健師助産師看護師法 授業外指示 1. 次回の予習: 資料 P.74-81 「ヘルスケアチ
ームの一員としての看護師」を読んでおく。 授業記録 1. 資料 P.66-73
- 第9回 項目 看護とは (その4): ヘルスケアチームの中での看護師の位置 内容 1. ヘルスケアチ
ームについて 2. 看護師と他のヘルスケアチームとの連携・実践 4 事例 3. 介護福祉師と看護師 授業
外指示 1. 食生活の調査を実施、評価して提出 (来週迄) 授業記録 1. 資料 P.74-81
- 第10回 項目 生活とは (その1) 内容 1. 基本的看護の構成要素: 1) 「日々繰り返される生活行動とそ
の意味について」・グループワー ク・発表・まとめ 2. 生活行動とその意味 授業外指示 1. 次
回予習: 資料 P.82-89 を読んでおく。 授業記録 1. 資料 P.82-89 2.OHP シート 3. 食調査レポ
ート提出
- 第11回 項目 生活とは (その2) 内容 1.24 時間の生活リズム 1) 健康的でない生活リズム 2) 生活リ
ズムを意識した生活 2. 自己の食生活の調査結果の評価と今後の目標設定 3. 看護・健康・生
活の関連の理解 授業外指示 1. 次回の予習: 「健康とは何か」自分の考えをメモしてくる。 授業
記録 1. 資料 P.82-89
- 第12回 項目 健康とは 内容 1. 学生の考える '健康' とは何か 1) グループワーク 2) 発表 2. 健康観の変遷 3.
健康の定義 授業外指示 1. 次回の予習: 資料 P.94-99 を読んでおく。 授業記録 1. 資料 P.90-93
- 第13回 項目 人間とは 内容 看護における人間とは? 1. 人間は生理的に早産である 2. 生物体、生活体
の統一体 3. 人間を操る脳の仕組み 4. マズローの欲求の段階 授業外指示 1. 次回の予習: 資料
P.101-105 該を読んでおく。 授業記録 1. 資料 P.94-99
- 第14回 項目 ライフサイクルと看護・看護師の倫理 内容 1. ライフサイクルの各期ステージとその意味
と看護 1) 第一の人生 2) 第二の人生 3) 第三の人生 2.4 年間のカリキュラムの構造 3. 「看護
師の規律」(ICN, 日本看護協会) 授業記録 1. 資料 P.101-105
- 第15回 項目 試験

●教科書・参考書 教科書: 看護系大系1「看護とは(1)」, 井上幸子, 日本看護協会出版会, 2004年; 看護系大系1「看護とは(2)」, 井上幸子, 日本看護協会出版会, 2004年; 必ず購入しておいて下さい。/ 参考書: NOTES ON NURSING (原文看護学選集1), Florence Nightingale, 現代社, 2001年; ケアの本質, ミルトン・メイヤーロフ、田村真他訳, ゆみる出版, 1998年; On Caring, MILTON MAYEROFF, Harper Perennial, 1990年

●連絡先・オフィスアワー E-mail:masamura@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2860 研究室: 医学部保健学科、3階

開設科目	看護理論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	正村啓子・小田正枝・稲垣順子・伊東美佐江 枝・稲垣順子・伊東 美佐江				
<p>●授業の概要 看護学における主要な看護理論の構築過程を通して看護学の知識の体系化の特質を、看護哲学と看護科学、さらに看護実践の本質との関連から論じる。その中から学生が看護学の領域と方法の概要を知り、その特性と可能性について考究する。／検索キーワード 看護理論、看護理論家、特質、構築プロセス、</p> <p>●授業の一般目標 看護理論構築の歴史及びその特質、主要な看護理論家の理論の特質を概観することによって、これまでの看護理論の発達状況を考察し、今後の看護理論構築の方向性を探る。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1.「看護理論」構築の意義を説明できる。 2. 看護理論の理解に必要な基本的用語について説明できる。 3. 看護理論の発達の歴史の特質を述べる事ができる。 4. 主要な看護理論家について、理論構築のプロセス・背景、理論の特質を説明できる。 思考・判断の観点： 1. これまでの看護理論発達の状況について考察する。 2. 今後の看護理論構築への課題について説明できる。 関心・意欲の観点： 1. 今後の看護理論構築の方向性を探り自分なりの考えを持つことができる。 態度の観点： 1. 看護理論の重要性を認識し、自己の役割を自覚する。 技能・表現の観点： 1. 看護理論の発達の特質及び今後の発展の方向性への自分なりの考えを表現できる。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 看護理論への入門 内容 1. 授業の目標とスケジュール 2. 「理論」、「看護理論」はなぜ必要か 3. 理論、研究、実践の環状の性質 4. 看護理論の歴史的発達 5. 看護理論の分類 6. 理論の分析と評価 授業記録 資料</p> <p>第 2 回 項目 ナイチンゲール看護論：近代看護の創始者(1) 内容 ナイチンゲールの看護理論の基本的な考え方 1. ナイチンゲール看護論を学ぶ意義 2. ナイチンゲールとはどのような人か 3. ナイチンゲールの業績 4. 看護覚え書を書いた資料 授業記録 資料</p> <p>第 3 回 項目 ナイチンゲール看護論：近代看護の創始者(2) 内容 5. ナイチンゲールは人間・環境・健康・看護をどのようにとらえていたか 6. ナイチンゲールは看護師に何を期待していたか 7. ナイチンゲール看護論の骨格部分 授業記録 資料</p> <p>第 4 回 項目 ペプロウの看護理論：人間関係の看護論(1) 内容 ペプロウの看護理論の基本的な考え方 1. 理論の背景 2. ペプロウの看護理論の概要 3. ペプロウによる人間関係の4つの局面 4. ペプロウによる看護師の役割 授業記録 資料</p> <p>第 5 回 項目 ペプロウの看護理論：人間関係の看護論(2) 内容 5. 事例によりペプロウの看護論を考える 6. 理論の卓越性と看護実践への適用 授業記録 資料</p> <p>第 6 回 項目 オーランドの看護論：患者-看護師関係のプロセス 内容 オーランドの看護理論の基本的な考え方 1. 理論の背景 2. オーランドの看護プロセスの方式 3. 理論の卓越性と看護実践への適用 授業記録 資料</p> <p>第 7 回 項目 ヘンダーソンの看護理論：看護の基本となるもの(1) 内容 ヘンダーソンの看護理論の基本的な考え方 1. 理論構築の背景 2. ヘンダーソンの業績 3. ヘンダーソンは、人間・環境・健康・看護をどのように捉えていたか 4. 14の基本的ニード 5. ヘンダーソンの理論と看護過程 授業記録 資料</p> <p>第 8 回 項目 ヘンダーソンの看護理論：看護の基本となるもの(2) 内容 6. 理論の卓越性と看護実践への適用 授業記録 資料</p> <p>第 9 回 項目 オレムの看護論：セルフケア不足看護理論(1) 内容 オレムの看護理論の基本的な考え方 1. 看護概念の開発 2. セルフケア不足理論の構成 3. セルフケアとは 4. 看護のための概念枠組み 授業記録 資料</p> <p>第 10 回 項目 オレムの看護論：セルフケア不足看護理論(2) 内容 5. セルフケアエージェンシー 6. 看護エージェンシーという概念の要素 7. 看護過程 授業記録 資料</p>					

- 第11回 項目 ロイの看護理論：ロイ適応モデル(1) 内容 ロイの看護理論の基本的な考え方 1. ロイ適応モデルの前提となる支持理論 1) システム理論からの適用 2) 適応レベル理論からの適用 授業記録 資料
- 第12回 項目 ロイの看護理論：ロイ適応モデル(2) 内容 2. ロイ適応モデルの概要 1) 人間(適応システムとしての人間) 2) 環境 3) 健康 4) 看護 3. 理論の卓越性と看護実践への適用 授業記録 資料
- 第13回 項目 ベナー看護理論 内容 ベナーの看護理論の基本的な考え方 1. 理論の背景 2. 技能の熟達の5つのレベル 3. 看護の主要な概念 4. 急性期看護の中核要素 5. 職業的発達段階における熟達可能な要素理論の特長 授業記録 資料
- 第14回 項目 1. 日本の看護論 2. まとめ 内容 1. 学んだ看護理論の特長を簡潔におさえる。 2. 各々の看護理論の位置付け 3. 21世紀に向けて理論開発の特長 4. 看護実践全体を包括する理論大系への模索 授業記録 資料
- 第15回 項目 試験 内容 ペーパーテスト

●教科書・参考書 教科書：看護理論集/より高度な看護実践のために、ジュリア・B・ジョージ、日本看護協会出版会、2000年／参考書：Nursing Theories, Julia B. George, RN, PhD, Prentice Hall, 2002年；ロイ適応モデルに基づく看護過程-看護診断ガイド、小田正枝編著、ヌーベルヒロカワ、2000年；看護理論家とその業績、都留伸子監訳、日本看護協会出版会、2003年

●メッセージ 4人の教官により講義をします。詳しくは、初回の講義で説明します。

●連絡先・オフィスアワー 正村啓子：E-mail masamura@yamaguchi-u.ac.jp Tel 0836.22.2860 小田正枝：E-mail oda_m@seinan-jo.ac.jp Tel 093.583.5202 稲垣順子：E-mail jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp Tel 0836.22.2851 伊東美佐江：E-mail mito@yamaguchi-u.ac.jp Tel 0836.22.2841

開設科目	看護援助過程論	区分	講義	学年	2年生						
対象学生		単位	1単位	開設期	前期						
担当教員	内野幸子, 山勢博彰, 稲垣順子, 伊東美佐江, 中尾富士子										
<p>●授業の概要 本授業は、看護を実践するために必要な基本的思考過程を概説するものであり、看護を行う対象となる人々の健康問題を系統立てて科学的に解決するための看護過程について講義する。看護過程展開の構成要素について講義した後、看護の対象を総合的にとらえ、患者の持つ問題を解決するために、健康上に問題のある事例を紹介し、看護過程の各段階における知識、技術をグループワークを通して教授する。／検索キーワード 看護過程、看護診断</p>											
<p>●授業の一般目標 ・看護過程の歴史と考え方を理解する。 ・看護過程の構成要素について理解する。 ・紙上患者を通して、看護の対象である一人の人間の健康上の問題の理解と問題解決の考え方を理解する。</p>											
<p>●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 看護過程とは何かを説明できる。 2. 看護過程の構成要素とその相互関係について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 対象の持つ情報をゴードンの機能的健康パターンで分類・分析できる。 2. 分類した情報を統合し、対象の持つ健康上の問題を説明できる。 3. 対象の健康問題の解決方法を提示することができる。 関心・意欲の観点： 1. 紙上患者の看護問題や問題解決の方法について討議できる。 態度の観点： 1. 紙上患者の問題の発見から、問題解決の過程のグループ討議に参加できる。 2. グループに分けられたメンバーと協調できる。 技能・表現の観点： 1. 看護過程の展開ができる。 2. 自分の思考過程を記述できる。 3. グループメンバーに質問したり、自分の考えを伝えることができる。</p>											
<p>●授業の計画（全体） 授業の前半は、看護過程の歴史や、構成要素等について説明する。 授業の後半は、紙上で看護の事例を紹介し、看護の対象を総合的にとらえ、患者の持つ問題を解決するための、知識、技術を演習する。</p>											
<p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p>											
第1回	項目	オリエンテーション	看護過程とは	内容	担当教官の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法説明						
			看護過程の歴史と考え方、看護過程とは、看護過程の構成要素と相互関係、看護過程を用いることの利点	授業外指示	シラバスを読んでおくこと テキストを読んでおくこと 授業記録 配布資料						
第2回	項目	情報の収集とアセスメント	内容	アセスメント、患者に関するデータ/情報、データ収集の方法、データの整理/仕分け、ゴードンの機能的健康パターン、患者の全体像のとらえ方	授業外指示	テキストを読んでおくこと 授業記録 配布資料					
第3回	項目	看護診断	内容	看護過程と看護診断、看護診断の必要性、看護診断を利用する利点、看護診断の変遷、NANDAの看護診断分類法、看護診断のタイプ、看護診断・共同問題の記述	授業外指示	テキストを読んでおくこと 授業記録 配布資料					
第4回	項目	計画立案	内容	計画立案の構成要素、優先順位の決定、期待される成果、看護介入、	授業外指示	テキストを読んでおくこと 授業記録 配布資料					
第5回	項目	実施—看護記録	演習事例配布	内容	実施の準備、実施のための資源とケア提供方式、倫理的/法的注意事項、記録	授業外指示	テキストを読んでおくこと 授業記録 配布資料				
第6回	項目	評価、看護要約	内容	評価、看護介入分類、看護成果分類、看護要約とは	授業外指示	テキストを読んでおくこと 授業記録 配布資料					
第7回	項目	演習1	演習のオリエンテーション	事例理解-情報収集のための面接	内容	グループと担当教官紹介、演習記録用紙配布と説明	面接時の注意点	情報の収集と分析のグループディスカッションをする	授業外指示	看護過程記録を記入してくること	授業記録 配布資料
第8回	項目	演習2	アセスメント	内容	患者の健康上の問題の明確化について、グループメンバーでディスカッションをする	授業外指示	看護過程記録を記入してくること	授業記録 配布資料			
第9回	項目	演習3	アセスメント、関連図	内容	関連図、問題の統合について、グループメンバーでディスカッションをする	授業外指示	看護過程記録を記入してくること	授業記録 配布資料			

- 第10回 項目 演習3 看護診断 内容 患看護診断/共同 問題および優先順位, 長期目標について, グループメンバーでディスカッションをする 授業外指示 看護過程記録を記入してくること 授業記録 配布資料
- 第11回 項目 演習4 計画立案 追加情報配布 内容 看護診断中の問題について, 期待される結果と看護計画についてグループメンバーでディスカッションをする 患者の状態の経過を理解する 授業外指示 看護過程記録を記入してくること 授業記録 配布資料
- 第12回 項目 演習5 記録・評価 内容 患者の経過記録を, SOAPで記入したものと, 期待される成果の達成度の評価をについて, グループメンバーでディスカッションをする 授業外指示 看護過程記録を記入してくること 授業記録 配布資料
- 第13回 項目 演習6 看護要約まとめ 内容 患者の看護要約についてグループメンバーでディスカッションをする 6回の演習のふり返りをする 授業外指示 看護過程記録を記入してくること 授業記録 配布資料

- 成績評価方法 (総合) (1) 期末試験を行う。(2) 演習の事前の学習状態, 演習の参加状態, 演習記録を評価する。(3) 演習記録は, 演習の途中で提出する(演習中に指示する).
- 教科書・参考書 教科書: 看護診断ハンドブック, 新道幸恵監訳, 医学書院, 2002年; 基本から学ぶ看護過程と看護診断, R. アルファロールフィーヴァ, 医学書院, 2000年/ 参考書: 看護過程がよくわかる本, 小田正枝編著, 照林社, 2002年; 基準値ハンドブック, 巽典之編著, 南江堂, 2003年
- メッセージ 演習は, 各自が予習・復習を十分にしないとグループワークが出きません.
- 連絡先・オフィスアワー 内野幸子: E-mail sachiko@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2815 山勢博彰: E-mail yamase@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2808 稲垣順子: E-mail jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2851 伊東美佐江: E-mail mito@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2841 中尾富士子: E-mail Fu8nakao@yamaguchi-u.ac.jp Tel 5861

開設科目	看護援助技術論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	正村啓子・内野幸子・山勢博彰・稲垣順子・伊東美佐江・中尾富士子				

●授業の概要 「看護援助技術論」及び「看護援助技術演習」は、看護を実践するために必要な基礎技術を学習する科目である。日常生活の援助技術、診療時の援助技術、健康状態の評価、指導技術について、看護援助を受ける人のニーズを総合的にアセスメントし、安全・安楽・自立・能率の視点から、実施できるようこれらの技術を教授する。なお、「看護援助技術論」及び「看護援助技術演習」は、教育効果を考慮し、同時進行する。

●授業の一般目標 看護に必要な基本技術である日常生活の援助技術、診療時の援助技術、健康状態の評価、指導技術について、看護援助を受ける人のニーズを総合的にアセスメントし、安全・安楽・自立・能率の視点から、実施できるための基礎的知識・技術・態度を習得する。この二つの教科を通して、看護に対する関心や興味を抱き、後続の学習への動機付けを図る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1.各単元の学習内容に関する基礎的知識を理解し説明できる。
 思考・判断の観点：1.援助技術を行なう際の危険因子、及び、安楽・自立・能率を高める因子について説明できる。2.援助技術を行なう際、行動の意味づけを考えながら実施できる。関心・意欲の観点：1.患者に有効な技術となるよう患者への影響を観察しながら、技術の向上を目指すことができる。態度の観点：1.実際の看護場面を想定し、真剣な態度で臨むことができる。技能・表現の観点：1.危険因子、及び、安楽・自立・能率を促す因子を考慮して判断しながら患者のために技術を使うことができる。

●授業の計画（全体） 講義の後演習を行います。演習は3人編成で、患者役、看護者役、観察者となって演習し、技術を修得します。 単元毎に、講義予告を行います。その時、詳細は提示します。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション安全1 内容 1.看護援助技術とは何か、看護援助技術の学び方 2.演習についてのオリエンテーション 3.感染防御と手洗い、消毒薬の調合の講義・演習
- 第2回 項目 環境 内容 1.病院での療養環境とベッドメイキングについて（講義）2.ベッドメイキングの演習
- 第3回 項目 フィジカルアセスメント1 内容 1.ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、バイタルサインについて（講義）2.バイタルサイン測定の演習
- 第4回 項目 フィジカルアセスメント2 診察時の看護 内容 1.基本情報の聴取・身体各部の計測・診察時の看護師の役割について（講義）2.1.の演習
- 第5回 項目 活動と休息1 内容 1.体位・体位変換・移動・活動について（講義）2.体位変換の演習
- 第6回 項目 活動と休息2 内容 1.褥瘡とケア・睡眠の援助について（講義）2.移動（車椅子・ストレッチャー・担架）の演習
- 第7回 項目 衣生活 内容 1.人間にとっての衣服の意義、健康障害のある対象者に対する援助について（講義）2.病床環境を整えるために必要な技術（講義）3.シーツ交換、寝衣交換（講義）4.3.の演習
- 第8回 項目 安楽の方法 内容 1.安楽と看護技術・看護にいかすリラクゼーション・電法について（講義）2.リラクゼーション・電法の演習
- 第9回 項目 清潔1 内容 1.清潔を保持するための看護（講義）2.口腔の清潔保持、足浴の演習
- 第10回 項目 清潔2 内容 1.全身清拭、洗髪の演習
- 第11回 項目 清潔3 内容 1.全身清拭、洗髪の演習（続き）
- 第12回 項目 安全2 内容 1.安全の技術（事故防止）と無菌操作について（講義）2.無菌操作の演習
- 第13回 項目 安全3 内容 1.ガウンテクニックと手袋の装着について（講義）2.ガウンテクニックと手袋の装着の演習
- 第14回 項目 栄養 内容 1.栄養のアセスメントと各種栄養法について（講義）2.食事の介助、経管栄養の演習

- 第15回 項目 定期試験 内容 ペーパーテスト実技試験
- 第16回 項目 排泄1 内容 1. 排泄の生理、アセスメント、援助方法について（講義）2. 便器・尿器の当て方・外陰部洗浄の演習
- 第17回 項目 排泄2 内容 1. 排便障害とその看護（講義）2. 浣腸の演習
- 第18回 項目 排泄3 内容 1. 排尿障害とその看護（講義）る。2. 導尿の演習
- 第19回 項目 フィジカルアセスメント3:その1 内容 フィジカルアセスメントの技術と記録・報告について（講義）2.1. の演習
- 第20回 項目 フィジカルアセスメント3:その2 内容 フィジカルアセスメントの技術と記録・報告の演習（続き）
- 第21回 項目 検査と看護1 内容 1. 検査とその看護（講義）2. 採血の演習（練習）
- 第22回 項目 検査と看護2 内容 1. 採血・検尿の演習（実施）2. 真空管採血・骨髄穿刺の演習
- 第23回 項目 与薬1 内容 1. 与薬の目的・各職種間の権限と責任・薬物療法と看護について（講義）2. 経口与薬・皮下注射・筋肉注射について（講義）3.2. の演習
- 第24回 項目 与薬2 内容 1. 経口与薬・皮下注射・筋肉注射の演習（続き）
- 第25回 項目 与薬3 内容 1. 静脈注射・点滴静脈内注射と看護・輸血と看護・与薬における医療事故防止について（講義）2. 点滴静脈内注射の演習
- 第26回 項目 吸引・吸入 内容 1. ネブライザー吸入・酸素吸入・酸素ボンベ・一時吸引・低圧持続吸引について（講義）2.1. の演習
- 第27回 項目 包帯・入退院時の看護 内容 1. 包帯法（講義） 2. 入退院時の看護（講義） 3. 包帯法の演習
- 第28回 項目 危篤時の看護 内容 1. 危篤時の患者・家族への看護（講義）2. 死後の処置（ビデオ聴取）
- 第29回 項目 定期試験 内容 ペーパーテスト
- 第30回 項目 実技試験 内容 技術個別試験

●教科書・参考書 教科書：実践的看護マニュアル、共通技術編, 川島みどり著, 看護の科学社, 2004年；フィジカルアセスメント完全ガイド, 藤崎郁著, 学研, 2004年

●メッセージ 単元毎に講義内容の予告をします。テキストのその日の授業の内容の該当箇所を必ず読んできて下さい。

●連絡先・オフィスアワー 正村啓子：E-mail masamura@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2860 内野幸子：E-mail sachiko@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2815 山勢博彰：E-mail yamase@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2808 稲垣順子：E-mail jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2851 伊東美佐江：E-mail mito@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2841 中尾富士子：E-mail Fu8nakao@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2861

開設科目	看護援助技術演習	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	3単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	正村啓子・内野幸子・山勢博彰・稲垣順子・伊東美佐江・中尾富士子				

●授業の概要 「看護援助技術論」及び「看護援助技術演習」は、看護を実践するために必要な基礎技術を学習する科目である。日常生活の援助技術、診療時の援助技術、健康状態の評価、指導技術について、看護援助を受ける人のニーズを総合的にアセスメントし、安全・安楽・自立・能率の視点から、適切に実施できるようこれらの技術を教授する。なお、「看護援助技術論」及び「看護援助技術演習」は、教育効果を考慮し、同時進行する。

●授業の一般目標 看護に必要な基本技術である日常生活の援助技術、診療時の援助技術、健康状態の評価、指導技術について、看護援助を受ける人のニーズを総合的にアセスメントし、安全・安楽・自立・能率の視点から、実施できるための基礎的知識・技術・態度を習得する。この二つの教科を通して、看護に対する関心や興味を抱き、後続の学習への動機付けを図る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1.各単元の学習内容に関する基礎的知識を理解し説明できる。
 思考・判断の観点：1.援助技術を行なう際の危険因子、及び、安楽・自立・能率を高める因子をについて説明できる。2.援助技術を行なう際、行動の意味づけを考えながら実施できる。関心・意欲の観点：1.患者に有効な技術となるよう患者への影響を観察しながら、技術の向上を目指すことができる。
 態度の観点：1.実際の看護場面を想定し、真剣な態度で臨むことができる。技能・表現の観点：1.危険因子、及び、安楽・自立・能率を高める因子を考慮して判断しながら患者のために技術を使うことができる。

●授業の計画(全体) 講義の後演習を行います。演習は3人編成で、患者役、看護者役、観察者となって演習し、技術を修得します。単元毎に、講義予告を行います。その時、詳細は提示します。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション安全1 内容 1.看護援助技術とは何か、看護援助技術の学び方 2.演習についてのオリエンテーション 3.感染防御と手洗い、消毒薬の調合の講義・演習
- 第2回 項目 環境 内容 1.病院での療養環境とベッドメイキングについて(講義) 2.ベッドメイキングの演習
- 第3回 項目 フィジカルアセスメント1 内容 1.ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、バイタルサインについて(講義) 2.バイタルサイン測定の演習
- 第4回 項目 フィジカルアセスメント2 診察時の看護 内容 1.基本情報の聴取・身体各部の計測・診察時の看護師の役割について(講義) 2.1.の演習
- 第5回 項目 活動と休息1 内容 1.体位・体位変換・移動・活動について(講義) 2.体位変換の演習
- 第6回 項目 活動と休息2 内容 1.褥瘡とケア・睡眠の援助について(講義) 2.移動(車椅子・ストレッチャー・担架)の演習
- 第7回 項目 衣生活1 内容 人間にとっての衣服の意義、健康障害のある対象者に対する援助について(講義) 2.病床環境を整えるために必要な技術(講義) 3.シーツ交換、寝衣交換(講義) 4.3.の演習
- 第8回 項目 安楽の方法 内容 1.安楽と看護技術・看護にいかすリラクゼーション・電法について(講義) 2.リラクゼーション・電法の演習
- 第9回 項目 清潔1 内容 1.清潔を保持するための看護(講義) 2.口腔の清潔保持、足浴の演習
- 第10回 項目 清潔2 内容 1.全身清拭、洗髪の演習
- 第11回 項目 清潔3 内容 1.全身清拭、洗髪の演習(続き)
- 第12回 項目 安全2 内容 1.安全の技術(事故防止)と無菌操作について(講義) 2.無菌操作の演習
- 第13回 項目 安全3 内容 1.ガウンテクニックと手袋の装着について(講義) 2.ガウンテクニックと手袋の装着の演習

- 第14回 項目 栄養 内容 1. 栄養のアセスメントと各種栄養法について（講義）2. 食事の介助、経管栄養の演習
- 第15回 項目 定期試験 内容 ペーパーテスト実技試験
- 第16回 項目 排泄1 内容 1. 排泄の生理、アセスメント、援助方法について（講義）2. 便器・尿器の当て方・外陰部洗浄の演習
- 第17回 項目 排泄2 内容 1. 排便障害とその看護（講義）2. 浣腸の演習
- 第18回 項目 排泄3 内容 1. 排尿障害とその看護（講義）る。2. 導尿の演習
- 第19回 項目 フィジカルアセスメント3:その1 内容 フィジカルアセスメントの技術と記録・報告について（講義）2.1. の演習
- 第20回 項目 フィジカルアセスメント3:その2 内容 フィジカルアセスメントの技術と記録・報告の演習（続き）
- 第21回 項目 検査と看護1 内容 1. 検査とその看護（講義）2. 採血の演習（練習）
- 第22回 項目 検査と看護2 内容 1. 採血・検尿の演習（実施）2. 真空管採血・骨髄穿刺の演習
- 第23回 項目 与薬1 内容 1. 与薬の目的・各職種間の権限と責任・薬物療法と看護について（講義）2. 経口与薬・皮下注射・筋肉注射について（講義）3.2. の演習
- 第24回 項目 与薬2 内容 1. 経口与薬・皮下注射・筋肉注射の演習（続き）
- 第25回 項目 与薬3 内容 1. 静脈注射・点滴静脈内注射と看護・輸血と看護・与薬における医療事故防止について（講義）2. 点滴静脈内注射の演習
- 第26回 項目 吸引・吸入 内容 1. ネブライザー吸入・酸素吸入・酸素ボンベ・一時吸引・低圧持続吸引について（講義）2.1. の演習
- 第27回 項目 包帯・入退院時の看護 内容 1. 包帯法（講義）2. 入退院時の看護（講義）3. 包帯法の演習
- 第28回 項目 危篤時の看護 内容 1. 危篤時の患者・家族への看護（講義）2. 死後の処置（ビデオ聴取）
- 第29回 項目 定期試験 内容 ペーパーテスト・実技テスト
- 第30回 項目 実技試験 内容 技術個別チェック

●教科書・参考書 教科書：実践的看護マニュアル 共通技術編, 川島みどり著, 看護の科学社, 2004年；フィジカルアセスメント完全ガイド, 藤崎郁著, 学研, 2004年

●メッセージ 単元毎に講義内容の予告をします。テキストのその日の授業の内容の該当箇所を、必ず読んで下さい。

●連絡先・オフィスアワー 正村啓子：E-mail masamura@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2860 内野幸子：E-mail sachiko@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2815 山勢博彰：E-mail yamase@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2808 稲垣順子：E-mail jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2851 伊東美佐江：E-mail mito@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2841 中尾富士子：E-mail Fu8nakao@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2861

開設科目	基礎看護学実習	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	3単位	開設期	その他
担当教員	正村啓子・内野幸子・山勢博彰・稲垣順子・伊東美佐江・中尾富士子				
<p>●授業の概要 初回の臨地実習として、看護実践能力の基本を養う。入院中の患者の生活とその環境を理解し、健康上の問題をもつ患者と直接かかわり看護の援助的人間関係を築き、看護過程の展開の基本を学ぶ。さらに、看護の働きについても理解を深め、ヘルスケアチームの一員としての自覚を育む。／検索キーワード 基礎看護学、臨床実習、看護師、ヘルスケアチーム</p> <p>●授業の一般目標 1. 基礎看護学実習1（1単位） 看護実践の実際を見学および実習することにより、看護師の役割や患者の入院生活およびその援助について理解を深めるとともに、今後の学習の動機づけにする。また、ヘルスケアチームについて理解し、ヘルスケアチームの一員としての看護師の役割を理解する。 2. 基礎看護学実習2（2単位） 病棟の看護業務の流れの中で、一人の患者を受け持ち、看護過程の展開を実施することによって、適切な看護を実践するための基礎を学ぶ。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：実習要項参照。 思考・判断の観点：実習要項参照。 関心・意欲の観点：実習要項参照。 態度の観点：実習要項参照。 技能・表現の観点：実習要項参照。</p> <p>●授業の計画（全体） 1. 基礎看護学実習1は9月下旬に1週間、基礎看護学実習2は2月下旬に2週間を予定しています。決まり次第掲載します。 2. 詳細は実習要項にて説明します。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 実習要項参照。 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回</p> <p>●教科書・参考書 教科書：フィジカルアセスメント完全ガイド、藤崎郁、学研、2001年；基本から学ぶ看護過程と看護診断、R. アルファロールフィューア、医学書院、2000年；看護診断ハンドブック、新道幸恵監訳、医学書院、2002年；実践的看護マニュアル、川島みどり編著、看護の科学者、2003年；基準値ハンドブック、巽典之編著：第2版、南江堂、2003年</p> <p>●メッセージ 基礎看護学実習1・2共に、実習前に実習オリエンテーションを行います。詳細は実習要項により各実習のオリエンテーションの時に説明します。</p> <p>●連絡先・オフィスアワー 正村啓子：E-mail masamura@yamaguchi-u.ac.jp、電話 22－2860 内野幸子：E-mail sachiko@yamaguchi-u.ac.jp、電話 22－2815 山勢博彰：E-mail yamase@yamaguchi-u.ac.jp、電話 22－2808 稲垣順子：E-mail jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp、電話 22－2851 伊東美佐江：E-mail mito@yamaguchi-u.ac.jp、電話 22－2841 中尾富士子：E-mail fu8nakao@yamaguchi-u.ac.jp、電話 22－2861</p> <p>●備考 集中授業</p>					

開設科目	人間関係論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	清俊夫				

●授業の概要 援助者に必要なコミュニケーションと対人関係の持ち方について、心理学、社会学、社会心理学の基礎知識を元に学ぶ。その場合、援助的態度、コミュニケーション技法、コミュニケーションと対人関係の関連性を知ることが大切である。／検索キーワード コミュニケーション、対人関係、援助的

●授業の一般目標 援助的コミュニケーションとそのために必要な人間関係のあり方を学び、援助の技法についての基礎的知識を獲得し、援助への構えを形成する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：援助のため人間関係とコミュニケーションについて、その原理と技法の基礎知識を獲得する。思考・判断の観点：援助が必要な人に、どのような援助が必要かを判断できる。関心・意欲の観点：援助の必要性を持った人と適切な関係を作り、コミュニケーションの技法を用いて援助をしようということに積極的な関心を持つ。医療心理学をさらに深く学びたいという関心を持つ。態度の観点：援助の必要性を持つ人に暖かい共感的な構えを身につける。技能・表現の観点：援助が必要な人に、コミュニケーション技法の初歩的な部分を用いて、話をよく聞くことができる。

●授業の計画（全体） まず、援助の心、援助の態度、援助の技術を講義し、ついで、対人関係について、対人感情、対人認知、コミュニケーション、役割理論、集団過程について講義す

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 援助的態度—援助のための六つの態度 内容 無防衛 共感 受容 熱意 間 距離
- 第 2 回 項目 コミュニケーション技法—援助的態度を実現する 10 の 技法 内容 促しの技法 繰り返しの技法 要約の技法 解釈の技法 共感の技法 保証の技法 沈黙の技法 明確化の技法 質問の技法 対決の技法
- 第 3 回 項目 コミュニケーションと人間関係（1）対人感情を 中心に 内容 個人と集団 対人感情（1）好き・嫌いの人 人間関係 対人感情（2） 大好きと大嫌い
- 第 4 回 項目 コミュニケーションと人間関係（2）対人認知を 中心に 内容 対人認知と自己認 知 他者認知
- 第 5 回 項目 コミュニケーションと人間関係（3）コミュニ ケーション論を 中心に 内容 コミュニケーションの二重構造 非言語的コミュニ ケーション 主張行動と集団圧 力 単方向と双方向
- 第 6 回 項目 コミュニケーションと人間関係（4）役割理論を 中心に 内容 社会的地位と役割 役割葛藤 自我と役割
- 第 7 回 項目 コミュニケーションと人間関係（5）リーダーシ ョン論を 中心に 内容 リーダーシップ 協調関係と競争関 係 集団凝集性
- 第 8 回 項目 期末試験
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法（総合） 期末試験 50 %、小テスト 40 %、出席 10 %（ただし 2 回以上欠席したものは出席点はない。遅刻は 1 回につき-1 点）。

●教科書・参考書 教科書：援助者のためのコミュニケーションと対人関係、諏訪茂樹、建ぱく社、1997 年

- メッセージ 心理学、社会学を履修していることが望ましい。遠慮なく、メールで連絡、質問をして欲しい。再試験は行わない。
- 連絡先・オフィスアワー e-mail: seitoshi-ygc@umin.ac.jp office phone: 0836-22-2802 office hours: 月曜から金曜まで、8：30-5：00 まで随時（ただし授業、会議等で不在のときを除く）

開設科目	看護管理学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	藤澤怜子・C.メルビー・花田千鶴美				

●授業の概要 看護管理は、看護の機能を効果的に発揮できるように、看護職個人ではなく組織を確立し、運営を適切にしていく管理技法であり、看護の対象である人間が基盤にある。管理的立場にないものにとっても、看護管理の基礎を理解することは、看護の効果をあげるのに役立つものである。本授業では、保健医療システムとその中での看護管理の位置づけ、看護管理の基礎となる理論や基礎知識、看護制度や法的問題について解説する。また、病院看護管理の実際や米国・アジア 諸国における看護政策について紹介する。／検索キーワード 看護管理、看護システム、看護サービス、組織

●授業の一般目標 1. 看護管理の基礎となる理論を理解する。 2. 看護管理のプロセスを学び、看護ケアの提供者として必要な看護の提供システムを理解する。 3. 人材育成の制度や実際を学び、将来看護職になるものとして自己能力を向上させる必要性を理解する。 4. 看護職が行政や政策にどのように関わっていくかを学び、看護職の社会性の向上や社会システムとして看護をとらえる視点を養う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 看護管理の基礎となる理論をあげることができる。 2. 看護管理のプロセスが説明できる。 3. 日本の看護制度・行政について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 看護をとりまく環境の変化を指摘できる。 2. 看護職員の能力を発揮できるような組織・運営について、自分の意見を述べる ことができる。 3. 看護専門職としての責務について述べる ことができる。 関心・意欲の観点： 1. 看護管理に関する課題に関心をもつ。 2. 看護職の社会性の向上や社会システムとして看護をとらえる視点を養う。 3. 看護の専門職として自己能力を向上させる必要性に気づく。 態度の観点： 1. 課題レポート作成のために情報収集が積極的にできる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 I. 看護管理の基礎 内容 1. 看護管理とは何か 2. 看護管理の基礎となる理論や考え方
- 第 2 回 項目 II. 看護管理のプロセス 内容 1. 看護管理のシステムと情報管理 2. 看護職のキャリア開発
- 第 3 回 項目 III. 日本における看護制度と看護行政 内容 1. 保健医療制度と看護制度 2. 医療施策と看護施策
- 第 4 回 項目 . 看護管理の動向と課題 内容 1. 看護管理におけるリスクマネジメント 2. 看護倫理
- 第 5 回 項目 V. 演習 内容 課題をグループ討議
- 第 6 回 項目 . アメリカ・香港における看護政策
- 第 7 回 項目 . 看護管理の実際 内容 大学病院における看護管理の実際
- 第 8 回 項目 . 課題レポート作成
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法 (総合) 期末試験を行う。看護管理に関する課題を学生主体で決定しレポートを作成する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書：看護サービス管理, 中西睦子, 医学書院, 1998 年

開設科目	看護教育学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	内野幸子				

- 授業の概要 看護教育の歴史と変遷，看護教育の現状と問題点，専門職看護師の将来像，看護継続教育・生涯教育の必要性について概説する。また，看護対象者への指導方法と技術，教材研究等について教授する。

開設科目	看護経済学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	東 玲子・横田伸子・横山利枝				

●授業の概要 経済学の概要、医療経済に関わる諸制度と改革の動向、先進諸外国との比較、さらに看護経済をめぐる諸問題、医療・看護サービスの経済的特徴、医療・看護の経済的評価、看護職からみた医療制度改革等についてについて概説する。また、「ジェンダー」の視点から、女性労働の実態を教授し、女性労働者が多い医療・看護現場の問題・課題について考察を促す。／検索キーワード 医療経済、看護経済、医療制度、ジェンダー、女性労働

●授業の一般目標 医療経済に関する概念及び活動の国際比較から我が国の特徴を理解する。我が国の医療制度の仕組み、診療報酬等に関するの現状と改革の動向、課題を理解する。医療・看護サービスの経済的特徴、医療・看護の経済的評価について理解する。女性労働の実態について理解する。医療・看護の場における女性労働に関する問題・課題を考察できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 我が国の医療財政の概要、保健医療制度の仕組みについて述べることができる。2. 医療・看護サービスの経済的特徴を述べるができる。3. 医療・看護の経済的評価について述べるができる。4. 女性労働の実態について述べるができる。5. 医療・看護の場における女性労働に関する問題・課題を述べるができる。 思考・判断の観点：1. 医療・看護をめぐる経済問題、看護職からみた医療制度改革等について考察し述べるができる。2. 医療における看護経済の役割と機能及び課題について考察し述べるができる。3. ジェンダーの視点から医療・看護の場における問題・課題を考察し述べる ことができる。 関心・意欲の観点：レポート、授業中の発言に医療・看護経済のトピックに関する情報を収集し活用できる。 態度の観点：熱心な聴講姿勢、積極的な質問・発言がみられる。

●授業の計画（全体）前半では、経済学の概要を教授し、医療経済に関する概念、諸制度の仕組みについて教授する。次いで、看護に関わる経済問題に焦点を当てて、医療・看護サービスの経済的特徴、経済的評価、看護職からみた医療制度改革等について教授する。後半は、「ジェンダー」の視点から、女性労働の実態を教授し、女性労働者が多い医療・看護現場の問題・課題について考察を促す。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経済学とは何か 経済社会の仕組みと医療
- 第 2 回 項目 わが国の医療経済的問題 医療制度改革の動向と国際比較
- 第 3 回 項目 医療制度改革の動向と国際比較 ―ジェンダーの視点から― 医療保険制度の仕組み
- 第 4 回 項目 医療・看護サービスの経済的特徴 看護職からみた医療制度改革
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回 項目 グループ討議・発表 内容は授業の中で提示する。授業外指示 レポート提出
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法（総合）1. 定期試験（中間試験、期末試験）、2. 看護経済学に関するレポート 3. 授業参加度を記の観点で評価する。なお、レポートが未提出の場合、単位の認定ができないので注意する。

●教科書・参考書 教科書：特に指定しない。／参考書：看護経済学—マネジメントの基礎, 尾形裕也田村やよい, , 2003年；医療・看護の経済論, 長田 浩, , 2002年

●連絡先・オフィスアワー 東 玲子 tel:0836-22-2813 :azumar@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：メールあるいは、電話等で在否を確かめてから 研究室を訪ねて下さい。横田伸子 tel:083-933-5559 email:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：メールあるいは、電話等で在否を確かめてから 研究室を訪ねて下さい。

開設科目	看護研究概論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	正村啓子				

●授業の概要 看護における研究の意義、看護研究の課題、研究過程と方法について概説する。更に 研究過程における文献検索の方法、看護に関連する研究論文の検討と活用、研究計画等の演習を行う。／検索キーワード 看護研究、概論、研究デザイン、研究計画書、Small Group Learning

●授業の一般目標 看護研究における基礎を理解し、興味を持って看護問題に研究的に取り組む姿勢を培うとともに、看護研究における自己の興味を探る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1) 学問とは・研究とは・科学とはについて、その連関をおさえて説明できる。2) 「看護研究とは何か」を理解し、その特長を説明できる。3) 研究のプロセス、文献検索・検討、研究デザイン、研究計画書について基本的事項について説明できる。4) 看護研究における倫理性について説明できる。 思考・判断の観点：1) 代表的な研究デザインを用いた研究論文を読み比較検討し、その特長を説明できる。 関心・意欲の観点：1) 自己の興味ある看護研究のテーマを探り、文献を読み、研究計画書の作成を試みる。 態度の観点：1) 看護研究の基礎的知識の学習、自己の研究テーマの設定、研究計画書作成に主体的に取り組むことができる。 技能・表現の観点：1) Small Group Learning (S.G.L.) において、効果的に Presentation ができる。2) 研究計画書をわかりやすく表現できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 1. 研究の芽、創造する喜び 2.Small Group Learning (1) 内容 1. 素数の話し 2. 科学と遊び 3. 独創がうまれない 4. 「理想の看護を見つめる目」と「現実の看護を見つめる目」 5.Small Group Learning について 6. グループ編成 7. 教科目の学習目標の理解 8. 担当した単元の一般目標・到達目標の設定 授業外指示 1. 担当した単元の一般目標・到達目標を設定し、4/15 迄に提出する。 授業記録 1. 資料 2. グループ討議

第 2 回 項目 3.Small Group Learning (2) 内容 1.S.G.L. の成果のまとめ方、発表の準備、発表の仕方について 2.. 担当単元について、学習目標を確認し、グループワークし成果をまとめる。3. 発表の準備をする 4. 学習日程の確認 授業外指示 1. 担当した単元について、自主学習し、成果をまとめ、5/24 迄に提出する（期限厳守：小冊子作成のため）。2. その後、発表の準備をしておく。3. 次回発表内容を予習し、疑問点を明確にしておく。 授業記録 資料 5/25 小冊子作成し配布

第 3 回 項目 4. 発表（1） 内容 1. 学問とは・研究とは・科学とは・看護研究とは……1G 2. 研究のプロセス……2G,3G 3. 質疑応答 4. 今日のポイント（講義） 授業外指示 1. 次回発表グループは、発表の準備 2. 次回発表内容を予習しておく。 授業記録 資料 OHP または OHC, パワーポイント

第 4 回 項目 5. 発表（2） 内容 1. 文献検索・検討……4G 2. 研究デザイン……5G,6G 3. 今日のポイント（講義） 授業外指示 同上 授業記録 同上

第 5 回 項目 6. 発表（3） 内容 1. 研究計画書……7G,8G 2. 研究成果のまとめ方と実践への活用…9G 3. 今日のポイント（講義） 授業外指示 同上 授業記録 同上

第 6 回 項目 6. 発表（4） 内容 1. 看護研究の現状と課題…10G 2. 看護研究における倫理性 …11G,12G 3. 今日のポイント（講義） 授業外指示 同上 授業記録 同上

第 7 回 項目 7. 代表的な研究デザインの比較検討 内容 1.13G の計画により進行。2. 今日のポイント（講義） 授業外指示 同上 授業記録 同上

第 8 回 項目 8. 作成した研究計画書の検討 9. まとめ 内容 1.14G の計画により進行。2. 今日のポイント（講義） 授業外指示 研究計画書を作成し提出…期限は別途指示する 授業記録 同上

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

- 成績評価方法 (総合) 筆記試験は実施せず、研究計画書を評価の対象とする。詳細は下記の通りです。
- 教科書・参考書 教科書：看護における研究, 井上幸子編集, 日本看護協会出版会, 2002 年 / 参考書：参考図書：看護研究 原理と方法, D.F. ポーリット、 B.P. ハングラー, 医学書院
- 連絡先・オフィスアワー e-mail adress:masamura@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：医学部保健学科,3 階

開設科目	国際看護学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	C. メルビー				

開設科目	学際的看護論	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	C. メルビー				

●備考 集中授業

開設科目	成人看護学I	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	山勢博彰・本山仁美・藤井聡美・作田裕美				

●授業の概要 既習の基礎看護学および周辺諸科学の知識を基盤として、成人急性期・回復期病態にある対象（主に手術を受ける患者）に対して看護ケアを提供するために必要な基礎的理論・概念および援助技術について教授する。併せて看護過程を用いて看護実践を組み立てる方法と臨床看護技術の一部を演習する。／検索キーワード 成人看護学、急性期、回復期、看護過程

●授業の一般目標 1. 成人周手術期にある患者の特徴を理解する。 2. 成人周手術期にある患者の看護問題を解決するために必要な実践的な思考プロセス（判断能力・応用能力・問題解決能力）を養う。 3. 成人周手術期にある患者に提供する臨床看護技術について理解を深める。 4. 成人周手術期にある患者のケアを行う際に必要となる倫理的判断に対して、自分の意見を持つことができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 成人周手術期にある患者の特徴を述べるができる。 2. 看護ケアを提供するために必要な理論や概念を述べるができる。 思考・判断の観点： 1. 看護過程を用いて看護実践を組み立てる方法について説明できる。 関心・意欲の観点： 1. 成人急性期・回復期病態にある対象に対する関心を持つ 2. 対象の看護問題に焦点を当てた討議ができる 技能・表現の観点： 1. 安全・安楽の視点で援助ケアの工夫ができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 急性期・回復期病態にある人の理解と看護(1) 内容 急性期看護概論
- 第2回 項目 急性期・回復期病態にある人の理解と看護(2) 内容 周手術期とクリティカルケア
- 第3回 項目 急性期・回復期病態にある人の理解と看護(3) 内容 活用概念・理論
- 第4回 項目 周手術期における看護(1) 術前の看護 内容 術前アセスメントと看護
- 第5回 項目 周手術期における看護(2) 看護技術 内容 術前の患者指導
- 第6回 項目 周手術期における看護(3) 術中の看護 内容 麻酔看護
- 第7回 項目 周手術期における看護(4) 術中の看護 内容 手術室看護師の役割と看護
- 第8回 項目 周手術期における看護(5) 術後の看護 内容 手術侵襲と回復過程の促進
- 第9回 項目 周手術期における看護(6) 術後の看護 内容 術後合併症の予防と回復過程の促進
- 第10回 項目 周手術期における看護(7) 看護技術 内容 術後観察とアセスメント
- 第11回 項目 周手術期における看護(8) 看護技術 内容 疼痛管理, ドレーン管理
- 第12回 項目 周手術期における看護(9) 看護技術 内容 創傷管理
- 第13回 項目 手術療法に伴う看護(1) 内容 心・血管系手術と看護
- 第14回 項目 手術療法に伴う看護(2) 内容 呼吸器系手術と看護
- 第15回 項目 手術療法に伴う看護(3) 内容 消化・吸収系手術と看護(1)
- 第16回 項目 手術療法に伴う看護(4) 内容 消化・吸収系手術と看護(2)
- 第17回 項目 手術療法に伴う看護(5) 内容 感覚認知系手術と看護(脳神経系)
- 第18回 項目 手術療法に伴う看護(6) 内容 性・生殖系手術と看護
- 第19回 項目 手術療法に伴う看護(7) 内容 骨・関節系手術と看護
- 第20回 項目 手術療法に伴う看護(8) 内容 演習(1)
- 第21回 項目 手術療法に伴う看護(9) 内容 演習(2)
- 第22回 項目 手術療法に伴う看護(10) 内容 演習(3)
- 第23回 項目 医療機器の使用と看護(1) 内容 ME 機器の原理
- 第24回 項目 医療機器の使用と看護(2) 内容 各種モニター類
- 第25回 項目 医療機器の使用と看護(3) 内容 人工呼吸器、血液浄化など
- 第26回 項目 成人I看護技術演習(1) 内容 ガイダンス他
- 第27回 項目 成人I看護技術演習(2)
- 第28回 項目 成人I看護技術演習(3)

第 29 回

第 30 回

- 成績評価方法 (総合) 期末試験を行う。課題レポートを作成し提出する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書：急性期にある患者の看護 II 周手術期看護, 氏家幸子監修, 廣川書店, 2003 年；周手術期看護 1 外来／病棟における術前看護, 竹内登美子編著, 医歯薬出版, 2003 年；周手術期看護 2 術中／術後の生体反応と急性期看護, 竹内登美子編著, 医歯薬出版, 2003 年／参考書：手術患者の QOL と看護, 数間恵子井上智子横井郁子, 医学書院, 1999 年；成人看護技術 II 急性期にある患者の看護技術, 氏家幸子監修, 廣川書店, 2003 年

開設科目	成人看護学 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	東玲子・近沢三枝・齊田菜穂子				

●授業の概要 本授業では成人期（青年期、壮年期、中年期）で、慢性期・終末期病態にある人々を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、看護の対象となる健康問題を明らかにし、その健康問題を解決するための知識、理論、技術を教授する。慢性期看護では、慢性期病態にある人々の生活をできるだけ普通に保ち、かつ QOL（Quality of Life）を高めるための援助に必要な知識と技術を学ぶ。がん患者の看護では、がんを病む人々ががんとともに生きて行く過程を総合的に援助するための知識と技術を学ぶ。終末期看護では、終末期病態にある人が全人的な痛み（身体的、精神的、社会的、霊的）が和らぎ、安寧な死が迎えられるように家族とともに援助する看護の知識と技術を学ぶ。／検索キーワード 成人期、慢性期看護、終末期看護、がん患者の看護

●授業の一般目標 1. 慢性期・終末期病態にある成人期の人々とその家族を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。2. 対象者の健康問題を理解し、解決するための知識と技術を理解する。3. 継続看護の必要性を理解し、社会復帰への援助方法を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 成人期の身体・心理・社会的特徴を説明できる。2. 成人期に生じやすい健康問題を説明できる。3. 成人期にある人に対する看護の特徴を説明できる。4. 慢性期・終末期看護の特徴および概要を説明できる。5. 慢性期・終末期病態にある人やその家族を理解し、看護を行っていくために必要な諸理論を理解できる。6. 成人期における各系の機能障害出現のメカニズムと成り行きを述べることができる。7. 成人期にある人が活用可能な医療、保健、福祉サービスを説明できる。

思考・判断の観点： 1. 各系の機能障害をもつ人は、いかなる健康問題および生活上の困難を抱えるかを説明できる。2. 機能障害をもった慢性期・終末期病態にある成人患者の健康問題を解決するための看護を根拠とともに説明できる。3. 慢性期・終末期看護で求められる看護師の能力について、自らの考えを記述・口述できる。 関心・意欲の観点： 病を持つ成人患者や家族の体験に関心を持つ。 態度の観点： 機能障害と健康問題および生活上の困難との関連を理解しようと自己学習する。 技能・表現の観点： レポートおよびプレゼンテーション課題に対し、Technical terms を適切に用いて、自らの意見・考えを論理的に記述・口述できる。

●授業の計画（全体） 授業の前半は、成人期および慢性期・終末期病態にある人を理解し、看護を行っていくための基本的な概念、理論、後半は、各系の機能障害を持つ成人の健康問題とそれへの看護方法について根拠を含めて概説していく。授業の大半は、学生への質問や学生のプレゼンテーションで進める。また、複数のレポートを課すので、計画的かつ主体的な予習・復習が必要である。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 成人看護学授業 ガイダンス： 成人期にある人の生活と健康問題 (1) 内容 成人看護学 II の理念 授業外指示 シラバスを読んでおく 授業記録 いずれの授業も 配布資料あり
- 第 2 回 項目 成人期にある人の生活と健康問題 (2)
- 第 3 回 項目 成人期にある人の生活と健康問題 (3)
- 第 4 回 項目 慢性期病態にある人の理解と看護 (1) 内容 慢性期病態にある人の理解と看護 看護の特徴、活用概念・理論： 病みの軌跡、慢性疾患を生きる 授業外指示 主要な活用概念・理論は、テキスト・配布資料・参考文献で 予習・復習する
- 第 5 回 項目 慢性期病態にある人の理解と看護 (2) 内容 慢性期病態にある人の理解と看護 活用概念・理論：セルフケア 理論
- 第 6 回 項目 がんを病む人の理解と看護の特徴 (1) 内容 がんを病む人の理解と看護の特徴 活用概念・理論：危機、喪失と悲嘆のプロセス
- 第 7 回 項目 慢性期病態にある人の理解と看護 (3) 内容 慢性期病態にある人の理解と看護 活用概念・理論：患者教育

- 第 8 回 項目 がんを病む人の 理解と看護 (2) 内容 がんを病む人の 理解と看護 活用概念・理 念：がんとの共 生、症状マネジ メント
- 第 9 回 項目 循環機能に障害 を持つ患者の看 護 (1) 内容 循環機能に障害 を持つ患者の看 護 機能のメカニズ ムとアセスメント 授業外指示 機能障害を持つ 人の看護につい ては、いずれの 講義も、病態生 理を含め関連箇 所をテキスト・ 参考書で予習・ 復習しておく
- 第 10 回 項目 終末期病態にあ る人の理解と看 護
- 第 11 回 項目 循環機能に障害 を持つ患者の看 護 (2) 内容 循環機能に障害 を持つ患者の看 護 慢性心不全
- 第 12 回 項目 循環機能に障害 を持つ患者の看 護 (3) 内容 循環機能に障害 を持つ患者の看 護 心筋梗塞
- 第 13 回 項目 中間試験
- 第 14 回 項目 腎・排泄機能に 障害を持つ患者 の看護 (1) 内容 腎・排泄機能に 障害を持つ患者 の看護 機能のメカニズ ムとアセスメント、腎不全
- 第 15 回 項目 演習ガイダンス
- 第 16 回 項目 呼吸機能に障害 を持つ患者の看 護 (1) 内容 呼吸機能に障害 を持つ患者の看 護 機能のメカニズ ムとアセスメント
- 第 17 回 項目 調節 (内分泌) 機 能に障害を持つ 患者の看護 (1) 内容 調節 (内分泌) 機 能に障害を持つ 患者の看護 機能のメカニズ ムとアセスメント
- 第 18 回 項目 呼吸機能に障害 を持つ患者の看 護 (2) 内容 呼吸機能に障害 を持つ患者の看 護 慢性呼吸不全
- 第 19 回 項目 調節 (内分泌) 機 能に障害を持つ 患者の看護 (2) 内容 調節 (内分泌) 機 能に障害を持つ 患者の看護 糖尿病
- 第 20 回 項目 呼吸機能に障害 を持つ患者の看 護 (3) 内容 呼吸機能に障害 を持つ患者の看 護 慢性呼吸不全
- 第 21 回 項目 調節 (内分泌) 機 能に障害を持つ 患者の看護 (3) 内容 調節 (内分泌) 機 能に障害を持つ 患者の看護 糖尿病
- 第 22 回 項目 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 (1) 内容 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 機能のメカニズ ムとアセスメント (1)
- 第 23 回 項目 感覚・認知機能 に障害を持つ 患者の看護 内容 感覚・認知機能 に障害を持つ 患者の看護 脳梗塞
- 第 24 回 項目 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 (2) 内容 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 機能のメカニズ ムとアセスメント (2)
- 第 25 回 項目 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 (3) 内容 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 肝硬変
- 第 26 回 項目 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 (4) 内容 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 潰瘍性大腸炎
- 第 27 回 項目 生態防御 (免疫) 機能に障害を持 つ患者の看護 (1) 内容 生態防御 (免疫) 機能に障害を持 つ患者の看護 機能のメカニズ ムとアセスメント、全身性エリ テマトーデ、 成人臨床看護技 術演習ガイダン ス
- 第 28 回 項目 生態防御 (造 血) 機能に障害を持 つ患者の看護 (2) 内容 生態防御 (造血) 機能に障害を持 つ患者の看護 機能のメカニズ ムとアセスメント、白血病
- 第 29 回 項目 成人臨床看護技 術演習 (1) 内容 呼吸理学療法、慢性疾患患者の自己管理を支えるアセスメント技術
- 第 30 回 項目 成人臨床看護技 術演習 (2) 内容 呼吸理学療法、慢性疾患患者の自己管理を支えるアセスメント技術

●成績評価方法 (総合) 1. 定期試験 (中間試験、期末試験)、2. 慢性期看護に関するレポート、3. 機能障害をもつ人の看護についてのプレゼンテーション・演習を、下記の観点で評価する。なお、レポートが未提

出の場合、単位の認定ができないので注意する。

- 教科書・参考書 教科書：系統看護学講座 6,7,8,9,11,14(成人看護学 2,3,4,5,7,10), , 医学書院, 1999 年；系統看護学講座専門分野 5～11.14（成人看護学 1～7.10）医学書院／参考書：成人看護学 A. 成人看護学原論, 氏家幸子監、土井洋子 泉キヨ子編, 広川書店, 2001 年；看護過程に沿った対象看護「病態生理と看護のポイント」, 高木永子監修, 医学書院, 1999 年；臨床看護学セミナー 1-7.9、黒田裕子監修、メヂカルフレンド社、1997. 図解知っておきたい病態生理、西崎統、医学書院、2002. 病態生理できた内科学 1～6、五幸恵、医学教育出版社 その他、必要に応じ、関連授業で提示する
- メッセージ 機能障害を持つ人の看護については、いずれの講義も、病態生理を含め関連箇所をテキスト・参考書で予習・復習しておく
- 連絡先・オフィスアワー 東玲子 tel:0836-22-2813, e-mail:azumar@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：研究室に在否を確認して訪室して下さい。 齊田菜穂子 tel:0836-22-2864,e-mail:naho@@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：研究室に在否を確認して訪室して下さい。

開設科目	成人疾病学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	清水昭彦				

●授業の概要 人体に起こる病気の中でも、循環器、神経、血液・アレルギー、泌尿器、眼科、婦人科、感染症に関して講義形式で行う。／検索キーワード 循環器、神経、血液・アレルギー、泌尿器、眼科、婦人科、感染症

●授業の一般目標 循環器、神経、血液・アレルギー、泌尿器、眼科、婦人科、感染症の診断方法、治療に関して理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：循環器、神経、血液・アレルギー、泌尿器、眼科、婦人科、感染症への知識 思考・判断の観点：循環器、神経、血液・アレルギー、泌尿器、眼科、婦人科、感染症への治療 関心・意欲の観点：循環器、神経、血液・アレルギー、泌尿器、眼科、婦人科、感染症の関心 態度の観点：学習態度

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 神経 野垣 (5・6 時限) 内容 脳血管障害 授業外指示 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 血液 山田 (9・10 時限) 内容 各種貧血：鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血
- 第 3 回 項目 循環器 清水 (3・4 時限) 内容 症状と病態生理
- 第 4 回 項目 循環器 清水 (7・8 時限) 内容 先天性心疾患, リウマチ熱/感染性心内膜炎/弁膜症
- 第 5 回 項目 循環器 清水 (9・10 時限) 内容 虚血性心疾患 (I)
- 第 6 回 項目 循環器 清水 (9・10 時限) 内容 虚血性心疾患 (II)
- 第 7 回 項目 血液 山田 (9・10 時限) 内容 白血球系疾患：HIV 感染症、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫
- 第 8 回 項目 神経 野垣 (5・6 時限) 内容 脳炎症・脱髄疾患・脊髄疾患、運動ニューロン疾患、脳変性疾患
- 第 9 回 項目 循環器 清水 (3・4 時限) 内容 不整脈 総論/徐脈性不整脈、
- 第 10 回 項目 循環器 清水 (9・10 時限) 内容 循環器 頻脈性不整脈
- 第 11 回 項目 神経 野垣 (5・6 時限)
- 第 12 回 項目 血液 山田 (7・8 時限) 内容 血液 出血凝固系疾患：特発性血小板減少性紫斑病、血友病について
- 第 13 回 項目 眼科 相良 (3・4 時限) 内容 眼科 糖尿病網膜症、高血圧性網膜症、網膜剥離、眼底出血
- 第 14 回 項目 神経 野垣 (9・10 時限) 内容 末梢神経疾患、筋肉疾患/疼痛性神経疾患（頭痛など）、てんかん、神経 脳炎症・脱髄疾患・脊髄疾患、運動ニューロン疾患 脳変性疾患（パーキンソン病、アルツハイマー病、脊髄小脳変性症など）
- 第 15 回 項目 血液 山田 (5・6 時限) 内容 アレルギー性疾患：反応の 4 型。蕁麻疹、気管支喘息について
- 第 16 回 項目 自己学習 清水 (7・8 時限) 内容 心不全の機序
- 第 17 回 項目 循環器 清水 (3・4 時限) 内容 血管の疾患
- 第 18 回 項目 感染症 清水 (7・8 時限) 内容 一般的感染症の治療
- 第 19 回 項目 感染症 清水 (9・10 時限) 内容 ウィルス感染症、細菌感染
- 第 20 回 項目 婦人科 田村 (9・10 時限) 内容 外陰・膣の疾患
- 第 21 回 項目 自己学習 清水 (5・6 時限) 内容 感染症, 院内感染のレポート
- 第 22 回 項目 感染症 清水 (3・4 時限) 内容 細菌感染, その他
- 第 23 回 項目 婦人科 田村 (9・10 時限) 内容 子宮良性疾患（子宮筋腫、子宮内膜症など）
- 第 24 回 項目 眼科 相良 (3・4 時限) 内容 角結膜の炎症性疾患、白内障、緑内障、ぶどう膜炎、未熟児網膜症 離、眼底出血
- 第 25 回 項目 婦人科 田村 (7・8 時限) 内容 子宮悪性腫瘍 (子宮頸癌, 子宮体癌)
- 第 26 回 項目 感染症 清水 (7・8 時限) 内容 細菌感染
- 第 27 回 項目 婦人科 田村 (7・8 時限) 内容 卵巣腫瘍 (卵巣嚢腫、卵巣癌)

第 28 回 項目 泌尿器 松山 (9・10 時限) 内容 尿路・性器の疾患 (尿路悪性腫瘍、尿路結石)

第 29 回 項目 婦人科 田村 (7・8 時限) 内容 婦人科内分泌学、不妊症

第 30 回 項目 泌尿器 松山 (9・10 時限) 内容 膀胱・性器の疾患男性不妊、性機能障害)

●成績評価方法 (総合) 筆記試験が主体である。

●教科書・参考書 教科書：系統看護学講座 専門分野 7・11・12・16・14, , 医学書院, 2004 年；野垣先生は脳・神経疾患ナーシング (学研)

●連絡先・オフィスアワー 清水：ashimizu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	高度先進医療看護学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	山勢博彰, 清水昭彦, 前川剛志				
<p>●授業の概要 高度先進医療の具体例を紹介し、それにかかわる看護の役割を教授する。また、高度医療にまつわる問題についても、看護の立場で考察できるようにする。／検索キーワード 高度先進医療、看護、医療倫理</p> <p>●授業の一般目標 1、高度先進医療と看護の関わりについて理解する。2、高度先進医療の具体例について説明できる。3、高度先進医療にまつわる問題について認識し、考察できる。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：1、高度先進医療の概要について説明できる。2、主に集中治療、循環器領域、情報ネットワーク医療の場面で行われる高度医療に関する事項について説明できる。3、高度先進医療にまつわる問題について説明できる。4、高度医療にかかわる看護の役割を説明できる。 思考・判断の観点：1、脳死臓器移植を例に、高度医療がもたらす倫理的問題について考察できる 関心・意欲の観点：1、最先端医療について関心を持つことができる。</p> <p>●授業の計画（全体） 知識に関する教授は講義形式で行う。スライド等を用い、医療の実際をビジュアルに教授できるように考えている。また、脳死臓器移植に関する問題を題材に、グループディスカッションを通して考察できるようにする（レポート課題あり）。最後の授業では、まとめとしてテストを実施する。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 高度先進医療と看護 内容 高度先進医療とは 高度先進医療における看護の役割（看護の専門化を含む）</p> <p>第2回 項目 人工臓器 内容 人工臓器とは（人工肺、人工肝臓、人工血管、補助人工心臓、バイオマテリアルなど）人工臓器による医療の現状 人工臓器医療に関する看護のポイント</p> <p>第3回 項目 臓器移植 内容 肝移植、腎移植、肺移植、心移植、ES細胞などの現状と医学的方法論 レシピエントの管理と看護 ドナーの管理と看護 臓器移植ネットワークについて</p> <p>第4回 項目 臓器移植と脳死問題1 内容 脳死臓器移植は必要か？（グループディスカッション）</p> <p>第5回 項目 臓器移植と脳死問題2 内容 脳死臓器移植は必要か？（グループディスカッション）</p> <p>第6回 項目 臓器移植と脳死問題3 内容 脳死臓器移植の現状と課題 脳死臓器移植に関する倫理的問題 脳死患者の看護と家族ケア</p> <p>第7回 項目 集中治療下でおこなわれる主たる高度医療1 内容 血液浄化法と看護 人工呼吸療法と看護 IABP、PCPSなど</p> <p>第8回 項目 集中治療下でおこなわれる主たる高度医療2 内容 各種ME機器について ME機器の管理 人工呼吸器の管理と看護</p> <p>第9回 項目 集中治療下でおこなわれる主たる高度医療3 内容 低体温療法と看護</p> <p>第10回 項目 循環器領域での高度先進医療 内容 心不全と致死性不整脈</p> <p>第11回 項目 情報ネットワークを利用した医療 内容 遠隔治療の現状と課題</p> <p>第12回 項目 高度医療と医療費 内容 厚生労働省で承認されている高度先進医療とは 高度医療と医療費の問題</p> <p>第13回 項目 まとめ 内容 まとめ 試験</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p> <p>●成績評価方法（総合） 試験を実施し、その結果と授業課題レポートを合わせて評価する。出席が所定の回数に満たない場合は、単位認定はできない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書の指定はない。</p>					

開設科目	危機管理看護学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山勢博彰、本山仁美				

●授業の概要 本授業では、「危機」をキーワードに現代社会における看護の役割について探求する。まず、危機管理に関する理解を深めるために基本的な事項について概説し、以後は提示する事例を基にグループ討議を中心に進める。

●授業の一般目標 1. 対象が体験する様々な危機を認識する 2. 危機管理の基礎理論について理解を深める 3. 危機管理に関心を深め、主体的に考える姿勢を身につける

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 看護分野における様々な危機の状況・背景について説明できる 2. 危機理論に対する基礎知識を深めることができる 思考・判断の観点： 1. 危機の背景や危機回避について自分の考えを述べるができる 関心・意欲の観点： 1. 危機に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる 態度の観点： 1. 日常生活の中で危機意識の醸成を図り、危機回避を図ることができる 技能・表現の観点： 1. 事前学習により討議のための準備ができる 2. 他人の意見を尊重し、協調的・建設的な議論が行える

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 看護と危機
- 第 2 回 項目 危機理論とは 1
- 第 3 回 項目 危機理論とは 2
- 第 4 回 項目 危機モデルの説明と実践での活用例
- 第 5 回 項目 危機モデル適応上の問題点、災害時の精神看護
- 第 6 回 項目 危機管理システム/医療経営と危機管理
- 第 7 回 項目 危機管理システム/働く人のための危機管理
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●教科書・参考書 教科書：印刷物資料を別途準備する／参考書：授業進度に応じ、随時紹介する

開設科目	成人看護学実習 I	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	山勢博彰・本山仁美・作田裕美				

●授業の概要 成人看護学 I 実習は、周手術期実習と重症集中ケア実習とがあり合計 4 単位の臨地実習を行う。周手術期は、病棟で一人の患者を受け持ち、術前・術中・術後をとおして看護過程の展開を行う。実習場所は、外科系病棟、手術室、術後 ICU で行う。また、重症集中ケア実習は、高度救急 救命センター、集中治療病棟で実施する。／検索キーワード 周手術期、臨地実習

●授業の一般目標 1. 手術を必要とする患者とその家族の心理状態を理解する。 2. 患者の病態と手術療法を理解する。 3. 周手術期に必要な基本的な看護について理解し実践できる。 4. 手術後の身体機能やボディイメージの変化に対する看護を理解する。 5. 患者の持つ障害を評価し、QOL を高める生活機能の回復と社会復帰への援助を理解する。 6. 生命の危機状態にある患者と家族の状況と特徴を理解する。 7. 生命の危機状態にある患者に必要な看護の役割機能を認識し、基本的な援助を修得する。 8. 救急医療のシステムを理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 手術を必要とする患者とその家族の心理状態を述べることができる。 2. 受持患者の病態と手術療法が説明できる。 3. 周手術期に必要な基本的な看護について説明できる。 4. 手術後の身体機能やボディイメージの変化に対する看護を説明できる。 5. 生命の危機状態にある患者と家族の状況や特徴を述べるができる。 6. 生命の危機状態にある患者に必要な看護の役割機能を述べるができる。 7. 救急医療のシステムを述べるができる。 思考・判断の観点： 1. 受持患者を通して看護の対象を理解し、看護過程を用いて必要なケアが実践できる。 2. 患者の持つ障害を評価し、QOL を高める生活機能の回復と社会復帰への援助方法が判断できる。 関心・意欲の観点： 1. 自分の立てた看護計画を教官、臨床指導者と討議できる。 2. 受持以外の患者ケアに関しても積極的に参加する。 態度の観点： 1. 看護を学ぶ学生として倫理観を持ち課題に取り組む姿勢を見せる。 2. 学生グループやナースと協調できる。 3. 患者に対し共感的態度で応えることができる。 技能・表現の観点： 1. 対象に応じた基本的看護ケアを実施できる。

●成績評価方法 (総合) 看護過程、態度、ケア技術などについての実習評価基準を設け、教官、臨床指導者で総合評価する。なお、出席日数が所定の日数に満たない者には単位を与えない。

●教科書・参考書 参考書：実習オリエンテーション時に参考文献一覧を配布する。

開設科目	成人看護学実習 II	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	3 単位	開設期	前期
担当教員	東玲子、齊田菜穂子				

●授業の概要 成人期（青年期、壮年期、中年期）で、慢性期・終末期病態にある人々を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、看護の対象となる健康問題を明らかにし、その健康問題を解決するための知識、理論、技術及び態度を実習を通して習得する。慢性期看護では慢性期病態にある人々の生活をできるだけ普通に保ち、かつ QOL（Quality of Life）を高めるための援助に必要な知識と技術を習得する。終末期看護では、終末期病態にある人が全人的な痛み（身体的、精神的、社会的、霊的）が和らぎ、安寧な死が迎えられるように家族とともに援助する看護の知識、技術及び態度を習得する。／検索キーワード 成人看護学実習、慢性期実習、終末期実習

●授業の一般目標 1. 慢性期・終末期病態にある成人期の人々とその家族を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。2. 患者及びその家族と有効な人間関係を成立させ、患者の健康問題を判断し、解決方法を計画し、実施、評価できる。3. 継続看護の必要性を理解し、社会復帰への援助方法を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 慢性期・終末期病態にある成人期の人々の身体・心理・社会的特徴を説明できる。2. 患者に生じている機能障害出現のメカニズムと成り行きを説明できる。3. 患者やその家族を理解し、看護を行っていくために必要な諸理論を説明できる。4. 患者及び家族が活用可能な医療、保健、福祉サービスを説明できる。 思考・判断の観点： 1. 機能障害をもつ患者がいかなる健康問題および生活上の困難を抱えるかを説明できる。2. 機能障害をもった患者の健康問題を解決するための看護を根拠とともに説明できる。3. 慢性期・終末期看護で求められる看護師の能力について、自らの考えを記述・口述できる。 関心・意欲の観点： 病を持つ成人患者や家族の体験に関心を持つ。 態度の観点： 実習中の行動における自己客観性、責任性、協調性、共感性、規律性、積極性、慎重性、倫理性 ＊いかなる場面においても、人権、生命の尊厳を尊ぶ態度がとれる。 ＊人の死に直面している自分の情動反応を分析し、自己洞察できる。 技能・表現の観点： 看護技術の適切性・達成状況

●授業の計画（全体） 既習の理論・知識、技術を統合して、成人期で慢性期・終末期病態にある人を理解し、患者の健康問題を明らかにし、それを解決するための方法を選択し、実施、評価する。実習は内科系病棟を使用し 3 週間継続して行う。1～2 人の患者を担当して看護過程を展開する。また、担当患者の看護の他に検査時の看護、治療に伴う看護、継続看護への援助等を平行して行う。詳細は実習要項を参照

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 成人看護学 II ガイダンス 内容 1. 成人看護学 II 実習の目的・目標・具体的な方法 2. 指定の記録用紙について 3. 実習に際しての心得 授業記録 実習中は看護過程の展開を指定の様式で記録する。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第15回

- 成績評価方法 (総合) 1. 看護過程の展開状況と記録内容 70 % 2. 実習に臨む態度 (自己客観性、責任制、協調性、共感性、規律性、積極性、慎重性、倫理性) 30 % 3. 出席は欠格条件
- 教科書・参考書 教科書：特に指定しない。／参考書：既習の全ての科目に関わる教科書・参考書を適宜活用して下さい。看護を展開する上で必要な理論書や機能障害のメカニズム等に関するものは必要に応じて求めて下さい。
- メッセージ 実習中は日々のケアに向けて復習・予習が必要で、大変厳しい状況が続きますが、心身共に健やかな状態で実習に臨まれますよう健康の自己管理を十分にして下さい。
- 連絡先・オフィスアワー 東玲子 (2813,azumar@yamaguchi-u.ac.) , 齊田菜穂子 (2864 naho@yamaguchi-u.ac.jp)、オフィスアワー：研究室に在否を確認して訪室して下さい。

開設科目	精神看護学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	佐藤美幸・山根俊恵・西野弘員				

- 授業の概要 1. 健康・不健康を問わず、あらゆる成長・発達段階にある対象の精神的な問題と精神保健についての概要を講義する
2. 精神に障害を持つ人の身体的・社会的・心理的側面と看護者の役割および、精神看護を実践するために必要な基礎的知識を教授する／検索キーワード 精神看護、精神保健、メンタルヘルス
- 授業の一般目標 1) 成長発達段階における、心の健康・不健康の問題について理解する. 2) 社会における心の問題を理解するとともに精神障害者の置かれている現状を知る. 3) 精神科におけるチーム医療の中の看護者の役割を理解する. 4) 精神保健医療システムの現状と問題点について理解し、その活用について学ぶ. 5) 精神症状・精神疾患について理解し、援助の方法について学ぶ
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：精神医療や精神科看護の変遷について理解する 精神保健医療システムについて理解できる 精神障害者とそれを取り巻く現状について理解し、適切な援助方法が理解できる 精神的な病を持つ人への看護ケアの基礎を理解できる 思考・判断の観点：あらゆる看護場面において精神看護の必要性和応用の方法を理解できる 精神的な病を持つ人を全人的に理解し、必要な看護について述べる事ができる 関心・意欲の観点：精神保健活動に対する関心を深める 精神医療、看護における問題について関心をもてる 態度の観点：ケーススタディを通じて、他の人の意見を尊重しながら自分の意見を述べる事ができ、意見全体をまとめる事ができる 技能・表現の観点：ケースワークを通じて学習した内容がプレゼンテーションできる
- 授業の計画(全体) 講義と演習形式で行う 必要に応じてプリントの配布を行う
- 授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等
 - 第1回 項目 精神看護学の考え方 内容 精神看護とは 精神看護学の位置づけ、精神看護における看護者の役割
 - 第2回 項目 心の健康とは、環境と精神保健 内容 心の健康とは、心の構造
 - 第3回 項目 心の発達とライフサイクル(胎生期～思春期) 内容 ライフサイクルにおける精神的な問題とその対応
 - 第4回 項目 心の発達とライフサイクル(青年期～老年期) 内容 ライフサイクルにおける精神的な問題とその対応
 - 第5回 項目 危機的状況と心の問題、リエゾン精神看護 内容 様々な場面における危機的状況と援助
 - 第6回 項目 精神保健の歴史の変遷と精神保健福祉法 内容 精神医療と看護における歴史的背景 精神保健福祉法の概要
 - 第7回 項目 我が国の精神保健福祉制度と精神保健活動の展開 内容 精神保健福祉に関する制度と精神保健の現状
 - 第8回 項目 精神医療・看護における倫理的な問題 内容 精神医療における人権、倫理的問題、医療事故など
 - 第9回 項目 精神障害者の理解1 内容 精神障害とは
 - 第10回 項目 精神障害者の理解2 内容 精神障害者に対する理解と看護
 - 第11回 項目 精神科看護の役割と治療的関係 内容 患者と看護者との関係の持ち方 コミュニケーション技術
 - 第12回 項目 精神科における観察と記録 内容 観察の方法とポイント 記録について
 - 第13回 項目 精神障害者を抱える家族への援助 内容 家族の心理と援助の方法
 - 第14回 項目 精神科における治療と看護 内容 精神科における様々な治療法とそれに対する看護
 - 第15回 項目 精神症状と看護 内容 精神症状とそれに対する看護の方法
 - 第16回 項目 精神症状と看護 内容 精神症状とそれに対する看護の方法

- 第 17 回 項目 精神科における急性期看護 内容 急性期の患者の特徴とケア
- 第 18 回 項目 精神科における回復期・慢性期看護 内容 回復期・慢性期の患者の特徴とケア
- 第 19 回 項目 精神科リハビリテーションと看護の役割 内容 精神科リハビリテーションの内容と看護の役割
- 第 20 回 項目 地域精神保健活動における看護の役割 内容 地域における精神保健活動と看護の役割
- 第 21 回 項目 痴呆症に対するケアの実際 内容 痴呆症の患者に対するケアの実際
- 第 22 回 項目 気分障害に対するケアの実際 内容 気分障害（躁うつ）に対するケアの実際
- 第 23 回 項目 統合失調症に対するケアの実際 内容 統合失調症の患者へのケアの実際
- 第 24 回 項目 アディクションに対するケアの実際 内容 アディクション（主にアルコール依存症）に対するケアの実際
- 第 25 回 項目 ＊ケーススタディ 内容 精神科における看護過程を事例を取り上げて演習する
- 第 26 回 項目 ＊ケーススタディ 内容 精神科における看護過程を事例を取り上げて演習する
- 第 27 回 項目 ＊ケーススタディ 内容 精神科における看護過程を事例を取り上げて演習する
- 第 28 回 項目 ＊ケーススタディ 内容 精神科における看護過程を事例を取り上げて演習する
- 第 29 回
- 第 30 回

- 成績評価方法（総合） 中間試験、期末試験を行う。必要に応じて授業内、外にレポートを課す ケーススタディに関してはプレゼンテーションをおこなう 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない
- 教科書・参考書 教科書：新体系看護学 32 精神看護学 (1) 精神看護概論・精神保健, , メヂカルフレンド社；新体系看護学 33 精神看護学 (2) 精神障害を持つ人の看護, , メヂカルフレンド社；我が国の精神保健福祉（精神保健福祉ハンドブック）平成 16 年版, , 精神保健福祉研究会；新体系看護学 33 精神看護学 (2) 精神障害を持つ人の看護
- 連絡先・オフィスアワー miyu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	精神疾病学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	渡邊義文・秋元隆志・西田朗・橋本学・末次正知				

●授業の概要 精神障害についての知識を講義する。精神障害を抱える患者さんを援助するためには、良い人間関係を築くことが第一である。そのためには、先入観や偏見なしに一人の人間として、患者さんに接するとともに、精神障害に特徴的な問題点への理解が必要である。講義では、精神障害を抱えた患者さんの理解を助けるために、さまざまな知識を系統的に講義する。／検索キーワード 精神障害、ストレス

●授業の一般目標 精神障害についての知識を修得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：精神障害について説明できる。個々の精神疾患の特徴を説明できる。精神科における診断や治療法について説明できる。

●授業の計画（全体）教科書（新版 看護学全書36，精神看護学2、メヂカルフレンド社）に基づいて、講義する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目【項目】総論【内容】精神疾患、精神障害について
- 第2回 項目【項目】精神症状学【内容】精神症状の医学的な捉え方について
- 第3回 項目【項目】診断の基礎と要点【内容】精神疾患の診断の方法について
- 第4回 項目【項目】検査、心理テスト【内容】生物学的、心理学的検査法について
- 第5回 項目【項目】薬物療法【内容】生物学的な治療法について
- 第6回 項目【項目】精神療法、社会復帰【内容】心理的な治療的関わりについて
- 第7回 項目【項目】統合失調症【内容】統合失調症について
- 第8回 項目【項目】躁うつ病【内容】躁うつ病について
- 第9回 項目【項目】てんかん、睡眠障害【内容】上記の疾患について
- 第10回 項目【項目】神経症と心因反応、性格異常【内容】上記の疾患について
- 第11回 項目【項目】痴呆性疾患、老年期の精神障害【内容】上記の疾患について
- 第12回 項目【項目】器質・症状性精神障害【内容】身体疾患に伴って起きる精神障害について
- 第13回 項目【項目】アルコール依存と薬物依存【内容】上記の精神障害について
- 第14回 項目【項目】児童思春期の精神障害【内容】上記の精神障害について
- 第15回

●教科書・参考書 教科書：新版 看護学全書36，精神看護学2，メヂカルフレンド社；新版 看護学全書36，精神看護学2、メヂカルフレンド社

開設科目	精神看護学実習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	佐藤美幸・山根俊恵・西野弘員				

- 授業の概要 精神の健康に障害をもつ対象を、身体的・精神的・社会的側面から多角的に理解するとともに、対象の発達・健康レベルに応じた援助技術について実践をとおして修得する。また、対象との関わりを通じて自己の対人援助技術について振り返る。／検索キーワード 精神科看護 精神看護 看護学実習 精神看護学実習
- 授業の一般目標 1. 対象の抱える精神保健上の問題について身体面、精神面から理解する。 2. チーム医療の中での看護の役割と精神看護の実際を学ぶ。 3. 精神の障害が対象とその周囲に及ぼす影響を理解する。 4. 精神に障害を抱える対象との関わりの中で、自らの対人援助技術について振り返る。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：精神的な病いについての理解を深める 精神的な病いを持つ人のニーズを理解する 既習の知識について実習を通じて理解を深める 適切な看護ケアの方法について身につける 思考・判断の観点：病を持つ人のニーズを把握し、適切な援助を考え、実行する 精神的な状態がその人の日常生活に及ぼす影響について考える 患者を取り巻く環境について考える 関心・意欲の観点：精神的な病いを持つ人のニーズやケア、その人を取り巻く環境について関心をもつ 日常生活における問題、困難などについて関心を持つ 態度の観点：病を持つ人を一人の人間として尊重し、適切な態度で接することができる 学生の考えを述べることができ、他の人の話や意見を聞くことができる 積極的に実習に望み、疑問点や問題点を解消できる 技能・表現の観点：自分の考えや意見を述べるができる
- 授業の計画（全体） 大学病院内、その他の精神病院での実習および学内演習をおこなう
- 成績評価方法（総合） 実習評価表、実習記録により評価する 実習態度や実習内容を重視する 臨地実習につき、欠席は原則として認めない
- 連絡先・オフィスアワー miyu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	リエゾン精神看護学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	佐藤美幸・山根俊恵				

●授業の概要 精神疾患を持つ人だけでなく、さまざまな精神的な問題を持つ人を対象に精神的なアプローチを行うリエゾン精神看護学についての概要を講義し、その役割や精神的なケアの重要性に対する理解を深める。／検索キーワード リエゾン精神看護 コンサルテーションリエゾン 精神看護

●授業の一般目標 1. リエゾン精神看護の役割および機能について理解する. 2. 身体を病む人への精神的ケアの重要性を理解する. 3. リエゾン精神看護活動に用いる看護ケア技術の基礎を理解できる.

●授業の到達目標／知識・理解の観点：リエゾン精神看護について、その機能および看護者の役割を理解できる 患者のニーズに応じた適切なケアが理解できる 思考・判断の観点：患者の精神的な局面を理解し、その人のニーズに沿った看護ケアを考えることができる 関心・意欲の観点：身体を病む人の精神看護の必要性とその方法について関心を持つ 態度の観点：演習を通じて学生個人の意見を述べることができ、また他の学生とのディスカッションを通じて患者の持つ精神的な問題とその看護について考える 技能・表現の観点：適切な方法でプレゼンテーションができる

●授業の計画（全体） 講義および演習形式で進める 必要に応じて資料等を配布する

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1回 項目 リエゾン精神看護 とは 1
- 第 2回 項目 リエゾン精神看護とは 2
- 第 3回 項目 リエゾン精神看護師の行うアプローチ
- 第 4回 項目 精神的問題を抱える患者のアセスメント
- 第 5回 項目 医療従事者のストレス
- 第 6回 項目 医療現場で見られる精神的問題（演習）
- 第 7回 項目 医療現場で見られる精神的問題（演習）
- 第 8回
- 第 9回
- 第 10回
- 第 11回
- 第 12回
- 第 13回
- 第 14回
- 第 15回

●連絡先・オフィスアワー miyu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	小児看護学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	辻野久美子・村上京子				

●授業の概要 小児は成長・発達の途上にありやがて成人するが、小児は幼なければ幼い程、誰かに世話をされなければ生きていけない。小児看護は出生前期から学童・思春期頃までの小児とその家族を対象とし、健康・不健康を問わず広く小児を理解し、小児の健康に関する全ての問題に対応する。ここでは小児期各期の特性と、小児の成長発達の促進および健康の保持・増進・回復を支援するために必要な、小児看護の知識と技術について教示する。さらに疾病や障害、入院が、小児とその家族に及ぼす影響について概説し、子どもを看護するときの看護職者の態度や心構え、看護支援の方法について共に考える。授業は出来るだけ小児疾病学の学習内容に対応させながら進める。／検索キーワード 小児、成長・発達、小児看護、看護支援

●授業の一般目標 (1) 小児看護の理念と目的、役割を理解する。(2) 健康な小児の成長・発達を理解する。(3) 小児期各期の特徴と生活について学び、小児に必要な生活の援助技術を習得する。(4) 小児に特有な疾患や症状・障害の看護について、知識と技術を習得する。(5) 小児とその家族への適切な看護支援について、考察する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：子どもの心身の未熟性（やがて成熟する！）を理解できる。子どもの成長・発達について理解できる。小児期各期の特徴と生活について理解できる。子どもに特有な疾患や症状・障害の看護について理解できる。思考・判断の観点：疾病や障害、入院が、子どもとその家族に及ぼす影響について考察できる。子どもとその家族への適切な看護支援について、考察できる。子どもを看護するときの看護職者の態度や心構えについて考察できる。子どもに特有な疾患や症状・障害について、適切な判断ができる。関心・意欲の観点：子どもの誕生から成人するまでのプロセスに、関心を持つことができる。その過程で求められる看護職者の役割を考えることができる。態度の観点：子どもの視点や気持ち・行動を理解しようと、努力することができる。子どもの看護に必要な知識と技術を習得しようと、努力することができる。技能・表現の観点：設定された演習の知識と技術を習得できる。その他の観点：グループワークを通して自分自身と仲間のことを知り、共同作業の成果と喜びを経験することができる。

●授業の計画（全体）このシラバスは12月に作成したものであるため、実際の開講時（後期・10月）には、下記の授業計画は変更される可能性があります。その場合には、開講初日に変更内容を提示し、説明する予定です。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション、小児看護の理念・目的、小児看護の視点 内容 担当教官の紹介、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法について説明する。小児看護の理念・目的、小児看護の視点について解説する。授業外指示 シラバスを読んでおくこと 教科書を読んでおくこと 教科書1 (p10-14) 教科書2 (p43-59) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第2回 項目 小児の成長・発達と看護(1) 内容 主に乳幼児の成長・発達と看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書1 (p18-24) 教科書3 (p1-22) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第3回 項目 小児の栄養と看護(1) 内容 主に乳幼児の小児の栄養と看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書1 (p28-33) 教科書3 (p23-33) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第4回 項目 演習；バイタルサイン測定、調乳法 内容 バイタルサイン測定、調乳法について解説し、グループ演習を行う。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書1 (p63-82) 教科書2 (p3-5) 教科書3 (p4-10, p30-32) *試飲用コップを持参すること 授業記録 配布資料

- 第 5 回 項目 演習;バイタルサイン測定、調乳法 内容 バイタルサイン測定、調乳法について解説し、グループ演習を行う。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p63-82) 教科書 2 (p3-5) 教科書 3 (p4-10, p30-32) *試飲用コップを持参すること 授業記録 配布資料
- 第 6 回 項目 小児の栄養と看護(2) 内容 離乳食、幼児・学童の栄養と看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p33-34) 教科書 2 (p3-7) 教科書 3 (p33-34) 授業記録 配布資料 パワーポイント ビデオテープ「乳児の食べる機能の発達と成長・発育-哺乳動作の発達-」
- 第 7 回 項目 小児の成長・発達と看護(2) 内容 Jピアジェの認知発達理論・エリクソンの発達課題を小児看護に適用し、子どもについて理解を深める。。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p61-63) 教科書 2 (p215-218) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 8 回 項目 人口動態統計、疾病・事故の動向 内容 人口動態統計、疾病・事故の動向について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 2 (p24-37) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 9 回 項目 小児の成長・発達と看護(3) 内容 反射の発達について解説し、その一部については、実際に体感してみる。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p81-82) 教科書 3 (p15-16) ジャージに着替えて参加すること。授業記録 配布資料 パワーポイント ビデオテープ「乳児の脳の発達と反射」、「健康な乳幼児の発達」
- 第 10 回 項目 症状の看護(発熱、下痢) 内容 子どもの発熱および下痢の看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (P84-97) 教科書 2 (p72-89) 教科書 3 (p94-95) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 11 回 項目 症状の看護(脱水、痙攣) 内容 子どもの脱水および痙攣の看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p91-98) 教科書 2 (p91-96) 教科書 3 (p184-189, p550-565, p576) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 12 回 項目 予防接種、感染症の子どもへの看護 内容 予防接種、感染症の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p8-10) 教科書 2 (p168-169) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 13 回 項目 消化器疾患の子どもへの看護 内容 消化器疾患の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p91-98) 教科書 2 (p91-105) 教科書 3 (p434-435, p448-450, p102-106) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 14 回 項目 腎疾患の子どもへの看護 内容 腎疾患の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p116-123) 教科書 2 (p129-138) 教科書 3 (p513-532) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 15 回 項目 呼吸器疾患の子どもへの看護 内容 呼吸器疾患の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 2 (p106-114) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 16 回 項目 検査・手術を受ける子どもへの看護、急性疾患の子どもへの看護 内容 検査・手術を受ける子どもへの看護、急性疾患の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 2 (p57-69) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 17 回 項目 血液疾患の子どもへの看護 内容 血液疾患の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p134-141) 教科書 2 (p153-170) 教科書 3 (p471-478) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 18 回 項目 川崎病の子どもへの看護 内容 川崎病の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 3 (p344-347, p427-428) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 19 回 項目 心疾患の子どもへの看護 内容 心疾患の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p107-115) 教科書 2 (p116-128) 教科書 3 (p383-432) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 20 回 項目 糖尿病の子どもへの看護、慢性疾患の子どもへの看護 内容 糖尿病の子どもへの看護、慢性疾患の子どもへの看護について考察する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p124-133)

- 教科書 2 (p139-152) 教科書 3 (p243-247) 2型糖尿病について復習しておくこと 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 21 回 項目 小児の「遊び」への援助 内容 小児の「遊び」への援助について解説する。グループディスカッションをする。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p39-41) 教科書 2 (p19-23) 授業記録 配布資料
- 第 22 回 項目 低出生体重児の看護 内容 低出生体重児の看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 3 (p67-97) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 23 回 項目 演習；身体計測、保育器の管理、吸引法 内容 身体計測、保育器の管理、吸引法について解説し、グループ演習を行う。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p37-38) 教科書 2 (p12-19, p100-102) 「沐浴」を復習しておくこと 授業記録 配布資料
- 第 24 回 項目 演習；身体計測、保育器の管理、吸引法 内容 身体計測、保育器の管理、吸引法について解説し、グループ演習を行う。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p37-38) 教科書 2 (p12-19, p100-102) 「沐浴」を復習しておくこと 授業記録 配布資料
- 第 25 回 項目 障害をもつ子どももの看護 内容 障害をもつ子どももの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 2 (p153-170) 教科書 3 (p119-138) 授業記録 配布資料 パワーポイント ビデオテープ 「発達相談；自閉症」
- 第 26 回 項目 終末期の子どももの看護 内容 終末期の子どももの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p141) 教科書 2 (p202-222) 教科書 3 (p471-474, p492-498) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 27 回 項目 子どもの心の健康・心身症の子どももの看護 内容 子どもの心の健康・心身症の子どももの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p42-56) 教科書 3 (p612-616) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 28 回 項目 児童虐待と看護の役割 内容 児童虐待と看護の役割について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p3-5, p49-56) 教科書 2 (p30) 教科書 3 (p616) 授業記録 配布資料 パワーポイント ビデオテープ 「子育てに自信をなくしているあなたへ」
- 第 29 回 項目 子どもの「遊び」への支援；作品発表 内容 各グループの作品を発表する。授業外指示 作品を完成させ、プレゼンテーションの練習をしておくこと 補講期間に予定
- 第 30 回 項目 子どもの「遊び」への支援；作品発表 内容 各グループの作品を発表する。授業外指示 作品を完成させ、プレゼンテーションの練習をしておくこと 補講期間に予定

●成績評価方法(総合) ・試験を期末に実施します。 ・レポート提出は欠格条件(提出しない場合には単位を与えません)で、レポートの内容は全体評価として10%加算されます。 ・出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えません。

●教科書・参考書 教科書：小児看護学, 岡田洋子・荃津智子・佐藤雅子・井上由紀子, 医歯薬出版株式会社, 2002年；小児看護学2, 岡田洋子・荃津智子・佐藤雅子・井上由紀子・菅野予史季, 医歯薬出版株式会社, 2002年；標準小児科学第5版, 森川昭廣・内山聖編集, 医学書院, 2003年；教科書は看護学書2冊、医学書1冊の計3冊です。「授業外学習の指示」に従い、当日持参する教科書を選択してください。／参考書：月刊誌「小児看護学」, へるす出版；小児の看護アセスメント, ジョイス・エンゲル(塚原正人監訳), 医学書院, 2001年；月刊誌「小児看護」の特集を、予習・復習に大いに活用しましょう！

●メッセージ 子どもを見かけたら、にっこり微笑んでみるといいですね。どんな反応が返ってくるでしょう！

●連絡先・オフィスアワー 辻野久美子 tsujino@yamaguchi-u.ac.jp (内線 2806) 村上京子 k.mura@yamaguchi-u.ac.jp (内線 2820)

開設科目	小児疾病学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	塚原正人				

●授業の概要 小児は新生児期から思春期に至るまで常に身体的、精神的に発育・発達し続ける個体である。従って、小児医療を実践する際には、常に発育・発達を念頭に置いたきめ細やかな配慮が要求される。小児は出生から成人に至るまでに、種々の疾病に罹患し、それらは小児の発達段階に応じた特色をもつ。本講義では小児疾病の特性について学ぶ。／検索キーワード 小児、成長・発達、小児疾病

●授業の一般目標 1.小児の成長・発達の特性を理解する。2.小児に特有な疾病の概念、診断、検査法、治療法を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：小児の成長・発達の特徴を説明できる。小児疾患の病態生理を説明できる。小児に特有な疾患の概念・原因・症状・検査・診断・治療を説明できる。小児疾病の予防方法を説明できる。現場で用いられる医療英語を理解できる。思考・判断の観点：小児の発達段階に応じた視点で、小児疾病を考えることができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1回 項目 新生児疾患
- 第 2回 項目 遺伝性疾患, 染色体異常, 奇形
- 第 3回 項目 先天代謝異常, 代謝疾患
- 第 4回 項目 内分泌疾患
- 第 5回 項目 免疫疾患
- 第 6回 項目 アレルギー疾患, 膠原病および類縁疾患
- 第 7回 項目 感染症
- 第 8回 項目 呼吸器疾患
- 第 9回 項目 循環器疾患
- 第 10回 項目 消化器疾患
- 第 11回 項目 血液・造血器疾患
- 第 12回 項目 腎泌尿・生殖器疾患
- 第 13回 項目 神経疾患
- 第 14回 項目 神経・筋疾患, 精神疾患・心身医学的問題
- 第 15回

●成績評価方法 (総合) レポート、試験、出席率などによる（単位認定の最低条件：総授業数の 2/3 以上の出席およびレポート提出）

●教科書・参考書 教科書：森川昭廣、内山 聖編「標準小児科学」、医学書院、8800円、

開設科目	小児看護学実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	辻野久美子・村上京子				

●授業の概要 小児科病棟および保育所で、小児看護の実習を行う。病棟実習では、健康を損ない入院を余儀なくされた小児に対して看護を行い、実施した看護について考察する。受け持った患児の看護を通して小児の特性を理解し、入院が小児および家族に及ぼすさまざまな影響や看護支援について洞察を深める。また小児看護に必要な知識・技術の習得に努め、小児看護の実践能力を養う。保育所実習では実際に保育活動に参加して子どもと触れ合い、健康な子どもの成長・発達や日常生活の様子などを観察し、小児看護の対象である子どもの理解に役立てる。／検索キーワード 小児看護学、実習、小児科病棟、保育所、看護実践能力、保育活動

●授業の一般目標 ●小児科病棟実習；小児看護の対象を理解し、看護実践能力を養う。(1)受け持ち患児に看護を展開し、実施した看護について考察する。(2)小児期の疾病・障害の特徴を理解し、看護に必要な知識・技術を習得する。(3)疾病や障害、入院が小児や家族に及ぼす影響について理解し、看護の役割がわかる。(4)健康を障害された小児に対する保育(遊び、しつけを含む)の重要性を理解し、実践できる。(5)入院中、小児が遭遇しやすい事故と安全対策・指導・環境整備について理解する。(6)小児看護における福祉施策とその適用について学ぶ。●保育所実習；保育に参加し、健康な小児を理解する。(1)保育に参加し、子どもと触れ合う。(2)健康な子どもの成長・発達段階を理解する。(3)小児各期の成長・発達に応じた保育について理解する。(4)基本的な生活習慣の獲得を目指した育児、しつけ、生活指導について理解する。(5)小児が遭遇しやすい事故と、安全対策・指導・環境整備について理解する。(6)家庭との連携について理解する。

●授業の計画(全体) 4月13日から7月30日の期間に、山口大学付属病院小児科病棟で6日間、宇部市内等の保育所で2日間、実習を経験します。詳細は実習オリエンテーション時に配布する小児看護学実習要項を参照してください。

●成績評価方法(総合) 実習に対する意欲・取り組み方、看護学生としての態度、および看護実践能力を習得するためにどの様に努力したのか、そのプロセスを重要な評価項目とします。具体的な評価内容については、小児看護学実習要項を参照してください。

●教科書・参考書 教科書：小児看護学、岡田洋子・荃津智子・佐藤雅子・井上由紀子、医歯薬出版株式会社、2002年；小児看護学2、岡田洋子・荃津智子・佐藤雅子・井上由紀子・菅野予史季、医歯薬出版株式会社、2002年；標準小児科学第5版、森川昭廣・内山聖編集、医学書院、2003年；小児看護学、小児疾病学で使用した教科書を、実習内容に応じて持参すること。／参考書：月刊誌「小児看護学」、へるす出版；小児の看護アセスメント、ジョイス・エンゲル著、東原正人監訳、医学書院、2001年；受け持ち患児の疾患や症状、看護について、雑誌「小児看護」の特集内容が参考になります。

●メッセージ 実習期間が短いので、予習・復習を十分に行い、積極的に実習して欲しいですね。子どもが苦手な人は、いろいろ工夫して子どもと関わり、苦手意識を克服してください。皆さんもかつては、愛らしい子どもでした。教員も実習指導者もサポートしますが、主体は皆さんです。頑張りましょう！

●連絡先・オフィスアワー 辻野久美子 tsujino@yamaguchi-u.ac.jp 村上京子 k.mura@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	母性看護学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	田中満由美, 戸部郁代, 田村博史, 保田ひとみ, 山元公美子				

●授業の概要 本授業では、妊娠期・分娩期・産褥期にある女性と新生児期にある乳児、およびその家族の看護課題と看護援助に関する基本的知識および各期に起こりうる健康の逸脱と回復にむけての看護援助に関する基本的知識について教授する。さらに、女性のライフサイクルにおける性と生殖の健康に関する保健行動について教授する。／検索キーワード 妊娠, 分娩, 産褥, 胎児・新生児, 家族, 看護

●授業の一般目標 1. 妊産褥婦および新生児の身体的、心理・社会的特徴、正常な胎児の発育について理解することができる。2. 妊産褥婦および新生児の正常な経過を理解し、母子とその家族が健康を保持増進し、正常からの逸脱を予防するための看護援助方法を習得することができる。3. 親と子のきずな、家族関係の基盤作り、育児、親の成長について考えることができる。4. 対象の看護援助に必要な看護技術を習得することができる。5. 母子の健康状態をアセスメントし、適切な看護援助方法を考えることができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 生殖に関する形態・機能・生理を述べることができる。2. 妊娠の生理を述べることができる。3. 妊娠に伴う母体の身体的変化およびマイナートラブルを述べることができる。4. 正常な胎児の発育について述べることができる。5. 胎児付属物の形態・機能・生理について述べるができる。6. 正常妊娠経過を説明できる。7. 妊娠期の心理的特徴を述べるができる。8. 胎児-胎盤系の生理を理解し、モニタリングの結果を解釈できる。9. 主な異常妊娠（流・早産、子宮外妊娠、胞状奇胎、妊娠中毒症、多胎妊娠、胎位異常）について概説できる。10. 妊娠中の合併症（糖尿病、心疾患、内分泌異常、自己免疫性疾患、血液疾患、感染症）について概説できる。11. 正常分娩経過を述べることができる。12. 主な異常分娩（遷延分娩、回旋異常、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、弛緩出血、分娩損傷）について概説できる。13. 産科手術、産科救急について概説できる。14. 正常産褥経過を述べることができる。15. 主な異常産褥（復古不全、産褥熱、乳腺炎）について概説できる。16. 新生児の生理的特徴を述べることができる。17. 新生児特有の生理的变化について述べることができる。18. ハイリスク新生児（新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児）について概説できる。19. 妊娠初期の日常生活適応に対する援助方法を述べることができる。20. 妊娠中期の日常生活適応に対する援助方法を述べることができる。21. 妊娠末期の日常生活適応に対する援助方法を述べることができる。22. 妊娠中のマイナートラブルへの対処方法を述べることができる。23. 母親役割獲得にむけての援助方法を述べることができる。24. 正常からの逸脱予防の援助方法および逸脱時の回復にむけての援助方法を説明できる。（妊娠悪阻、妊娠中毒症、妊娠貧血、切迫流・早産、出血、胎位異常）25. 分娩にむけての援助方法を述べることができる。26. 分娩期の安全・安楽にむけての援助方法を述べることができる。27. 産科合併症を有する産婦に対する援助方法を述べることができる。（前期破水、軟産道裂傷、産科出血、陣痛異常、胎盤異常）28. 帝王切開時の援助方法を述べることができる。29. 産褥期の退行性変化を促進させるための援助方法を述べることができる。30. 母乳栄養の確立にむけての援助方法を述べることができる。31. 母子（親子）相互作用の確立にむけての援助方法を述べることができる。32. 母親の育児技術習得にむけての援助方法を述べることができる。33. 産褥期における健康の逸脱からの回復にむけての援助方法を述べることができる。34. 家族関係の調整、社会的資源の活用方法についての援助方法を述べることができる。35. 新生児の胎外生活適応促進にむけての援助方法を述べることができる。36. 健康から逸脱した新生児の回復にむけての援助方法を述べることができる。37. ハイリスク新生児に対する基本的な援助方法を述べることができる。思考・判断の観点：1. 妊娠各期における妊婦の正常な母体の変化と順調な胎児の発育がアセスメントできる。2. 妊娠各期における妊婦の日常生活適応とセルフケア能力をアセスメントできる。3. FHRモニタリングの結果を分析・解釈し、母体-胎児間の状態をアセスメントすることができる。4. 分娩の順調な進行と産婦のセルフケア能力をアセスメントすることができる。5. 産褥期の退行性変化および進行性変化の経過をアセスメントすることができる。6. 産褥期における褥婦のセルフケア能力をアセスメントできる。7. 母子（親子）相互作用、母親の養育・育児能力をアセスメントできる。8. 新生児の胎外生活適応の状態をアセスメントできる。関心・

意欲の観点：1. 演習項目における技術能力を自己評価し、不足部分は自己学習によって能力を向上させることができる。2. 妊婦の生活適応に対して自己の日常生活の中で関心を高める。 態度の観点：1. 演習は欠席および遅刻をせず、積極的態度で参加する。2. 日常生活の中で妊産褥婦や新生児に関わる出来事や問題点について主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：1. 妊婦健康診査に必要な技術を実践できる。 1-1. 腹囲、子宮底長が正しく測定できる。 1-2. 浮腫の程度が正しく判定できる。 1-3. 尿検査項目を正しく判定できる。 1-4. 胎児心拍が聴取できる。 1-5. FHRモニタリング機器を正しく装着できる。 1-6. 骨盤外計測を正しく行うことができる。 2. 分娩時の産痛緩和方法を実践できる。 2-1. 呼吸法・補助動作を分娩進行状態に応じて実践できる。 2-2. 弛緩法、マッサージ法、圧迫法を実践できる。 3. 悪露交換が実践できる。 3-1. 外陰部、悪露の観察項目を適切に述べることができる。 3-2. 外陰部の洗浄・消毒を正しく実践できる。 4. 産褥体操を実践できる。 5. 乳房ケアを実践できる。 5-1. 乳頭マッサージ、乳管開通法を実践できる。 5-2. SMC式乳房マッサージを正しく実践できる。 6. 新生児の看護に必要な技術を実践できる。 6-1. 全身状態の観察を正しく実践できる。 6-2. 新生児を正しく抱くことができる。 6-3. 新生児の衣服の着脱ができる。 6-4. 新生児のおむつ交換ができる。 6-5. 新生児の沐浴ができる。

●授業の計画（全体） 授業は、各回毎のオムニバス形式で行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- | | | | | | |
|--------|----|---------------------|----|---|--------------|
| 第 1 回 | 項目 | オリエンテーション | 内容 | 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 | 授業記録 担当： |
| 第 2 回 | 項目 | 妊娠の生理 | 内容 | 妊娠の定義、妊娠の成立、胎児付属物の形成と生理 | 授業記録 担当：田村博史 |
| 第 3 回 | 項目 | 母体の変化と胎児の発育・生理 | 内容 | 生殖器における変化、母体の全身変化、胎児の発育と生理 | 授業記録 担当：田村博史 |
| 第 4 回 | 項目 | 異常妊娠 | 内容 | 流産、早産、子宮外妊娠、胎状奇胎、妊娠中毒症、多胎妊娠、胎位異常 | 授業記録 担当：田村博史 |
| 第 5 回 | 項目 | 合併妊娠 | 内容 | 糖尿病、心疾患、内分泌異常、自己免疫性疾患、血液疾患、感染症 | 授業記録 担当：田村博史 |
| 第 6 回 | 項目 | 正常分娩 | 内容 | 分娩の生理、分娩の三要素、分娩の機序 | 授業記録 担当：田村博史 |
| 第 7 回 | 項目 | 異常分娩（1） | 内容 | 前期・早期破水、遷延分娩、回旋異常、弛緩出血、子宮内反症、分娩損傷 | 授業記録 担当：田村博史 |
| 第 8 回 | 項目 | 異常分娩（2）および産科救急・産科手術 | 内容 | 常位胎盤早期剥離、前置胎盤、産科ショック、帝王切開 | 授業記録 担当：田村博史 |
| 第 9 回 | 項目 | 正常産褥と主な異常産褥 | 内容 | 正常産褥経過、復古不全、産褥感染症（産褥熱、乳腺炎） | 授業記録 担当：田村博史 |
| 第 10 回 | 項目 | 正常新生児と主な異常新生児 | 内容 | 新生児の定義と分類、正常新生児の生理、新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児 | 授業記録 担当：田村博史 |
| 第 11 回 | 項目 | 妊娠の適応と妊娠各期の心理的特性 | 内容 | 妊娠の受容、妊娠初期の心理特性、妊娠中期の心理特性、妊娠末期の心理特性 | 授業記録 担当： |
| 第 12 回 | 項目 | 妊婦の健康管理とマイナートラブル | 内容 | 妊婦の健康診査、保健指導、マイナートラブルへの対処法（つわり、腰背部痛、静脈瘤、下肢のけいれん、浮腫、便秘、頻尿、妊娠性帯下） | 授業記録 担当： |
| 第 13 回 | 項目 | 妊婦の日常生活援助（1） | 内容 | 栄養、排泄、姿勢と運動、活動、睡眠と休息 | 授業記録 担当： |
| 第 14 回 | 項目 | 妊婦の日常生活援助（2） | 内容 | 身体の清潔、衣類、嗜好品、性生活、分娩準備教育、育児準備 | 授業記録 担当： |
| 第 15 回 | 項目 | 異常妊婦の看護 | 内容 | 妊娠中毒症の妊婦、子宮収縮のある妊婦、出血のある妊婦、破 | |

- 水している妊婦，胎児－胎盤系に問題のある妊婦 授業記録 担当：田中
- 第 16 回 項目 産婦の観察と健康援助（1） 内容 産婦の心理的特徴，分娩開始前の看護，分娩第一期の看護 授業記録 担当：田中
- 第 17 回 項目 妊婦の健康診査技術（演習） 内容 レオポルド腹部触診法，腹囲・子宮底長測定，胎児心音の聴取，骨盤外計測 授業外指示 母性看護学 1； p 30～35，ポケットタブルマニュアル； p 11～18 を事前学習しておくこと。演習当日は教科書および事前配布資料を必ず持参すること。 授業記録 担当：戸部 保田
- 第 18 回 項目 妊婦の健康診査技術（演習） 内容 同上 授業記録 担当：同上
- 第 19 回 項目 産婦の観察と健康援助（2） 内容 分娩第二期の看護，分娩第三期の看護，分娩終了直後から 2 時間までの看護，ハイリスクおよび異常産婦の看護 授業記録 担当：田中
- 第 20 回 項目 産婦の援助技術（演習） 内容 分娩時の呼吸法・補助動作，産痛緩和法（圧迫法，マッサージ法，弛緩法） 授業外指示 母性看護学 1； p 274～279，ポケットタブルマニュアル； p 69～76 を事前学習しておくこと。演習当日は教科書及び事前配布資料を必ず持参すること。 授業記録 担当：戸部，保田
- 第 21 回 項目 褥婦の看護（1） 退行性変化の促進と逸脱の予防 内容 退行性変化（全身及び生殖器）の観察と促進への援助，子宮復古不全の予防と援助，産褥感染症に対する予防と援助 授業記録 担当：戸部
- 第 22 回 項目 褥婦の看護（2） 進行性変化の促進と逸脱の予防，母子・父子相互作用，親役割獲得，家族関係の調整 内容 母乳栄養確立にむけての援助，健康逸脱から回復にむけての援助，母子・父子相互作用の促進にむけての援助，親役割獲得にむけての援助，家族関係の調整への援助 授業記録 担当：戸部
- 第 23 回 項目 褥婦の看護（3） 産褥精神障害，家族計画，褥婦と社会 内容 褥婦の心理的特徴，マタニティーブルー，産褥うつ病，家族計画，ソーシャルサポート 授業記録 担当：戸部
- 第 24 回 項目 帝王切開時の看護 内容 手術前の産婦の看護，手術後に起こる看護問題と援助方法 授業記録 担当：戸部
- 第 25 回 項目 新生児の看護（1） 内容 新生児の看護の原則，出生直後の新生児の看護，胎外生活適応促進にむけての援助
- 第 26 回 項目 褥婦の援助技術（演習） 内容 産褥子宮復古の観察，産褥体操，悪露交換，SMC 式乳房マッサージ，乳管開通法，搾乳法 授業外指示 母性看護学 2； p 52～65 およびポケットタブルマニュアル p 91～128 を事前学習しておくこと。演習当日は必ず教科書および事前配布資料を持参すること。 授業記録 担当：戸部，保田
- 第 27 回 項目 褥婦の援助技術（演習） 内容 同上 授業記録 担当：同上
- 第 28 回 項目 新生児の看護（2） 内容 健康逸脱した新生児，ハイリスク新生児の看護（低出生体重児，分娩外傷） 授業記録 担当：戸部
- 第 29 回 項目 新生児の健康アセスメントと日常生活の援助（演習） 内容 新生児の観察，抱き方，衣服の着脱，おむつ交換，沐浴 授業外指示 母性看護学 2； p 175～184 およびポケットタブルマニュアル； p 157～190 を事前学習しておくこと。演習当日は必ず教科書および事前配布資料を持参すること 授業記録 担当：戸部，保田
- 第 30 回 項目 新生児の健康アセスメントと日常生活援助（演習） 内容 同上 授業記録 担当：同上

●成績評価方法（総合） 出席が全講義回数数の 3 分の 2 以上をもって期末試験の受験資格を与える。

●教科書・参考書 教科書：母性看護学 1 妊娠・分娩，東野妙子他，医歯薬出版株式会社，2003 年；母性看護学 2 産褥・新生児，今津ひとみ他，医歯薬出版株式会社，2003 年；看護過程にそったポケットタブル・マニュアル母性看護，嶋崎千壽他，医歯薬出版株式会社，2002 年；系統看護学講座 2 3 母性看護学 2，松本清一他，医学書院，2003 年／参考書：看護観察キーポイントシリーズ母性 I 妊婦／産婦，宮崎和子監修，前原澄子編集，中央法規出版，2000 年；看護観察キーポイントシリーズ母性 II 褥婦／新生児／婦人科疾患，宮崎和子監修，前原澄子編集，中央法規出版，2000 年；看護のための最新医学講座 1 5

産科疾患, 日野原重明, 井村裕夫監修, 中山書店, 2001年; ペリネイタルケア 2002年夏季増刊号周産期の臨床手技106, 進純郎編著, メディカ出版, 2002年; ペリネイタルケア 2003年夏季増刊号産褥・退院支援ガイドブック, 堀内成子編著, メディカ出版, 2003年; 記載している参考書のほかに周産期医学, 助産雑誌, ペリネイタルケアなどの雑誌も活用して学習することが可能です。

●メッセージ 教科書は全員必ず購入すること

●連絡先・オフィスアワー 戸部郁代: 本館4階403号 0836-22-2825 田中満由美: 本館3階308号
0836-22-2821 保田ひとみ, 山元公美子: 本館3階316号 0836-22-2831

開設科目	母性対象論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	田中満由美・武田理				

●授業の概要 ヒトの性・生殖に関する健康・健康問題に支援を行なう看護を教授する 母性の健康に関する看護の概念を基に、対象者の援助に必要な、基本的な知識・技術・態度を講義する 母性看護の対象者の心身の特徴・機能を理解するとともに、母性看護の意義・母性保健の必要性および母性に影響を及ぼす諸因子を講義する 母性看護の対象者が、健康を維持・増進できる看護を教授する。／検索キーワード 生殖 母性 女性 母性看護 健康 健康増進 健康教育 母子保健

●授業の一般目標 1. 母性看護の基礎となる概念を理解する 2. ヒトの性と生殖の健康に関する基本的知識を理解する 3. ライフサイクルにおける女性の健康と健康問題を理解する

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 母性の意味を説明できる 2. 母性看護の目的を説明できる (リプロダクティブヘルス意味を説明できる) 3. 母性看護の対象である、母性の身体的・心理的・社会的・霊的特性を説明できる 4. 母性看護で活用する、健康教育の方法を概説できる (・女性の性と生殖の健康教育の特徴を説明できる・女性の健康増進の援助方法を説明できる・母性看護の対象に応用できる看護過程、ウェルネス看護過程の特殊性を説明できる) 5. 女性の性と生殖の健康教育と学習理論の関連を述べる事ができる 6. 女性の性と生殖の健康教育とセルフケアの関連を述べる事ができる 7. 女性の性と生殖の健康教育とストレス理論の関連を述べる事ができる 8. 母性看護の現状を説明できる 9. 母性保健の指標を考察し、問題点を挙げる 10. 母子保健の動向を知り、母子保健の現状を分析できる 11. 母性福祉の理念を知り、わが国における母性福祉・母性看護活動を説明できる (母子の健康サポートシステム、母子保健・医療・福祉施策の体系、自助グループ) 12. 母性看護における倫理的課題を概説できる (生命倫理・看護倫理) 13. 女性の生殖に関する形態・機能を説明できる 14. 生殖と人間について理解し、成熟女性の生殖機能を説明できる 15. 女性の生理的ニーズ・健康増進へのニーズを挙げる (1)女性のライフサイクル上でのニーズを挙げる (2)周産期のニーズ……母性看護学にて学習予定) 16. 女性の生理的ニーズの充足および健康増進への援助を説明できる 17. 女性の心理的・社会的・霊的ニーズを挙げる 18. 女性の心理的・社会的・霊的ニーズの充足および健康増進への援助を説明できる (・発達段階・発達課題を説明できる・女性・家族のライフサイクルを説明できる・親になる過程への援助を説明できる・新しい家族形成への援助を説明できる・親子関係・家族関係・相互作用を説明できる) 19. 発達課題と危機の関係を概説できる 20. 思春期女性の身体的・心理的・社会的特徴を挙げる 21. 思春期女性の健康教育として、月経・性教育を説明できる 22. 思春期の健康問題として月経痛・月経異常・性感染症の援助について説明できる 23. 成熟期女性の身体的・心理的・社会的特徴を挙げる 24. 成熟期女性の健康教育として、家族計画・受胎調節法を説明できる 25. 成熟期女性の健康問題として人工妊娠中絶・不妊の援助について説明できる 26. 更年期女性の身体的・心理的・社会的特徴を挙げる 27. 更年期女性の健康教育として、乳がんの触診法・がん検診を説明できる 28. 更年期女性の健康問題として更年期障害(不定愁訴)・骨粗しょう症の援助について説明できる 思考・判断の観点： 1. 母性保健の指標を考察し、母性保健指標を判断できる 2. 母性看護の課題、問題点を指摘できる 3. 健康教育効果を評価できる 4. ライフサイクル各期の健康と健康問題を指摘できる 関心・意欲の観点： 1. 母子保健政策の現状を討議できる 2. 生命の開始前を含み、生命の尊厳を感じることができる 態度の観点： 1. 科学的根拠に基づいた資料・他者の意見を尊重できる 2. 提示資料を理解した上で、意見を述べる事ができる 3. ディスカッション時には、専門用語を用いて簡潔に意見を述べる事ができる 4. 提示された資料は、事前学習できている。 5. 課題には、積極的に、意欲的に取り組める。 6. 生命倫理・看護倫理を重要視できる 技能・表現の観点： 1. 母性看護の対象者に、健康教育を応用できる 2. 提示事例に対して、健康教育を応用し使用できる 3. ライフサイクル各期の健康と健康問題に健康教育を応用できる 4. 母性を把握し、自らの母性観を表現できる

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション、母性看護学の意味 内容 授業目的・授業の進め方、シラバス活用、評価方法、母性の意味、母性の定義を説明する。 授業外指示 1 教科書 p 1－6 授業記録 担当：田中
- 第 2 回 項目 母性看護の概念・母性看護の対象 内容 母性看護の基礎となる概念を説明する。リプロダクティブヘルスの意味を説明する。母性の身体的・心理的・社会的・霊的特性を解説する。母性看護における倫理的課題を提示する 授業外指示 1 教科書 p 6－16 p 26 授業記録 担当：山本
- 第 3 回 項目 同上
- 第 4 回 項目 健康教育の方法 内容 女性の性と生殖の健康教育方法を概説する。ウエルネス看護過程を説明する。 授業外指示 1 教科書 p 34－49 授業記録 担当：山本
- 第 5 回 項目 健康教育と学習理論・セルフケア・ストレス理論、健康教育の応用 内容 健康教育と学習理論・セルフケア・ストレス理論の関連を概説する。提示事例に健康教育を展開する。 授業外指示 1 教科書 p 34－49 授業記録 担当：山本
- 第 6 回 項目 同上
- 第 7 回 項目 母性看護・母性福祉の現状と課題 内容 母子保健の指標から現状を分析し課題を提示する。母子保健政策の課題を討議する。 授業外指示 1 教科書 p 17－33 p 127－130 授業記録 担当：山本
- 第 8 回 項目 女性の生殖に関する形態・機能 内容 成熟女性の形態・生殖機能を説明する。 授業記録 担当：武田理
- 第 9 回 項目 同上
- 第 10 回 項目 女性の生理的ニーズと援助 内容 女性の生理的ニーズと健康増進の援助法を説明する。 授業外指示 1 教科書 p 83－109 授業記録 担当：山本
- 第 11 回 項目 女性の心理的・社会的・霊的ニーズと援助 内容 女性・母性の発達課題および親移行への援助を説明する。エリクソン・レヴィンの理論を概説する。家族・親子関係への援助を説明する。 授業外指示 1 教科書 p 83－109 授業記録 担当：山本
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 ライサイクル各期の健康と健康課題 内容 思春期・成熟期・更年期・老年期にある女性の健康と健康問題を説明する。思春期・成熟期・更年期・老年期にある女性の特有な健康問題支援を説明する。 授業外指示 1 教科書 p 59－91 授業記録 担当：田中
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 母性対象論 内容 後期末試験 授業記録 担当分：田中担当分：山本担当分：武田なお、試験日は、学務により、変更される可能性あり。

●成績評価方法 (総合) *授業の中で、小テスト、宿題による課題レポートを行なう。

●教科書・参考書 教科書：母性看護学概論，根本淳子他，医歯薬出版株式会社，2002年；系統看護学講座 23 母性看護学 I，松本清一，医学書院，2002年；*下記の2冊を教科書本とします、授業開始日には持参してください* *下記の番号は、授業外学習指示項目の教科書番号を示しています* 1. 母性看護学概論 村本淳子他 医歯薬出版 KK 2002 2. 系統看護学講座専門24 母性看護学(1) 母性看護学概論 松本清一 医学書院 2004 *選択済み教科書の NO 2 は、上記の教科書に変更されています。/ 参考書：*講義の詳細を下記の参考書にて確認ください* ・大日向 正美：母性の研究 川島書店 1999 ・花沢 成一：母性心理学 医学書院 1992 ・柏木 恵子：父親の発達心理学 川島書店 1996 ・KLAUS,M.H. & KENNELL,J.H. (竹内 徹訳)：親と子のきずな 医学書院 1990 ・小西 恵美子：ウエルネス看護診断 南江堂 2001 ・周産期クリニカルパス 助産婦雑誌 VOL54(11) 9-74 2000 ・北村 邦夫：「ペリネイタルケア 1998 夏号リプロダクティブ・ヘルス・ライツ」 メディカ出版 ・岩崎 寛和：「産科と婦人科 VOL67 SUPPI 避妊」 診断と治療社 ・白倉 桂子訳：RUBIN の「母性役割の達成—その過程、モデル、引用される 人物」をよんでみる 助産婦雑誌 VOL36(4)

5-37 1982・BOWLBY, J (黒田 実郎訳): 母子関係の理論 岩崎学術出版 1976・
MARTIN,G. (竹内 徹 訳): 父親の誕生 メディカ出版 1994・石原 邦雄: 家族生活とスト
レス (家族形成期のストレス) 垣内出版 1985・危機理論を活用する エマージェンシーナーシング
VOL11(3) 185-220 1998・岩崎 寛和: 「産科と婦人科 VOL67 SUPPI
避妊」 診断と治療社・杉山 みち子: 更年期の保健学 第一出版 1995・母性再考「母
性」に関する国内文献: 母子保健情報36 2-43 91-100 1997

●メッセージ 山口大学の理念は、発見し、はぐくみ、かたちにする、知の広場です、自から学びとって
ください、自から学んでください。

●連絡先・オフィスアワー 深川ゆかり: 本館202研究室 内線2804

開設科目	母性看護学実習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	田中満由美・戸部郁代・保田ひとみ・山元公美子				

- 授業の概要 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象者、およびそれらを取り巻く家族を理解し、対象者の援助に必要な母性看護学としての知識・技術・態度を看護過程の展開を通して教授する。／検索キーワード 妊娠、分娩、産褥、胎児・新生児、看護過程、看護援助、看護技術
- 授業の一般目標 1. 母性看護学の対象者である妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康状態をアセスメントするために必要な知識や技術を習得することができる。 2. 対象者の健康を保持・増進させるための看護展開（計画・立案、実践、看護評価）を習得することができる。 3. 健康から逸脱している場合は、その要因になっているものを追求でき、健康逸脱からの回復のための看護展開（計画・立案、実践、看護評価）を習得することができる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 妊婦の健康診査の目的と方法を説明することができる。 2. 正常妊娠経過および生理的・心理発達変化を説明できる。 3. 妊婦、胎児に必要な検査の種類・目的・方法を説明できる。 4. 胎児の発育と健康状態を把握する方法を説明できる。 5. 妊娠各期に必要な保健指導、生活援助方法を説明できる。 6. 妊娠による生理的变化とマイナートラブルの関連を説明できる。 7. マイナートラブルを解決するための援助方法を説明できる。 8. 妊娠各期に起こりうる異常の早期発見、治療法、援助方法について説明できる。 9. 陣痛発来と分娩機転、分娩による生理的变化を説明できる。 10. 分娩各期における保健指導、援助方法を説明できる。 11. 分娩直後の褥婦の生理的特徴を説明できる。 12. 出生直後の新生児の生理的特徴を説明できる。 13. 出生直後の新生児の診察技法、新生児の胎外生活適応への援助方法を説明できる。 14. 分娩各期に起こりうる異常とそれに対する援助方法を説明できる。 15. 産褥期における生理的变化を説明できる。 16. 産褥期における心理発達の変化・社会的変化を説明できる。 17. 褥婦に必要な保健指導、生活援助方法を説明できる。 18. 早期新生児の生理的变化を説明できる。 19. 新生児看護の原則を説明できる。 20. 産褥期に起こりうる異常の早期発見とその対処方法を説明できる。 21. 新生児期に起こりうる異常の早期発見とその対処方法を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 対象者の妊娠週数における正常な母体の変化と順調な胎児の発育がアセスメントできる。 2. 妊婦の日常生活適応とセルフケア能力をアセスメントできる。 3. 胎児の健康状態をアセスメントできる。 4. 集団指導として母親学級を、個別指導として助産師外来を見学し、対象者の学習効果を説明できる。 5. 分娩の順調な進行と産婦のセルフケア能力をアセスメントすることができる。 6. 胎児管理の目的を理解し、産婦および胎児の健康状態をアセスメントしてそれに対する援助方法を説明できる。 7. 褥婦の退行性変化および進行性変化の経過をアセスメントできる。 8. 褥婦の産褥経過に応じたセルフケア能力をアセスメントできる。 9. 母子（父子）愛着行動、母親の養育・育児能力をアセスメントできる。 10. 新しい家族（新生児）を迎える家族の関係をアセスメントできる。 11. 新生児の胎外生活適応の状態をアセスメントできる。 12. 対象者の理解、アセスメント、看護計画の立案・計画、看護実践、看護評価の一連の過程を科学的根拠にそって展開できる。 関心・意欲の観点： 1. 実習開始前に援助技術能力を自己評価し、不足部分は自己学習によって能力を向上できる。 2. 実習中における自己の健康管理を怠らない。 態度の観点： 1. 欠席や遅刻を一度もしない。 2. 指示された内容（対象者の秘密）を守ることができる。 3. 対象者に危害を加えたり、不快感を与えたりすることがない。 4. グループ、チーム内で協調行動がとれる。 5. 他人の意見を尊重して傾聴できる。 6. 責任感のある行動を取ることができる。 7. 自分の意見を簡潔に伝達・報告することができる。 8. 何事も積極的、意欲的に取り組むことができる。 9. 正しい言葉使いで会話することができる。 10. 身だしなみは母性看護学実習に適切なものである。 11. 対象者、指導者および関係者と円滑なコミュニケーションがとれる。 技能・表現の観点： 1. 妊婦看護に必要な情報（心理発達・社会経済的背景、日常生活背景）を、視診、触診、聴診、計測診などの基本的看護技術を適用して収集することができる（腹囲・子宮底長、浮腫、尿検査、胎児の健康、心理的適応、親への発達、家族役割の変更など）。 2. 妊婦に必要な保健指導や生活援助方法を実施できる。 3. 分娩各期の産痛緩和のための援助・指導ができる。 4. 分娩各期における産婦の心理的援助ができる。 5. 分娩各期における日常生活援助ができる。 6. 復古現象を促進させるための援助が実践できる（外陰部

観察、子宮状態の観察、悪露 交換、外陰部の清潔、産褥体操)。7. 母乳栄養を確立させるための援助が実践できる(乳房観察、泌乳ケア、乳房ケア、授乳援助)。8. 親子関係確立への援助ができる(母子・父子・家族との相互作用の観察、親密機会の援助、関係確立の援助、家族関係調整の援助)。9. 育児技術習得のための援助・指導ができる。10. 退院後の生活支援・指導ができる。11. 新生児の全身の観察、胎外生活への移行観察ができる。12. 新生児の日常生活援助(沐浴、栄養、衣服の着脱、おむつ交換、抱っこ、愛護、感染防止、事故防止)が安全・安楽に実施できる。13. カンファレンスにおいて自分が実践した対象に対する看護の内容および看護評価を簡潔に発表することができる。

- 授業の計画(全体) 実習は「臨地実習配置表」に基づき4月19日から7月22日までの2週間を実習期間とし、産婦人科外来、産婦人科病棟において実習する。詳細については母性看護学実習オリエンテーションにおいて説明する。[実習内容] 1) 妊婦を受け持ち、妊娠期の看護を展開する。(於:産婦人科外来) (1) 妊婦健康診査を通して妊婦(胎児)の身体的、心理・社会的背景をアセスメントする。(2) 対象者に必要な保健指導・看護援助を実践する。(3) 集団指導として母親学級、個別指導として助産師外来の見学を行なう。2) 産婦を受け持ち、分娩期の看護を展開する。(於:産婦人科病棟) (1) 分娩進行に応じた産婦の生活援助、産痛緩和、心理的援助を実践する。(2) 分娩進行過程を見学し、援助方法を学習する。3) 褥婦および新生児を受け持ち、看護過程にそって援助を実践する。(於:産婦人科病棟) (1) 退行性変化の状態をアセスメントし、復古現象の促進にむけての援助を実践する。(2) 進行性変化の状態をアセスメントし、母乳栄養の確立に向けて援助を実践する。(3) 褥婦の生活適応能力をアセスメントし、適応促進にむけての援助を実践する。(4) 母子(親子)関係の確立状態をアセスメントし、関係成立にむけての援助を実践する。(5) 母親の養育・育児技術習得にむけての援助を実践する。(6) 新生児の胎外生活適応状態をアセスメントし、適応を促進させるための日常生活援助を実践する。4) 正常新生児の看護を見学する (1) 新生児看護の原則である呼吸の助成、愛護、保温、感染予防、栄養、異常の早期発見、保健指導、親子相互関係の発達の促進が実践の場でどのように展開されているかを学習する。
- 成績評価方法(総合) 1) 実習は、全日出席によって評価を行なう。従って、指定された日程での実習を行わない場合は必要とする分の補習実習を実施しなければ単位は修得できない。2) 下記の演習は、実習のことである。3) 妊婦看護を1単位 産褥婦・新生児の看護を1単位として評価する。
- 教科書・参考書 教科書: 看護過程にそったポケットブック・マニュアル母性看護, 嶋崎千壽他, 医歯薬出版株式会社, 2002年; 母性看護学1 妊娠・分娩, 東野妙子他, 医歯薬出版株式会社, 2003年; 母性看護学2 産褥・新生児, 今津ひとみ他, 医歯薬出版株式会社, 2003年; 系統看護学講座23 母性看護学2, 松本清一他, 医学書院, 2003年/ 参考書: 看護観察キーポイントシリーズ 母性I 妊婦/産婦, 宮崎和子監修, 前原澄子編集, 中央法規出版, 2000年; 看護観察キーポイントシリーズ 母性II 褥婦/新生児/婦人科疾患, 宮崎和子監修, 前原澄子編集, 中央法規出版, 2000年; 看護診断にもとづく母性・新生児ケアプラン, 柴山森二郎監訳, 医学書院, 1998年; ペリネイタルケア2002年夏季増刊号 周産期の臨床手技106, 進純郎編著, メディカ出版, 2002年; ペリネイタルケア2003年夏季増刊号 産褥・退院支援ガイドブック, 堀内成子編著, メディカ出版, 2003年
- メッセージ *授業にて、学習したことは、実習前に必ず事前学習・復習をして出席してください。*実習オリエンテーションには必ず出席すること。*連絡および相談事項が生じた場合はできるだけ早期に行なうこと。
- 連絡先・オフィスアワー 戸部郁代: 本館4階403号室 0836-22-2825 保田ひとみ、山元公美子: 本館3階308号室 0836-22-2831

開設科目	看護遺伝学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	塚原正人				

●授業の概要 遺伝医療の進展に伴い、現場では遺伝性疾患、染色体異常、家族性腫瘍などをもつクライアントをケアする機会が増えている。このような状況の中で、適切な看護ケアを行うために、看護師は遺伝に関する基礎知識と実践能力をもつことが要求される。本授業では、臨床現場で遺伝的諸問題に対処できるような知識・能力を学ぶ。／検索キーワード メンデル遺伝病、染色体異常、遺伝看護、遺伝カウンセリング

●授業の一般目標 1. 先天異常について説明できる。 2. 単一遺伝子病の遺伝形式を理解し、疾患にはどのようなものがあるかを説明することができる。 3. 染色体とDNA・遺伝子との関係を理解し、説明することができる。 4. 染色体異常と単一（メンデル）遺伝子病の違いを説明することができる。 5. 遺伝カウンセリングについて説明できる。 6. 遺伝的ケアについて説明できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 先天異常について説明できる。 遺伝現象と遺伝病について説明できる。 遺伝性疾患をもつクライアントに対するケアについて理解できる。 遺伝カウンセリングについて説明できる。 思考・判断の観点： 遺伝性疾患を遺伝看護学的視点から考えることができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 先天異常と先天 奇形 内容 先天異常の定義・分類・発生 頻度
- 第 2 回 項目 DNA・遺伝子・染色体 内容 DNA・遺伝子・染色体の関係
- 第 3 回 項目 遺伝子異常と染色体異常 内容 遺伝子異常と染色体異常の発生 機序
- 第 4 回 項目 遺伝形式 内容 メンデル遺伝形式（常染色体優性・劣性、X連鎖優性・劣性）、多因子遺伝
- 第 5 回 項目 遺伝性疾患と染色体異常症 内容 主な疾病
- 第 6 回 項目 遺伝カウンセリング 内容 遺伝カウンセリングの実際
- 第 7 回 項目 遺伝性疾患と看護ケア 内容 遺伝看護ケア
- 第 8 回 項目 筆記試験 内容 試験
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法（総合） レポート、試験、出席率などによる（単位認定の最低条件：総授業数の2/3以上の出席およびレポート提出）

●教科書・参考書 教科書： 遺伝看護, 安藤広子・塚原正人・溝口満子編, 医歯薬出版, 2002年

●メッセージ 遺伝現象の神秘・不思議さを学び、遺伝病を持つ人への温かい思いやりを身につけて欲しい。

開設科目	助産学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	田中満由美・戸部郁代				

●授業の概要 (1) 助産学における基本的概念、基盤となる理論、助産師の責務と役割について教授する。(2) 助産業務の展開に必要な性・生殖系の仕組みについて教授する。(3) ライフサイクルおよびマタニティサイクルにおける母性・父性の心理について教授する。(4) 助産実践に必要な文化的要因、家族および家族関係について教授する。(5) 助産所の運営および助産業務の管理に必要な基本的能力を養う。／検索キーワード 助産概論、母性・父性の心理、助産社会学、助産管理

●授業の一般目標 (1) 助産学における基本的概念、基盤となる理論、助産師の責務と役割について理解する。(2) 助産業務の展開に必要な性・生殖系の仕組みについて理解する。(3) ライフサイクルおよびマタニティサイクルにおける母性・父性の心理について理解する。(4) 助産実践に必要な文化的要因、家族および家族関係について理解する。(5) 助産所の運営および助産業務の管理に必要な基本的能力を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：(1) 助産学における基本的概念、基盤となる理論、助産師の責務と役割について説明できる。(2) 助産業務の展開に必要な性・生殖系の仕組みについて説明できる。(3) ライフサイクルおよびマタニティサイクルにおける母性・父性の心理について説明できる。(4) 助産実践に必要な文化的要因、家族および家族関係について説明できる。(5) 助産所の運営および助産業務の管理に必要な基本的法律の条文について説明できる。 思考・判断の観点：物事をクリティカルに考えることができ、エビデンスに基づき判断できる。 関心・意欲の観点：看護に必要な社会の情勢に関する新しい情報を得ることができる。 態度の観点：専門職としての責任、役割を認識し、キャリア形成の基盤をつくることのできる。専門職としての職業アイデンティティの形成ができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 妊娠の成立 2 妊娠に伴う母体の変化（胎児 胎盤系、ホルモン、羊水）
- 第 2 回 項目 3・4 助産の基本的概念
- 第 3 回 項目 5・6 助産過程の基本
- 第 4 回 項目 7 助産・母子保健の変遷 8 母子保健の動向と諸制度、
- 第 5 回 項目 9 セクシャリティ 10 リプロダクティブヘルス／ライツ
- 第 6 回 項目 11 助産師の職性と業務（職業倫理を含む） 12 助産師の現状と将来展望・諸外国の助産師活動
- 第 7 回 項目 13 思春期におけるホルモンの変化とおもな疾患 14 更年期・老年期におけるホルモンの変化とおもな疾患
- 第 8 回 項目 15 ライフサイクル各期の母性・父性 16 マタニティサイクルにおける母性・父性
- 第 9 回 項目 17 母子・父子関係の形成過程 18 母性・父性の諸問題
- 第 10 回 項目 19 ライフサイクル各期における家族の発達と役割 20 妊娠・出産・育児に伴う家族の役割と関係
- 第 11 回 項目 21 性の社会・文化的側面と倫理 22 近代家族が抱える諸問題
- 第 12 回 項目 23 助産業務と管理 24 助産業務と社会保障制度
- 第 13 回 項目 25 業務管理の実際－助産所・施設 26 助産業務と関連法規
- 第 14 回 項目 27 医療事故と助産師の業務責任 28 トピックス
- 第 15 回

●教科書・参考書 教科書：助産学大系，青木康子他，日本看護協会出版会，2003年／参考書：(1) 母性の心理社会的側面と看護ケア，新道幸恵他，医学書院 (2) 国民衛生の動向 (3) 助産婦業務要覧，青木康子他，日本看護協会出版会

●メッセージ 助産コースを選択した人のみ履修可能 毎回プリントを配布します。

●連絡先・オフィスアワー 田中満由美 : E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 22-2821、オフィスアワー金曜日 10:00～14:00 戸部郁代 : E-mail tobegon@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 22-2825

開設科目	助産技術学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	3単位	開設期	後期
担当教員	田中満由美、中田雅彦				

●授業の概要 助産師として必要な診断学と基本的な助産技術(分娩介助、乳房マッサージ、助産計画、モニター判読、保健指導の技術、異常時における第一次救急医療への対応技術、新生児蘇生術、異常分娩介補、避妊法の指導)を教授する。／検索キーワード 妊娠の診断、分娩介助、乳房マッサージ、助産計画、モニター判読、新生児蘇生術、異常分娩介補、受胎調節

●授業の一般目標 (1) 助産師が行う妊産婦、褥婦、新生児の助産診断を行う上で、その基礎となる診断能力を習得する。(2) 助産の実践に必要な基本的技術が習得できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：(1) 妊娠の診断に必要な項目が説明できる。(2) 正常な分娩の原理・経過が説明できる。(3) 分娩経過の予測が説明できる。(4) 分娩時間の予測が説明できる。(3) 正常な産褥の経過が説明できる。(4) 正常な新生児の経過が説明できる。思考・判断の観点：妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象の助産診断ができる。関心・意欲の観点：助産診断・助産技術に関心を持ち、他者とディスカッションする。助産診断・助産技術に関心を持ち、関連文献に興味を持つ。積極的に課題に取り組む。態度の観点：積極的に分娩介助術の練習、乳房マッサージの練習、骨盤位牽出術の練習を行う。技能・表現の観点：妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象の助産診断ができる。対象にあった助産過程の展開ができる。分娩介助ができる。骨盤位牽出術ができる。異常分娩の介補ができる。乳房マッサージができる。乳房自己マッサージの指導ができる。健康教育(母親学級・家庭訪問)の企画運営ができる。避妊法の指導ができる。新生児蘇生ができる。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目1 妊娠の診断 2 妊娠期の診断- 妊娠初期 3 妊娠期の診断- 胎児管理(U S G) 内容 3は中田講師担当
- 第2回 項目4 妊娠期の診断 -妊娠中期 5 妊娠期の診断 -妊娠後期 6 妊娠期の診断 -モニタリング
- 第3回 項目7・8 助産診断に必要な診察技法 9 分娩期の助産 診断
- 第4回 項目10・11 分娩期の助産診断-分娩 進行状態の診断 12 産婦の援助技術
- 第5回 項目13 分娩介助術 -分娩介助の意義、分娩介助の原理 14 分娩介助術 -正常分娩介助法、会陰保護、児娩出 15 分娩介助術 -胎盤娩出、胎盤検査
- 第6回 項目16 分娩介助術 -出生直後の新生児のケア 17・18 分娩介助術(演習)
- 第7回 項目19・20・21 分娩介助(演習)
- 第8回 項目22・23・24 分娩介助(演習)
- 第9回 項目25・26 分娩介助 27 異常分娩介補-骨盤位牽出術・吸引分娩 内容 27は中田講師担当
- 第10回 項目28・29・30 乳房マッサージ
- 第11回 項目31・32・33 健康教育-母親学級に向けて(32・33 演習)
- 第12回 項目34 新生児の蘇生 35・36 受胎調節(演習)
- 第13回 項目37・38 健康教育の企画-家庭訪問 39 助産計画の立案(演習)
- 第14回 項目40 助産計画の立案 41・42 分娩介助 チェック
- 第15回
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回

第 24 回
第 25 回
第 26 回
第 27 回
第 28 回
第 29 回
第 30 回

- 教科書・参考書 教科書：第 3 版助産学体系, 青木康子, 日本看護協会出版会, 2003 年；今日の助産, 北川眞理子他, 南江堂, 2004 年／参考書：分娩介助と周産期管理, 寺尾俊彦, メヂカ出版, 1998 年；基本分娩介助学, 進純郎、荒木勤, 医学書院, 1998 年
- メッセージ 毎回プリント配布 助産コースを選択した人のみ履修可能
- 連絡先・オフィスアワー 田中満由美：E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 22-2821 オフィスアワー:金曜日 10:00～14:00

開設科目	周産期看護学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	田中満由美・戸部郁代・中田雅彦				

●授業の概要 (1) 妊娠、分娩、産褥及び乳汁分泌、胎児、胎児付属物の異常、及び治療について教授する(医師担当分)。(2) 妊娠、分娩、産褥期の対象者のセルフケア能力とケア及び新生児・乳幼児のケアについて教授する(看護教官担当分)。／検索キーワード 周産期の異常、セルフケア能力、

●授業の一般目標 (1) 周産期医療現場における必須の知識を高め、異常に対する診断及び治療方法を理解する。(2) 助産の実践に必要な基本的ケアの習得をする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：(1) 周産期の疾患について定義・臨床症状・病態生理・診断・治療の説明ができる。(2) 妊娠、分娩、産褥期の対象者のセルフケア能力とケア及び新生児・乳児のケアについて説明できる。思考・判断の観点：(1) 妊産褥婦及び新生児、乳児の状態について、正常と異常疾患の判断ができる。(2) 妊産褥婦及び新生児、乳児の状態についてアセスメントすることができる。(助産コースの方は対象に対して、助産診断ができる。) 関心・意欲の観点：妊産褥婦並びに新生児看護に関心を持ち、他者と討議する。技能・表現の観点：助産コースの方は、対象に対して、助産診断ができる。助産コースの方は、対象に対して、保健指導ができる。助産コース以外の方は、対象に対して、看護診断ができる。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 異常妊娠(妊娠 悪阻、流産、子宮外妊娠、胎 状奇胎)
- 第 2 回 項目 2 異常妊娠(妊 娠 中毒症、多胎、 I U G R)
- 第 3 回 項目 3 異常妊娠(前 置 胎盤、常位胎盤 早期剥離、子宮 破裂)
- 第 4 回 項目 4 合併症妊娠 (感 染症と内分泌疾 患)
- 第 5 回 項目 5 合併症妊娠 (心 疾患、血液疾 患、自己免疫疾 患)
- 第 6 回 項目 6 合併症妊娠 (婦 人科疾患)
- 第 7 回 項目 7 異常分娩(胎 位 の異常、回旋異 常、陣痛の異 常)
- 第 8 回 項目 8 帝王切開と産 科 救急
- 第 9 回 項目 9 産褥期の異常 と その対応
- 第 10 回 項目 10 新生児異常と その対応
- 第 11 回 項目 11 ハイリスク新 生 児の管理
- 第 12 回 項目 12 性感染症
- 第 13 回 項目 13 不妊症と治療
- 第 14 回 項目 14 妊婦のセルフ ケア能力とケ ア-妊娠初期
- 第 15 回 項目 15 妊婦のセルフ ケア能力とケ ア -妊娠中期
- 第 16 回 項目 16 妊婦のセルフ ケア能力とケ ア-妊娠末期
- 第 17 回 項目 17 分娩期のケア (弛緩出血、産 科ショック)
- 第 18 回 項目 18 帝王切開の看 護
- 第 19 回 項目 19 産褥期のケア (復古現象の異 常)
- 第 20 回 項目 20 産褥期のケア (母乳哺育の援 助)
- 第 21 回 項目 21 新生児のケア (出生直後の新 生児ケア)
- 第 22 回 項目 22 新生児のケア (胎外生活移行 期の新生児のケ ア)
- 第 23 回 項目 23 ハイリスク新 生 児のケア
- 第 24 回 項目 24 家族計画
- 第 25 回 項目 25 産褥期精神障 害
- 第 26 回 項目 26 乳幼児の発達 -身体的側面
- 第 27 回 項目 27 乳幼児の発達 -心理的側面
- 第 28 回 項目 27 乳幼児の事故 と主な疾患

第 29 回

第 30 回

- 教科書・参考書 教科書：(1) 助産大系, 青木康子他, 医学書院,2003 年、(2) 産科疾患, 日野原重明, 中山書店,2003 年／参考書：今日の助産, 北川真理子, 南江堂,2003 年
- メッセージ 毎回プリント配布 1～13 と 14～27 が同時進行であるため、講義日及び曜日に注意すること
- 連絡先・オフィスアワー 田中満由美：E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 22-2821
オフィスアワー金曜日 10:00～14:00 戸部郁代：E-mail tobegon@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 22-2825

開設科目	助産学実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	6単位	開設期	前期
担当教員	田中満由美・戸部郁代・保田ひとみ・山元公美子				

●授業の概要 周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、学内で学んだ助産診断および助産技術に必要な知識と技術を向上させ、実践できる能力を育成する。学生が実習を通して母性観・父性観・生命観を養い、助産のあり方と職業アイデンティティの形成が図れるようにする。／検索キーワード 助産過程の展開

●授業の一般目標 周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、学内で学んだ助産診断および助産技術に必要な知識と技術を向上させ、実践できる能力を習得する。実習を通して自らの母性観・父性観・生命観を養い、助産のあり方と職業アイデンティティの形成を図る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：助産診断の根拠が述べられる。問題点を指摘し、優先順位を決定できる。関係書類の記載方法が理解できる。思考・判断の観点：適切な方法で得た情報を診断・予測することができる。助産過程の評価ができる。分娩介助の評価ができる。関心・意欲の観点：助産活動を通して助産師の役割と責任を認識し、言葉に出る。母性観・父性観・生命観についての発言がある。助産管理の視点から発言がある。態度の観点：実際に母親学級を展開できる。計画・実践ができる。妊娠・分娩体験を産婦と共に想起できる。対象・その家族・スタッフ等とコミュニケーションがとれる。技能・表現の観点：正常分娩の方の分娩介助を手順に従って、一人で行うことができる。分娩経過が正常から逸脱した場合は、分娩の介補ができる。乳房マッサージの自己管理を指導することができる。乳房マッサージを行うことができる。退院指導を行うことができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 実習期間:6/28～8/5、実習施設:4施設中、指定されたいずれか1施設 実習要項参照

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

●連絡先・オフィスアワー 田中満由美：E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 22-2821

開設科目	老年看護学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	阿部芳江				

●授業の概要 当授業では、老年看護学の概念および基本となる理論について教授するとともに、先行学習の統合を行い、高齢者の QOL の向上をめざした、看護の継続、保健・医療・福祉の連携および支援システムについて教授する。その上で、老年看護学の目的・目標、看護師の責務と役割および看護の方法を教授し、老年看護の展開ができる力を育成することを目的とする。／検索キーワード 老年看護学、高齢社会の現状、看護の継続、保健・医療・福祉の連携

●授業の一般目標 1. 看護の対象である高齢者および家族の特性を、身体的、精神・心理的、社会的側面から理解し、看護の展開に必要な基礎的知識および技術を習得する。2. 国内外の高齢社会の現状および課題、高齢者施策の動向を理解し高齢者の QOL (Quality of Life: 生命の質・生活の質・人生の質・) を向上させる看護者の役割を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 老年看護学の概念および看護の目的、看護職の果たす役割について説明できる。2. 老化に伴う高齢者の身体的、精神・精神・心理的、社会的側面の変化を説明できる。3. 看護を行う上で必要な、看護の継続、支援システムに果たす役割を説明できる。思考・判断の観点：1. 家庭・地域、あるいは病院、施設など、それぞれの場に置かれた高齢者に対し、QOL 向上のために必要な生活上の支援方法について説明できる。2. エビデンスに基づく思考ができる。関心・意欲の観点：1. 国内外の高齢者の置かれている現状および看護を行う上で必要な情報を意欲的に得ることができる。態度の観点：1. 専門職をめざす者としての責務・役割を認識した行動ができる。技能・表現の観点：1. 高齢者の多面的な理解ができる。2. 高齢者のアセスメントが適切にできる。3. 安全・安楽な援助技術ができる。

●授業の計画（全体）講義の中に適宜、演習・グループワークを取り入れながら授業を展開します。学生の皆さんが、関心を持って学習ができるようにしていきたいと考えています。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 老年看護学：ガイダンス、老年看護学概論 (1)
- 第 2 回 項目 老年看護学概論 (2)
- 第 3 回 項目 高齢者の包括的アセスメント (1)
- 第 4 回 項目 高齢者の包括的アセスメント (2)
- 第 5 回 項目 高齢者の包括的アセスメント (3)
- 第 6 回 項目 老年看護学の基本と援助の方法 (1)
- 第 7 回 項目 老年看護の基本と援助の方法 (2)
- 第 8 回 項目 健康障害をもつ高齢者の理解と看護 (1)
- 第 9 回 項目 健康障害をもつ高齢者の理解と看護 (2)
- 第 10 回 項目 健康障害をもつ高齢者の理解と看護 (3)
- 第 11 回 項目 高齢者の看護過程と事例展開 (1)
- 第 12 回 項目 高齢者の看護過程と事例展開 (2)
- 第 13 回 項目 高齢者の看護過程と事例展開 (3)
- 第 14 回 項目 高齢者の看護過程と事例展開 (4)
- 第 15 回 項目 老年看護学の展望と課題、まとめ

●成績評価方法（総合）【全体】定期試験、授業内レポート、演習、授業に取り組む姿勢、参加度などを総合的に判断します。授業への出席は、規定に満たないと定期試験の受験資格を失いますので注意して下さい。【観点別】知識、技術、講義や演習に臨む態度などの面から、評価を行います。

●教科書・参考書 教科書：新体系看護学第 26 巻 老年看護概論、鎌田ケイ子他、メヂカルフレンド社、2005 年；新体系看護学第 27 巻 健康障害を持つ高齢者の看護、鎌田ケイ子他、メヂカルフレンド社、2005 年

／ 参考書：看護のための最新医学講座第 17 巻老人の医療, 日野原重明他, 中山書店, 2001 年；看護・介護のための基本から学ぶ高齢者ケア, 生野繁子他, 金芳堂, 2002 年

- メッセージ 適時、資料を配付します。学生の皆さんも、新聞やニュース等でも、高齢社会の現状や高齢者に関する情報などを日頃から意識して見ておくようにして下さい。
- 連絡先・オフィスアワー 阿部芳江：E-mail Yoshiea@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 (0836-22-2818)、オフィスアワー（随時）、先に連絡を下さった方がより確実と思います。

開設科目	老年疾病学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	野垣宏				

●授業の概要 老化とは何か、および加齢による臓器・器官の形態学的、生理学的、生化学的变化について概説し、老年患者のアセスメントおよび老年者に多くみられる疾病の病態・治療・予後等について教授する。／検索キーワード 老化、老年症候群、老年病

●授業の一般目標 老化とは、老年者の特徴、老年症候群、主な老年病について理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：老化、老年者の特徴、主な老年病の病態を説明できる。

●授業の計画（全体）老化、老年症候群、老年病について、医学的立場から解説する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 老化とは 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 2 回 項目 老年病・老年症候群 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 3 回 項目 老年者のアセスメント 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 4 回 項目 脳血管障害1 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 5 回 項目 脳血管障害2 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 6 回 項目 老年者の難病1 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 7 回 項目 老年者の難病2 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 8 回 項目 痴呆性疾患1 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 9 回 項目 痴呆性疾患2 授業記録 配付資料（プリント）
- 第10回 項目 老年者の循環器・呼吸器疾患 授業記録 配付資料（プリント）
- 第11回 項目 老年者の代謝・内分泌疾患、尿路疾患 授業記録 配付資料（プリント）
- 第12回 項目 老年者の骨・関節・筋肉疾患 授業記録 配付資料（プリント）
- 第13回 項目 老年者に好発するその他の疾患 授業記録 配付資料（プリント）
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回

●成績評価方法（総合）筆記試験

●教科書・参考書 教科書：プリント配付

●メッセージ 遅刻厳禁

●連絡先・オフィスアワー nogaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	老年看護学実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	3単位	開設期	前期
担当教員	阿部芳江, 堀口和子, 松井美帆				

●授業の概要 1. 老化と加齢変化に伴う高齢者の特性を理解し、高齢者の生活機能を支えるための個別的な援助方法を学ぶ。2. 高齢者および家族を支援するための看護の継続、他職種との連携・協働、支援システムに果たす看護者の役割について学ぶ。3. 施設および地域で生活する高齢者を通して、生きがいおよびQOLを維持・向上させるための方策について学ぶ。4. 訪問看護ステーションの機能と役割および看護について学ぶ。／検索キーワード 老年看護学実習, 在宅看護学実習, 生活機能, 看護の継続, 他職種との連携, 支援システム

●授業の一般目標 1. 老化や疾病に伴う健康上の問題を持つ高齢者の身体的, 精神・心理的, 社会的側面からの情報を基に, 個別的な生活像を説明できる。2. 高齢者の心身の苦痛を理解するとともに, 事故や二次障害を予測し, 機能低下を予防するとともに, 安全で安楽な療養生活が送れるよう援助できる。3. 高齢者の個別性を踏まえた上で, その人に適した自立への援助ができる。4. 高齢者や家族(介護者)の立場に立って理解しようとする態度をとることができる。5. 高齢者や家族(介護者)に対する自己の関わり(看護)を振り返ることができる。6. 受け持ちの高齢者を通して継続看護に継続看護について考え, 保健・医療・福祉の連携・協働, 支援システムのあり方, 看護管理などに果たす看護者の役割が説明できる。7. 施設および地域の高齢者を通して, 生きがいおよびQOLを維持・向上させるための方策について説明できる。8. 訪問看護ステーションの機能と役割および看護について説明できる。

●授業の計画(全体) 詳細は実習指導要項を参考にして下さい。

●成績評価方法(総合) 老年看護学実習に必要な知識・技術・態度を総合的に評価する。規定の成績および出席日数に満たない場合は、単位を得ることができないので、注意して下さい。

●教科書・参考書 教科書：老年看護学, 在宅看護学の講義で使用したテキストを参照のこと。／参考書：適時紹介します。

●メッセージ 既習の学習の統合をしながら、積極的、意欲的に実習に臨んで下さい。学外の実習となりますので、時間厳守、健康に留意し、事故などにも十分注意のこと。実習ガイダンスの時に指導要綱にそって、詳しく説明します。

●連絡先・オフィスアワー 阿部芳江：E-mail yoshiea@yamaguchi-u.ac.jp 研究室(0836-22-2818) オフィスアワー(随時)

開設科目	リハビリテーション看護学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	野垣宏, 吉村静馬, 窪田高志, 三輪レイ子				

●授業の概要 障害を持つ人が一般社会の中で自立した生活を営むことができるように援助するために、医療従事者の連携のあり方や、看護の立場でのリハビリテーション活動について教授する。／検索キーワード リハビリテーション、障害、理学療法学、作業療法学、聴覚・言語障害学

●授業の一般目標 1. リハビリテーションの理念や目的、健康障害をもつ人の機能回復、日常生活の自立やQOLの向上に向けてリハビリテーションの各専門職が果たす役割を理解する。2. リハビリテーション看護について理解を深め、リハビリテーションチームアプローチの特徴と看護師の役割や機能について認識する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：リハビリテーションの理念や目的、健康障害をもつ人の機能回復について説明できる。思考・判断の観点：リハビリテーションチームアプローチの特徴と看護師の役割や機能について指摘できる。

●授業の計画(全体) リハビリテーションの各専門職がそれぞれの立場から、看護師の役割も含め、リハビリテーションについて説明する。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 リハビリテーション学総論 授業記録 配付資料(プリント)
- 第2回 項目 運動機能障害 授業記録 配付資料(プリント)
- 第3回 項目 高次大脳機能障害 授業記録 配付資料(プリント)
- 第4回 項目 その他の障害 授業記録 配付資料(プリント)
- 第5回 項目 理学療法学1 授業記録 配付資料(プリント)
- 第6回 項目 理学療法学2 授業記録 配付資料(プリント)
- 第7回 項目 作業療法学1 授業記録 配付資料(プリント)
- 第8回 項目 作業療法学2 授業記録 配付資料(プリント)
- 第9回 項目 聴覚・言語療法学1 授業記録 配付資料(プリント)
- 第10回 項目 聴覚・言語療法学2 授業記録 配付資料(プリント)
- 第11回 項目 まとめ1
- 第12回 項目 まとめ2
- 第13回 項目 まとめ3
- 第14回 項目 テスト
- 第15回

●成績評価方法(総合) 筆記試験

●教科書・参考書 参考書：プリント配付

●メッセージ 遅刻厳禁

●連絡先・オフィスアワー nogaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	地域看護学総論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	守田孝恵・山崎秀夫・石川由美子・高橋郁子				

●授業の概要 地域看護学の概念と地域保健活動の展開について解説する。また、地域保健活動を展開する具体的な方法論について講義と演習を行う。

●授業の一般目標 (1) 地域で生活している看護の対象を理解する。(2) 地域を対象とした保健活動の展開を理解する。(3) 地域保健活動に用いられる基本的な方法論を理解する。(4) 地域特性に応じた健康教育を実施できる。(5) 学校保健について理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：地域保健活動の展開を理解できる。思考・判断の観点：地域診断の視点が適切である。関心・意欲の観点：主体的に演習に取り組む。態度の観点：主体的に学習に取り組む。技能・表現の観点：地域保健活動の特徴を的確に表現できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 地域看護学の考え方・基本となる概念 要 1
- 第 2 回 項目 地域看護学の考え方・基本となる概念
- 第 3 回 項目 ヘルスプロモーション・地域保健活動
- 第 4 回 項目 地域診断
- 第 5 回 項目 地域保健活動の展開
- 第 6 回 項目 地域保健活動の展開
- 第 7 回 項目 地域におけるグループ支援・組織化
- 第 8 回 項目 地域におけるグループ支援・組織化
- 第 9 回 項目 保健指導・健康相談・
- 第 10 回 項目 健康診査・健康教育
- 第 11 回 項目 地域保健計画
- 第 12 回 項目 健康教育演習
- 第 13 回 項目 健康教育演習
- 第 14 回 項目 健康教育演習
- 第 15 回 項目 健康教育演習
- 第 16 回 項目 健康教育演習
- 第 17 回 項目 健康教育演習
- 第 18 回 項目 健康教育演習
- 第 19 回 項目 健康教育演習
- 第 20 回 項目 学校保健
- 第 21 回 項目 学校保健
- 第 22 回 項目 学校保健
- 第 23 回 項目 健康教育演習
- 第 24 回 項目 健康教育演習
- 第 25 回 項目 健康教育演習
- 第 26 回 項目 対象別地域保健活動
- 第 27 回 項目 対象別地域保健活動
- 第 28 回 項目 地域保健活動の評価
- 第 29 回 項目 地域保健活動の評価
- 第 30 回 項目 まとめ

●成績評価方法 (総合) 1) 定期試験 2) 授業内レポート 3) 授業外レポート 4) 演習内容 5) 演習レポート

- 教科書・参考書 教科書：地域看護学. j p, 荒賀直子, インターメディカル, 2004年；いまを読み解く保健活動のキーワード集, 尾崎米厚, 医学書院, 2002年；国民衛生の動向, , 厚生統計協会, 2005年／参考書：エッセンシャル地域看護学, 平野かよ子, 建帛社

開設科目	在宅看護学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	阿部芳江				

●授業の概要 1. 当授業では、在宅看護学の概念を学び、在宅療養者および家族の生きがいを見出す方法を系統的に学習する。2. 在宅療養者および家族の特性を理解し、健康や生活の維持・向上を図るとともに、支援する機能としての保健・医療・福祉の連携を図る方策を学ぶ。3. 看護の対象個々に応じた看護の展開、QOLの向上を目指した看護のあり方について考える機会とする。／検索キーワード 在宅看護学、在宅看護の現状、生きがい、QOL、継続看護、支援システム

●授業の一般目標 1. 在宅看護が必要とされてきた社会的背景を理解し、その目的および看護の果たす役割について理解する。2. 地域で健康上の問題を持ちながら生活する療養者とその家族に対して、個人の生活を支え、生きがいのあるその人らしい生き方の実現を援助する看護の理論と実際を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 在宅看護を必要とする社会の変遷および在宅看護の目的・看護者の役割について説明できる。2. 地域ケア体制と在宅看護の連携の必要性について説明できる。思考・判断の観点：1. 地域で生活する人々の健康上の問題とその対処方法を説明できる。2. 在宅看護の対象である療養者および家族のQOLの向上を支援するための方法を説明できる。関心・意欲の観点：広く国内外の在宅看護に関連する情報を意欲的に収集することができる。態度の観点：講義・演習などの時間において、看護者を目指す者としての責務と役割を認識した行動ができる。技能・表現の観点：1. エビデンスに基づき判断できる。2. 安全・安楽な技術を行うことができる。3. 在宅看護を行うに必要な看護の工夫ができる。

●授業の計画(全体) 【全体】1. 適宜、演習やグループワークを取り入れながら授業を行います。2. 学生の皆さんが、在宅看護をイメージ化できるようにしたいと思います。3. 毎回、話題の提供コーナーを設け、各2グループずつの発表(A4, 1枚程度の資料)を行います。【週単位】第1週：ガイダンス、在宅看護学総論(1) 第2週：在宅看護学総論(2) 第3週：在宅看護学総論(3) 第4週：在宅看護学総論(4) 第5週：看護の対象者の理解と看護(1) 第6週：看護の対象者の理解と看護(2) 第7週：看護の対象者の理解と看護(3) 第8週：在宅看護の方法(1) 第9週：在宅看護の方法(2) 第10週：在宅看護の方法(3) 第11週：在宅看護の方法(4) 第12週：自立支援とQOLの向上を目指した在宅看護(1) 第13週：自立支援とQOLの向上を目指した在宅看護(2) 第14週：自立支援とQOLの向上を目指した在宅看護(3) 第15週：在宅高齢者の基本的な日常生活行動援助(1) 第16週：在宅高齢者の基本的な日常生活行動援助(2) 第17週：特殊な技術を伴う在宅看護(1) 第18週：特殊な技術を伴う在宅看護(2) 第19週：特殊な技術を伴う在宅看護(3) 第20週：特殊な技術を伴う在宅看護(4) 第21週：在宅看護の展開(1) 第22週：在宅看護の展開(2) 第23週：在宅看護の展開(3) 第24週：在宅看護の展開(4) 第25週：在宅看護の展開(5) 第26週：在宅看護の展開(6) 第27週：在宅看護の展開(7) 第28週：在宅看護の展望と課題、まとめ

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 1. 在宅看護学：ガイダンス 2. 在宅看護総論(1)
- 第2回 項目 在宅看護総論(2)
- 第3回 項目 在宅看護総論(3)
- 第4回 項目 在宅看護総論(4)
- 第5回 項目 看護の対象者の理解と看護(1)
- 第6回 項目 看護の対象者の理解と看護(2)
- 第7回 項目 看護の対象者の理解と看護(3)
- 第8回 項目 在宅看護の方法(1)
- 第9回 項目 在宅看護の方法(2)
- 第10回 項目 在宅看護の方法(3)
- 第11回 項目 在宅看護の方法(4)

- 第 12 回 項目 自立支援と QOL の向上を目指した在宅看護 (1)
- 第 13 回 項目 自立支援と QOL の向上を目指した在宅看護 (2)
- 第 14 回 項目 自立支援と QOL の向上を目指した在宅看護 (3)
- 第 15 回 項目 在宅療養者の基本的な日常生活 行動援助 (1)
- 第 16 回 項目 1. 在宅療養者の基本的な日常生活行動援助 (2)
- 第 17 回 項目 特殊な技術を伴う在宅看護 (1)
- 第 18 回 項目 特殊な技術を伴う在宅看護 (2)
- 第 19 回 項目 特殊な技術を伴う在宅看護 (3)
- 第 20 回 項目 在宅看護の展開 (1)
- 第 21 回 項目 在宅看護の展開 (2)
- 第 22 回 項目 在宅看護の展開 (3)
- 第 23 回 項目 在宅看護の展開 (4)
- 第 24 回 項目 在宅看護の展開 (5)
- 第 25 回 項目 在宅看護の展開 (6)
- 第 26 回 項目 在宅看護の展開 (7)
- 第 27 回 項目 在宅看護の展開 (8)
- 第 28 回 項目 在宅看護の展開 (9)
- 第 29 回 項目 在宅看護の展開 (10)
- 第 30 回 項目 在宅看護の展望と課題

●成績評価方法 (総合) 【全体】定期試験, 演習, グループワークの経過・発表内容・取り組みなどを総合的に評価する。授業への出席回数が規定に満たない場合は, 定期試験の受験資格を失う。【観点別】知識・技術・態度について, の観点から総合的に評価する。

●教科書・参考書 教科書: 在宅ケアの実践—やさしく学ぶ在宅看護・介護論—, 阿部芳江編著, 久美株式会社, 2002 年; 新体系看護学第 34 巻 在宅看護論, 村松静子, メヂカルフレンド社, 2005 年; 事例で学ぶ在宅看護論, 村松静子, メヂカルフレンド社, 2005 年/ 参考書: 適宜, プリントを配布します。

●メッセージ 在宅看護を行うには, 生活をしている人を知ることとともに, 日常生活における生活体験を多くしておくことが大切です。

●連絡先・オフィスアワー 阿部芳江: E-mail: yoshiea@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 (TEL/FAX: 0836-22-2818) オフィスアワー: 随時, 先に連絡をいただいた方が確実です。

開設科目	家族看護学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	石川由美子・戸井間充子				
<p>●授業の概要 家族の概念、機能及び変化、諸理論やモデルについて講義する。家族が主体的に健康保持増進、健康問題を解決するための看護過程の展開方法や看護者の援助方法について説明する。／検索キーワード 家族、健康、システム理論</p> <p>●授業の一般目標 家族の概念、形態や機能及びその変化を知る。家族看護の基礎理論やモデルを理解する。看護者の役割を理解する。家族看護過程を展開する。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：家族とは何かを述べるができる。家族の変化を説明できる。看護職の役割を説明できる。思考・判断の観点：家族アセスメントモデルを用いて、家族を分析できる。用いた家族看護アセスメントモデルの利点・弱点をクリティークできる。関心・意欲の観点：クラス討議に積極的に参加できる。態度の観点：レポート提出期限が守れる。技能・表現の観点：家族看護過程が展開できる。</p> <p>●授業の計画（全体） 家族看護の基本となる看護・家族社会学・家族療法理論の概要を学び、症例にそった家族看護展開について学習する。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 オリエンテーション家族とは何か 内容 シラバスおよび課題説明のあと家族看護で用いる概念・家族の機能・家族と健康について説明する。授業記録 配布資料 テキスト</p> <p>第2回 項目 家族看護学の基盤となる諸理論Ⅰ 内容 家族看護の基礎理論について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第3回 項目 家族看護学の基盤となる諸理論Ⅱ 内容 家族看護の基礎理論について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第4回 項目 家族看護学の基盤となる諸理論Ⅲ 内容 家族看護の基礎理論について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第5回 項目 家族看護理論 内容 カルガリー家族看護モデルについて説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第6回 項目 家族看護の展開 内容 カルガリーモデルを用いた実例について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第7回 項目 家族看護の展開 内容 家族看護インタビュー技法について 授業記録 テキスト 配布資料</p> <p>第8回 項目 家族看護の展開 内容 家族症例のカルガリーモデルを用いた展開について説明する。授業記録 テキスト 配布資料</p> <p>第9回 項目 家族アセスメントデータ 内容 アセスメントの項目と内容について諸理論にそって説明する。授業記録 テキスト</p> <p>第10回 項目 家族アセスメントデータ 内容 アセスメント項目と内容について説明する。授業記録 テキスト 配布資料</p> <p>第11回 項目 家族生活力量モデル 内容 家族生活力量モデルについて説明する。授業記録 テキスト 配布資料</p> <p>第12回 項目 家族看護過程 内容 紙上家族事例を家族生活力量モデルを用いて家族看護展開をする。授業記録 テキスト 配布資料</p> <p>第13回 項目 家族看護過程 内容 紙上家族事例を用いた家族看護過程の演習 授業記録 テキスト 配布資料</p> <p>第14回 項目 家族看護過程 内容 紙上家族事例を用いた家族看護過程の演習 授業記録 テキスト 配布資料</p> <p>第15回 項目 まとめ 内容 課題提出</p> <p>●成績評価方法（総合） 講義とクラス討議への参加、ミニテスト、及びレポートにて行なう。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ファミリーナーシングプラクティス、森山美知子、医学書院、2003年；家族生活力量モデル、家族ケア研究会、医学書院、2002年／参考書：家族看護学、野嶋佐由美 監訳、ヘルス出版、1993年</p>					

●連絡先・オフィスアワー 研究室 417 水曜日 16:00~18:00

開設科目	産業看護学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	Carolyn M e l b y ・石原逸子				
<p>●授業の概要 産業（職域）における看護活動の基本、職場環境・労働内容と労働者の健康度との関係、健康学習、健康相談の特性・方法・評価及び産業看護の役割について教授する。／検索キーワード 労働衛生、健康管理、作業管理、作業環境管理</p> <p>●授業の一般目標 1. 労働の意味、労働負荷と職業性疾病、労働衛生管理の基礎について学習する。 2. 産業保健の変遷と産業看護の役割の変遷、歴史について概観する。 3. 働く人々の健康管理についての基礎的な知識を得る。 4. 産業看護職の役割、職務、活動の実際について学習する。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：産業保健の基礎知識と産業看護職の役割 思考・判断の観点：働く人々の健康状態のアセスメント 態度の観点：授業の予習と出席、課題の達成</p> <p>●授業の計画（全体）産業看護の対象理解として、働く人々の健康状態、労働と健康の関係、労働環境と健康等を取り上げる。対象理解に基づく産業看護職の役割、職務、実際の活動などを具体例で紹介する。経済活動のグローバル化に伴う急激な労働環境の変化と働く人々の健康との関係について、いくつか今課題となっている事柄をトピックとして紹介し、これからの産業看護の展望を考える。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 歴史と定義 内容 産業保健の変遷と産業看護の歴史 授業外指示 公衆衛生看護学体系 6 I－9 頁</p> <p>第 2 回 項目 労働衛生の基礎知識 内容 労働環境、労働負荷と職業性疾病 授業外指示 「労働衛生のしおり」I、II</p> <p>第 3 回 項目 産業看護職の役割 内容 労働衛生マネジメントと産業看護職</p> <p>第 4 回 項目 産業看護職の役割 内容 健康管理の実際、定期健康診断、健康相談、保健指導 授業外指示 「労働衛生のしおり」II の健康確保対策について</p> <p>第 5 回 項目 産業看護職の役割 内容 労働衛生教育、リスクマネジメント 授業外指示 健康教育について関連文献の熟読</p> <p>第 6 回 項目 法律と倫理 内容 労働安全衛生法、個人情報保護法、看護の倫理規定 授業外指示 個人情報と守秘義務についてインターネットで調べる</p> <p>第 7 回 項目 入力未</p> <p>第 8 回 項目 入力未</p> <p>第 9 回 項目 入力未</p> <p>第 10 回 項目 入力未</p> <p>第 11 回 項目 入力未</p> <p>第 12 回 項目 入力未</p> <p>第 13 回 項目 予備日</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p> <p>●成績評価方法（総合）課題レポートと出席により評価する。レポート課題「仕事・労働環境と労働者の健康との関係について学習した内容を要約し、あなたが考える産業看護職の役割について具体的に書きなさい。さらに、講義で学習した知識をこれからどのように活用したいかを簡潔に述べなさい。」</p> <p>●教科書・参考書 教科書：平成16年度労働衛生のしおり, 厚生労働省, 厚生労働省；公衆衛生看護学体系6, 日本看護協会, 日本看護協会</p>					

開設科目	保健管理学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	守田孝恵・山崎秀夫・久保明子				

●授業の概要 地域の保健管理、つまり地域の人々の、健康づくり、・健康管理・疾病予防等が、地域において実際にどのように行われているのかを解説し、演習を行う。また、この科目は、地域看護学総論と連動させながら進める。／検索キーワード 地域看護活動 対象 方法

●授業の一般目標 1 健康づくりの基本的な考え方が理解できる。2 地域保健計画や住民参加の意義について学ぶ。3 地域看護の対象別看護の展開が理解できる。4) 地域看護の方法の一部を演習で体験学習する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 地域看護の対象別看護の展開の実際をイメージできる。 思考・判断の観点： 地域の保健活動の実践事例から、保健管理（保健計画と実践、評価）のあり方を考えることができる。 。 関心・意欲の観点： 主体的に学習する。 態度の観点： 課題について、主体的に情報を収集する。 技能・表現の観点： 地域の保健活動の方法や技術（家庭訪問・健康教育・グループ支援）を理解し、健康教育については実施できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 地域の保健管理の考え方
- 第 2 回 項目 基本となる概念
- 第 3 回 項目 健康管理
- 第 4 回 項目 健康教育
- 第 5 回 項目 地域診断と保健管理
- 第 6 回 項目 保健活動の実際
- 第 7 回 項目 保健活動の実際
- 第 8 回 項目 保健活動演習
- 第 9 回 項目 保健活動演習
- 第 10 回 項目 保健活動演習
- 第 11 回 項目 保健活動演習
- 第 12 回 項目 保健活動演習
- 第 13 回 項目 保健活動演習
- 第 14 回 項目 保健管理の実際
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 1）期末テスト 2）授業内のレポート 3）演習 4）演習のレポート

●教科書・参考書 教科書： 地域看護学. j p, 荒賀直子, インターメディカル, 2004 年； いまを読み解く保健活動のキーワード集, 尾崎米厚, 医学書院, 2002 年； 国民衛生の動向, , 厚生統計協会, 2005 年／ 参考書： TACS シリーズ地域看護学, 平野かよ子, 建帛社, 2002 年

開設科目	地域看護学実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	3単位	開設期	前期
担当教員	守田孝恵・山崎秀夫・石川由美子・高橋郁子				

- 授業の概要 あらゆる健康レベルにある地域住民を対象とした地域保健活動を、各実習施設における活動から理解し、地域看護活動の看護過程の展開として統合する。
- 授業の一般目標 保健所や市町村で行われている地域看護診断までのプロセスが理解できる。各領域における保健事業や疾病対策の実際が理解できる。地域看護活動の実際が理解できる。保健所と市町村の役割機能について理解できる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：地域保健に関する法的根拠や事業の成り立ち、実施状況をとおし、地域看護過程の展開が結びつけられる。思考・判断の観点：地域診断ができる。関心・意欲の観点：実習を主体的に実施できる。態度の観点：誠実に取り組む。技能・表現の観点：実習記録に適切に記述する。
- 授業の計画（全体）事前学習 自己評価にそった面接評価 カンファレンスの参加 記録

開設科目	看護学卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	看護学専攻の教授、助教授、講師、学内講師の計25名				

●授業の概要 看護学専攻の学習を通して抱いた疑問点や興味について、その科学的根拠を探究する過程を通して研究目的、研究方法、研究上の倫理、研究のまとめ方等について教授する。／検索キーワード 看護研究

●授業の一般目標 1. 看護学の発展や看護実践における看護研究の必要性が理解できる。 2. 既存の研究成果を看護実践や研究に的確に活用するための批判的思考を習得することができる。 3. 看護に関連した疑問・研究課題を自ら考え、それを解決していくための研究プロセスを理解し、研究成果を論文としてまとめることができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 研究が看護実践や看護学の発展において、どのように関連しているかを説明できる。 2. 研究における倫理的配慮を説明できる。 3. 研究プロセスを理解できる。 4. 研究の妥当性を確保するために実施しなければならない方策を理解できる。 5. 研究論文がどのように構成されているかを理解できる。 思考・判断の観点： 1. 既にある研究論文を批判的に読み、その応用・活用可能性を説明できる。 2. 自らの研究において、必要となる倫理的配慮を説明できる。 3. 自らの研究疑問・課題の解明のために、適切な研究デザインを選択することができる。 4. 自らの研究の妥当性を確保するために、どのような工夫・配慮をするか(したか)を説明できる。 5. 適切な研究結果の提示とその解釈、行った研究の看護への意義、研究の限界、今後の提案を述べる事ができる。 関心・意欲の観点： 1. 研究疑問・研究課題に対して、自らの意見・考えをもとに担当教員と話し合う。 2. 将来、どのように看護研究に参加していくか、その内容を示すことができる。 態度の観点： 1. 疑問を解明していくために、自らが文献を調べ、考え、確かめる行動をとることができる。 2. 研究に必要な倫理的配慮を実施できる。 技能・表現の観点： 1. 自らの意見・考えを論理的に記述・口述できる。

●授業の計画(全体) 学生が選択した研究課題に対して、担当教員は、以下の内容を看護学専攻の指導ガイドラインに基づいて指導する。 1) 看護に関連する自らの研究疑問を明確にすることができる 2) 文献レビューができる 3) 研究課題、研究目的、研究(概念/理論)枠組みの設定ができる 4) 研究仮説を設定できる(量的研究) 5) 研究課題・目的に応じた研究デザインの設定ができる 6) 適切な標本抽出および標本サイズの設定ができる 7) 研究目的に応じたデータ収集法の選択とデータ分析の計画ができる 8) 研究計画書に必要な項目を理解し、計画書の作成ができる 9) データ収集ができる 10) 適切なデータ分析法の決定と結果の提示ができる 11) 適切な結果の解釈、行った研究の看護への意義、研究の限界、今後の提案を示すことができる 12) 研究の公表の意義とその方法を理解し、研究成果を文章化できる 13) 研究における倫理的配慮の重要性と具体的内容を説明でき、実践できる

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、成績評価の方法など その他、各担当教員の指導に従う。 授業外指示 導各担当教員の指に従う 授業記録 導各担当教員の指に従う

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

- 教科書・参考書 教科書：特に指定はしない／参考書：研究の解説書として、以下のものを参考文献としてあげる。・井上幸子他編、看護学大系 10、看護における研究 第2版、日本看護協会 出版会、1999. ・ホロウエイ+ウイラー著（1996）、野口美和子監訳、ナースのための質的研究入門 研究方法から論文作成まで、医学書院、2000. ・Mary A. Miller & Dorocy E. Babcock 著（1996）、深谷計子、羽山由美子 監訳、看護に生かすクリティカルシンキング、医学書院、2002. ・Polit D.F. & Hungler B. P. 著（1986）、近藤潤子監訳、看護研究 原理と方法、医学書院、1994. ・キャロル・ガービッチ著（1999）、上田礼子、上田敏、今西康子訳、保健 医療職のための質的研究入門、医学書院、2003. ・Pamela J. Brink & Marilyn J. Wood 著（1994）、小玉香津子監訳、看護 研究計画書、作成の基本ステップ、日本看護協会出版会、1999.
- メッセージ 完成時には歓声上がることを願っています。
- 連絡先・オフィスアワー 各担当教官

検査技術科学専攻

開設科目	解剖学入門	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	服部幸夫・野垣宏・田中経彦・篠原紀幸				

●授業の概要 保健学科の授業は人体の構造を基礎に形作られている部分が多い。したがって、解剖学用語が解っていないと学習が捗らない。しかも、実際の医療では解剖学用語は日本語だけでなく、しばしば英語が使われる。この現実面を踏まえて、後期の「形態学」講義は英語の教科書を用いて授業がなされる。しかし、急に英語の専門用語が出てきても戸惑うことが予測されるので、その入門編を前期に行なう。／検索キーワード 解剖学

●授業の一般目標 人体の各部位名を日本語と英語で覚える。教科書の説明を読み、機能を理解しながら覚える。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：人体の肉眼的構造を理解する 思考・判断の観点：人体の構成と、それがいかなる機能を行っているか、を理解する 関心・意欲の観点：人体はいわば小宇宙ともいえる。その入り口に立っていることを自覚し、これからの医学知識獲得への関心を持つ。 態度の観点：医学/医療には膨大な知識が必要とされる。これを理解して初めてまともな医療従事者が成立する。そのためには真摯に努力を重ねる態度が求められる。また同時に、常に医学を「科学」として眺める態度が医療従事者としての職務を豊かにしてくれる。 態度の観点：医学/医療には膨大な知識が必要とされる。これを理解して初めてまともな医療従事者が成立する。そのためには真摯に努力を重ねる態度が求められる。また同時に、常に医学を「科学」として眺める態度が医療従事者としての職務を豊かにしてくれる。

●授業の計画（全体）人体の構造（位置関係、名前）を頭にたたき込んで戴きます。多くのイラストを見ながら学びます。学生さんはデジタル化された「からだの地図帳」を電子辞書で英語の発音をさせながら正しい発音で脳に刻みつけてください。その作業を自分でやって授業に臨みます。授業はポストテスト形式で始まります。これは完全にIT化されており、コンピューターに解答を記入し教官へE-mailで送ります。専門用語のリスニングも含まれています。これが授業の2/3を占めます。残りの1/3は短時間で今回の指定範囲のoverviewあるいはビデオを放映する予定です。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション（概要、ソフトのインストールなど）内容 パソコンを持っていれば、持参する。

第2回 項目 (1) 頭と首には何があるか、(2) 頭蓋と頭の血管、(3) 脳と脊髄(2)、(4) 眼

第3回 項目 (1) 耳、(2) 鼻、(3) 口腔と歯、(4) 咽頭と喉頭、(5) 胸部には何があるか

第4回 項目 (1) 肺と気管、気管支(2)、(2) 肺胞とガス交換、(2) 呼吸に関する筋肉、(3) 心臓

第5回 項目 (1) 心臓を養う血管、(2) 心拍動リズムと心周期、(3) 乳房 (4) 腹部には何があるか、(5) 食道

第6回 項目 (1) 胃と十二指腸(2)、(2) 小腸、大腸、肛門、(3) 消化と吸収、(4) 肝臓(2)、

第7回 項目 (1) 胆嚢と膵臓、(2) 脾臓、(3) 腎臓(2)、膀胱と尿道

第8回 項目 (1) 男性生殖器、(3) 女性生殖器(2)、(4) 月経のメカニズム、(5) 妊娠の成立

第9回 項目 (1) 上肢と下肢の骨と筋肉、(2) 肩関節、(3) 肘関節と手の関節、(4) 股関節と膝関節、(5) 足の関節

第10回 項目 (1) 上肢の血管、(2) 下肢の血管、(3) 上肢の神経、(4) 下肢の神経

第11回 項目 (1) 筋肉(2)、(2) 骨と関節(2)

第12回 項目 (1) 皮膚と毛髪(2)、(3) 血液とリンパの流れ(2)、リンパ系

第13回 項目 (1) 神経(4)、(2) 内分泌器官とホルモン

第14回 項目 補講

第15回

●成績評価方法（総合）本試で評価します。本試はポストテストで学んだ中から出題します。ただし、ポストテストの結果も評価の参考にします。

- 教科書・参考書 教科書：「からだの地図帳」, 高橋長雄 監修, 講談社, 1989年；「英辞郎」, 道端秀樹 監修, アルク, 2002年；翻訳の王様, IBM, 2002年；「英辞郎」+翻訳の王様 v5 を使って「からだの地図帳」を学びます。／参考書：ネッター解剖学アトラス, F.H.Netter, 南江堂, 2004年；「ネッター解剖学アトラス」は教科書として完成されたものです。「からだの地図帳」を補完してくれますので、是非購入することを勧めます。
- メッセージ 「英辞郎」は医学専門用語も含めた全ての単語（英和/和英,100万語）をカバーする電子辞書（CD）です。「翻訳の王様」（発音つき CD）は単語/英文の発音や英文の長文読解にも役立ちます。他の辞書は不要です。授業はほとんど IT 授業の予定です。毎回、パソコンが必携です。
- 連絡先・オフィスアワー 服部：tel/fax 0836-22-2807, E-mail: yhattori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	形態学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	友永進, 福本哲夫, 澤田知夫				

●授業の概要 ヒトを正しく理解するための第一歩は、人体の構造と機能を理解することから始まる。この授業の目的は、人体の構造の概要を学修し、それを理解することである。従って、この授業科目は、医療分野の専門基礎教育として極めて重要なものである。また、この授業では、英語で記述された教科書を用いる。それは、人体の構造の理解と同時に医学英語にも精通することを目指すためである。授業時間が限られているため、授業外の学修に期待する部分が多い点にも留意願いたい。／検索キーワード human body, anatomy

●授業の到達目標／知識・理解の観点： To learn the structure and function of the cells and tissues. To learn organ systems of the human body. To learn the skeletal and muscular system of the human body. To learn the nervous system of the human body. To learn the cardio-vascular system of the human body. To learn the visceral system of the human body. To learn the development of the human body.
 思考・判断の観点： To learn the structure and function of the cells and tissues. To learn organ systems of the human body. To learn the skeletal and muscular system of the human body. To learn the nervous system of the human body. To learn the cardio-vascular system of the human body. To learn the visceral system of the human body. To learn the development of the human body.

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Cell and Tissues 内容 Structure and function of cells and four types of tissues: (1) Cells and cell organelles(2) Four types of Tissues(a) Epithelial tissue(b) Connective tissue(c) Muscular tissue(d) Nervous tissue 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize structure and function of cell and its organelles.
- 第 2 回 項目 Organ system 内容 Structural and functional characteristics of each organ system will be described. 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize characteristics of each organ system
- 第 3 回 項目 Integumentary system 内容 Summarize characteristics of each organ system 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize characteristics of each organ system.
- 第 4 回 項目 Skeletal System 内容 1) Macro-anatomical and microscopic structure of the bone.2) Structure and function of joints. 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Review all types of human bones.
- 第 5 回 項目 Muscular System 内容 1) Three types of muscles.2) Details of the skeletal muscles: (1) Distribution in the human body; (2) Innervation of skeletal muscles; (3) Function of the major skeletal muscles. 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Read/Review additional printed matters distributed. Review the function of your major skeletal muscles during through your daily activities.
- 第 6 回 項目 Blood and The Circulatory System 内容 1) Blood: its cellular constituents.2) Blood Vascular System: (1) Heart; (2) Artery; (3) Vein; (4) Capillary 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Describe a simplified heart in your notebook and fill out names of rooms/spaces and blood vessels. What is the portal vein?What is a sinus in Dura Matter?
- 第 7 回 項目 The Lymphatic System and Immunity 内容 1) Lymphatics, 2) Lymphocytes, Lymphatic Tissues and Immunity 授業外指示 Read thoroughly the particular chapter of the textbook. What is a function of the thymus? Describe characteristics of the lymphocytes.
- 第 8 回 項目 The Nervous System (1) 内容 Cranial Nerves and Spinal Nerves 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize the function of each cranial nerve. Describe a rough distribution of spinal nervous plexuses.

- 第 9 回 項目 The Nervous System(2) 内容 Brain and Spinal Cord 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize classification of the brain. Summarize the cerebral ventricular system; production and circulation of cerebrospinal fluid. What is the blood brain barrier?
- 第 10 回 項目 Viscera and The Respiratory System 内容 1) Characteristics of the hole organ and the parenchymatous organ, 2) The Respiratory Organs: (1) Respiratory Tract; (2) Lung 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Review examples of the hole organ. Review examples of parenchymatous organ.
- 第 11 回 項目 The Digestive System 内容 1) Alimentary Canal, 2) Digestive Glands Read the textbook thoroughly. Review the common characteristics among the respiratory tract and the digestive canal.
- 第 12 回 項目 the Urinary System 内容 1) Kidney, 2) Urinary Tract 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Review the difference of the respiratory- digestive tracts from the urinary tract. What is the blood urine barrier?
- 第 13 回 項目 The Reproductive System 内容 1) Male Reproductive Organs: (a) Testis, and Female Reproductive Organs; Ovary, Uterus, 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Review the origin of primordial germ cells. What is the perineum?
- 第 14 回 項目 Growth and Development 内容 1) Fertilization, 2) Embryogenesis, 3) Organogenesis. What is blood placenta barrier? Review the relationship between the organogenesis and malformation. 授業外指示 Read the textbook thoroughly. What is blood placenta barrier? Review the relationship between the organogenesis and malformation.

●教科書・参考書 教科書：Structure and function of the body 11th Edition, Thibodeau GA, Patton KT, Mosby, 2000 年／参考書：入門人体解剖学, 藤田恒夫, 南江堂, 2000 年；人体解剖学 42 版, 藤田恒夫, 南江堂, 2000 年；ナース版医学事典, ステッドマン, メジカルビュー, 1999 年

●連絡先・オフィスアワー tomonaga@yic.ac.jp 0836-45-1000

開設科目	生理機能学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	松田昌子・野垣宏・山田治・日野啓輔・藤井善哉				
<p>●授業の概要 形態学で学んだ人体の各臓器が生体の中で果たしている役割を系統的に講義し、生命維持の仕組み、その破綻から病気にいたる基礎を解説する。 藤井：腎・膀胱の機能；日野：消化に關与する臓器の機能；野垣：神経系の機能、感覚器の機能、内分泌機能；松田：循環器・呼吸機能；山田：人体の防衛機能、体液、血液の組成・役割／検索キーワード 腎機能、消化機能、神経機能、感覚機能、運動機能、内分泌機能、循環機能、呼吸機能、免疫機能、ホメオスタシス、</p>					
<p>●授業の一般目標 1. 各臓器の正常機能を知る。 2. 各臓器の調節制御機能を理解する。</p>					
<p>●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 臓器の基本的構造と機能を説明できる。 2. 各臓器の機能を調節する仕組みを説明できる。 3. 人体がホメオスタシスを維持する仕組みを理解する。 思考・判断の観点： 臓器の機能が破綻するとどのような現象がおり、病気つながっていくかという過程を考え、基礎的な症状の由来を理解できる。 関心・意欲の観点： 自分の体内で起こる種々の現象のメカニズムについて関心を持つ。</p>					
<p>●授業の計画（全体） 臓器別に各担当教員が連続して講義する。</p>					
<p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p>					
第1回	項目 4月12日	腎機能 I 内容 尿生成の仕組み			
第2回	項目 4月19日	腎機能 II 内容 浸透圧の調節、体液中の電解質調節、窒素の排泄			
第3回	項目 4月26日	腎機能 III 内容 酸-塩基平衡、造血に果たす役割、腎不全の病態			
第4回	項目 5月10日	消化管の機能 内容 食道、胃、十二指腸、小腸、大腸についての構造と機能について理解する。			
第5回	項目 5月17日	肝臓の構造と機能 I 内容 肝臓の構造について理解する			
第6回	項目 5月24日	肝臓の構造と機能 II 内容 肝臓の機能について理解する			
第7回	項目 5月31日	胆道系、膵臓の機能 内容 肝臓の機能について理解する			
第8回	項目 6月7日	中枢神経系の機能 I 内容 神経組織の構造と働き、中枢神経系の構造、脊髄の構造、			
第9回	項目 6月14日	中枢神経系の機能 II 内容 脳幹の機能、間脳の機能、小脳の機能、大脳の機能、伝導路			
第10回	項目 6月21日	末梢神経系 内容 体性神経系、自律神経系、脊髄神経、脳神経の働き			
第11回	項目 6月28日	感覚器の機能 内容 感覚の種類、視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚、体性感覚、内臓感覚			
第12回	項目 7月5日	運動器の機能 内容 骨・関節・筋の構造と機能、運動のメカニズム			
第13回	項目 7月12日	内分泌機能 内容 ホルモンとは、ホルモン分泌の調節、内分泌器の機能			
第14回	項目 7月19日	内分泌機能			
第15回	項目 4月13日	循環機能 I 内容 1) 心臓血管の構造と組織学的特徴 2) 心周期			
第16回	項目 4月20日	循環機能 II 内容 心臓の電気生理学			
第17回	項目 4月27日	循環機能 III 内容 1) 末梢循環：血圧、血流、脈圧、静脈と動脈、リンパ管 2) 特殊循環：冠循環、脳循環			
第18回	項目 5月11日	循環機能 内容 心臓および血管の調節機構 1) 神経性調節 2) ホルモン性調節 3) 局所性調節			
第19回	項目 5月18日	肺の機能的構造 内容 肺の構造と機能的特徴			
第20回	項目 5月25日	呼吸運動とガスの運搬 内容 1) 換気のメカニズム 2) 血液中での酸素、二酸化炭素の産生、運搬 3) 二酸化炭素と酸-塩基平衡			

- 第21回 項目 6月1日 呼吸機能の調節機序 内容 呼吸の調節機構
- 第22回 項目 6月8日 血液・体液の組成とその役割 内容 解剖と生理。VTR：驚異の小宇宙人体
- 第23回 項目 6月15日 人体の防衛機能とその仕組み
- 第24回 項目 6月22日 造血器と血液の働き
- 第25回 項目 6月29日 液性免疫と細胞性免疫
- 第26回 項目 7月6日 HIV感染症とエイズ
- 第27回 項目 7月13日 遺伝の仕組み1 内容 減数分裂と染色体異常。CD-ROM：人体の神秘ヒトゲノム
- 第28回 項目 7月20日 遺伝の仕組み2 内容 DVD「DNAって何？」
- 第29回
- 第30回

- 成績評価方法(総合) 各担当教官の講義担当時間の割合によって評価点を分配し、合計点で評価する。試験は、教官により、小テスト、レポート、期末試験を課す。
- 教科書・参考書 教科書：人体の構造と機能, 佐藤昭夫ほか, 医歯薬出版, 2002年 / 参考書：The Physiology Coloring Book, Kapit et al., Addison Wesley Longman, 2000年
- 連絡先・オフィスアワー 0836-22-2858(野垣研究室) 0836-22-2824(日野研究室) 0836-22-2832(松田研究室) 在室時は訪問可。0836-22-2803(山田研究室)

開設科目	生化学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	渡部省二				

●授業の概要 生物は物質から構成されており、現代の生命科学を理解するためには、まず生物を構成している物質について知らなければならない。本講義では、生物を構成する元素と化合物について説明し、生物がそれらの化合物を、何から、どのように合成して、どのように分解（すなわち、代謝）しているか、また、これらの物質代謝のためのエネルギーを、どこからどのようにして得て、どのように利用しているのか、そのメカニズムについて解説する。なお、DNA、RNA、タンパク合成に関することは分子生物学（2年前期）で行うので本講義ではふれない。／検索キーワード 酵素、代謝、タンパク質、解糖系、アミノ酸、炭水化物、脂質、ATP

●授業の一般目標 生体を構成している個々の化合物の化学構造とその化学的性質を理解する。代謝経路の概略を理解し、その調節機構を学ぶ。エネルギー通貨としてのATPの役割を理解し、エネルギー代謝の概略を学ぶ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 生体を構成している分子における分子内および分子間で働く力を理解する。 2. タンパク質の構造を知り、タンパク質がDNAの遺伝情報をもとにつくられることを理解する。 3. 生命活動の担い手としてのタンパク質の機能を理解する。 4. 糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝の概略を説明できる。 5. 代謝調節に関与している酵素をあげ、その調節機構の概略を説明できる。 6. ATPの産生機構の概略を説明できる。 7. 重要な補酵素の名称、化学構造、および機能について説明できる。 思考・判断の観点： 生体内の個々の酵素反応が生体全体にとってどのような意味があるか考え、代謝調節（個々の酵素の活性化、不活性化）がせいた全体にどのような影響があるかを判断する。 態度の観点： 予習、復習をし、まじめに授業に取り組む。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 化学結合と分子間に働く力／pKa 内容 水の性質 生体分子の相互作用 pH、pKa 緩衝液
- 第2回 項目 アミノ酸タンパク質 内容 アミノ酸の構造 ペプチド結合 タンパク質の構造 ヘモグロビン
- 第3回 項目 酵素
- 第4回 項目 酵素活性の調節
- 第5回 項目 解糖系
- 第6回 項目 解糖系(2)とクエン酸回路
- 第7回 項目 試験
- 第8回 項目 電子伝達系と光合成
- 第9回 項目 糖の構造とグリコーゲン代謝／ペントースリン酸経路
- 第10回 項目 糖新生
- 第11回 項目 脂質の構造／脂質代謝：異化
- 第12回 項目 脂質代謝：合成と輸送
- 第13回 項目 アミノ酸代謝
- 第14回 項目 ヌクレオチドとヘム
- 第15回 項目 期末試験

●教科書・参考書 教科書：生化学キーノート, B.D.Hames, N.M.Hooper, シュプリンガー・フェアラーク東京, 2002年；次のURLに講義資料をおいてあるので、各自ダウンロードすること。（この資料は随時更新しているので更新日を注意のこと。）保健学科シラバスからもリンクしている。 <http://www.sv.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/lecture2.htm>

●メッセージ 講義時間にすべてを網羅することは時間的に不可能であるので、各自テキストで予習、復習すること。

●連絡先・オフィスアワー shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	免疫学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	日野啓輔				

●授業の概要 1) 免疫学の概念 2) 免疫担当細胞についての基礎知識 3) 抗体-免疫グロブリンの機能 4) 補体の活性化機構とその機能 5) 主要組織適合遺伝子複合体 6) 免疫応答とその調節 7) 生体内の免疫応答 8) 抗原・抗体反応とその原理 9) 試験管内抗原・抗体反応／検索キーワード 免疫、抗原、抗体、補体、免疫グロブリン、免疫担当細胞、免疫応答

●授業の一般目標 免疫学全般についてまず概念を理解する。免疫検査の理解に必要な総論を十分に理解し、免疫反応のしくみについて学習する。

●授業の計画(全体) 授業の概要で示した内容について授業を行っていく。理解の到達度をチェックするために、随時授業中に質問を行うか小テストを行う可能性もある。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 免疫学の概念 内容 液性免疫、細胞性免疫の概念を解説する。

第2回 項目 免疫担当細胞 内容 抗原提示細胞、リンパ球、貪食細胞等の機能と免疫応答における役割を解説する。

第3回 項目 抗体・免疫グロブリン 内容 抗体、免疫グロブリンの構造と働きについて説明する。また、免疫学的に分類された抗原、抗体の意味について解説する。

第4回 項目 補体の活性化 内容 補体の活性化経路ならびに活性化因子について解説する。

第5回 項目 補体の機能 内容 免疫反応における補体の生物学的役割について解説する。

第6回 項目 主要組織適合遺伝子複合体 内容 主要組織適合遺伝子複合体の構造と機能について解説する。また免疫反応における主要組織適合遺伝子複合体の役割について解説する。

第7回 項目 免疫応答とその調節 内容 サイトカインを中心とした免疫応答の調節機構について解説する。

第8回 項目 免疫応答とその調節 内容 液性免疫、細胞性免疫の調節や互いの応答について解説する。

第9回 項目 生体内の免疫応答 内容 主としてアレレルギー反応について解説し、分類発現機序についても解説する。

第10回 項目 抗原・抗体反応とその原理 内容 抗原、抗体反応の基本原理について解説する。

第11回 項目 抗原・抗体反応とその原理 内容 各種抗原・抗体反応の種類とその異同について解説する。

第12回 項目 試験管内抗原・抗体反応 内容 沈降反応、凝集反応について解説する。

第13回 項目 試験管内抗原・抗体反応 内容 溶解、中和反応について解説する。

第14回 項目 試験管内抗原・抗体反応 内容 免疫化学分析方法について解説する。

●成績評価方法(総合) 前期末試験の成績を最重要視する。

●教科書・参考書 教科書：臨床検査技術学 13免疫検査学, 小島健一他, 医学書院, 1998年／参考書：臨床免疫学, 福岡良男他, 医歯薬出版株式会社, 2001年

●メッセージ 疑問点をそのままにせず積極的に質問してほしい。

開設科目	病理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	高橋睦夫				

●授業の概要 病理学 pathology は病気の本態を解明するのが病理学であり、講義では基本的な病変について、その成り立ちや原因、臓器・組織の変化などを述べる。正常状態を知らなければ病気を理解することは出来ない。特に解剖学との関わりが最も深い。正常状態については質問しながら講義をすすめるので、関連する事項について十分復習して講義に臨むこと。／検索キーワード 退行性病変, 代謝障害, 循環障害, 進行性病変, 免疫, 炎症, 腫瘍

●授業の一般目標 1. ヒトの正常状態(臓器の大きさ, 位置関係, 機能)が解る。2. 基本的な病変の種類, 原因, 経過を理解する。3. 病変の特徴と, 全身に及ぼす影響を理解する。4. 免疫機構を理解し, 炎症の成り立ちを説明できる。5. 腫瘍の発生, 種類, 予後などを理解し, 説明することが出来る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点: 1. 基本的病変の種類をあげることができる。2. 基本的病変の好発部位を説明できる。3. 基本的病変の成り立ちを説明することが出来る。思考・判断の観点: 1. 基本的病変が何故起こるか説明できる。2. 基本的病変が全身にどのような影響を及ぼすか, 推論できる。3. 生体は病変にどのように対処するのか指摘できる。関心・意欲の観点: 1. 病気を理解するための基礎である正常状態を正しく理解する意欲がある。2. 解剖学を理解した上で, 病理学を学ぶ意志を示す。3. 組織学を理解した上で, 病理学に結びつけようと意欲を示す。態度の観点: 知識のまる覚えではなく, 常に何故かと疑問を持ち, 理解しようとする意欲がある。

●授業の計画(全体) 講義は教科書に則って進めるが, 肉眼や, 組織像が重要であるので教材提示装置やスライドを使って典型的な病変のカラー写真を提示する。授業中に解剖学的知識や前回までの病理学的知識について質問し, 解答できない場合は宿題となる。それらも含めて, 毎回, 授業開始時に5分間小テストを行うので, 十分復習して講義に臨むこと。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 病理学とは? 退行性病変と代謝異常1 内容 何を研究するのか、臨床との関わり 1. 退行性病変 a. 萎縮 授業外指示 正常臓器の位置と大きさ
- 第2回 項目 退行性病変と代謝異常2 内容 b. 変性 その1 授業外指示 臓器の機能
- 第3回 項目 退行性病変と代謝異常3 内容 b. 変性 その2 c. 壊死 d. アポトーシス 2. 物質代謝異常 a. 蛋白質、アミノ酸 b. 糖 c. 脂肪 d. 尿酸 授業外指示 蛋白質、糖、脂肪などの血清基準値
- 第4回 項目 循環障害1 内容 1. 血液の循環障害 a. 側副循環 b. 局所の循環障害 その1 授業外指示 心臓の形態と機能 肺循環と体循環
- 第5回 項目 循環障害2 内容 b. 局所の循環障害 その2 c. 全身の循環障害 2. 組織液の循環障害 a. 水腫・浮腫 b. 脱水症 授業外指示 リンパ液、組織液の流れ 胸管とは?
- 第6回 項目 進行性病変 内容 1. 肥大と過形成 2. 再生と化生 3. 創傷治癒 4. 異物の処理 授業外指示 臓器の実質細胞と機能 間質組織の構成成分と機能
- 第7回 項目 炎症1 内容 1. 炎症の原因 2. 化学伝達物質 3. 基本的変化 4. 炎症の分類 授業外指示 血液細胞の種類、形態、機能、基準値
- 第8回 項目 炎症2 免疫1 内容 5. 全身反応 1. 基本的事項 2. 免疫寛容 3. 生体防御作用 4. アレルギー 性炎 授業外指示 中枢性・末梢性 リンパ装置
- 第9回 項目 免疫2 内容 5. 免疫不全 6. 自己免疫 授業外指示 免疫反応の仕組み 免疫に関連する臓器
- 第10回 項目 免疫3 感染症 内容 7. 免疫増殖症 候群 1. 感染と発症 2. 常在菌叢 3. 病原性 4. 感染の成立 5. 感染経路 6. 宿主反応 7. 日和見感染 8. 経過 9. 持続感染
- 第11回 項目 腫瘍1 内容 1. 腫瘍と名称 2. 形態 授業外指示 上皮性組織の種類と存在部位 非上皮性組織の種類と存在部位

- 第12回 項目 腫瘍2 内容 3. 発育の仕方 4. 腫瘍と宿主 授業外指示 発生簿組織の形態学的照明法
第13回 項目 腫瘍3 内容 5. 悪性度と病期 6. 原因 7. 疫学 8. 腫瘍の分類 a. 上皮性腫瘍 授業外指示 各臓器の上皮性組織
第14回 項目 腫瘍4 先天異常 老化 病因 内容 b. 非上皮性腫瘍 c. 混合腫 授業外指示 各臓器の主な非上皮性組織

●成績評価方法 (総合) 定期試験および小テスト

●教科書・参考書 教科書：わかりやすい病理学, 岩田隆子, 恒吉正澄, 宮原晋一編集, 南江堂, 1989年 / 参考書：Essential pathology, E. Rubin, Lippincott 訳本 西村書店, 2003年; スタンダード病理学, 大西俊造他, 文光堂, 1998年

●メッセージ 病理学を理解すれば, 他の専門科目の理解も容易になる。

●連絡先・オフィスアワー 22-2829 研究室にいるかぎりいつでも対応するので、質問大歓迎。

開設科目	微生物学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	梅田昭子				

●授業の概要 病原微生物は大きく細菌・ウイルス・プリオン・真菌・原虫に分類されるが、原虫の除く全ての病原微生物についての総論の講義を行なう。すなわち各微生物の分類・構造・増殖機構・感染・治療法とワクチン・滅菌と消毒法・検査法について、各微生物間における違いを明確にし微生物全体が把握できるように講義する。／検索キーワード 病原微生物、ワクチン、抗生剤、消毒

●授業の一般目標 病原微生物として挙げられている細菌、真菌、ウイルス、プリオン、原虫について共通点および相違点を正しく理解し、これらが引き起こす感染症の特徴と各感染症に対する予防法と治療法の特徴を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：授業の概要と一般目標に記載している通り、感染症を引き起こす各微生物の特徴を明確にすることと、感染の定義とその起因微生物、各感染症に対する予防・治療法を理解し、病原微生物一般の基礎知識を習得する。思考・判断の観点：講義により得た知識から、医療現場で感染症に直面した場合、正しい対処法を判断できる能力を養う。関心・意欲の観点：最近いくつかの新しい感染症や病院内での感染症の報道がなされているが、これらのことを身近なものとして関心を持ち、自分自身で学習・検索調査を行なう意欲を養う。

●授業の計画（全体）微生物学の総論を講義する。。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 微生物発見の歴史、微生物の種類とその違い 内容 病原微生物には細菌、真菌、ウイルス、プリオン、原虫に分けられるが、それらの共通点と相違点について解説する。
- 第2回 項目 細菌の構造、ウイルス・真菌の構造との比較 内容 各微生物の根本的相違点を中心に、書く微生物の構造について解説する。
- 第3回 項目 細菌の増殖機構と培養法、ウイルス・真菌との比較 内容 各微生物の増殖機構はそれぞれ異なり、それに従って培養法も全く異なっている。この点をふまえて、各微生物の増殖・生理機構を解説する。
- 第4回 項目 感染の概念、主な感染症・新興感染症・再興感染症 内容 感染の定義を解説し、感染症の種類とその起因微生物について、また細菌問題になっているSARS等の新興感染症や、結核等の再興感染症について解説する。
- 第5回 項目 ヒト常在細菌と日和見感染・院内感染 内容 ヒトには体内・体外に多くの微生物が常在しているが、それらの種類と意義、また、ヒトの健康状態によりこれらの常在微生物が感染源になる意義について解説する。また、自分の常在細菌を採取し考察する。
- 第6回 項目 滅菌と消毒1 内容 病原微生物を取り扱う際、特に臨床において感染症の患者に接する場合にどのような点に注意すべきかを解説し、実際の病原微生物にたいする滅菌法と消毒法について解説する。
- 第7回 項目 滅菌と消毒2 内容 第6回の続き。実際の臨床現場では他の患者に感染を移さない注意、また医療従事者本人が感染しないよう注意する点について解説する。
- 第8回 項目 化学療法1 内容 感染症の治療に用いる化学療法剤の作用機序、種類、副作用、耐性について種類別に解説する。
- 第9回 項目 化学療法2、ワクチン 内容 第8回のつづき、および感染症にたいする予防法として使用するワクチンについて、その種類、どの程度感染症を予防できるか、いつ頃実施するのか等について解説する。
- 第10回 項目 真菌総論 内容 真菌は細菌とは大きく異なっている。この点をふまえて、病原真菌の種類、感染症、治療法等について解説する。

第 11 回 項目 ウイルス総論 1 内容 ウイルスは細菌、真菌とは全く異なり、宿主細胞内でのみ増殖する。ウイルスの構造、増殖機構を復習し、ウイルスの分類、感染症、治療法、予防法について解説する。

第 12 回 項目 ウイルス総論 2、プリオン 内容 第 11 回の続きで、ウイルスの総論講義のほか、ウイルスとはまた異なるプリオンについて解説する。

第 13 回 項目 細菌・ウイルス・真菌の検査法の概要 内容 臨床検査科学専攻 学生を対象としているので、病原微生物の同定に重要な検査法の概要を解説する。

第 14 回 項目 バイオハザード、医療現場における感染の危険性とその対策 内容 病原微生物には非常に危険な微生物と、ほぼヒトに常在している弱病原性微生物がある。これらの病原微生物の危険性について法律上の分類とそれらに属する微生物の取り扱い注意について解説し、感染の危険から予防する適切な対処法を解説する。

第 15 回

- 教科書・参考書 教科書：臨床検査学講座「微生物学/臨床微生物学」、岡田 淳 他、医歯薬出版、2001 年；指定した教科書は、あくまで臨床検査技師国家試験に必要な最低知識を記載したものです。講義前に必ず予習し、講義では教科書を読んできているものとして講義を進める予定です。／参考書：(1)「戸田新細菌学」吉田真一、柳雄介編、南山堂 (2)「標準微生物学」平松啓一、山西弘一編、医学書院

開設科目	病態栄養学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	長坂祐二				

●授業の概要 適切な栄養管理は、患者の生命維持に必須であるばかりでなく、疾病の治療・予防や周術期の管理を効果的に実施する上で基本となる治療法である。また、患者の QOL 向上させる重要な要因である。この講義では病態の改善に食事療法が重要な位置を占める代表的疾患をとりあげ、その概念、病態、診断、治療（食事療法を中心に）の原則について概説する。

●授業の一般目標 1. 栄養素の種類と機能に関する基礎知識をもとに栄養所要量、栄養法の種類と適応、栄養障害の評価方法、治療方法を理解する。2. 腸疾患、肝臓病、腎臓病の病態と栄養サポートに関する知識を習得する。3. 生活習慣病の考え方を理解し、肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧の病態と食事療法を中心とした治療法を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 栄養素の種類と機能を列挙できる。2. 栄養所要量がどのように設定されたか説明できる。3. 栄養法の種類と適応を列挙できる。4. 栄養障害の評価方法と治療法を説明できる。5. 腸疾患・肝臓病・腎臓病の食事療法の基本を説明できる。6. 肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧についてその病態と食事療法の意義について説明できる。7. 病態に応じて必要なエネルギー量、栄養素の配分を算出できる。

●授業の計画（全体） 前半では、栄養素の不足が問題となる疾患を取り上げて栄養状態の把握方法（栄養アセスメント）、栄養状態改善のための栄養サポートについて講義する。後半では、生活習慣病の予防・治療における食事療法の意義と実践方法について講義する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 栄養学の基礎知識 内容 糖質、タンパク質、脂質の消化・吸収・代謝・機能の基礎知識を確認する

第 2 回 項目 日本人の栄養所要量の現状 内容 栄養所要量策定の根拠、現在の国民栄養の現状

第 3 回 項目 栄養法 内容 経口法、経腸栄養法、静脈栄養法

第 4 回 項目 栄養障害の栄養サポート 内容 栄養評価、PEM、術前・術後の栄養サポート

第 5 回 項目 腸疾患の栄養サポート 内容 下痢と便秘、過敏性腸症候群、炎症性腸疾患

第 6 回 項目 肝臓病の栄養サポート 内容 急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、脂肪肝

第 7 回 項目 腎臓病の栄養サポート 内容 腎炎症候群、ネフローゼ症候群、腎不全、人工透析

第 8 回 項目 生活習慣病総論 内容 成人病から生活習慣病へ、生活習慣病の EBM

第 9 回 項目 肥満 内容 肥満による健康障害、診断、治療

第 10 回 項目 高脂血症 内容 病態、診断、治療

第 11 回 項目 糖尿病（1） 内容 病態、診断

第 12 回 項目 糖尿病（2） 内容 食事療法、運動療法、薬物療法

第 13 回 項目 高血圧症 内容 病態、診断、治療

第 14 回 項目 動脈硬化症 内容 病態、虚血性心疾患、脳卒中

第 15 回

●成績評価方法（総合） 授業中に行う小テストと期末試験により評価する。

●教科書・参考書 教科書： 指定しない。ホームページ（<http://www.c-able.ne.jp/nagasaka/>）より講義ノートを配布する。／参考書： 授業中に適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー nagasaka@yamaguchi-pu.ac.jp

開設科目	臨床薬理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	神谷晃・尾家重治				

- 授業の概要 看護の立場から必須の医薬品に関する知識（薬物の作用、級数と分布と排泄、効果と副作用、各種剤型とその特徴など）について講義する。

開設科目	保健学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山崎秀夫・高橋幸広・名越究				
<p>●授業の概要 地域で生活する人々の健康の保持・増進のための方策を公衆衛生学的な視点から教授する。 ／検索キーワード 健康、保健</p> <p>●授業の一般目標 1. 世界と日本の健康増進対策と保健対策について理解する。 2. 望まれる健康増進対策と保健対策を考察する。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：日本と世界の健康状態を述べることができる。ヘルスプロモーションを要約できる。WHOの役割と機能を説明できる。日本の健康対策とその経緯が説明できる。 思考・判断の観点：日本と世界の健康問題対策の問題点を指摘できる。</p> <p>●授業の計画（全体）講義の概要説明 ヘルスプロモーション1 ヘルスプロモーション2 厚生労働省と健康 厚生労働省と生活 公衆衛生と保健学 健康をめぐる諸問題1（人口問題）健康をめぐる諸問題2（環境、食に関する問題）国民の健康と保健統計 疫学と疾病予防 健康教育とその展開 公衆衛生・保健活動の実際 保健行政 まとめ</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 講義の概要説明 内容 担当教員やシラバについて説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第2回 項目 ヘルスプロモーション1 内容 ヘルスプロモーションの背景、意義、内容等、ヘルスプロモーションの枠組みについて説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第3回 項目 ヘルスプロモーション2 内容 ヘルスプロモーションについて、施策的視点からアプローチし、その実際を説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第4回 項目 厚生労働省と健康 内容 厚生労働省の組織的構成と健康政策策定のプロセス等について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第5回 項目 厚生労働省と生活 内容 厚生労働省が展開する健康政策と国民の生活について、具体例を示しながら説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第6回 項目 公衆衛生と保健学 内容 公衆衛生と保健学の関わりや相違について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第7回 項目 健康をめぐる諸問題1 内容 健康問題との関わりから人口問題を取り扱い、世界人口、日本人口等について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第8回 項目 健康をめぐる諸問題2 内容 環境問題や食に関わる問題を保健学的視点から説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第9回 項目 国民の健康と保健統計 内容 国民の健康状態の実態と健康水準を示す諸指標について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第10回 項目 疫学と疾病予防 内容 健康問題の本質を探る手法としての疫学や疾病予防の方法等について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第11回 項目 健康教育とその展開 内容 健康教育の目的、目標、内容、方法、評価等について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第12回 項目 公衆衛生・保健活動の実際 内容 公衆衛生活動や保健活動の実際と問題点等について説明する。授業記録 配布資料</p> <p>第13回 項目 保健行政 内容 日本の保健行政を体系的に整理しながら、その仕組みや関連法令等について説明する。</p> <p>第14回 項目 まとめ 内容 全体的なまとめを行う。</p> <p>第15回 項目 試験</p> <p>●成績評価方法（総合）筆記試験と出席により評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：公衆衛生学，小野寺伸夫編，メヂカルフレンド社，2004年</p>					

開設科目	保健統計学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	岩本美江子				

●授業の概要 授業科目名は保健統計学であるが、環境衛生学を除いた範囲の公衆衛生学の授業である。社会医学としての公衆衛生学は、医学の中で最も変化が著しいと思われる。急性伝染病から慢性伝染病へ、AIDSや医療費の問題、少子・高齢社会の問題と社会全体の動きに左右されることが多い。国民の保健医療要求に常に的確に対応できる専門職である臨床検査技師として必要な範囲を、社会医学システムの観点から説明する。

●授業の一般目標 (1)人口統計を理解する。(2)疫学の定義と方法論を理解する。(3)感染症の成立と要因、流行とサーベイランスを理解する。(4)主要感染症の分類と疫学像及び対処の仕方を理解する。(5)それぞれのライフサイクルにあった健康管理、保健管理システムを理解する。(6)生活習慣病の定義、特徴、現状、予防、医療費について理解する。(7)老人保健法を主とした、老人問題(痴呆性老人、寝たきり老人等)について理解する。(8)日本の社会保障制度について概要を理解する。(9)健康に関わる地域社会のしくみと保健行政の役割について理解する。(10)保健・医療との関係をふまえながら地域の福祉施策について理解する。(11)衛生統計、保健統計値を理解する。(12)基礎的な統計検定を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：(1)人口統計を説明することができる。(2)疫学の定義と方法論を説明することができる。(3)感染症の成立と要因、流行とサーベイランスを説明することができる。(4)主要感染症の分類と疫学像及び対処の仕方が説明することができる。(5)それぞれのライフサイクルにあった健康管理、保健管理システムを記述することができる。(6)生活習慣病の定義、特徴、現状、予防、医療費について説明できる。(7)老人保健法を主とした、老人問題(痴呆性老人、寝たきり老人等)について説明できる。(8)日本の社会保障制度について概要を述べることができる。(9)健康に関わる地域社会のしくみと保健行政の役割について述べるすることができる。(10)保健・医療との関係をふまえながら地域の福祉施策について述べるすることができる。(11)衛生統計、保健統計値を計算でき、説明することができる。(12)基礎的な統計検定が出来る。関心・意欲の観点：公衆衛生学的問題に積極的な関心を持つ。技能・表現の観点：統計的検定をするために、Excelを使用することができる。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 人口問題
- 第2回 項目 疫学
- 第3回 項目 感染症
- 第4回 項目 母子保健
- 第5回 項目 学校保健
- 第6回 項目 成人保健
- 第7回 項目 老人保健・精神保健
- 第8回 項目 衛生行政、衛生法規
- 第9回 項目 社会保障
- 第10回 項目 衛生統計
- 第11回 項目 統計的検定方法(1)
- 第12回 項目 統計的検定方法(2)
- 第13回 項目 統計処理実習

●成績評価方法(総合) 定期試験及び統計演習のレポートでもって評価する。

●教科書・参考書 教科書：公衆衛生学, 眞野喜洋他, 医歯薬出版株式会社, 2002年／参考書：統計の勉強をするに当たって、下記の本などを参考にするとよい。バイオサイエンスの統計学：著者・市原清志(南江堂) 道具としての統計学：著者・奥田千恵子(金芳堂)

●連絡先・オフィスアワー miwamoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：医学部保健学科4階

開設科目	環境衛生学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	岩本美江子				

●授業の概要 環境衛生学は、保健学科のカリキュラム編成に当たり、公衆衛生学の一分野であったものが独立した授業科目である。環境問題は1970年代の公害防止対策から環境影響評価、さらに地球環境問題、廃棄物や自動車公害等へと変化してきた。看護師、保健師としての立場で、身近な居住環境から地球規模の人間居住環境に至るまでの環境を説明し、さらに環境と人の健康との関わりを説明する。また食中毒や食品添加物等の食品衛生についてもこの授業で説明する。／検索キーワード 健康、公衆衛生、環境衛生、産業衛生、食品衛生

●授業の一般目標 (1) 水環境の変化と健康影響を理解する。(2) 大気環境の変化と健康影響を理解する。(3) 物理的環境の変化と健康影響を理解する。(4) 産業職場の環境変化と健康影響について理解する。(5) 地球規模の環境変化と健康影響について理解する。(6) 栄養と健康について理解する。(7) 食品衛生と健康について知る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：(1) 水環境の変化と健康影響を説明できる。(2) 大気環境の変化と健康影響を説明できる。(3) 物理的環境の変化と健康影響を説明できる。(4) 産業職場の環境変化と健康影響について説明できる。(5) 地球規模の環境変化と健康影響について説明できる。(6) 栄養と健康について説明できる。(7) 食品衛生と健康について説明できる。思考・判断の観点：環境が及ぼす人の健康について自分の意見を述べる事が出来る。関心・意欲の観点：生活の中での環境問題に関心をひろげ、問題意識を高める事が出来る。態度の観点：日常生活の中で環境問題について主体的に考える事が出来る。技能・表現の観点：地球環境問題についてプレゼンテーションする事が出来る。

●授業の計画(全体) 授業は毎回プロジェクタを用いる。さらにプリントを配布する。2回に1度の程度で宿題を出すので、レポート提出する。最後の宿題は地球環境問題についてを課し、数人の学生にパワーポイントによる発表をしてもらう。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 環境衛生概論
- 第2回 項目 生活環境と健康：上水
- 第3回 項目 生活環境と健康：下水、廃棄物
- 第4回 項目 室内環境
- 第5回 項目 環境保健：大気汚染
- 第6回 項目 環境保健：水質汚濁
- 第7回 項目 騒音、振動
- 第8回 項目 I. 産業職場の環境衛生(産業衛生)
- 第9回 項目 II. 産業職場の環境衛生(産業衛生)
- 第10回 項目 栄養
- 第11回 項目 食品衛生
- 第12回 項目 地球環境
- 第13回 項目 その他

●成績評価方法(総合) 期末試験で主に評価するが、宿題レポート提出状態、レポート内容、授業内でのプレゼンテーションも加味して総合評価する。

●教科書・参考書 教科書：公衆衛生学, 眞野喜洋, 医歯薬出版株式会社, 2004年

●連絡先・オフィスアワー miwamoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：医学部保健学科4階

開設科目	疫学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	岩本美江子				

●授業の概要 疫学とは人間集団を対象にして人間の健康およびその異常を宿主、病因、環境の各面から包括的に研究し、その増進と予防を図る学問である。人間集団における健康障害の頻度と分布を研究し、そして、そのような分布が生じる原因を統計学的手法を用いて究明する事を理解する。理論と例題で理解を深める。／検索キーワード 疫学的尺度、スクリーニング検査、コホート研究、ケース・コントロール研究

●授業の一般目標 (1) 疫学の定義と方法論を説明できる。(2) 多様な研究デザインの利点と欠点を説明できる。(3) 基礎的な疫学的尺度を説明できる。(3) 疾病発生のパターンを説明できる。(4) 医学的サーベイランスを説明できる。(5) 疾患の集団発生を説明できる。(6) スクリーニング検査を説明できる。(7) コホート研究を説明できる。(8) ケース・コントロール研究を説明できる。(9) 実験型研究、介入研究を説明できる。(10) 因果関係を説明できる。(11) バラツキとバイアスを説明できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：(1) 疫学の定義と方法論を説明できる。(2) 多様な研究デザインの利点と欠点を説明できる。(3) 基礎的な疫学的尺度を説明できる。(3) 疾病発生のパターンを説明できる。(4) 医学的サーベイランスを説明できる。(5) 疾患の集団発生を説明できる。(6) スクリーニング検査を説明できる。(7) コホート研究を説明できる。(8) ケース・コントロール研究を説明できる。(9) 実験型研究、介入研究を説明できる。(10) 因果関係を説明できる。(11) バラツキとバイアスを説明できる。思考・判断の観点：授業で取り上げた各領域について、自分の意見を論理的に述べる事が出来る。関心・意欲の観点：問題意識を高める事が出来る。

●授業の計画（全体） 授業は毎回プロジェクトを用いる。授業の最後は演習問題で要点を整理する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 疫学とは
- 第 2 回 項目 疫学入門
- 第 3 回 項目 疫学的尺度
- 第 4 回 項目 疾患発生のパターン
- 第 5 回 項目 医学的サーベイランス
- 第 6 回 項目 疾患の集団発生
- 第 7 回 項目 診断学的検査
- 第 8 回 項目 臨床試験
- 第 9 回 項目 コホート研究
- 第 10 回 項目 ケース・コントロール研究
- 第 11 回 項目 実験研究、介入研究
- 第 12 回 項目 バラツキとバイアス
- 第 13 回 項目 疫学の重要問題
- 第 14 回 項目 遺伝疫学
- 第 15 回 項目 疫学文献の読み方

●成績評価方法（総合） 学期末試験と小テスト、宿題レポートで評価する。

●教科書・参考書 教科書：医学がわかる疫学，熊倉伸宏，高柳満喜子監訳，新興医学出版社，2004年／参考書：下記の本などを参考書として薦める。疫学（基礎から学ぶために）：日本疫学会編（南光堂）疫学マニュアル：柳川洋編（南山堂）

●メッセージ 検査技術科学専攻の学生にとって、この科目は選択であるが、臨床監査技師にとっても、今後研究を進めていくときに非常に大事な科目と思う。朝 1 番の授業であるが、出来るだけ選択を薦める。

●連絡先・オフィスアワー miwamoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：医学部保健学科4階

開設科目	救急医療概論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山勢博彰・藤澤怜子・本山仁美				
<p>●授業の概要 緊急に対応を迫られる救急医療の概要と救急医療システムを解説し、救急状況にある患者とその家族の総合的理解と医療職者の医療および看護活動について、必要な知識と方法を教授する。また、救急医療で遭遇する事が多い疾患・外傷等について解説する。／検索キーワード 救急医療、救急医学、救急看護、災害医療、災害看護、外傷、外傷看護</p> <p>●授業の一般目標 1、救急医療の概要と救急医療システムを理解できる。2、救急状況にある患者とその家族の総合的理解と医療職者の医療および看護活動（災害医療を含む）について理解できる。3、救急医療で遭遇する事が多い疾患・外傷などの病態とケアについて理解できる。4、基本となる救命技術を身に付ける。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：1、救急医療の概要と救急医療システムについて説明できる。2、救急状況にある患者とその家族について説明できる。3、救急医療にかかわる医療職者および看護活動（災害医療を含む）について説明できる。4、救急医療で遭遇する事が多い疾患・外傷などの病態とケアについて説明できる。5、心肺蘇生法について説明できる。 思考・判断の観点：1、救急患者のアセスメント能力を高めることができる。2、救急医療に関する諸問題を考えることができる。 関心・意欲の観点：1、救急医療の理解を通して、救命への関心を高めることができる。 技能・表現の観点：心肺蘇生法を実施することができる。</p> <p>●授業の計画（全体） 前半は救急医療や救急医療システム、救急看護全般について解説する。その後、救急患者のアセスメント、家族ケアの考え方、災害医療、救急医療に関する諸問題について講義をし、最後に心肺蘇生術の演習を行う。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 救急医療の概要と特徴 内容 救急医療とは、救急医療の特徴、日本の救急医療システム、救急医療の今日的課題</p> <p>第2回 項目 救急疾患、患者とその家族の特徴 内容 救急疾患・救急患者の特徴、患者とその家族の心理・社会的特徴</p> <p>第3回 項目 救急患者のアセスメント1 内容 トリアージと全身の系統的観察、フィジカルアセスメントの考え方と実際</p> <p>第4回 項目 救急患者のアセスメント2 内容 中枢神経系、呼吸器系のアセスメントと主要な検査</p> <p>第5回 項目 救急患者のアセスメント3 内容 循環器系、代謝系などのアセスメントと主要な検査</p> <p>第6回 項目 救急医療でみられる特殊な疾患と外傷1 内容 CPAOA（心肺機能停止）、急性循環・呼吸障害</p> <p>第7回 項目 救急医療でみられる特殊な疾患と外傷2 内容 急性腹症、熱傷、中毒</p> <p>第8回 項目 救急医療でみられる特殊な疾患と外傷3 内容 外傷（頭部、胸部、腹部、脊髄・四肢）</p> <p>第9回 項目 救急医療でみられる特殊な疾患と外傷に対する看護 内容 急性疾患、外傷等に対する看護の考え方と実際</p> <p>第10回 項目 災害医療の概要と特徴 内容 災害医療が展開される状況、災害医療における看護の役割</p> <p>第11回 項目 救急患者への対応 救急医療をめぐる問題 内容 ・心肺蘇生術のプロトコール、救急処置と心肺蘇生術の実際（演習）・倫理的問題、脳死と臓器移植（レポート）</p> <p>第12回 項目 救急患者への対応 救急医療をめぐる問題 内容 ・心肺蘇生術のプロトコール、救急処置と心肺蘇生術の実際（演習）・倫理的問題、脳死と臓器移植（レポート）</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>					

●成績評価方法(総合) 期末試験を主にする。

●教科書・参考書 教科書：救急看護論, 山勢博彰, ノーヴェルヒロカワ, 2005年 / 参考書：急変・救急時看護スキル, 山勢博彰, 照林社, 2004年；院内エマージェンシー, 山勢博彰, メヂカルフレンド, 2004年

開設科目	医療放射線学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	松永尚文				

●授業の概要 放射線医学の診断、核医学、放射線治療の日常放射線診療の実際を理解するために、画像の成り立ちと各疾患における特徴像、臓器特異性の核種を用いて機能的情報を提供する核医学的診断、放射線診断技術の治療的応用 (IVR) や集学的治療の臨床応用など、high technology を駆使した放射線診療を学習し、低侵襲的な検査の読影と集学的治療の役割を習熟する。また、放射線治療の日常診療の実際を理解するために、悪性腫瘍の由来の性質と放射線治療に対する腫瘍の感受性を学習し、放射線治療の役割を習熟する。／検索キーワード 放射線診断、核医学、放射線治療

●授業の一般目標 1) 放射線医学の歴史を述べることができる。2) 放射線医学の基本的事項を説明できる。3) 単純 X 線写真の画像の成り立ちと所見を説明できる。4) 超音波の原理、画像の成り立ちと所見を説明できる。5) CT の原理、画像の成り立ちと所見を説明できる。6) MRI の原理、画像の成り立ちと所見を説明できる。7) 血管造影・Interventional Radiology の手技と有用性について説明できる。8) 核医学の核種、その画像の成り立ちと所見を説明できる。9) 放射線治療の有用性について説明できる。10) 放射線被曝と放射線安全防護について説明できる

●授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 放射線医学総論 内容 放射線医学の歴史、診断に利用される X 線の性質、X 線装置を理解する。
- 第 2 回 項目 X 線診断 内容 造影検査、造影剤について理解する。X 線像診断の基本的なアプローチと心がまえを理解する。
- 第 3 回 項目 X 線診断 内容 X 線検査の基本的装置、検査法の種類と、画像診断の成り立ちを理解する。
- 第 4 回 項目 CT 診断 内容 CT の原理、断層画像表示の要点、造影 CT 検査の適切な施行方法、その意義と臨床的有用性を理解する。CT による全身の断層解剖を理解し、正常像と異常像の区別を理解する。
- 第 5 回 項目 血管造影 内容 血管造影の歴史、血管造影の利点、血管造影の手技、主要な血管造影所見、臨床的有用性と合併症およびその対策を理解する。
- 第 6 回 項目 IVR 内容 Interventional Radiology の概念、種類、臨床的有用性と限界、合併症とその対策を理解する。
- 第 7 回 項目 MRI 内容 MR の原理、MR の各種撮像法の特徴、アーチファクトの種類と原因と対策、MR 検査を安全に行うために留意すべき点、MR 用造影剤についてその種類、使用法などを理解する。
- 第 8 回 項目 超音波診断 内容 超音波診断の原理、各疾患に特徴的な超音波像を理解する。
- 第 9 回 項目 核医学診断の基礎 内容 放射性同位元素の定義と性質、放射性医薬品の特徴、放射線計測原理と使用目的、シンチカメラの構造と撮像原理、各種放射性医薬品で標的臓器が描出される原理、SPECT と PET 検査の原理を理解する。
- 第 10 回 項目 核医学診断の臨床 内容 各種脳疾患におけるシンチグラフィ所見を理解する。
- 第 11 回 項目 放射線治療、1 回目 内容 放射線治療に必要な放射線物理学 (単位、装置等)、生物学的基礎 (放射線の作用機序と感受性)、放射線治療 (根治治療と対症照射) の適応、照射技術、放射線治療の副作用 (急性障害と慢性障害) を理解する。
- 第 12 回 項目 放射線治療、2 回目 内容 放射線治療の適応疾患、その有効性、放射線治療手技 (外部照射法、内部照射法)、放射線治療の副作用と対策を理解する。
- 第 13 回 項目 放射線治療、3 回目 内容 放射線治療の適応疾患、その有効性、放射線治療手技 (外部照射法、内部照射法)、放射線治療の副作用と対策を理解する。
- 第 14 回 項目 放射線障害と健康管理 内容 自然放射線、医療被曝定量的に理解する。被曝提言策、放射線防護、健康管理についても理解する。

- 教科書・参考書 教科書：臨床放射線医学、医学書院（2,000 円）／参考書：標準放射線医学（第 6 版）（CD 付）（医学書院、12,000 円）
- メッセージ 臨床放射線医学を教科書とし、教科書に沿って講義をするので、必ず予習、復習してください。
- 連絡先・オフィスアワー 松永尚文： matsuna@yamaguchi-u.ac.jp、電話 22-2282

開設科目	緩和ケア論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	東玲子、齊田菜穂子				

●授業の概要 健康レベルが終末期にある人々とその家族を理解し、終末期患者及び家族のニーズ・健康問題を解決するために必要な考え方、理論及び具体的な方法を学ぶ。また、医療現場で患者や家族を取り巻く倫理的課題や終末期患者及び家族に対する看護者の役割・姿勢、他職種者との連携の重要性を学ぶ。
／検索キーワード 終末期看護、緩和ケア、人間としての尊厳、生活の質（QOL）

●授業の一般目標 1. 緩和ケア・終末期ケアの概念・意味とその歴史的背景を理解する。 2. 終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 3. 健康レベルの低下に伴い生じてくるニーズ・問題に対して、その人らしさを重視して質の高い生活を送れるような方向で援助する方法を理解する。 4. 終末期患者や家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、他職種者との連携の重要性を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 緩和ケア・終末期ケアの概念とその歴史的背景を述べることができる。 2. 終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴を述べるができる（進行がんの一般的な病態生理、告知・病状進行・死別による生理的・心理的反応）。 3. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を述べるができる。 4. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を解決するための具体的な方法を述べるができる。 5. 終末期患者の生活の質に関わる要因とその測定方法を述べるができる。 思考・判断の観点： 1. 対象の生活・生命の質を維持・向上させるような方向で援助することの意味を述べるができる。 2. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題をアセスメントできる。 3. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を解決するための具体的な方法を選択できる。 関心・意欲の観点： レポート、グループ討議に際して人間の生と死の意味、生命・人間の尊厳、終末医療現場の現状と課題、終末期患者の生活の質（QOL）に関わる要因等の情報収集・活用ができる。 態度の観点： 1. 終末期患者や家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、他職種者との連携の重要性を述べるができる。 2. グループ討議に積極的に参加している。 技能・表現の観点： グループ討議時の発表、レポートの表現が論理的である。 明快な表現ができる。

●授業の計画（全体） 前半は緩和ケア・終末期ケアの概念・意味とその歴史的背景、終末期医療の現状と課題について教授し、人にとっての死の意味や人としての尊厳を考察する。後半は終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴、健康レベルの低下に伴い生じてくるニーズ・問題に対する具体的な援助法を教授する。具体的な事例を用いてグループ討議をし、倫理的課題や看護者の役割・姿勢を考察する。中間と終末でグループ討議・発表を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 終末期に関わる 概念と意味及び その歴史的背景 内容 人間の死の意味 緩和ケア、ターミナルケアの概念と意味
- 第 2 回 項目 終末期医療の現状と課題 終末期医療の倫理的課題 内容 告知とインフォームドコンセント 患者の権利、援助に関わる倫理的課題
- 第 3 回 項目 グループ討議 内容 テーマは授業の中で提示する。
- 第 4 回 項目 終末期患者と家族の理解 終末期患者と家族の苦痛と援助 内容 終末期患者の身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛 身体的苦痛の緩和
- 第 5 回 項目 終末期患者と家族の苦痛と援助 内容 精神的苦痛と援助
- 第 6 回 項目 ホスピスケア 内容 ホスピスケアの理念 ホスピスの歴史 わが国のホスピスの現状と課題
- 第 7 回 項目 事例をグループ討議する。発表 内容 事例は授業の中で提示する。 授業外指示 レポート提出
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

●教科書・参考書 教科書：系統看護学講座 別巻10 ターミナルケア, 柏木哲夫、藤腹明子編集, 医学書院, 2000年 / 参考書：がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア, WHO 編, 武田文和訳, 金原出版,, 1994年

●連絡先・オフィスアワー 東 玲子 tel:0836-22-2813 azumar@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：研究室に在否を確認して訪室して下さい。 齊田菜穂子 tel:0836-22-2864 naho@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：研究室に在否を確認して訪室して下さい。

●備考 集中授業

開設科目	医療情報学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	篠原紀幸				

●授業の概要 1年生で、コンピュータを電子文房具として扱う能力「情報リテラシー」を習得し、2年生でコンピュータのしくみについて学んだ。それらを基礎にして当講義ではコンピュータネットワークのしくみと情報保護について一般的な事項を学んだ後、医療情報システムのしくみや特徴について学ぶ。／検索キーワード コンピュータネットワーク、プロトコル、セキュリティ、不正利用とその対策、医療情報システム、情報倫理

●授業の一般目標 1. 医療情報システムについて学ぶ上で基礎となるコンピュータネットワークのしくみを理解する 2. 情報保護の対策と利用者の倫理について学ぶ 3. 医療情報システムの特徴と導入の意義を理解する

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. インターネットのしくみについて基本的な事柄を理解し、インターネットのもつ負の部分に由来する不正なネットワーク利用の例と対策方法を指摘することができる。 2. 医療情報システムが持つべき特徴と問題点を指摘することができる。 思考・判断の観点： 1. 内外からの不正アクセスについて具体例を挙げ、その対策案を考えることができる 2. 医療情報システムを利用する際の問題となる事例をあげて説明し、対策を提案することができる 3. 自分のノートコンピュータのセキュリティ対策をすることができる

●授業の計画（全体） 授業では、以下の順に解説していく。 1. コンピュータネットワーク（インターネット）のしくみ 2. インターネットの不正利用とその対策。ネットワーク利用の倫理 3. 医療情報システムの特徴と利用者の倫理

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インターネット の歴史
- 第 2 回 項目 インターネットの種類と特徴
- 第 3 回 項目 ネットワークの構成
- 第 4 回 項目 ネットワーク通信プロトコル I
- 第 5 回 項目 ネットワーク通信プロトコル II
- 第 6 回 項目 ネットワーク通信プロトコル III
- 第 7 回 項目 ネットワーク利用の例 I
- 第 8 回 項目 ネットワーク利用の例 II
- 第 9 回 項目 セキュリティ対策とデータ保守 I
- 第 10 回 項目 セキュリティ対策とデータ保守 II
- 第 11 回 項目 医療情報システムの特性 I
- 第 12 回 項目 医療情報システムの特性 II
- 第 13 回 項目 医療情報システムの機能と運用
- 第 14 回 項目 医療情報の標準化
- 第 15 回

●成績評価方法（総合） 期末試験 100 %

●教科書・参考書 参考書： 資料を授業中に適宜配布

●連絡先・オフィスアワー Email: soarer@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	医療システム概論	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	篠原紀幸・中村準二				

●授業の概要 医療従事者にとってもコンピュータに関わる基本的な知識は必須である。これまでにコンピュータに関する多くの知識を身につけて来たが、今回もう一度集中講義の形式でおさらいしておきたい。8月には医療情報従事者資格の認定試験があるので、これに合格することを目標とする。当講義は2年生対象とあるが、2、3年生対象である。また看護学専攻の学生も選択可である。／検索キーワード ハードウェア、OS、コンピュータネットワーク、情報倫理、医療情報システム

●授業の一般目標 1. 医療情報技術者資格の認定試験に合格することを目標とする

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. コンピュータの構造とコンピュータネットワークのしくみを理解する 2. ネットワーク利用の利点と問題点を指摘することができる 3. コンピュータシステムの管理とデータ保守について対策法を指摘することができる 4. ネットワーク利用の倫理を理解する 5. 医療情報システムの特徴を挙げることができる 6. 医療情報システムの管理と保守の対策法および倫理について説明することができる

●授業の計画（全体） コンピュータのしくみとネットワークに関する一般的な事柄をはじめに解説する。その後山大病院検査部の検査技師長から医療情報システムの特徴、運用および管理などについて解説してもらう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 コンピュータのハードウェア構成と役割

第2回 項目 2進数と2値論理、データ表現

第3回 項目 基本ソフトウェアの種類と役割

第4回 項目 ネットワークシステム

第5回 項目 医療情報システム（1）

第6回 項目 医療情報システム（2）

第7回 項目 医療情報システム（3）

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

●成績評価方法（総合） 医療情報技師資格認定試験受験者は受験結果に基づいて成績をつける。未受験者はレポート提出によって成績をつける。なお、当該試験に既に合格した者は受講を免除し単位（優）を与える。

●教科書・参考書 参考書：資料を授業中に適宜配布

●連絡先・オフィスアワー 篠原 soarer@yamaguchi-u.ac.jp

●備考 集中授業

開設科目	保健福祉行政論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山崎秀夫				

●授業の概要 保健医療福祉活動に必要な基礎的知識である社会保障制度の概念と構成及び意義を概説し、社会保障の各種制度の理念と仕組み及び現代的課題について教授する。

●授業の計画（全体） 講義の概要説明 疫学・統計 寿命、健康寿命 地域保健・衛生行政 疾病リスクと感染症 体験学習 生活習慣病、健康管理・健康増進、公衆栄養 体験学習 母子保健・学校保健 環境保健、産業保健 調査研究 老人保健・福祉、障害者の医療と福祉、難病 国際保健、保健医療制度と法規 まとめ

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 講義の概略説明 内容 担当教員、シラバスについて説明する。

第 2 回 項目 疫学・統計 内容 疫学、保健統計学について説明する。

第 3 回 項目 寿命・健康寿命 内容 平均寿命や健康寿命等について説明する。

第 4 回 項目 地域保健・衛生行政 内容 地域保健行政、衛生行政について説明する。

第 5 回 項目 疾病リスクと感染症 内容 疾病発症のリスクを感染症の視点から説明する。

第 6 回 項目 体験学習 内容 地域住民の健康を知る。

第 7 回 項目 生活習慣病、健康管理・健康増進、公衆栄養 内容 生活習慣病等の慢性疾患について説明する。

第 8 回 項目 体験学習 内容 知ったことを人に説明する。

第 9 回 項目 母子保健・学校保健 内容 母子保健、学校保健について説明する。

第 10 回 項目 環境保健、産業保健 内容 環境保健、産業保健について説明する。

第 11 回 項目 調査研究 内容 調査方法を学ぶ。

第 12 回 項目 老人保健・福祉、障害者の医療と福祉、難病 内容 老人保健、医療と福祉等について説明する。

第 13 回 項目 国際保健、保健医療制度と法規 内容 国際保健、保健医療制度について、法令的視点から説明する。

第 14 回 項目 まとめ 内容 全体のまとめを行う。

第 15 回 項目 試験

●成績評価方法（総合） 期末試験を行う。毎回出席をとる。

●教科書・参考書 教科書：シンプル衛生公衆衛生学，鈴木庄亮、久道茂編集，南江堂，2004年／参考書：国民衛生の動向，厚生統計協会，厚生統計協会，2005年

開設科目	科学論文演習	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	石川敏三				

開設科目	基礎看護演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	未定				

- 授業の概要 様々な健康上の問題を持つ患者との接し方、日常生活の援助や検査時に有用な看護技術の基礎を教授する。
- 授業の一般目標 様々な健康上の問題を持つ患者との接し方、日常生活の援助や検査時に有用な看護技術の基礎を修得する。
- 授業の計画（全体） 集中して講義・演習を行う。
- メッセージ 各担当教官の指示に従って下さい。
- 備考 集中授業

開設科目	検査機器学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	石川敏三				

●授業の概要 近年、臨床検査領域では、その機械化や新しいセンサおよび人体機能を模倣した様々な機器・装置が、目がぐるしく開発されている。そこで、講義で物理、化学的基本知識の医療における応用の原理や実際の習得に加え、開発能力も身につけるさせることが重要である。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス（本講義の目標と概要）
- 第 2 回 項目 1. 共通検査等機器について
- 第 3 回 項目 秤量装置：天秤、計量器（計測、精度）
- 第 4 回 項目 分離装置：遠心分離器、濾過装置、恒温装置
- 第 5 回 項目 測光装置：光学の基礎について
- 第 6 回 項目 測光装置各論（分光、原子吸光、炎光、蛍光光度計）
- 第 7 回 項目 顕微装置
- 第 8 回 項目 電気化学装置
- 第 9 回 項目 精製水製造装置
- 第 10 回 項目 2. 検査機器の実際について
- 第 11 回 項目 自動分析
- 第 12 回 項目 電気泳動法
- 第 13 回 項目 血液検査用機器
- 第 14 回 項目 微生物検査用機器
- 第 15 回 項目 搬送システムと将来の自動化など まとめ

●教科書・参考書 教科書：検査機器学の理論と実際、石川敏三、自主出版、2002年

●メッセージ 全ての専門科目に繋がるので、基礎を大切にし、学習すること。又、いつも工夫して新しいもがけないかを探る習慣・発想を身につけさせたい。

開設科目	検査機器学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	岡野こずえ・篠原紀幸・末永弘美				

●授業の概要 実験を行なうに当たっての心構えや服装、器具の選び方と使い方、機器の基本的知識、および実験手技の熟達が要求される。また、出した結果についてレポート整理や解釈など、総合的に学習する。／検索キーワード 実習に対しての身だしなみや準備、実習と実習結果の整理と解釈、後片付け

●授業の一般目標 全ての実習に必要とされる実験者の身だしなみ・服装や態度、ピペットやビーカーなど実験用器具の洗浄方法や取り扱い方、実験用試薬類の取り扱い方や試薬の作製方法、一般的な遠心器や分光光度計などの測定用機器の基礎的原理の理解と使用方法を修得させる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1、実験用器具、実験用試薬類および一般的な機器の使用法や取り扱い方を理解し、説明できる。 思考・判断の観点： 1、実験に必要な器具、試薬、機器等を選び使用することができる。 2、実験の過程を理解し、結果を出すことができる。 3、出した結果を考察できる。 関心・意欲の観点： 1、実験で得られた結果から生じた問題点を追加実験等で解決できる。 態度の観点： 1、実験者らしい身だしなみおよび服装が身に付く。 2、積極的に実験を行なう。 3、実習グループのメンバーと強調できる。 4、自分の意見を主張できる。 5、レポートを作製できる。 技能・表現の観点： 1、測定器具や機器を安全に的確に使用できる。 2、自分の意見を論述できる。

●授業の計画（全体） 前半と後半と大きく2つの過程で実習を行なう。前半は、器具の洗浄や取り扱い方、試薬の扱い方や作製方法など基本的な操作を実習させる。後半は、実験目的にあわせた器具の選び方、実験の進め方、測定機器の使い方等を考えさせながら実習を行なわせる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 実習説明と試薬・機器の準備 基本実習（洗浄、採量、天秤、実習室・機器の説明）内容 4班に分かれて、一項目ずつ行なう

第2回 項目 基本実習（洗浄、採量、天秤、実習室・機器の説明）内容 ”

第3回 項目 ” 内容 班毎に項目を換えて実習を行なう

第4回 項目 ” 内容 班毎に項目を換えて実習を行なう

第5回 項目 基礎実習（滴定曲線、中和滴定、分光光度計、採量検定）内容 基本実習と同様に4班にわかれて1項目ずつ行なう

第6回 項目 ” 内容 班毎に項目を換えて実習を行なう

第7回 項目 ” 内容 班毎に項目を換えて実習を行なう

第8回 項目 ” 内容 班毎に項目を換えて実習を行なう

第9回

●成績評価方法（総合） 1、後半の実習に関しては、項目ごとにレポートを提出する。 2、実習の出席率とレポート評価から総合判断する。

●メッセージ 実習を行なう際の基本的事項を身につける。実習は一回のみであるので、体調を整えて必ず出席するようにして欲しい。やむを得ず欠席した際は、別の時間に補修を行なう。

●連絡先・オフィスアワー kozue@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	医療工学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	石川敏三				

開設科目	医療工学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	石川敏三・松井智浩				

開設科目	情報科学演習	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	篠原紀幸				

●授業の概要 1年生の「情報処理演習」ではコンピュータを電子文房具として扱う能力「情報リテラシー」を習得するために、ワープロソフト等のアプリケーションソフトでさまざまな技法を使ってファイルを作成する作業をしてきた。今度はコンピュータのしくみに話を進め、ファイルとはなにか、Windowsとアプリケーションソフトとの関係は、などコンピュータそのものに関する講義を通じて理解を深めていく。／検索キーワード ハードウェア、基本ソフトウェア、応用ソフトウェア、2進数、2値論理(ブール代数)

●授業の一般目標 1.ハードウェアの種類や構成を理解できる 2.2進数の計算や2値論理を理解できる 3.OSの働きが理解できる 4.OSと応用ソフトウェアとの関係が理解できる

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1.ハードウェア相互の関連を理解する 2.2進数や2値論理を使った演算ができる 3.自分のコンピュータの基本情報を読んで理解することができる 4.OSの役目を理解し、機能を挙げるができる 思考・判断の観点：1.自分のノートパソコンのセキュリティ対策を講じることができる 2.ソフトウェアをインストールすることができる

●授業の計画(全体) コンピュータの歴史的発展について説明した後、現代のコンピュータのしくみをハードウェア、ソフトウェアの順に解説する。ハードウェアについては種類と働き、相互の関連性を説明する。また論理回路の面から簡単な計算機のしくみを解説する。ソフトウェアについてはOSの役目といくつかの主要な機能を解説する。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 コンピュータの歴史
- 第2回 項目 2進数と2値論理、データ表現
- 第3回 項目 ハードウェア構成
- 第4回 項目 CPUと主記憶装置
- 第5回 項目 補助記憶装置
- 第6回 項目 入出力装置
- 第7回 項目 外部接続の規格と通信
- 第8回 項目 基本ソフトウェアの種類と役割I
- 第9回 項目 基本ソフトウェアの種類と役割II
- 第10回 項目 基本ソフトウェアの種類と役割III
- 第11回 項目 ファイルシステムI
- 第12回 項目 ファイルシステムII
- 第13回 項目 ネットワークデバイス
- 第14回 項目 LAN通信プロトコル
- 第15回

●成績評価方法(総合) 期末試験 100%

●教科書・参考書 参考書：資料を授業中に適宜配布

●連絡先・オフィスアワー Email: soarer@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	環境衛生学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	岩本美江子・山城安啓・末永弘美				

●授業の概要 1年前期に学んだ環境衛生学の実習である。環境衛生学実習に用いられる基本的な化学的測定方法は、すでに検査機器学で習得したものとする。したがってこの実習では、実習を通じて技術面で検査方法を習得するよりも、むしろすでに学んだ技術を用いて実習課題にアプローチするよう説明する。すなわち環境衛生学実習では、与えられた課題を十分に考慮し、調査対象を自ら選択して正確に測定し、さらに得た測定（調査）結果に対する公衆衛生学的背景を含めて理解し考察するように説明する。なお実習は各人がグループで毎回異なった実習をするよう、実習項目全てをローテーションして実施し、最終の実習項目に関しては発表させる。／検索キーワード 水質、空気、物理的環境、疲労、食品添加物

●授業の一般目標 (1) 水質環境の測定指標・測定意義を理解する。(2) 空気環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定することができ、結果を評価できる。(3) 物理的環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定することができ、結果を評価できる。(4) 疲労の測定意義を説明できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：(1) 水質環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定し、結果を評価する。(2) 空気環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定し、結果を評価する。(3) 物理的環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定し、結果を評価する。(4) 疲労の測定意義を説明し、測定し、結果を評価する 思考・判断の観点：各種環境測定テーマにつき、問題点を指摘出来る。 関心・意欲の観点：各種環境測定テーマにつき、討議できる。

●授業の計画（全体） 学生は実習項目すべてをローテーションして実施する。よって毎回、すべての実習が行われていることになる。それぞれの項目について、試料の採取や、環境測定場所の決定は学生が考える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 実習講義、実習準備（試薬作り） 内容 実習項目全てをグループでローテーションして行う。
- 第 2 回 項目 窒素化合物（河川試験）
- 第 3 回 項目 COD,DO,BOD
- 第 4 回 項目 細菌試験（河川試験）（自由検体）、SS(河川試験)
- 第 5 回 項目 室内空気環境測定、残留塩素測定（上水道試験）
- 第 6 回 項目 騒音測定、電磁波測定、紫外放射線測定
- 第 7 回 項目 疲労検査、または選択実習項目
- 第 8 回 項目 発表会
- 第 9 回

●成績評価方法（総合） レポート作成、パワーポイントによる発表および筆記試験で評価する。

●教科書・参考書 教科書：作成実習書を配布する。／参考書：図書館にある衛生試験法・注解（日本薬学会編・金原出版株式会社）を参考とすることが出来る。

開設科目	生化学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	渡部省二・田中経彦・山城安啓				

●授業の概要 生化学は生物科学の基礎であり、その実験技術は生物科学のほとんどの分野において利用される。本実習においては、生化学の重要な、また応用の可能性が大きい実験技術を学び、これを習得する。／検索キーワード 酵素、細胞分画、電気泳動、ブロッティング

●授業の一般目標 細胞分画、酵素の抽出、酵素活性の測定、電気泳動、およびブロッティングの技術を学び、これを習得する。実験データをパソコンで処理し、図式化する方法を習得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：細胞分画の原理を理解する。酵素活性測定の原理を理解する。タンパク質の電気泳動およびブロッティングの原理を理解する。酵素反応の反応速度論を理解する。思考・判断の観点：酵素活性の測定が最適の条件であるかどうかを判断する。実験結果の妥当性を判断する。期待される結果と異なる結果が出た場合、その原因を考察する。態度の観点：欠席せずに、実習内容を予習し、手際よく実験を行う。技能・表現の観点：分画遠心による細胞分画の方法を習得する。酵素活性の測定の技術を習得する。酵素の K_m および V_{max} を実験により求める方法を習得する。ポリアクリルアミド電気泳動、およびブロッティングの技術を習得する。パソコンを使用してデータ解析できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 実習説明および 試薬の調整
- 第 2 回 項目 ラット肝臓の細胞分画および小腸からの酵素の抽出 内容 2班に分け、前半(第2-5週)と後半(第6-9週)を入れ替える。
- 第 3 回 項目 タンパクおよび 酵素活性の測定 (1)
- 第 4 回 項目 酵素活性の測定 (2)
- 第 5 回 項目 K_m 、 V_{max} の測定
- 第 6 回 項目 マウスの各臓器からの酵素の抽出
- 第 7 回 項目 LDH のポリアクリルアミド電気泳動泳動：活性染色
- 第 8 回 項目 SDS-PAGE
- 第 9 回 項目 ブロッティング
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法 (総合) レポートによる

●教科書・参考書 教科書：初日にこちらで作成したテキストを配布する。

●メッセージ あらかじめ予習し、実習内容を理解しておくこと。実習の資料はホームページ（WEBシラバスからリンク）に掲載されているので参照すること。また、電気泳動の写真等のデータもホームページに掲載する。 <http://www.sv.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/practice.htm>

●連絡先・オフィスアワー shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	分子生物学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	渡部省二				

●授業の概要 メンデルの法則の再発見から約一世紀、遺伝子が DNA であることが証明されてから約半世紀が経った。そして、20 世紀の最後の四半世紀には遺伝子を中心とした生命科学は驚くべき発展をとげた。この発展に最も大きく貢献したのは組換え DNA 実験技術の開発であろう。本講義では組換え DNA 実験技術を中心とした実験技術と実験的根拠を含めて、遺伝子の生化学を広く解説する。／検索キーワード 遺伝子、転写、翻訳、DNA、RNA、進化

●授業の一般目標 生物がどのような形で自分自身の遺伝情報をもっていて、どのようにしてそれを発現させ、生命活動を営んでいるかを、分子レベルで理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：DNA の構造と複製の機構を理解する。DNA からタンパク質への情報の流れの機構を理解する。タンパク質の合成の機構を理解する。遺伝子の発現調節の機構を理解する。遺伝子は普遍ではないことを知り、遺伝子の変化の機構を理解する。遺伝子の変化が進化の原動力であることを理解する。思考・判断の観点：遺伝子の分子生物学の基礎を遺伝病、遺伝子治療等の理解に応用できる。態度の観点：予習復習をして、まじめに授業に取り組む。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ヌクレオチドと 核酸
- 第 2 回 項目 DNA の複製
- 第 3 回 項目 DNA の変異と修復
- 第 4 回 項目 DNA からタンパク質へ：転写
- 第 5 回 項目 DNA からタンパク質へ：翻訳
- 第 6 回 項目 遺伝子と生命の起原
- 第 7 回 項目 染色体の構造とゲノム
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 遺伝子発現の調節、ウイルスとプラスミド
- 第 10 回 項目 遺伝子の変化
- 第 11 回 項目 進化
- 第 12 回 項目 遺伝子のクローニング
- 第 13 回 項目 クローン化した遺伝子の解析
- 第 14 回 項目 遺伝子データベースの利用
- 第 15 回 項目 筆記試験

●成績評価方法（総合）授業の中で中間試験を行う。期末試験を行う。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書：Essential 細胞生物学, B. Alberts 他, 南江堂, 1999 年；次の URL に講義資料をおいてあるので、各自ダウンロードすること。（この資料は随時更新しているので更新日を注意のこと。）保健学科シラバスからもリンクしている。http://www.sv.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/pologin/molbiol.htm

●メッセージ 講義の資料はホームページ（WEB シラバスからリンク）に掲載されているので参照すること。講義時間にすべてを網羅することは時間的に不可能であるので、各自テキストで予習、復習すること。

●連絡先・オフィスアワー shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	分子生物学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員					

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 実習説明および 試薬の調整
- 第 2 回 項目 血液からの DNA の抽出、精製；プラスミドの精製
- 第 3 回 項目 制限酵素による プラスミドの切 断とアガロース 電気泳制限酵素 によるプラスミドの切 断とアガ ロース電気泳動 による分離
- 第 4 回 項目 アガロースゲル からの DNA の回 収、発現ベクターへの組換え
- 第 5 回 項目 Green Fluorescent Protein (GFP) 遺伝子のクロー ニング
- 第 6 回 項目 Protein (GFP) 遺伝子の発現；ALDH の遺伝子診断
- 第 7 回 項目 Green Fluorescent Protein (GFP) 遺伝子の発現、蛍光顕微鏡による観察
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

開設科目	遺伝検査学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	塚原正人				

●授業の概要 検査遺伝学には分子遺伝学、細胞遺伝学、分子細胞遺伝学がある。このうちの細胞遺伝学および分子細胞遺伝学はさまざまな遺伝現象を細胞すなわち染色体レベルで研究する 遺伝学分野である。その理解のためには、染色体に関する知識のみならず、ヒトの遺伝の仕組みを理解することが重要である。本講義では細胞遺伝学・分子細胞遺伝学に重点を置き、染色体の構造・機能および疾病との関係を理解するとともに、広くヒト遺伝医学の知識を習得することを目標とする。／検索キーワード 染色体 (chromosome)、ヌクレオソーム (nucleosome)、染色体標本作製法、染色体分染法 (chromosome banding)、FISH (Fluorescence in situ hybridization)

●授業の一般目標 1. 染色体と DNA ・遺伝子との関係を理解し、説明することができる。 2. 染色体異常と単一遺伝子病の違いを説明することができる。 3. 染色体検査法について理解し、説明することができる。 4. 染色体の命名法、記載法について理解し、説明することができる。 5. 染色体分染法について理解し、説明することができる。 6. 染色体核型について理解し、記載することができる。 7. 染色体異常について理解し、説明することができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：染色体と DNA ・遺伝子との関係を理解し、説明することができる。染色体標本を作成し、観察することができる。 思考・判断の観点：染色体を遺伝学的観点から見て、考えることができる。 技能・表現の観点：美しい染色体標本を作成し、観察することができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 染色体標本作成についての説明 とリンパ球培養 開始 内容 染色体標本作成 法（培養液、試料、培養時間、収穫、観察）についての概略説明と実際に採血して培養を開始する。

第 2 回 項目 染色体標本作成 と観察（ギムザ染色） 内容 染色体標本を作成し、ギムザ染色液で染色後 染色体を観察・スケッチする。翌日のG-バンド染色体作成のためにスライドを60℃で加熱・放置する。

第 3 回 項目 G-バンド標本作成と観察 内容 G-バンド染色体標本を作成し、ギムザ染色液で染色後染色体を観察・スケッチする。

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法 (総合) レポート、試験、出席率などによる（単位認定の最低条件：総授業数の2/3以上の出席およびレポート提出）

●教科書・参考書 教科書：臨床検査学講座 遺伝子・染色体検査学, 奈良信夫他, 医歯薬出版, 2002年

●メッセージ 遺伝現象の神秘・不思議さを学んで欲しい。

開設科目	組織学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	高橋睦夫				

●授業の概要 組織学は疾患を理解するために基本となる学問であるのみでなく、将来、遺伝子や分子工学を含めた種々の研究に従事する際においても、組織学の知識は不可欠である。本授業では解剖学的事項と関連して、組織・器官の構築および細胞の微細構造とその働きを教授するとともに、各組織の構造の役割や構成細胞の機能についても講義する。／検索キーワード 器官 組織 細胞 構造 機能

●授業の一般目標 人体の各器官の組織構築，構成細胞とその機能を理解し，知識として習得できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：組織・器官の構築，細胞の微細構造とその働きおよび各組織の構造の役割や構成細胞の機能を理解・把握し，知識として習得できる。思考・判断の観点：正常の組織構築や細胞の機能を理解・把握することにより，疾病を理解することを容易にする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 細胞
- 第2回 項目 上皮組織
- 第3回 項目 結合織、骨・軟骨、筋肉組織
- 第4回 項目 神経組織
- 第5回 項目 脈管系、血液、骨髄
- 第6回 項目 リンパ性器官
- 第7回 項目 消化器系
- 第8回 項目 消化器系
- 第9回 項目 呼吸器系
- 第10回 項目 泌尿器系
- 第11回 項目 生殖器
- 第12回 項目 内分泌系
- 第13回 項目 皮膚、乳腺
- 第14回 項目 感覚器系

●成績評価方法（総合）小テストと定期試験で評価するが，授業態度の不良者や規程の出席回数に充たないものは欠格条件とする。

●教科書・参考書 教科書：入門組織学，牛木辰男著，南江堂，2002年

●連絡先・オフィスアワー E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp, Tel/Fax: (0836) 22-2845, 連絡先：保健学科管理棟4階(411), オフィスアワー：随時

開設科目	組織学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	高橋睦夫・尾野緑・山本美佐				

●授業の概要 組織学は解剖学とともに身体の構造やしくみを理解するために必要な学問のみでなく、疾病（疾患）を理解するためにも基本となる学問である。本実習では生体の代表的な組織標本を光学顕微鏡で観察して、各組織や器官の構築と微細構造を理解するとともにその構成細胞の形態と機能との関係についても理解・把握する。／検索キーワード 組織構築 構成細胞 顕微鏡 形態学 機能

●授業の一般目標 人体の代表的な臓器・器官の組織構築や構成細胞を顕微鏡で観察し、知識として把握・習得できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：組織や器官の構築と微細構造を理解・把握し、その知識を習得できる。 思考・判断の観点：組織構築や細胞の微細構造からその機能を判断できる。 技能・表現の観点：代表的な器官・組織の構築と構成細胞の微細構造をスケッチできる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション、骨・軟骨、骨格筋、心臓
- 第 2 回 項目 皮膚、耳下腺、舌下腺、顎下腺、気管支、肺
- 第 3 回 項目 食道、胃、胃/十二指腸、空腸、回腸、大腸、肝、膵
- 第 4 回 項目 甲状腺、副甲状腺、副腎、下垂体、腎、膀胱
- 第 5 回 項目 中間テスト、精巣、前立腺、乳腺、子宮
- 第 6 回 項目 卵巣、胎盤、口蓋扁桃、胸腺、リンパ節、脾、骨髄
- 第 7 回 項目 大脳、小脳、延髄、脊髄、眼球
- 第 8 回 項目 テスト、標本整理

●成績評価方法（総合） 中間テストと期末試験で評価するが、授業態度の不良者や規程の出席回数に満たないものは欠格条件とする。

●教科書・参考書 教科書：入門組織学，牛木辰男著，南江堂，2002年／参考書：組織学実習参考資料（教官作製資料）

●連絡先・オフィスアワー E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp, Tel/Fax: (0836) 22-2845, 連絡先：保健学科管理棟4階(411), オフィスアワー：随時

開設科目	病理形態学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	高橋睦夫				

●授業の概要 病理形態学では病理学を基礎にして臓器別により細かく疾患について学ぶ。病理学がきちんと身に付いていれば、病理形態学に出てくる疾患の多くは既にその成り立ちが解っている。病理形態学はその応用であるから、非常に理解しやすいはずである。単に講義を聴くという受け身の勉強ではなく、自分の知識を整理し、考える習慣をつけて欲しい。「何故、どうして、そうなるのか？」を考えるのが病理形態学である。／検索キーワード 循環器、呼吸器、消化器、泌尿生殖器、内分泌器、造血器、神経系

●授業の一般目標 機能別系統を構成している臓器とその機能や組織像等が基本であり、基本的事項を質問しながら講義を進める。各系の臓器に特有な重要疾患の特徴、原因、経過は何かを理解し、その臓器に何故発生し、どの様な影響が全身に及ぶのか考察する。病理学的検査が最も重要視されるのは腫瘍性疾患であり、細胞検査士を目指す学生には不可欠の知識である。不明な点は積極的に質問し、正確な知識を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 基本的病変が起こりやすい臓器をあげることができる。 2. 各臓器に特有な疾患は何か理解している。 4. 系統的に臓器を冒す全身性疾患について述べる事が出来る。 5. 各疾患と年齢、性、人種に依る差違を理解している。 思考・判断の観点： 1. 基本的病変が発生した結果どんな影響が全身に及ぶか説明できる。 2. 全身性疾患の発生病理や、経過を考察できる。 関心・意欲の観点： 1. 病理形態学を学ぶために、病理学を復習する意欲がある。 2. 解剖学、組織学の知識を病理形態学とを結びつけようとする意欲を示す。 態度の観点： 知識のまる覚えではなく、常に何故かと疑問を持ち、理解しようする意欲がある。

●授業の計画（全体） 講義は教科書に則って進めるが、病理形態学は形態学中心の学問であり、肉眼像や組織像が重要であるので、教材提示装置を使って、典型的な病変のカラー写真を提示する。講義を聴くだけの受身の授業ではなく、積極的に質問し、学生が中心となる活気ある授業を期待する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 循環器系 1 内容 1. 心臓 a. 心奇形 b. 肥大・拡張 心不全 c. 虚血性心疾患 d. 炎症 授業外指示 心臓の解剖と発生 胎生期循環 心筋、平滑筋、骨格筋の組織学的違い
- 第 2 回 項目 循環器系 2 内容 1. 心臓 e. 弁膜症 f. 腫瘍 2. 血管 a. 動脈 b. 静脈 c. リンパ管 d. 脈管の腫瘍 授業外指示 動脈の種類と組織構造 動脈と静脈の構造の違い 主要なリンパ液の流れ
- 第 3 回 項目 呼吸器系 1 内容 1. 上気道 a. 炎症 b. 肥大過形成 c. 腫瘍 2. 気管支・肺 a. 形成異常 b. 周産期疾患 c. 循環障害 d. 気管支疾患 e. 肺の炎症 f. 空気含量異常 g. その他 授業外指示 上気道の解剖と組織 肺の解剖と組織 肺循環
- 第 4 回 項目 呼吸器系 2 内容 2. 気管支・肺 h. 腫瘍 3. 胸膜 a. 気胸 b. 胸膜炎 c. 胸膜の腫瘍
- 第 5 回 項目 消化器系 1 内容 1. 口腔・唾液腺 a. 口腔の疾患 b. 唾液腺疾患 2. 食道 a. 発育異常 b. 内腔の以上 c. 循環障害 d. 炎症 e. 腫瘍 3. 胃 a. 発育異常 b. 炎症 c. 消化性潰瘍 授業外指示 口腔、唾液腺、食道、胃の解剖と組織
- 第 6 回 項目 消化器系 2 内容 3. 胃 d. 腫瘍および腫瘍様病変 4. 腸 a. 発育異常 b. 腸閉塞症 c. 循環障害 d. 炎症 e. 腫瘍および腫瘍様病変 授業外指示 腸の解剖と組織
- 第 7 回 項目 消化器系 3 内容 5. 肝 a. 循環障害 b. 肝炎 c. アルコール肝障害 d. 肝硬変 e. 腫瘍 授業外指示 肝の解剖と組織 肝の機能 肝の血液循環
- 第 8 回 項目 消化器系 4 内容 6. 胆道・胆嚢 a. 先天性異常 b. 胆嚢炎 c. 胆石症 d. 胆嚢癌 e. 肝外胆管癌 7. 膵臓 a. 輪状膵 b. 嚢胞線維症 c. 膵炎 d. 腫瘍 8. 腹膜 a. 腹膜炎 b. 腹水 c. 腫瘍 授業外指示 膵胆管系の解剖と組織

- 第 9 回 項目 内分泌系 内容 1. 下垂体 2. 松果体 3. 甲状腺 4. 副甲状腺 5. 膵島 6. 副腎 授業外指示 内分泌系の解剖と組織 ホルモン作用
- 第 10 回 項目 泌尿器系 1 内容 1. 腎 a. 先天異常 b. 血管の障害 c. 糸球体病変 d. 尿細管の病変 e. 腫瘍 授業外指示 腎の解剖と組織
- 第 11 回 項目 泌尿器系 2 生殖器系 1 内容 2. 下部尿路 結石 炎症 腫瘍 1. 男性性器 a. 停留睪丸 b. 精巣腫瘍 c. 前立腺疾患 2. 女性生殖器 a. 外陰・膣 b. 子宮頸部 c. 子宮体部 授業外指示 下部尿路の解剖と組織 生殖器の解剖と組織 女性ホルモンと子宮内膜
- 第 12 回 項目 生殖器系 2 内容 d. 絨毛性疾患 e. 卵管 f. 卵巣 2. 乳腺 a. 炎症 b. 増殖性疾患 c. 腫瘍
- 第 13 回 項目 造血系 内容 1. 骨髄 a. 赤血球異常 b. 白血球異常 c. 血小板異常 d. 骨髄異形成 症候群 e. 形質細胞腫 2. リンパ節 a. 炎症 b. 腫瘍 3. 脾 4. 胸腺 授業外指示 末梢血血液像 リンパ節・脾 臓・胸腺の解剖と組織
- 第 14 回 項目 神経系 感覚器系 運動器系 皮膚 内容 1. 中枢神経系 a. 血管障害 b. 感染症 c. 脱髄疾患 d. 腫瘍 2. 末梢神経 聴器 視器 骨 骨格筋 炎症 腫瘍 授業外指示 中枢神経系の解剖と組織

●成績評価方法 (総合) 定期試験と小試験

●教科書・参考書 教科書：わかりやすい病理学, 岩田隆子, 恒吉正澄, 宮原晋一編集, 南江堂, 2000 年 / 参考書：Essential Pathology, E.Rubin, Lippincott W.W. 西村書店, 2001 年; 外科病理学, 石川栄世他, 文光堂, 1999 年

●メッセージ 臓器別の病変を学ぶので各臓器の形態や機能の特徴を理解していることが極めて重要。

●連絡先・オフィスアワー 22-2829 在室しているかぎり、位置でも対応します。質問大歓迎

開設科目	病理検査学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	上田順子				

●授業の概要 病理検査学では臨床検査の重要な部門の一つである病理学的検査について学ぶ。病理学的検査の中では組織標本の作成と細胞診が重要な柱である。組織標本の作成過程は複雑で、目的に応じた染色法も理解しなければならない。病理学や病理形態学との関連が深いので、質問しながら講義を進める。理解の程度を自覚するため、毎回5分間の小テストを行うので、充分復習して講義に臨むこと。／検索キーワード 固定、脱水、包埋、薄切、染色、凍結切片、迅速標本、細胞診、電子顕微鏡、病理解剖

●授業の一般目標 1. 光学顕微鏡や電子顕微鏡による検査の意義が説明できる。 2. パラフィン切片や超薄切片について説明できる。 3. 特殊染色の種類と目的と方法が理解できる。 4. 病理解剖の意義について説明できる。 5. 細胞診の目的や方法や観察法について理解している。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. どのような疾患に病理学的検査が必要なのか説明できる。 2. 具体的にH E 標本や電顕標本の作成法を説明できる。 3. 細胞診の有用性を説明できる。 4. Papanicolaou 染色法について説明できる。 5. 病理解剖に関する法律や、病理解剖の概要を理解している。 思考・判断の観点： 1. 病理学的検査と生化学的検査の長所と短所を判断できる。 2. 特殊染色の必要性が考察できる。 3. 組織診と細胞診の長所と短所を考察できる。 関心・意欲の観点： どのような病理学的検査があり、それがどの様に臨床に役立つのか興味を持って学ぼうとする意欲を示す。

●授業の計画（全体）（2005年度は講義済み：2006年度より3年生前期に開講） 1～5回（上田担当）：検査の基礎とパラフィン切片の染色について。 6, 7回（上田担当）：凍結切片、組織化学、免疫組織化学について 8～11回（上田担当）：基礎、女性生殖器、呼吸器、尿路、体腔液について 12回（高橋担当）：乳腺、リンパ節、甲状腺、神経系について 13, 14回（高橋担当）：電顕標本および病理解剖について。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 組織診の概要 固定法 内容 1. 検体受付と 処理 2. 切り出し 3. 標本作成 4. 薄切 5. 染色 1. 固定の概要
- 第2回 項目 固定法 脱灰 パラフィン包埋法 内容 2. 固定液の種類 1. 操作の概要 2. 各種脱灰法 1. 特徴 2. 特性 3. 包埋操作 4. 自動包埋装置
- 第3回 項目 パラフィン包埋 薄切法 パラフィン切片 染色法 内容 1. ミクロトーム 2. ミクロトーム刀 3. 薄切法 4. 失敗の原因 1. 色素と染色性 2. 染色器具 3. 染色法の概要
- 第4回 項目 パラフィン切片 染色法 内容 4. 各種染色法 H E 染色 多糖類染色 ムコ多糖類 膠原線維 弾性線維 鍍銀法
- 第5回 項目 パラフィン切片 染色法 内容 4. 各種染色法 線維素 アミロイド 核酸 神経組織
- 第6回 項目 パラフィン切片 染色法 凍結切片 迅速組織診 内容 4. 各種染色法 病原体 生体色素・鉄 カルシウム 血液細胞 内分泌細胞 1. 脂肪染色 2. 中枢神経組織 クリオスリット
- 第7回 項目 組織化学 分子病理学 内容 1. 酵素組織化学染色 2. 免疫組織化学染色
- 第8回 項目 細胞診総論 内容 検体採取、処理 固定 染色 迅速細胞診 スクリーニング の実際
- 第9回 項目 細胞診断各論 バイオハザード テレパソロジー 精度管理 内容 1. 女性生殖器
- 第10回 項目 細胞診断各論 内容 2. 下気道の細胞診
- 第11回 項目 細胞診断各論 内容 尿路系・体腔液 の細胞診
- 第12回 項目 細胞診断各論 内容 乳腺、リンパ節、甲状腺、唾 液腺、神経系、骨軟部組織の細胞診
- 第13回 項目 電子顕微鏡 内容 透過型電子顕微鏡標本の作成 電顕的免疫組織化学 走査型電子顕微鏡
- 第14回 項目 病理解剖 内容 病理解剖とは 規則と手続き 病理解剖の実際 死と死後変化 結果の報告 記録と保管

第 15 回

- 教科書・参考書 教科書：病理検査学のすべて, 大西俊造他, 文光堂, 2002 年

開設科目	病理検査学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	高橋睦夫・上田順子・尾野緑・山本美佐				

- 授業の概要 病理検査学実習では病理学的検査に必要な病理組織学的検査法を実習し、病理組織学や細胞診の基礎を学習する。／検索キーワード 永久標本、パラフィン切片、特殊染色、迅速標本、電顕標本、免疫組織化学、病理組織標本、細胞診
- 授業の一般目標 1. 基本的な病理組織標本が分かる。 2. 組織を切りだし、H E 染色標本が作成できる。 3. 重要な特殊染色標本を作成し、その意義を説明できる。 4. 基本的な良性細胞悪性細胞が鑑別できる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 病理組織標本の意義を理解している。 2. 病理組織標本の作成方法を理解している。 3. 細胞診の意義と、観察方法を理解している。 思考・判断の観点： 1. 病理組織標本がどの様に臨床に応用されているか考察できる。 2. 細胞診が何故必要か考察できる。 関心・意欲の観点： 複雑な病理標本作製過程に関心が高く、意欲を持って取り組んでいる。 細胞診に興味を持っている。 態度の観点： 真面目に実習に取り組んでいる。 技能・表現の観点： 観察に耐える標本が作成できる。 基本的な細胞や組織が分かる。
- 授業の計画（全体） 実習についての詳細は後期実習の始まる前に実習マニュアルを配布する。 実習の始まる前に、病理検査学の試験を行う。 細胞診については前期に細胞検査士コースの実習に合わせて行う。

開設科目	病理検査学病院実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	高橋睦夫				

●授業の概要 構造制御病態学講座（病理学第一講座）で病理組織標本作製法と病理組織診断について学び、病理部で細胞診標本の作製法と細胞診断法について学習する。／検索キーワード 病理組織標本，組織診断，細胞診標本，細胞診断，病理解剖

●授業の一般目標 病理組織標本の作製，細胞診標本の作製，各臓器の組織診断，代表的な病理組織診断と細胞診断ができる。

●授業の到達目標／ 思考・判断の観点： 代表的な疾患を病理組織標本や細胞診標本から判断でき，知識として習得できる。 技能・表現の観点： 病理組織標本の作製と細胞診標本の作製ができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 病理組織標本の 薄切，生検標本 や迅速標本作製 法の見学

第 2 回 項目 HE 染色と臓器診 断，生検標本や 迅速標本作製法 の見学

第 3 回 項目 薄切した不良標 本の切り直し

第 4 回 項目 特殊染色とその 観察

第 5 回 項目 実験動物室実習

第 6 回 項目 細胞診標本の検 体処理，染色， スクリーニング

第 7 回 項目 細胞診標本の検 体処理，染色， スクリーニング

第 8 回 項目 細胞診標本の検 体処理，染色， スクリーニング

第 9 回 項目 細胞診標本の検 体処理，染色， スクリーニング

第 10 回 項目 細胞診標本の検 体処理，染色， スクリーニング

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法（総合）・作製した病理組織・細胞診標本の評価・採点・臓器診断，病理組織・細胞診診断についての評価・採点・出席率は評価の対象としないが，欠格条件

●教科書・参考書 教科書： 指定なし

●連絡先・オフィスアワー E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp, Tel/Fax: (0836) 22-2845, 連絡先：保健学科管理棟 4 階 (411), オフィスアワー：随時

開設科目	微生物検査学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	梅田昭子・常岡英弘				

●授業の概要 病原微生物における各論の講義である。すなわち細菌・ウイルス・真菌における細かな分類と、そこに属する各微生物の特徴・病原因子・感染症・治療と予防について解説し、とくに臨床検査における同定の決め手となる性状については原理とその検査法の説明を行なう。／検索キーワード 病原微生物、感染症、細菌同定法

●授業の一般目標 臨床微生物検査に必要な細菌・真菌・ウイルス・プリオンにおける各属、各種の病原微生物の個々の性状の正しい知識を習得し、それらが引き起こす各感染症の特徴と予防法・治療法について習熟し、医療従事者として医療現場において感染症に対して適切な判断と対処法が出来る能力を養う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：各病原微生物の詳細な性状、それが起因する感染症の特徴・治療法・予防法を習熟する。思考・判断の観点：得られた知識により、実際の医療現場において感染症に対して適切な診断と対処法を判断できる能力を養う。関心・意欲の観点：世界中で発生している種々の感染症を身近なものとして関心を持ち、それらに対する予防や対処法を思考する意欲を持つ。

●授業の計画（全体）各論ですので、各微生物の分類に従った順序で講義を行なう予定である。すなわち、細菌、真菌、ウイルスの順で講義し、細菌であれば分類されている属の順序に従って解説を行い、その属の一般的特徴から始まり、各菌種の個々の性状や感染症の解説を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 化膿性球菌
- 第2回 項目 腸内細菌科1
- 第3回 項目 腸内細菌科2、ビブリオ
- 第4回 項目 グラム陰性好気性桿菌
- 第5回 項目 グラム陰性微好気性菌、グラム陽性好気性桿菌
- 第6回 項目 抗酸菌、嫌気性菌1
- 第7回 項目 嫌気性菌2
- 第8回 項目 スピロヘータ・レプトスピラ、マイコプラズマ
- 第9回 項目 リケッチア、クラミジア、真菌1
- 第10回 項目 ウイルス総論
- 第11回 項目 DNAウイルス
- 第12回 項目 RNAウイルス
- 第13回 項目 真菌総論
- 第14回 項目 真菌各論
- 第15回

●教科書・参考書 教科書：臨床検査学講座「微生物学/臨床微生物学」、岡田 淳 他、医歯薬出版、2001年；講義は一応指定した教科書の順序で講義する予定です。講義内容は教科書に記載されたものより詳しい解説を行なう予定なので、講義前に必ず教科書を読んでおくことを条件とします。／参考書：(1)「戸田新細菌学」吉田真一・柳雄介編、南山堂 (2)「標準微生物学」平松啓一・山西弘一編、医学書院

●メッセージ 総論に比べて、覚えなくてはならない事が大変多いです。復習をしっかりとって確実に覚えていって下さい。非常勤講師の常岡先生と分担して講義し、週4時間続きの講義です。

開設科目	微生物学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	梅田昭子・柳原正志				

●授業の概要 病原細菌・真菌の取り扱い法、培地の作製法、一般的培養法、染色法、使用後の滅菌法について実習する。また、分離培養法、薬剤感受性試験、生菌数測定法について実習する。／検索キーワード 病原微生物同定法、病原微生物取り扱い法

●授業の一般目標 病原微生物の取り扱い法と同定法の基礎的技術を習熟する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：2年次に得た知識を基に、病原微生物の同定に必要な培地の作製法、培養法、染色法、滅菌・消毒法の基礎的な手技を習熟する。思考・判断の観点：感染症に対して適切な診断法と対処法を思考し実行できる能力を養う。関心・意欲の観点：実習において、ただ指示をされた内容のみではなく、その中から応用できるものを習熟する能力を養う。態度の観点：病原微生物を取り扱うことに対して細心の注意を払って臨む態度を養う。技能・表現の観点：病原微生物を取り扱うことに対して、適切な技術を習得していく。

●授業の計画（全体）細菌および真菌の同定に必要な基礎的技術の習得を目的として、培地の作製、染色液の作製、無菌操作、染色法、培養法を実習する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 細菌の染色（グラム染色・特殊染色）、培地の作製・滅菌

第2回 項目 分離培養法、化膿性菌（Staphylococcus, Streptococcus, Pseudomonas）の同定

第3回 項目 Haemophilus の同定、薬剤感受性試験

第4回 項目 腸内細菌科の同定 1、嫌気性菌の同定

第5回 項目 腸内細菌の同定 2、真菌の観察、抗酸菌の観察、生菌数測定

第6回 項目 自分の検体からの菌の同定

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

●成績評価方法（総合）各項目の実習に対するレポートにより評価

●教科書・参考書 教科書：実習書の冊子を配布します。

開設科目	微生物検査学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	梅田昭子・柳原正志				

●授業の概要 病原微生物の中から化膿性菌（ブドウ球菌、レンサ球菌、緑膿菌）、腸内細菌科の菌、インフルエンザ菌、嫌気性菌、抗酸菌、真菌について、観察と同定法を実習する。／検索キーワード 病原細菌の同定、真菌観察

●授業の一般目標 病原細菌および真菌の同定法を習熟する。すなわち、各種細菌の性状に基づいた培養法および同定の過程と手技の習熟、および真菌の培養法と観察による同定法の習熟を目的とする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：2年次に得た知識を基に、各種細菌の同定に必要な生化学的検査の手技を理解する。また、各種真菌の形態観察から判断される同定技術を理解する。思考・判断の観点：感染症の患者からの検体から、どのように同定を行い診断を確定するのかを思考していく過程を学ぶ。関心・意欲の観点：実際に行なう実習内容に留まらず、多くの感染症に対して、適切な判断と対処法を考える意欲を養う。態度の観点：病原細菌や真菌を取り扱う場合の注意点や取り扱い法に真摯な態度で臨むことを学ぶ。技能・表現の観点：病原微生物の同定技術を習熟し、実習結果でのレポート作成時における結果や考察等の適切な表現記述について学ぶ。

●授業の計画（全体） 主要細菌の同定法について、各週毎にテーマを決めて行なう。主要細菌の同定に必要な手技は個々に違っているため、その菌種に必要な同定法を習熟していく。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 細菌の染色（グラム染色・特殊染色）、培地の作製と滅菌
- 第2回 項目 分離培養法、化膿性菌 (Staphylococcus, Streptococcus, Pseudomonas) の同定
- 第3回 項目 Haemophilus の同定、薬剤感受性試験
- 第4回 項目 腸内細菌科の同定 1、嫌気性菌の同定
- 第5回 項目 腸内細菌科の同定 2、真菌の観察、抗酸菌の観察、生菌数測定
- 第6回 項目 自分の検体からの菌の同定
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

●成績評価方法（総合） 実習態度、レポート内容、期末試験による総合評価

●教科書・参考書 教科書：実習プリントを配布する。

開設科目	微生物検査学病院実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	梅田昭子				

●授業の概要 2年次・3年次で履修した講義・実習の臨地修練として、病院検査部で実際に患者からの検体を取り扱い、病原体の分離同定を行なう。／検索キーワード 病原微生物、同定

●授業の一般目標 講義・実験室における実習が、現実の病院検査室ではどのように行なわれているのかを学び、将来臨床検査技師として微生物検査室に配属された場合、即戦力として勤務できることを目的としている。また、社会人としての訓練も行い、一人前の社会人として勤務できることを目的とする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：今までに学んだ微生物の講義と実習が、病院での実際の患者検体でどのように検査されるのかを理解する。思考・判断の観点：知識を基に、実際の検体についてどのような検査を行えばいいのか、自分で判断できる能力を養う。関心・意欲の観点：実際の患者検体の検査を通じ、現在どのような感染症が問題となっているのか関心を深め、感染症を予防するにはどのようにしたらよいか等を意欲的に考える能力を養う。態度の観点：病院研修を通じて社会人としての自覚を持ち、社会人としての態度を学ぶ。技能・表現の観点：臨床材料の取り扱いについて学び、同定された病原微生物についての報告の方法を学ぶ。

●授業の計画（全体） 4週間の集中実習です。臨床検体における病原微生物の同定の方法、過程、診断、検体の取り扱い等について4週間でマスターできるようにする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 臨地修練

第2回 項目 臨地修練

第3回 項目 臨地修練

第4回 項目 臨地修練

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

●成績評価方法（総合） 実習態度、卒業試験による総合評価

開設科目	医動物学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	梅田昭子・柳原正志				

●授業の概要 医動物学 Medical Zoology はヒトに病気を引き起こす寄生虫 parasite を中心に学ぶ。寄生虫の形態や生活史が重要であることは当然であるが、どの様にして寄生場所に到り、その結果どんな影響が現れるかは人体の構造がわからなければ理解できない。形態学、病理学との関連が深いので、十分に予習してくること。理解度を自覚するため、適宜小テストを行うので復習を充分行って講義に臨むこと。
／検索キーワード 寄生、宿主、生活史、感染経路、検査法、検査材料、原虫、吸虫、線虫、条虫

●授業の一般目標 1. 寄生虫の生活史を理解している。 2. 寄生虫卵、幼虫、成虫、原虫の形態などを理解し、鑑別できる。 3. 寄生虫の検査法を理解している。 4. どんな臓器にどんな影響が現れるか理解している。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 寄生虫の特徴や検査法や病原性が説明できる。 2. 寄生のメカニズムを説明できる。 3. 宿主の防御機構を理解できる。 思考・判断の観点： 1. 日本における寄生虫の現状を判断できる。 2. 重要な寄生虫疾患とは何か考察できる。 3. 臨床検査における寄生虫検査のあり方を考察できる。 関心・意欲の観点： 1. 寄生虫疾患について興味がある。 2. 鑑別能力を得るため積極的に実習に取り組んでいる。

●授業の計画（全体） 医動物の講義を前半終了した後、知識を身につけた上で、後半から実習を行う。鑑別すべき事項についてしっかり理解した上で、実習に臨む。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 寄生虫総論 内容 寄生虫学とは 寄生現象 分類 発育と生活史 感染と病態 臨床 対策
- 第 2 回 項目 原虫類 内容 原虫類総論 消化管寄生 1 赤痢アメーバ
- 第 3 回 項目 原虫類 内容 消化管寄生 2 ランブル鞭毛虫 大腸バランチジウム クリプトスポリジウム他
- 第 4 回 項目 原虫類 内容 血液・組織寄生 1 マラリア原虫 トリパノソーマ
- 第 5 回 項目 原虫類 内容 血液・組織寄生 2 リーシュマニア トキソプラズマ ニューモシチス・カリニ 膾トリコモナス
- 第 6 回 項目 吸虫類 内容 吸虫類総論 腸管寄生 肝・胆管系寄生
- 第 7 回 項目 吸虫類 内容 組織寄生 肺吸虫類 住血吸虫類
- 第 8 回 項目 条虫類 内容 条虫類総論 腸管寄生 1 裂頭条虫類 無鉤条虫 有鉤条虫
- 第 9 回 項目 条虫類 内容 腸管寄生 2 小形条虫 縮小条虫 幼虫寄生 線虫類の特徴
- 第 10 回 項目 線虫類 内容 線虫類総論 腸管寄生 1 蛔虫 鞭虫 蟯虫
- 第 11 回 項目 線虫類 内容 腸管寄生 2 鉤虫 糞線虫 東洋毛様線虫 旋毛虫
- 第 12 回 項目 線虫類 内容 組織寄生 糸状虫 オンコセルカ 東洋眼虫 幼虫寄生 イヌ蛔虫等
イヌ糸状虫 アニサキス 有棘顎口虫 広東住血線虫
- 第 13 回 項目 衛生動物類 内容 衛生動物類総論 吸血昆虫類 ダニ類
- 第 14 回 項目 診断・検査法 内容 原虫検査 蠕虫検査 免疫診断法
- 第 15 回 項目 試験 1 1月26日以後は金曜日午前 中実習（詳細は実習開始前に連絡）

●成績評価方法（総合） 定期試験、小テスト、実習実技テスト、実習試験を総合して評価する

●教科書・参考書 教科書：寄生虫学テキスト，上村清他，文光堂，2000年／参考書：エッセンシャル寄生虫学，多田功，大友弘士，医歯薬出版，1999年

●メッセージ 単位のために覚えるのではなく、信頼される臨床検査技師になるために自発的に知識を深めて欲しい。興味を持つことが第一。

●連絡先・オフィスアワー 特に設けない。在室しているかぎり対応するので気軽に研究室を訪れて欲しい。

開設科目	細胞診断学講義 I-1	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	尾野緑				

●授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。前期は婦人科領域の細胞診について学ぶ。／検索キーワード 細胞診 婦人科

●授業の一般目標 子宮頸部扁平上皮領域の基礎知識を習得する。

●授業の到達目標／ 技能・表現の観点： 子宮頸部扁平上皮領域の基礎知識を習得する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 スケッチ

第3回 項目 スケッチ

第4回 項目 スケッチ

第5回 項目 スケッチ

第6回 項目 スケッチ

第7回 項目 スケッチ

第8回 項目 スケッチ

第9回 項目 スケッチ

第10回 項目 スケッチ

第11回 項目 スケッチ

第12回 項目 スクリーニング

第13回 項目 スクリーニング

第14回

第15回

●成績評価方法（総合）・講義項目に関して、実際にスクリーニングし、スケッチする

●教科書・参考書 教科書：「基礎から学ぶ 細胞診のすすめ方」、西国広編著、近代出版、2001年／参考書：CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.1 婦人科」、椎名義雄・他、ユニバーサルコンピューター、2004年

●連絡先・オフィスアワー mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL 0836-85-2853

開設科目	細胞診断学講義 I-2	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員	尾野緑				

●授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。後期は呼吸器領域の細胞診について学ぶ。／検索キーワード 細胞診 呼吸器

●授業の一般目標 呼吸器領域の基礎知識を習得する。

●授業の到達目標／ 技能・表現の観点：呼吸器領域の基礎知識を習得する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 スケッチ

第 3 回 項目 スケッチ

第 4 回 項目 スケッチ

第 5 回 項目 スケッチ

第 6 回 項目 スケッチ

第 7 回 項目 スケッチ

第 8 回 項目 スケッチ

第 9 回 項目 スケッチ

第 10 回 項目 スケッチ

第 11 回 項目 スクリーニング

第 12 回 項目 スクリーニング

第 13 回 項目 スクリーニング

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法（総合）・講義項目に関して、実際にスクリーニングし、スケッチする。

●教科書・参考書 教科書：「基礎から学ぶ 細胞診のすすめ方」, 西国広編著, 近代出版, 2001 年／参考書：CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.2 呼吸器」, 椎名義雄・他, ユニバーサルコンピューター, 2004 年

●連絡先・オフィスアワー mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL 0836-85-2853

開設科目	細胞診断学演習 I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	尾野緑				

●授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。前期は婦人科領域の細胞診について学ぶ。／検索キーワード 細胞診 婦人科

●授業の一般目標 子宮頸部扁平上皮領域の基礎知識を習得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 子宮頸部扁平上皮領域の基礎知識を習得する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 顕微鏡の使い方・スケッチ
- 第 2 回 項目 子宮およびその付属器の解剖組織細胞学
- 第 3 回 項目 性周期
- 第 4 回 項目 ホルモン細胞診
- 第 5 回 項目 標本作製法
- 第 6 回 項目 Papanicolaou 染色
- 第 7 回 項目 炎症性疾患
- 第 8 回 項目 修復細胞・化生細胞
- 第 9 回 項目 異形成
- 第 10 回 項目 上皮内癌、微小浸潤癌、扁平上皮癌
- 第 11 回 項目 組織分類・細胞分類
- 第 12 回 項目 スクリーニング
- 第 13 回 項目 スクリーニング
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法 (総合) ・講義項目について予習レポートを提出する ・講義した内容について小テストを行う ・定期試験で総合評価を行う

●教科書・参考書 教科書：「基礎から学ぶ 細胞診のすすめ方」, 西国広編著, 近代出版, 2001 年／参考書：CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.1 婦人科」, 椎名義雄・他, ユニバーサルコンピューター, 2004 年

●連絡先・オフィスアワー mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL 0836-85-2853

開設科目	細胞診断学実習 I	区分	実験・実習	学年	1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員	尾野緑				

●授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。後期は呼吸器領域の細胞診について学ぶ。／検索キーワード 細胞診 呼吸器

●授業の一般目標 呼吸器領域の基礎知識を習得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：呼吸器領域の基礎知識を習得する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 婦人科の復習
- 第 2 回 項目 呼吸器の解剖組 織細胞学
- 第 3 回 項目 感染症・炎症性 疾患
- 第 4 回 項目 細胞採取/標本作製法・異型扁平上皮
- 第 5 回 項目 悪性腫瘍(肺門 部)
- 第 6 回 項目 悪性腫瘍(肺野 部)
- 第 7 回 項目 悪性腫瘍(粘膜 下腫瘍・転移)
- 第 8 回 項目 良性腫瘍・縦隔腫瘍
- 第 9 回 項目 スクリーニング
- 第 10 回 項目 スクリーニング
- 第 11 回 項目 スクリーニング
- 第 12 回 項目 スクリーニング
- 第 13 回 項目 スクリーニング
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法(総合) ・講義項目について予習レポートを提出する ・講義した内容について小テストを行う ・定期試験で総合評価を行う

●教科書・参考書 教科書：「基礎から学ぶ 細胞診のすすめ方」, 西国広編著, 近代出版, 2001 年／参考書：CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.2 呼吸器」, 椎名義雄・他, ユニバーサルコンピューター, 2004 年

●連絡先・オフィスアワー mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL 0836-85-2853

開設科目	臨床細胞診断学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	6単位	開設期	その他
担当教員	高橋睦夫、上田順子、尾野緑、山本美佐				

●授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。細胞検査士認定試験の試験対策を行う。

●授業の一般目標 細胞検査士認定試験の合格

●授業の到達目標／知識・理解の観点：細胞検査士認定試験の合格 思考・判断の観点：細胞検査士認定試験の合格 技能・表現の観点：細胞検査士認定試験の合格

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 スクリーニング
- 第2回 項目 スクリーニング
- 第3回 項目 スクリーニング
- 第4回 項目 スクリーニング
- 第5回 項目 スクリーニング
- 第6回 項目 スクリーニング
- 第7回 項目 スクリーニング
- 第8回 項目 スクリーニング
- 第9回 項目 スクリーニング
- 第10回 項目 スクリーニング
- 第11回 項目 スクリーニング
- 第12回 項目 スクリーニング
- 第13回 項目 スクリーニング
- 第14回 項目 スクリーニング
- 第15回 項目 スクリーニング
- 第16回 項目 スクリーニング
- 第17回 項目 スクリーニング
- 第18回 項目 スクリーニング
- 第19回 項目 スクリーニング
- 第20回 項目 スクリーニング
- 第21回 項目 スクリーニング
- 第22回 項目 スクリーニング
- 第23回 項目 スクリーニング
- 第24回 項目 スクリーニング
- 第25回 項目 スクリーニング
- 第26回 項目 手技、スクリーニング
- 第27回 項目 手技、スクリーニング
- 第28回 項目 手技、スクリーニング
- 第29回 項目 手技、スクリーニング
- 第30回 項目 手技、スクリーニング

●成績評価方法（総合）・細胞検査士認定試験の成績の総合評価を行う

●連絡先・オフィスアワー 高橋睦夫 内線 2845、上田順子 内線 2833、尾野緑 内線 2853、山本美佐 内線 2853

開設科目	臨床細胞診断学実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	6単位	開設期	その他
担当教員	高橋睦夫、上田順子、尾野緑、山本美佐				

●授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。前期は消化器、体腔液、後期はリンパ節・その他の細胞診について学ぶ。／検索キーワード 細胞診 消化器 体腔液 リンパ節・その他

●授業の一般目標 消化器、体腔液、リンパ節・その他領域の基礎知識を習得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：消化器、体腔液、リンパ節・その他領域の基礎知識を習得する。

技能・表現の観点：消化器、体腔液、リンパ節・その他領域の基礎知識を習得する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 スクリーニング
- 第 2 回 項目 消化器 1、スクリーニング
- 第 3 回 項目 スクリーニング
- 第 4 回 項目 消化器 2、スクリーニング
- 第 5 回 項目 スクリーニング
- 第 6 回 項目 消化器 3、スクリーニング
- 第 7 回 項目 体腔液 1、スクリーニング
- 第 8 回 項目 消化器 4、スクリーニング
- 第 9 回 項目 体腔液 2、スクリーニング
- 第 10 回 項目 消化器 5、スクリーニング
- 第 11 回 項目 体腔液 3、スクリーニング
- 第 12 回 項目 消化器 6、スクリーニング
- 第 13 回 項目 体腔液 4、スクリーニング
- 第 14 回 項目 消化器 7、スクリーニング
- 第 15 回 項目 スクリーニング
- 第 16 回 項目 リンパ節・その他 1、スクリーニング
- 第 17 回 項目 リンパ節・その他 2、スクリーニング
- 第 18 回 項目 リンパ節・その他 3、スクリーニング
- 第 19 回 項目 リンパ節・その他 4、スクリーニング
- 第 20 回 項目 リンパ節・その他 5、スクリーニング
- 第 21 回 項目 リンパ節・その他 6、スクリーニング
- 第 22 回 項目 スクリーニング
- 第 23 回 項目 スクリーニング
- 第 24 回 項目 スクリーニング
- 第 25 回 項目 スクリーニング
- 第 26 回 項目 スクリーニング
- 第 27 回 項目 スクリーニング
- 第 28 回 項目 スクリーニング
- 第 29 回 項目 スクリーニング
- 第 30 回 項目 スクリーニング

●成績評価方法（総合）・定期試験で総合評価を行う

●連絡先・オフィスアワー 高橋睦夫 内線 2845、上田順子 内線 2833、尾野緑 内線 2853、山本美佐 内線 2853

開設科目	免疫学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	日野啓輔・松井智浩・柳原正志				

- 授業の概要 1) CRP テスト、RA テスト 2) 補体価測定 3) 梅毒ガラス板法 4) ASO 測定 5) 寒冷凝集反応 6) 抗核抗体検査 7) 赤血球凝集反応 8) 輸血検査 9) 免疫グロブリン定量
- 授業の一般目標 上記の1) から9) の検査を8回の実習ですべて行い、検査の原理を理解するとともに検査手技を修得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：検査の原理を理解する。思考・判断の観点：検査が失敗した時にどこが悪かったのかを学習する。それによりトラブルシューティングが行えるようにする。関心・意欲の観点：自己の担当だけでなく、積極的に議論して他の人の実習問題点なども理解しようとする。技能・表現の観点：免疫検査に必要な基本手技をマスターする。
- 教科書・参考書 教科書：臨床免疫学, 福岡良男他, 医歯薬出版株式会社, 2001年
- メッセージ ひとつひとつの実習に真剣に取り組んでほしい。疑問点は質問すること。

開設科目	免疫検査学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	日野啓輔				

●授業の概要 1) アレルギーの分類と発症機序 2) 感染免疫 3) 自己免疫 4) 移植免疫 5) 免疫血液学 6) 輸血検査 7) 梅毒検査 8) 肝炎ウイルス、その他の感染症に対する検査 9) 自己抗体および自己免疫関連検査 10) 免疫機能検査／検索キーワード 免疫と疾患、免疫検査

●授業の到達目標／知識・理解の観点：免疫検査の原理を理解しておく。免疫反応が重要な関与をする疾患群について理解する。思考・判断の観点：疾患形成における免疫の関与について考察し、理解する。

●授業の計画（全体）疾患と免疫反応の関わりを理解し、その上で診断等に用いられる免疫検査の原理、手技について習熟する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 アレルギーの分類と発症機序 内容 前期で概説したアレルギー反応について詳細な機序を解説する。

第2回 項目 アレルギーの分類と発症機序 内容 前期で概説したアレルギー反応について詳細な機序を解説する。

第3回 項目 感染免疫 内容 感染症における非特異的免疫反応、特異的免疫反応について解説する。さらにこの免疫反応に関与する細胞、分子についても解説する。

第4回 項目 自己免疫と移植免疫 内容 自己免疫と移植免疫における免疫反応の発現機序について解説する。

第5回 項目 免疫血液学 内容 血液型等の輸血に関する免疫反応について解説する。

第6回 項目 免疫血液学 内容 血液型等の輸血に関する免疫反応について解説する。

第7回 項目 輸血検査 内容 輸血検査の実際について解説する。

第8回 項目 輸血検査 内容 輸血検査の実際について解説する。

第9回 項目 輸血検査 内容 輸血検査の実際について解説する。

第10回 項目 梅毒検査 内容 種々の梅毒検査について解説し、その異同についても解説する。

第11回 項目 肝炎ウイルス、その他の感染症に対する検査 内容 肝炎ウイルス、その他の感染症の検査の実際と検査結果の解釈について解説する。

第12回 項目 肝炎ウイルス、その他の感染症に対する検査 内容 肝炎ウイルス、その他の感染症の検査の実際と検査結果の解釈について解説する。

第13回 項目 自己抗体および自己免疫関連検査 内容 自己抗体および自己免疫関連検査の実際について解説する。

第14回 項目 免疫機能検査 内容 種々の免疫機能検査の実際について解説する。

第15回 項目 免疫機能検査 内容 種々の免疫機能検査の実際について解説する。

●教科書・参考書 教科書：臨床検査技術学 1 3 免疫検査学, 小島健一他, 医学書院, 1998年／参考書：臨床免疫学, 福岡良男他, 医歯薬出版株式会社, 2001年

●メッセージ 疑問点をそのままにせず積極的に質問してほしい。

開設科目	免疫化学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	山城安啓・田中経彦・松井智浩				

●授業の概要 臨床化学分野で測定される代表的項目として、酵素測定、電解質測定、電気泳動法による分析に項目を絞って測定技術と原理を習得する。酵素はアルカリフォファターゼを Bessey-Lowry 法で測定する。電解質はカルシウムを α -CPC 法で測定する。電気泳動法はセルロースアセテート膜による血清蛋白分画を学習する。また、化学分野で測定が多くなってきた免疫学分野の代表的項目の測定技術と原理を習得する。ここでは、免疫比濁法として、血中 IgG の測定を習得する。さらに、その技術をもとに測定法における問題点、疑問点を検討項目とし、各自で計画し実行する。その後まとめて、発表会においてプレゼンテーションを行う。／検索キーワード 酵素活性測定、電解質測定、電気泳動法、免疫比濁法

●授業の一般目標 臨床検査における化学免疫検査項目を網羅して実習し理解することは不可能である。そこで、代表的な項目を4種類あげるのでその項目の測定を通じて以下の習得を目指す。1) ので測定原理を理解し技術を修得する 2) 色々な疑問点を見つけ解決する為の手段を考察する 3) 結果を考察し、まとめる力を身に付ける 4) 他人に分かりやすい説明の為の手法を修得する

●授業の到達目標／知識・理解の観点：測定する項目の生体内での機能を説明できる。また、基準値、生化学、免疫等を説明できる。思考・判断の観点：なぜだろう？こうしたらどうだろう？という積極的な疑問、問題点を指摘できる。関心・意欲の観点：納得いかないデータは何度でもやり直す。その原因は何かを考える。態度の観点：積極的に試薬作りから始まる実習を行う。また、自分たちが扱う実習器具の洗浄・準備を責任を持って行う。共同作業においては強調した作業が行える。技能・表現の観点：各項目を設定したレベルで正確に測定できる。2重測定、個人間の統一性、日差再現性など正確な操作が行える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- | | | | | | | |
|------|----|-------------|----|---------------------|-------|--|
| 第1回 | 項目 | 実習説明および試薬作り | 内容 | 各班に別れて全体の試薬を分担して作る | 授業外指示 | マニュアルを読んでおくこと。全員が8週間測定できるだけの試薬料を計算しておく |
| 第2回 | 項目 | 酵素測定法 | 内容 | アルカリフォスファターゼ | 授業外指示 | アルカリフォスファターゼの基準値、測定原理、その他の測定法、酵素の特徴等を調べておく |
| 第3回 | 項目 | 酵素測定法 | 内容 | アルカリフォスファターゼ | 授業外指示 | 一般的な酵素の種類、阻害による影響等を学習しておく |
| 第4回 | 項目 | 電解質測定法 | 内容 | カルシウム | 授業外指示 | カルシウムの基準値、測定原理、その他の測定法を調べておく |
| 第5回 | 項目 | 電解質測定法 | 内容 | カルシウム | 授業外指示 | 測定上の注意、実習器具の準備の必要性を考慮しておく |
| 第6回 | 項目 | 蛋白電気泳動法 | 内容 | セルロースアセテート膜電気泳動 | 授業外指示 | 電気泳動の原理を学んだうえで、セルロースアセテート膜電気泳動についても学習しておく |
| 第7回 | 項目 | 蛋白電気泳動法 | 内容 | セルロースアセテート膜電気泳動 | 授業外指示 | 異常を知るためには正常を知っておく必要がある。正常のパターンを調べておく |
| 第8回 | 項目 | 免疫比濁法 | 内容 | IgG | 授業外指示 | 免疫比濁法の測定原理を調べ、IgGを始めとする抗体の基準値を学習しておく。 |
| 第9回 | 項目 | 免疫比濁法 | 内容 | IgG | 授業外指示 | 免疫比濁法との違いやその他の免疫学的測定法を学習しておく |
| 第10回 | 項目 | 検討 | | | | |
| 第11回 | 項目 | 検討 | | | | |
| 第12回 | 項目 | 検討 | | | | |
| 第13回 | 項目 | 検討発表 | 内容 | 各班に別れて検討項目について解説する。 | | 全体でディスカッションする。 |
| 第14回 | 項目 | 検討発表 | 内容 | 各班に別れて検討項目について解説する。 | | 全体でディスカッションする。 |

●教科書・参考書 教科書：作成マニュアルを配付します。

●連絡先・オフィスアワー 山城：メールアドレス；yamasiro@yamaguchi-u.ac.jp, 電話；2863 田中：メールアドレス；tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp, 電話；2857

開設科目	免疫化学病院実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	服部幸夫				

- 授業の概要 3年次までに学習した知識を実地で確実なものとする。特に、検体分析の実際と詳細、検体の流れ、患者との触れ合い方など、実地でしか得られない事項を中心に学ぶ。免疫・化学検査（迅速検査）、緊急検査を行うが、別項の血液検査、一般検査、輸血検査も含めて一部ローテーション形式で行う。思考を深めるために、問題のある検体に関してテーマを設け、ミニ報告を求める場合もある。／検索キーワード 臨床免疫、臨床化学
- 授業の一般目標 検体分析の実際と詳細、検体の流れ（IDを含む）、患者との触れ合い方など、実地研修でしか、得られない内容を中心に学ぶ。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： どのような項目がどのような原理で分析されているか、を理解する
 思考・判断の観点： 多くの検体分析をとおして、異常検体の認識を深める。現在行われている異常検体の対処法を学ぶ。 関心・意欲の観点： 異常検体に関しては、場合によっては、文献検索による考察も行いより深い洞察を経験する。 態度の観点： 患者様に対して、あるいは現場で働いている検査技師、訪問中のドクターに対して失礼にならないようにする態度を身につけるように心がける。 技能・表現の観点： 分からないところは自分で調べたり、質問をして解決する。アトラス、成書の参照のみならず、インターネットを活用して解決する習性を身に着ける。ミニ報告があれば、短時間にポイントを表現できるようにする。
- 授業の計画（全体） より深く検査の実際を理解するために、一部門に2-3週間留まり、上記の目標に沿って研修する。最後の1-2週間は他部門をローテーションする。また、他部門からのローテーションに来る学生に対して、自分である程度の説明ができることを目指す。
- 成績評価方法（総合） 卒業試験を評価基準とする。ただし、実習中の態度、理解度なども含めて総合的に評価する。検査技師も指導者に入るために、検査技師の評価も参考にする。実習なので欠席はよほどの事情がない限り許されない。
- 教科書・参考書 教科書： 臨地実習ノート第2版, 北村清吉、他, 医歯薬出版, 2002年； 臨床化学、臨床免疫学のみでなく、関連科目の教科書はすべて用意する（3年次までに使ったもの）。
- メッセージ 2, 3年生の病態生化学、臨床病理学等で用いた教科書を必携。
- 連絡先・オフィスアワー いつでもどうぞ。

開設科目	形態機能学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山田治・松井智浩・柳原正志				

●授業の概要 本実習は「機能検査学実習」の基礎編に位置づけられる。生理機能学では、人の体の仕組みとその正常な働きと動態を学ぶ。これらの人体の基礎生理に基づく生体反応の中から代表的な7項目を選び、その反応を身近な機器を実際使用し、記録をすることにより、基礎的な生理的機能を理解する。また、英語を用いた教材を通じて、生理機能の理解を深める。／検索キーワード 生理機能、解剖学、医学英語

●授業の一般目標 ?解剖学の知識を深め、その立体構造を述べるができる。?聴覚測定・視覚測定の手技を説明し実施できる。?肺機能検査の意義を説明し実施できる。?血圧・脈拍の意義を説明し正しく測定できる。?心電図の肢誘導についてその意義を説明し測定できる。?筋電図・神経伝導速度についてその意義を述べ測定できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 6テーマの実習についてその原理を説明できる。2. 見学については、解剖学の立体的な器官の位置構造、名称および機能が説明できる。3. 聴覚測定・視覚測定の手技を説明し実施できる。肺機能検査の意義を説明し実施できる。4. 血圧・脈拍の意義を説明し正しく測定できる。5. 心電図の肢誘導についてその意義を説明し測定できる。6. 筋電図・神経伝導速度についてその意義を述べ測定できる。 思考・判断の観点： 1. 得られた結果の説明できる。2. 高頻度の異常を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. ヒトの生理機能のメカニズムに関心を持つ。 態度の観点： 1. 問題意識を持って積極的に実習に取り組むことができる。 技能・表現の観点： 1. 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できる。

●授業の計画（全体） 1回の実習見学を除き、6回はすべて小グループに分かれて実習を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 心電図（肢誘導）測定 内容 生理機能実験室（3） 授業外指示 実習書を読み、関連領域の参考書を調べておくこと。

第2回 項目 肺機能検査・聴覚測定 内容 生理機能実験室 授業外指示 実習書を読み、関連領域の参考書を調べておくこと。

第3回 項目 視覚・視野・盲点測定 内容 生理機能実験室（3） 授業外指示 実習書を読み、関連領域の参考書を調べておくこと。実習書を読み、関連領域の参考書を調べておくこと。

第4回 項目 頭部解剖学実習 内容 解剖学実習見学 授業外指示 解剖学実習見学は注意事項を必ず読むこと。

第5回 項目 ヒトの感覚 内容 生理系実験室 授業外指示 実習書を読み、関連領域の参考書を調べておくこと。

第6回 項目 血圧・脈拍測定 内容 生理系実験室 授業外指示 実習書を読み、関連領域の参考書を調べておくこと。

第7回 項目 CD-ROMによる解剖・生理実習 内容 第5講義室 授業外指示 実習書を読み、関連領域の参考書を調べておくこと。

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

●教科書・参考書 参考書：実習マニュアル（配布プリント）を配ります。図書館等の生理学、解剖学の参考書を必ず読んで下さい。

●連絡先・オフィスアワー 山田治：電話は 0836-22-2803、 E-mail は osamuymd@yamaguchi-u.ac.jp。

開設科目	呼吸循環機能検査学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	松田昌子				

●授業の概要 心電図、心音・脈波、超音波検査など、循環器の機能を測定する方法について、それぞれの原理と目的について説明し、検査データの判読方法、正常と異常の差、循環器疾患の診断に至るプロセスを統合して講義する。また、呼吸機能検査の原理と応用についても講義する。

●授業の一般目標 1) 循環器疾患診断における心電図や超音波画像検査の原理や役割を理解し、それらの情報を関連付けて正常と異常を判別することができる。 2) 呼吸機能測定方法の原理を理解し、正常と異常を判別できる。 3) 使用機器の原理を理解し、必要な保守点検を列挙できる。 4) 人を対象にする検査における患者への配慮の重要性を説明できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1) 心電図検査の意義、正常心電図、異常心電図を判読できる。 2) 心臓超音波画像の原理、正常像、種々の疾患の特徴を説明できる。 3) 超音波ドプラー法の原理を説明し、正常と異常の区別ができる。 4) 正常と異常の心音・脈波を説明できる。 5) 呼吸機能検査の方法と、疾患による特徴を説明できる。 6) 検査機器の原理、保守点検について説明できる。 思考・判断の観点： 各検査の役割の違いを理解し、それぞれの方法から診断をしていく手順を学ぶ。 関心・意欲の観点： 各検査結果から症例検討ができる。

●授業の計画（全体） 循環機能検査と呼吸機能検査に分けて講義する。循環機能検査は心電図、心音・脈波、超音波検査の順に講義し、各システムを終了ごとに小テストを行なう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 4 月 12 日 (火) 循環器検査学の概要 内容 心臓の機能を検査する目的、種類を概説する。
- 第 2 回 項目 4 月 15 日 (金) 心電図による心機能の測定 内容 心電図の基本的事項を講義する。1) 標準 12 誘導心電図、2) 心電図波形の解析法 3) 電気軸
- 第 3 回 項目 4 月 19 日 (火) 心電図によるリズムの異常 内容 1) 心拍数、リズム異常：頻脈、徐脈、粗動、細動 2) 期外収縮：上室性、心室性 3) ブロック：洞房ブロック、房室ブロック
- 第 4 回 項目 4 月 22 日 (金) 伝導異常、心筋肥大の心電図 内容 1) 電氣的興奮の伝導異常：脚ブロック、W-P-W 症候群、LGL 症候群 2) 心筋肥大：左室肥大、右室肥大
- 第 5 回 項目 4 月 26 日 (火) 心筋虚血の心電図 内容 1) 心筋梗塞：発病時期、梗塞部位と異常波形 2) 狭心症の心電図
- 第 6 回 項目 5 月 6 日 (金) その他の心電図異常 内容 1) ペースメーカー心電図 2) 電解質異常 3) 薬物の影響
- 第 7 回 項目 5 月 10 日 (火) 特殊心電図 内容 1) 負荷心電図 2) ホルター心電図 3) His 束心電図
- 第 8 回 項目 5 月 13 日 (金) 心電図の記録法 内容 1) 心電計の構造 2) 電極 3) 記録法 4) アーティファクト 5) 保守点検
- 第 9 回 項目 5 月 17 日 (火) 心音の由来・性質 内容 1) 音の物理的特性 2) 心音と心周期 3) 心雑音：収縮期雑音、拡張期雑音 授業外指示 心臓の電気生理・心電図小テスト
- 第 10 回 項目 5 月 20 日 (金) 脈波 内容 1) 頸動脈波 2) 頸静脈波 3) 心尖拍動図
- 第 11 回 項目 5 月 24 日 (火) 心音・脈波検査の実際 内容 1) 聴診器、心音計 2) 心音の記録
- 第 12 回 項目 5 月 27 日 (金) 超音波検査の基礎 1 内容 1) 物理的性質 2) ドプラー効果 授業外指示 心周期と心音・脈波小テスト
- 第 13 回 項目 5 月 31 日 (火) 超音波検査の基礎 2 内容 3) 超音波診断装置 4) 表示モード：Aモード、Bモード、Mモード 5) 走査方式 6) アーティファクト
- 第 14 回 項目 6 月 3 日 (金) 心臓画像検査への応用 内容 1) 断層像 2-D 画像 2) Mモード 画像
- 第 15 回 項目 6 月 7 日 (火) 血行動態の測定 内容 1) Mモード像、Bモード像 2) 超音波ドプラー法
- 第 16 回 項目 6 月 8 日 (水) 左心室の機能測定 内容 1) 収縮能 2) 拡張能 3) 心筋症の診断

- 第17回 項目 6月14日(火) 虚血性心疾患 内容 1) 心電図学的特徴 2) 心音・脈波上での異常 3) 画像検査学的異常 授業外指示 超音波小テスト
- 第18回 項目 6月25日(水) 弁膜疾患 内容 1) 心電図学的特徴 2) 心音・脈波上での異常 3) 画像検査学的異常
- 第19回 項目 6月21日(火) 先天性心臓病 内容 1) 心電図学的特徴 2) 心音・脈波上での異常 3) 画像検査学的異常
- 第20回 項目 6月22日(水) 心外膜疾患、大動脈疾患 内容 1) 心電図学的特徴 2) 心音・脈波上での異常 3) 画像検査学的異常
- 第21回 項目 6月28日(火) 包括的循環器疾患診断法 内容 超音波検査の臨床応用
- 第22回 項目 6月29日(水) 呼吸機能検査の基礎 内容 1) 肺の構造・生理 2) 肺機能検査の目的・種類 3) 換気障害パターン
- 第23回 項目 7月5日(火) 換気力学的検査 内容 1) 肺気量測定 2) Flow-Volume 曲線 3) 肺のコンプライアンス 4) 気道抵抗、呼吸抵抗
- 第24回 項目 7月6日(水) 肺胞換気機能検査 内容 1) 換気の分布 2) DLCO 3) その他：シャント、無気肺、換気血流比
- 第25回 項目 7月12日(火) 血液のガス運搬能測定 内容 1) 血液ガス分析 2) パルスオキシメーター 3) 経皮的ガス分圧測定
- 第26回 項目 7月13日(水) 肺における酸-塩基平衡の調節 内容 1) 換気と血液中 PCO₂ の関連 2) Henderson-Hasselbalch の式 3) アシドーシスとアルカローシス
- 第27回 項目 7月19日(火) 呼吸機能の調節機序 内容 1) 化学的調節 2) 神経性調節
- 第28回 項目 7月20日(水) 内容 予備 授業外指示 呼吸小テスト
- 第29回
- 第30回

●成績評価方法(総合) 授業の中で、小テストを行い、期末試験と合わせて総合的に評価する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書：臨床検査学講座「生理機能検査学」, 大久保善朗他, 医歯薬出版, 2003年 / 参考書：「Rapid Interpretation of EKG's」, Dubin D, Cover Publishing Company, 1996年; 生理機能検査マニュアル, 増田喜一他, メディカ出版, 1999年

●メッセージ 循環器系の機能の診断法を包括的に理解し、病態診断への応用へ進む。

●連絡先・オフィスアワー 0836-22-2832(松田研究室) 在室時は訪問可。

開設科目	神経機能検査学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	野垣宏・金子和生				

●授業の概要 中枢神経疾患の診断に用いられる脳波の意義とその検査法について教授する。(野垣)
末梢神経及び運動器疾患の診断に用いられる筋電図検査について教授する。(金子) / 検索キーワード 脳波検査、筋電図検査、末梢神経伝導検査

●授業の一般目標 脳波検査、筋電図検査、末梢神経伝導検査について、その意義、測定方法、結果の解釈について理解する。

●授業の到達目標 / 知識・理解の観点：脳波検査、筋電図検査、末梢神経伝導検査について、その意義、測定方法、結果の解釈を説明できる。 思考・判断の観点：検査結果の正常所見や異常所見を指摘できる。

●授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 脳波の基礎
- 第 2 回 項目 正常脳波
- 第 3 回 項目 睡眠脳波
- 第 4 回 項目 異常脳波
- 第 5 回 項目 てんかん、など 授業記録 プリント
- 第 6 回 項目 アーチファクト
- 第 7 回 項目 脳波判読 授業記録 実際の脳波
- 第 8 回 項目 休講
- 第 9 回 項目 筋肉の解剖と生理
- 第 10 回 項目 筋電図検査 1
- 第 11 回 項目 筋電図検査 2
- 第 12 回 項目 筋電図検査 3
- 第 13 回 項目 筋電図検査 4
- 第 14 回 項目 筋電図検査 5
- 第 15 回

●成績評価方法 (総合) 筆記試験

●教科書・参考書 教科書：臨床検査学講座「生理機能検査学」, 大久保善朗他, 医歯薬出版, 2002 年

●連絡先・オフィスアワー nogaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	感覚機能検査学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	石川敏三・綿貫浩一・足立格郁				

●授業の概要 感覚器の解剖・生理学的特徴、それらの機能の検査法、疾患の診断法を教授する。

感覚と神経系の関連：石川 眼底検査：濱生；聴力・平衡機能検査：綿貫

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 神経細胞の生理：興奮性組織、神経とは？シナプス伝達とは？ 内容 石川教官
- 第 2 回 項目 感覚器のインパルス発生（1） 内容 石川教官
- 第 3 回 項目 感覚器のインパルス発生（2） 内容 石川教官
- 第 4 回 項目 皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚の仕組みと働き。その検査について（1） 内容 石川教官
- 第 5 回 項目 皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚の仕組みと働き。その検査について（2） 内容 石川教官
- 第 6 回 項目 皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚の仕組みと働き。その検査について（3） 内容 石川教官
- 第 7 回 項目 皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚の仕組みと働き。その検査について（3） 内容 石川教官
- 第 8 回 項目 眼の解剖・生理 内容 濱生教官
- 第 9 回 項目 主な眼疾患 内容 濱生教官
- 第 10 回 項目 眼科領域の検査 内容 濱生教官
- 第 11 回 項目 聴覚・平衡機能の生理 内容 綿貫教官
- 第 12 回 項目 聴覚検査 I 内容 綿貫教官
- 第 13 回 項目 平衡機能 I 内容 綿貫教官
- 第 14 回 項目 平衡機能 II 内容 綿貫教官

●教科書・参考書 教科書：生理機能検査学, 大久保善朗他, 医歯薬出版, 2002 年

●メッセージ 生理機能学を理解した上で受講すること。

開設科目	画像検査学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	菅一能・黒川典枝・佐世正勝・山本滋				

●授業の概要 体内の臓器を画像により診断する検査法のうち、核磁気共鳴現象を利用した画像診断法であるMRI（核磁気共鳴画像）、超音波を用いて行なう超音波検査（腹腔内臓器、産婦人科臓器、表在臓）について、原理、目的、正常像、異常像について講義する。／検索キーワード MRI, 磁気共鳴画像、超音波検査、腹部超音波検査、

●授業の一般目標 検査の原理、異常画像、臨床診断への応用を学ぶ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1) MRI 画像の基本原理を理解し、正常像と代表的な異常画像を判別できる。2) 腹部超音波検査の正常画像と代表的疾患について説明できる。3) 産婦人科領域での超音波検査の意義と代表的異常像を説明できる。4) 甲状腺と乳腺疾患の正常と代表的異常画像を説明できる。思考・判断の観点：平面像である超音波画像から立体的な構造を想像できる。関心・意欲の観点：非侵襲的画像検査の利点と限界を認識し、他の検査・治療との関連に関心を持つ。

●授業の計画（全体）4名の教官がそれぞれの専門領域について講義を行なう。1) MRI（菅）2) 腹部超音波検査（黒川）3) 産婦人科領域超音波検査（佐世）4) 乳房や甲状腺など表在臓器の超音波検査（山本）

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目4月13日(水) MRI 1 内容 MRの撮像原理 1
- 第2回 項目4月20日(水) MRI2 内容 MRの撮像原理 2
- 第3回 項目4月27日(水) MRI3 内容 MRの撮像原理 3
- 第4回 項目5月11日(水) MRI4 内容 MRの臨床 1
- 第5回 項目5月18日(水) MRI5 内容 MRの臨床 2
- 第6回 項目5月25日(水) MRI6 内容 MRの臨床 3
- 第7回 項目6月7(火) 腹部超音波検査1 内容 超音波の基礎と正常な腹部臓器の超音波像
- 第8回 項目6月14日(火) 腹部超音波検査2 内容 各種疾患の腹部超音波像(1)
- 第9回 項目6月21日(火) 腹部超音波検査3 内容 各種疾患の腹部超音波像(2)
- 第10回 項目6月28日(火) 腹部超音波検査4 内容 各種疾患の腹部超音波像(3)
- 第11回 項目7月5日(火) 腹部超音波検査5 内容 腹部超音波検査のまとめ
- 第12回 項目7月15日(火) 超音波検査(産婦人科1) 内容 婦人科疾患の超音波検査
- 第13回 項目7月22日(火) 超音波検査(産婦人科2) 内容 胎児および妊婦の超音波検査
- 第14回 項目7月14日(水) 超音波検査(表在臓器1) 内容 超音波検査による甲状腺の正常画像、異常画像、基本的手技を学ぶ
- 第15回 項目7月21日(水) 超音波検査(表在臓器2) 内容 超音波検査による乳房の正常画像、異常画像、基本的検査手技を学ぶ。

●成績評価方法(総合) 各教官の実施した試験の点数をそれぞれの担当時間に応じた割合に換算し総合点で評価する。

●教科書・参考書 教科書：生理機能検査学, 大久保善朗他, 医歯薬出版, 2003年

●メッセージ 画像検査学には解剖学の知識が必須となるので解剖学をよく勉強しておくこと。臨床検査の領域では画像検査の比重は大きい。

●連絡先・オフィスアワー 0836-22-2832(松田：取りまとめ係)

開設科目	画像検査学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	松田昌子・日野啓輔・末永弘美				

●授業の概要 腹部、心臓の超音波による画像検査を行なう。 実技を通して画像検査学で学んだことを確かめる。

●授業の一般目標 1) それぞれの検査の目的、意義、結果について説明できる 2) 基礎的な検査手技を修得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1) それぞれの検査法の目的、意義、結果について説明できる 2) 提示された異常データの判読ができる。 思考・判断の観点： 実習で得られたデータの意味・問題点を考察し、また、アーティファクトの解決方法を説明できる。 関心・意欲の観点： その日の実習がどのような疾患に応用されるのか関心を持っている。 態度の観点： 1) 積極的に実習に関わる 2) 同じグループのメンバーと検者・被検者の関係で協調できる。 技能・表現の観点： 各検査の手技を習得する。

●授業の計画（全体） 機能検査学実習と組み合わせて行う。 4～5グループに分かれ、互いに検者、被検者となって以下のような実習項目を行う。 1) 循環系：心電図検査、心音聴診、心音図検査、心臓超音波検査、運動負荷検査 2) 呼吸機能検査：スパイロメトリー、 3) 神経・感覚器系：脳波検査、神経伝導検査 4) 腹部超音波検査：腹部超音波検査、肝臓脈管模型製作

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 10月4日（火） 内容 実習説明、準備
- 第 2 回 項目 10月5日（水）人の脳波検査 内容 脳波皿電極装着、覚醒脳波、睡眠脳波、負荷脳波の記録、解析
- 第 3 回 項目 10月11日（火）人の脳波検査 内容 脳波皿電極装着、覚醒脳波、睡眠脳波、負荷脳波の記録、解析
- 第 4 回 項目 10月12日（水）人の脳波検査 内容 脳波皿電極装着、覚醒脳波、睡眠脳波、負荷脳波の記録、解析
- 第 5 回 項目 10月18日（火）筋電図検査 内容 上腕骨格筋の電気活動を観察し、神経伝達速度を測定。
- 第 6 回 項目 10月19日（水）腹部超音波検査 内容 腹部超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第 7 回 項目 10月25日（火）腹部超音波検査 内容 腹部超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第 8 回 項目 10月26日（水）肝臓の血管・胆管走行模型作 内容 門脈、肝動脈、肝静脈の模型を作り、超音波画像を立体的にイメージするトレーニングをする。
- 第 9 回 項目 11月1日（火）肝臓の血管・胆管走行模型作り 内容 門脈、肝動脈、肝静脈の模型を作り、超音波画像を立体的にイメージするトレーニングをする。
- 第 10 回 項目 11月2日（水）心臓超音波検査 内容 心臓超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第 11 回 項目 11月8日（火）心臓超音波検査 内容 心臓超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第 12 回 項目 11月9日（水）心電図検査 内容 互いの心電図をとり、基本的な手技を学び、解析する。異常心電図の解析も行なう。
- 第 13 回 項目 11月15日（火）心音脈波検査 内容 模型を使って正常・異常の心音、脈波を学ぶ。
- 第 14 回 項目 11月16日（水）運動負荷試験 内容 エルゴメーターを用いた運動負荷試験を行い、負荷試験の方法、注意点を学ぶ。
- 第 15 回 項目 11月22日（火）運動負荷試験 内容 エルゴメーターを用いた運動負荷試験を行い、負荷試験の方法、注意点を学ぶ。

- 第16回 項目 11月29日(火) 体力測定 内容 万歩計、心拍測定器を用いて体力測定を行ない、心拍と運動強度の関連を学ぶ。
- 第17回 項目 11月30日(水) 呼吸機能検査 内容 スパイロメーターを用いた呼吸機能検査実習を行う。
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

- 成績評価方法(総合) 各実習項目の評価点を統合する。出席が所定の回数に満たないものは単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書：実習マニュアル／参考書：生理機能検査学, 大久保善朗, 医歯薬出版, 2002年
- 連絡先・オフィスアワー 0836-22-2858(野垣研究室) 0836-22-2853(末永研究室) 0836-22-2824(日野研究室) 0836-22-2832(松田研究室)

開設科目	機能検査学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	松田昌子・野垣宏・末永弘美				

●授業の概要 神経機能、呼吸機能、循環機能の検査をさせ、基礎的検査法の意義・目的を理解させ、同時に検査手技を修得させる。

●授業の一般目標 1) それぞれの検査の目的、意義、結果について説明できる 2) 基礎的な検査手技を修得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1) それぞれの検査法の目的、意義、結果について説明できる 2) 提示された異常データの判読ができる。思考・判断の観点：実習で得られたデータの意味・問題点を考察し、また、アーティファクトの解決方法を説明できる。関心・意欲の観点：その日の実習がどのような疾患に応用されるのか関心を持っている。態度の観点：1) 積極的に実習に関わる 2) 同じグループのメンバーと検者・被検者の関係で協調できる。技能・表現の観点：各検査の手技を習得する。

●授業の計画（全体）画像検査学実習と組み合わせて行う。4～5グループに分かれ、互いに検者、被検者となって以下のような実習項目を行う。1) 循環系：心電図検査、心音聴診、心音図検査、心臓超音波検査、運動負荷検査 2) 呼吸機能検査：スパイロメトリー、3) 神経・感覚器系：脳波検査、神経伝導検査 4) 腹部超音波検査：腹部超音波検査、肝臓脈管模型製作

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目9月28日（火）内容 実習説明、準備
- 第2回 項目9月29日（水）人の脳波検査 内容 脳波皿電極装着、覚醒脳波、睡眠脳波、負荷脳波の記録、解析
- 第3回 項目10月5日（火）人の脳波検査 内容 脳波皿電極装着、覚醒脳波、睡眠脳波、負荷脳波の記録、解析
- 第4回 項目10月6日（水）人の脳波検査 内容 脳波皿電極装着、覚醒脳波、睡眠脳波、負荷脳波の記録、解析
- 第5回 項目10月12日（火）筋電図検査 内容 上腕骨格筋の電気活動を観察し、神経伝達速度を測定。
- 第6回 項目10月13日（水）腹部超音波検査 内容 腹部超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第7回 項目10月19日（火）腹部超音波検査 内容 腹部超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第8回 項目10月20日（水）肝臓の血管・胆管走行模型作り 内容 門脈、肝動脈、肝静脈の模型を作り、超音波画像を立体的にイメージするトレーニングをする。
- 第9回 項目10月26日（火）肝臓の血管・胆管走行模型作り 内容 門脈、肝動脈、肝静脈の模型を作り、超音波画像を立体的にイメージするトレーニングをする。
- 第10回 項目10月27日（水）心臓超音波検査 内容 心臓超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第11回 項目11月2日（火）心臓超音波検査 内容 心臓超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第12回 項目11月9日（火）心電図検査 内容 互いの心電図をとり、基本的な手技を学び、解析する。異常心電図の解析も行なう。
- 第13回 項目11月10日（水）心音脈波検査 内容 模型を使って正常・異常の心音、脈波を学ぶ。
- 第14回 項目11月16日（火）運動負荷試験 内容 エルゴメーターを用いた運動負荷試験を行い、負荷試験の方法、注意点を学ぶ。
- 第15回 項目11月17日（水）運動負荷試験 内容 エルゴメーターを用いた運動負荷試験を行い、負荷試験の方法、注意点を学ぶ。

- 第16回 項目 11月24日(水) 体力測定 内容 万歩計、心拍測定器を用いて体力測定を行ない、心拍と運動強度の関連を学ぶ。
- 第17回 項目 11月30日(火) 呼吸機能検査 内容 スパイロメーターを用いた呼吸機能検査実習を行う。
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

- 成績評価方法(総合) 各実習項目の評価点を統合する。出席が所定の回数に満たないものは単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書：実習マニュアル／参考書：生理機能検査学, 大久保善朗, 医歯薬出版, 2002年
- メッセージ 十週前に必ず実習書をよく読み、実習の目的を理解しておこなうこと。
- 連絡先・オフィスアワー 0836-22-2858(野垣研究室) 0836-22-2824(日野研究室) 0836-22-2832(松田研究室)

開設科目	機能検査学病院実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	松田昌子				

●授業の概要 生理学的検査が行われている病院検査室で、検査手技を実地に見せると同時に、検査者の役割、患者の気持ち、患者と検査者の関係について教える。

●授業の一般目標 1) 各検査室で実地に行なわれている基本的手技を見学により学ぶ。 2) 実地検査で求められる迅速性と患者対応の重要性を学ぶ。 3) 検査データを判読する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：それぞれの検査の目的、意義を理解する。 思考・判断の観点：特殊対応や緊急対応が求められる場合にどのような対応をすべきか考える。 関心・意欲の観点：病院の検査室で学生としてできることは何か考えて行動する。 態度の観点：患者との接し方を工夫する。 技能・表現の観点：基本的な生理機能学的検査法を習得する。

●授業の計画（全体） Iグループ 6～7人の小グループに分かれ、附属病院の生理系検査室を中心に4週間の実習を行なう。実習内容は実習マニュアルに記載する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 心電図検査 内容 心電図の解析および検査の手技のトレーニングし、か 授業外指示 異常心電図の症例検討を大学内で行う。

第2回 項目 脳波検査・筋電図検査 内容 脳波検査の手技のトレーニングと異常脳波の判別。

第3回 項目 画像検査学（超音波検査、MRI検査） 内容 心臓超音波検査、腹部超音波検査の手技習得と解析、MRI見学 授業外指示 大学の実習室で実技を磨く。

第4回 項目 呼吸機能検査 内容 検査の見学。

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

●成績評価方法（総合） レポートおよび実習態度、試験により評価する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●教科書・参考書 参考書：臨床検査学講座「生理機能検査学」、大久保善朗他、医歯薬出版、2003年；生理機能検査マニュアル、増田喜一他、メディカ出版、1999年

●連絡先・オフィスアワー 0836-22-2832（松田） 在室時は訪問可。

開設科目	血液学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山田治				

●授業の概要 21世紀の血液学は、分子生物学に基づく病気の病因・病態の解明がめざましく進んでいる。それに伴い、急性前骨髄球性白血病、慢性骨髄性白血病や悪性リンパ腫の治療に、それぞれビタミンAの誘導体、チロジンキナーゼ阻害薬そして抗CD20抗体が有効であることが示されている。本講義では、これらのトピックスを含めながら、基本的な血液細胞の発生、分化・成熟、機能に始まり、各血球系の病気について、成因、診断・検査、治療及び予後についてを解説する。／検索キーワード 臨床血液学、血液疾患、貧血、白血球の病気、出血凝固

●授業の一般目標 1) 造血器細胞の産生から崩壊までの過程を知り、各血球の機能を理解する。2) 赤血球系、白血球系、止血凝固系の異常について理解し、その主要な疾患については具体的な病名を示し、診断に必要な検査を判断し、検査学的な異常を評価できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：血液細胞の造血過程を説明できる。各血球の機能を説明できる。赤血球の減少する疾患、増加する疾患についてその病態を説明できる。白血球の減少する疾患、増加する疾患についてその病態を説明できる。血小板・凝固因子の異常を起こす疾患についてその病態を説明できる。思考・判断の観点：造血臓器の正常および異常細胞を類別できる。赤血球系、白血球系、血小板・凝固因子系の疾患を類別し、その異常を指摘できる。関心・意欲の観点：与えられた資料から、その病態を生じる疾患を検討し、疾患鑑別を討議できる。態度の観点：グループのメンバーと協調し、課題症例の発表に積極的に参加できる。技能・表現の観点：疾病の症状、病因、診断のための検査、鑑別診断、治療について適切な根拠に基づく資料を使用できる。

●授業の計画（全体）血液成分である、血球（赤血球、白血球、血小板）と血漿蛋白についてその生理的形態と機能についてをPower Pointを使用して説明する。また、その減少、増加を起こす病態とその時の血液学的所見、診断方法を講義する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 血液学総論（1）内容 造血臓器と血液成分・血液の機能について説明する 授業外指示 1) シラバスを読んでおくこと 2) 第14回で発表予定の課題症例の資料を配付する 3) 資料は各班を編成し授業外で検査手技、基準値を調べ、症例の病名を考える 授業記録 電子テキスト参照

第2回 項目 赤血球系（1）内容 赤血球の産生と崩壊について説明する 授業記録 電子テキスト参照 小テスト

第3回 項目 赤血球（2）内容 1) 赤血球産生に必要な栄養素の代謝 2) 貧血の定義、分類 3) 小球性低色素性貧血について説明する 授業記録 電子テキスト参照

第4回 項目 赤血球系（3）内容 大球性貧血について説明する 授業記録 電子テキスト参照 小テスト

第5回 項目 赤血球系（4）内容 1) 正球性貧血 2) 再生不良性貧血 3) 二次性貧血について説明する 授業記録 電子テキスト参照

第6回 項目 白血球系（1）内容 正常白血球の機能、分化・生成・崩壊について説明する 授業記録 電子テキスト参照 小テスト

第7回 項目 白血球（2）内容 1) 白血球増加症 2) 白血球減少症 3) HIV/AIDSについて説明する 授業記録 電子テキスト参照

第8回 項目 白血球（3）内容 1) 急性白血病 2) MDSについて説明する 授業記録 電子テキスト参照 小テスト

第9回 項目 白血球系（4）内容 1) 慢性白血病 2) 骨髄増殖性疾患について説明する 授業記録 電子テキスト参照

- 第10回 項目 白血球系(5) 内容 1) 悪性リンパ腫 2) M蛋白血症 について説明する 授業外指示 1) 第14回で発表する、課題症例についての追加検査を提出する。 2) 追加検査について検査手技、基準値を調べる 授業記録 電子テキスト参照 小テスト
- 第11回 項目 出血凝固系(1) 内容 1) 正常血小板の機能、分化・生成・崩壊 2) 正常の凝固線溶系 について説明する 授業外指示 1) 追加検査を取捨選択し、検査成績を渡す 授業記録 電子テキスト参照
- 第12回 項目 出血凝固系(2) 内容 1) 血小板減少症 2) 血小板増加症 3) 血小板機能異常症 について説明する 授業記録 電子テキスト参照 小テスト
- 第13回 項目 出血凝固系(3): 血小板と凝固線溶系 内容 1) 血友病 2) DIC について説明する 授業記録 電子テキスト参照 小テスト
- 第14回 項目 課題症例について解説する 内容 各グループによる発表 授業外指示 1) 後期の開始時に班編成をくむ 2) 各班毎に課題症例の資料を渡す 3) 各班で課題症例を検討する 4) 第14回の講義日に各班が受け持ち症例の考察を発表する
- 第15回

- 成績評価方法(総合) (1) 授業中に小テストを7回行う。(2) 課題症例についてレポートを用紙5枚程度で作成し、提出する。(3) 試験を期末に1回実施する。以上を、下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たないものには、単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書: 血液検査学第4版, 古澤新平磯部淳一, 医学書院, 2003年; 血液細胞アトラス [第5版], 三輪史朗, 文光堂, 2004年; 講義は電子テキストに沿って進行する。項目等は教科書に沿っているので講義前に電子テキストと教科書を読んでおくこと。また、この教科書は3年次の血液検査学実習でも使用する。
- メッセージ 質問した人を評価します。疑問を残さないようにしてください。
- 連絡先・オフィスアワー 時間帯は特に設定しませんが、ノックして、氏名を名乗って入室して下さい。

開設科目	血液検査学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	岡野こずえ				

●授業の概要 血液や造血臓器の基礎的知識と血液疾患は、すでに血液学で習得している。この講義では、それら知識を基に、血液検査の原理、疾患と検査の関連及び検査成績の解釈等を学習する。／検索キーワード 血液検査 血液疾患 採血 血球計測 血液形態鑑別 血液凝固・線溶測定

●授業の一般目標 血液検査は血球計測系、血液形態鑑別系、血液凝固・線溶測定系、染色体・遺伝子等多種類の方法が含まれている。それぞれの検査方法について原理、方法および疾患との関連性を理解させる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1、血液検査法の原理、方法および血液疾患との関連性を理解する。 思考・判断の観点： 1、血液検査結果と他の検査結果との関連性を理解させる。 2、患者の病態を推測させる。 関心・意欲の観点： 1、一般的な血液検査結果から発展した研究レベルの検査の知識を追求する。 態度の観点： 1、授業は必ず出席する。

●授業の計画（全体） 血球計測系、血液形態鑑別系、染色体・遺伝子系、血液凝固・線溶測定系の順番で授業を進めて行く。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 検査法総論、採血法
- 第 2 回 項目 末梢血液検査（Hb、Ht、RBC、WBC、Plt）
- 第 3 回 項目 末梢血液検査（血液塗抹標本、自動血液検査法、網赤血球数）
- 第 4 回 項目 骨髓検査、特殊血液形態学的検査（特殊染色、LE細胞試験）
- 第 5 回 項目 特殊血液検査（表面マーカー、染色体検査、分子生物学的診断法）
- 第 6 回 項目 赤血球系の特殊検査（溶血性貧血に関する検査、シリング試験他）
- 第 7 回 項目 白血球系の特殊検査（好中球機能検査、リンパ球芽球化試験他）
- 第 8 回 項目 免疫グロブリンに関する検査（免疫グロブリン定量）、赤血球沈降速度
- 第 9 回 項目 血液凝固検査（出血時間、毛細管抵抗試験、凝固時間、PT、APTT）
- 第 10 回 項目 血液凝固検査（血餅退縮、複合凝固因子検査、トロンビン時間他）
- 第 11 回 項目 血液凝固検査（凝固因子活性の定量、循環抗凝血素、ATIII）
- 第 12 回 項目 線溶検査（フィブリン平板法、ユーグロブリン溶解時間、FDP）
- 第 13 回 項目 血小板機能検査（血小板粘着能、血小板凝集能、血小板第3因子能）
- 第 14 回 項目 その他（新しい凝固線溶検査、血液凝固自動測定装置、血栓検査）

●成績評価方法（総合） 毎回小テストを行い、把握度を確かめながら授業を進めていく。

●教科書・参考書 教科書：臨床検査技術学（11）血液検査学、第3版、古沢新平他、医学書院、1998年

●メッセージ 血液疾患や他の疾患に興味を持って、授業を受けて欲しい。

●連絡先・オフィスアワー E-mail:kozue@yamaguchi-u.ac.jp Tel:0836-22-2837

開設科目	血液検査学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	山田治・岡野こずえ・山本美佐				

●授業の概要 血液学、血液検査学で学んだ知識を、実際の検体（血液）を使用して検査技術を習得する。次に病気を診断するための検査方法とその結果を分析し、血液疾患の診断へと進めていく。／検索キーワード 血液学、血液形態学、CBC、血球計測、血小板機能検査、止血凝固検査

●授業の一般目標 血液検査項目は、?血球計測検査、?細胞形態鑑別検査、?凝固・線溶系検査に大別される。これら一つ一つの技術を習得し、結果解析、診断へと関連づけて学習する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 各実習内容の原理を説明できる。 2. 各検査間の関連を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 実習の結果を判断できる。 2. 様々な疾患における各実習の異常発生のメカニズムを指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. 状況に応じて適切に実習するように心がける。 2. 検査の手技に関心を持ち実施できる。 態度の観点： 1. 問題意識を持ち積極的に取り組むことができる。 2. 精度の高い検査が実施できる態度を身につける。 技能・表現の観点： 1. 検査結果を考察し、文章や口答で適切に表現できる。

●授業の計画（全体） 全体を4グループに編成し、各グループはマニュアルに記載してある日程でA項目からD項目の内容を順次交代で実習する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目A項目(1) 内容 末梢血計測（RBC、WBC、Hb、Ht）2検体、標本作製、ライト染色、網赤血球計測、好酸球計測 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第2回 項目A項目(2) 内容 末梢血計測（RBC、WBC、Hb、Ht）2検体、標本作製、ライト染色、網赤血球計測、好酸球計測 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第3回 項目A項目(3) 内容 末梢血計測（RBC、WBC、Hb、Ht）2検体、標本作製、ライト染色、網赤血球計測、好酸球計測 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第4回 項目B項目(1) 内容 血液塗抹標本分類（末梢血10検体以上、骨髓標本1～2検体）、特殊染色（Alp染色、ペルオキシダーゼ染色、鉄染色） 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第5回 項目B項目(2) 内容 血液塗抹標本分類（末梢血10検体以上、骨髓標本1～2検体）、特殊染色（Alp染色、ペルオキシダーゼ染色、鉄染色） 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第6回 項目B項目(3) 内容 血液塗抹標本分類（末梢血10検体以上、骨髓標本1～2検体）、特殊染色（Alp染色、ペルオキシダーゼ染色、鉄染色） 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第7回 項目C項目(1) 内容 凝固検査（Ca再加試験、トロンビン時間、PT・APTT時間）各2検体、出血時間、毛細管抵抗試験 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第8回 項目C項目(2) 内容 凝固検査（Ca再加試験、トロンビン時間、PT・APTT時間）各2検体、出血時間、毛細管抵抗試験 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第9回 項目C項目(3) 内容 凝固検査（Ca再加試験、トロンビン時間、PT・APTT時間）各2検体、出血時間、毛細管抵抗試験 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第10回 項目D項目(1) 内容 凝固・線溶系検査（FDP検査、フィブリン平板試験）、赤血球抵抗試験、血小板機能検査（血餅退縮試験、血小板粘着能試験） 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第11回 項目D項目(2) 内容 凝固・線溶系検査（FDP検査、フィブリン平板試験）、赤血球抵抗試験、血小板機能検査（血餅退縮試験、血小板粘着能試験） 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第12回 項目 D項目(3) 内容 凝固・線溶系検査 (FDP 検査、フィブリン平板試験)、赤血球抵抗試験、血小板機能検査 (血餅退縮試験、血小板粘着能試験) 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第13回 項目 予備日(1) 内容 A～D項目で未実習の内容 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第14回 項目 予備日(2) 内容 A～D項目で未実習の内容 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第15回 項目 試験

●成績評価方法(総合) 実習態度の評価は、各実習項目は実施に対する積極性、実習結果の問題点を教員と検討する態度および実習後の整理整頓の態度をチェックする。期末試験としては、実習項目の理解度を paper test で評価し、到達度を実技試験で評価する。

●教科書・参考書 教科書：血液細胞アトラス, 三輪史郎編, 文光堂, 1996年; 血液検査学第4版, 古澤新平、磯部淳一, 医学書院, 2003年; 血液細胞アトラス [第5版], 三輪史郎, 文光堂, 2004年; 血液細胞アトラスは少し高いテキストですが、その価値は利用することで、十分元が取れます。説明を読みながらページを繰って下さい。

●メッセージ 実習中に疑問があればすぐに教員に質問する。疑問を持ったまま過ごさないこと。

●連絡先・オフィスアワー 山田治：電話は 0836-22-2803、メールは osamuymd@yamaguchi-u.ac.jp 岡野こずえ：電話は 0836-22-2837、メールは kozue@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	血液検査学病院実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	岡野こずえ				

●授業の概要 血液学、血液検査学、血液検査学実習で学んだ知識と技術について、実際に病院の血液検体を使用して血球の測定、血液細胞の鑑別、凝固・線溶系の測定検査の技術の理解を目的とする。また、実際の患者に接して出血時間等の検査を行い、患者に対応する検査を学ばせる。／検索キーワード 臨床検体 患者 血液検査 血液疾患

●授業の一般目標 実際の病院で実施されている血液検査項目を学ぶ。患者との接し方を学ぶ。患者検体における異常値の対応の仕方を学ぶ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1、学校で学んだ知識や技術が病院での実務にどう関連しているかを学ぶ。 思考・判断の観点： 1、個々の患者に適応した検査法や実技を学ぶ。 2、患者結果の解読と病態を把握できる。 関心・意欲の観点： 1、色々な患者検体について検査を実施する。 2、その結果を解読し、それから発展する検査項目を学ぶ。 態度の観点： 1、毎日の実習を確実にこなす。 技能・表現の観点： 1、結果を説明することができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 患者に接する検査（採血の見学、出血時間の測定、骨髄穿刺の見学）細胞観察（病的標本の観察と診断）自動測定器の見学（血球測定器、凝固測定器、血小板機能測定器、フローサイトメトリー）

第 2 回 項目 ”

第 3 回 項目 ”

第 4 回 項目 ”

第 5 回 項目 ”

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●メッセージ 病院での実習なので服装、言葉使い、態度等に注意をして臨んで欲しい。

●連絡先・オフィスアワー kozue@yamaguchi-u.ac.jp Tel:0836-22-2837

開設科目	臨床医学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教員	山田治・日野啓輔・市原清志				
<p>●授業の概要 臨床医学の授業では、重要な医学用語、病名、医学の基礎的な知識を身につけるために、カラーラストや図版が多く使用されている「病気の地図帳」をテキストに指定して、わかりやすい病気の解説を行う予定である。病気の解説では、病気の病態生理、病理像、症状、予後、合併症、類似の病気との違いなども基本的な重要な面のみ取り上げて説明する。／検索キーワード 病気、疾患、病因、診断、治療</p> <p>●授業の一般目標 重要な医学用語、病名、医学の基礎的な知識を身につける</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 主要な病気の原因と症状を説明できる。 2. 主要な病気における検査の異常を説明できる。 3. 主要な病気の治療の基本を知っている。 思考・判断の観点： 1. 主要な症状から病気の種類、病名を指摘できる。 2. 検査値の異常から病気の種類を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. 病気の病因・病態に関心を持ち、検査値の異常値とを考察する態度を身につける。</p> <p>●授業の計画（全体） 病気の地図帳を1冊読みます。この本を通じて病気のアウトラインを学習します。3名の講師が得意の分野を受け持つ omnibus 形式で行います。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 症候学1 授業外指示 配付資料を読んでおくこと。 授業記録 市原清志</p> <p>第2回 項目 症候学2 授業外指示 配付資料を読んでおくこと。 授業記録 市原清志</p> <p>第3回 項目 頭部の疾患 内容 頭蓋内出血、脳梗塞、脳腫瘍、脳血管性痴呆、アルツハイマー型痴呆、顔面神経麻痺、眼底出血、網膜剥離 授業記録 山田 治</p> <p>第4回 項目 心疾患（1） 呼吸器疾患 内容 心の病気、気管支喘息、気管支炎、肺炎、肺気腫、肺癌 授業記録 山田 治</p> <p>第5回 項目 心疾患（2） 血液疾患 内容 狭心症、心筋梗塞、心不全、心筋症、白血病、悪性リンパ腫、エイズ 授業記録 山田 治</p> <p>第6回 項目 内分泌疾患 内容 糖尿病、高脂血症、痛風、内分泌腺の病気 授業記録 市原清志</p> <p>第7回 項目 心疾患（3） 内容 高血圧症、動脈硬化症、動脈瘤、静脈瘤、乳線炎、乳腺症、乳癌、胸部のその他の病気 授業記録 山田 治</p> <p>第8回 項目 整形外科疾患 内容 骨折、脱臼、捻挫、野球型、野球肘、テニス肘、五十肩、頸椎症、骨粗鬆症、椎間板ヘルニア、腰痛症、変形性関節症、慢性関節リュウマチ、骨腫瘍、論官神経痛、坐骨神経痛 授業記録 山田 治</p> <p>第9回 項目 耳鼻科疾患 内容 中耳炎、花粉症、副鼻腔炎、むしば、歯周炎、歯槽膿漏、口内炎、舌癌、扁桃腺炎、アデノイド、頭と頸部のその他の病気 授業記録 日野啓輔</p> <p>第10回 項目 腎疾患（1）、消化器疾患（1） 内容 胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃癌、大腸ポリープ、大腸癌、直腸癌、虫垂炎、痔、癌の発生と転移の仕組み 授業記録 日野啓輔</p> <p>第11回 項目 消化器疾患（2） 内容 肝炎、肝硬変、肝癌、胆石症、胆嚢炎、胆嚢癌、膵炎、膵癌 授業記録 日野啓輔</p> <p>第12回 項目 腎疾患（2） 内容 腎炎、腎不全、尿路結石、腎癌、膀胱癌、前立腺肥大症、前立腺癌 授業記録 市原清志</p> <p>第13回 項目 婦人科疾患 内容 子宮筋腫、子宮内膜症、子宮癌、卵巣腫瘍、腹部のその他の病気 授業記録 日野啓輔</p> <p>第14回 項目 皮膚・アレルギー疾患 内容 湿疹、蕁麻疹、単純性疱疹、脱毛症、免疫・アレルギーの病気、全身のその他の病気 授業記録 日野啓輔</p> <p>第15回</p> <p>●成績評価方法（総合）【全体】最終評価は期末試験で行います。授業の出席日数が不足すると試験を受けられません。また、1～2コマ毎に小テストを行い、評価の一部に使用します。【観点別】知識の理解</p>					

度および思考の判断力は期末試験の Paper test で評価します。関心・意欲は授業中の質問などの積極的な態度を評価します。

- 教科書・参考書 教科書：「病気の地図帳」, 山口和克 監修, 講談社, 2000 年
- メッセージ 解らないところは自宅に持ち帰らず教員に尋ねてください。みんなの前で質問することは勇気がいりますが、同じことに疑問を持っている人も必ずいます。
- 連絡先・オフィスアワー いつでもいるときはどうぞ訪室してください。必ず専攻、学年、氏名を名乗ってください。

開設科目	臨床医学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教員	市原清志				

●授業の概要 最初に疾患別症例データベースに基づいて、主要な臨床検査値がどのような病態で変動するかを整理する。その後、剖検症例を中心に臨床検査データの変動がどのような臨床経過と関連しているかを多数の症例で学ぶ。この方式による、臨床検査診断の学習方式は、Reversed Clinicopathological Conference(RCPC)として知られ、簡単な臨床経過の記録と検査経過表から死亡までの病状の変化を、様々な可能性を想定し推論を行う。そして、最後に症例検討会が開催され、詳細な臨床経過と剖検で得た病理所見(実病態)の開示を受け、行ってきた推論の妥当性を検証する。本講義も、後半はRCPC方式で、(1)あらかじめ与えられた課題症例の検査データからその病態の推論を行い、(2)次の授業で発表し、その後、(3)実病態の提示を受ける、という形式で進める。なお、最後の2回の授業は、病棟実習にそなえ、主な疾患の典型症例のカルテを閲覧し、その記載内容の見方と臨床検査の実診療での意義を学習する。／検索キーワード 臨床検査診断学、疾患データベース、RCPC、検査疫学

●授業の一般目標 (1) 主要な検査値の病態変動の要因を列挙できる (2) 主要な疾患の典型症例の臨床所見と検査所見との関連性を知り、臨床検査の診断的意義を理解している

●授業の到達目標／知識・理解の観点：臨床検査値の変動要因(生理的変動と病態変動)をよく理解している。推定される疾患の病態的特徴(疫学・病因・臨床所見・検査所見・治療法・予後)をよく理解している 思考・判断の観点：臨床像と臨床検査値の組み合わせから適切な推論を行える。 技能・表現の観点：与えられた症例について、検討した結果をわかりやすく発表できる

●授業の計画(全体) 最初に、主要な臨床検査の変動要因をそう復習する。続いて、主要な約30疾患についてその疫学的、病理学的特性をまとめ、同時に診断上重要となる、臨床所見と検査所見を整理する。また、最新の治療法や予後についても触れる。最後に、計6症例(剖検例)を班毎に割り振り、与えられた検査所見から、どのような病態・疾患を想定できるかを深く考察し、その結果を順に発表してもらい、皆で討議する。これらの勉学過程により、臨床検査が臨床医学に果たす役割を深く認識させる。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 主要検査の生理的病態学的変動要因(1)
- 第2回 項目 主要検査の生理的病態学的変動要因(2)
- 第3回 項目 主要検査の生理的病態学的変動要因(3)
- 第4回 項目 主要検査の生理的病態学的変動要因(4)
- 第5回 項目 主要疾患の臨床検査プロフィール(1)
- 第6回 項目 主要疾患の臨床検査プロフィール(2)
- 第7回 項目 主要疾患の臨床検査プロフィール(3)
- 第8回 項目 主要疾患の臨床検査プロフィール(4)
- 第9回 項目 RCPC 症例演習(1)
- 第10回 項目 RCPC 症例演習(2)
- 第11回 項目 RCPC 症例演習(3)
- 第12回 項目 RCPC 症例演習(4)
- 第13回 項目 RCPC 症例演習(5)
- 第14回 項目 RCPC 症例演習(6)
- 第15回

●成績評価方法(総合) 知識と判断力を問うため、ペーパーテストの形で小テスト、定期試験を行う。

●メッセージ 病気への関心を高め、実際に臨床検査が病気の診断にどのように使われるかを実践的に学習する大切な科目ですので、意欲的に取り組んで下さい。

●連絡先・オフィスアワー E-mail: ichihara@yamaguchi-u.ac.jp Tel/Fax: 0836-22-2884 (大学) 9:00～18:30

開設科目	臨床病理学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	服部幸夫				

●授業の概要 「生化学」「病理学」「血液学」「臨床医学」などの科目を基本とする「臨床病理学」です。総合学問と言えます。その中で、特にスポットをあてるのは、病態の理解に裏付けされた検査値の解釈です。この目的で「異常値の出るメカニズム」を教科書として用います。検査値は決して無味乾燥なものではなく、それを読む人がその裏に潜む病態を推測し得る時に初めて検査値に命が与えられます。／検索キーワード 臨床病理学

●授業の一般目標 検査項目およびその組み合わせはどのような病態を反映しているのか、を理解する。

●授業の計画（全体）教科書に対する問題集を最初一括して渡す（ダウンロード可能）ので、授業に関する範囲の問題を教科書を読みながら自ら解答を探す。毎時間の小試験は基本的には問題集から抜粋して出題する。その解答をしながら、解説を行う形態で授業を進める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 尿の検査 内容 9-35
- 第 3 回 項目 尿、便の検査 内容 36-62
- 第 4 回 項目 血液検査 (1) 内容 63-92
- 第 5 回 項目 血液検査 (2) 内容 93-118
- 第 6 回 項目 化学検査 (1) 内容 119-146
- 第 7 回 項目 化学検査 (2) 内容 147-172
- 第 8 回 項目 化学検査 (3) 内容 173-200
- 第 9 回 項目 内分泌 (1) 内容 201-222
- 第 10 回 項目 内分泌 (2) 内容 223-241
- 第 11 回 項目 内分泌 (3) 内容 242-266
- 第 12 回 項目 酵素 内容 267-300
- 第 13 回 項目 免疫血清 内容 301-332
- 第 14 回 項目 感染症 (1) 内容 333-359
- 第 15 回 項目 感染症 (2)、腫瘍 マーカー 内容 360-387

●成績評価方法（総合） 毎回小試験を行い、本試験は小試験を中心に出題する。主な評価は本試験で行う。しかし、小試験の結果も参考とする。2/3 以上の出席が必要。

●教科書・参考書 教科書：異常値の出るメカニズム, 河合忠 編集, 医学書院, 2001 年

●メッセージ かなりハードな自習科目です。自分との戦いですから、頑張ってください。ゲームを楽しんで戴きたいと思います。

●連絡先・オフィスアワー hattori-ygc@umin.ac.jp

開設科目	臨床病態学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	服部幸夫				

●授業の概要 個々の検査値に関して測定法や意義を学んでも、まだ使いこなせるものではない。学習をより確実なものにするためには練習問題をこなす必要があります。これに相当するものが、臨床病態学演習 (drill) です。ここでは、10数例の症例を提示するので、その症例に即してデータや病態の解釈を行い、かつ病気の知識を深めて戴きます。なお、症例は英語で提示するかもしれません。デジタル化された英文資料を提供しますので、英辞郎などの電子辞書を使って能率をあげることもできます。

●授業の一般目標 多数の検査データより推測される病態、病気を理解する。疾患の一つひとつを1枚のカードと認識し、今後そのカードを増やしていく方法を学ぶ。カルテに使われている医学英語に習熟する(カルテが読めるようになる道標とする)。

●授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 検査から得られる病態解釈 疾患の理解 思考・判断の観点: 疾患のメカニズム、およびそれが検査にどのように反映されているかを考察する。 関心・意欲の観点: 病気の理解は自ら調べて、一つひとつを自分のものにしていく作業である。その方法をここで学ぶ。疾患に興味があれば、検査は面白くないことを理解する。 態度の観点: パソコン授業となるために、インターネットや場合によっては文献検索にアクセスしていく作業が含まれる。自ら積極的に取り組まないと、成果はあがらない。 技能・表現の観点: 検査結果の解釈や疾患で分からない場合でも自ら解決できる技能をすこしでも獲得する。

●授業の計画(全体) 症例を与え、それに沿って症例問題に対する解答をインターネットや成書で探して答えていく。疾患にたどり着いたら、その疾患に関して深く学ぶ。毎回小テスト(前回学習した箇所)を課す。

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 症例1
- 第2回 項目 症例1
- 第3回 項目 症例2
- 第4回 項目 症例3
- 第5回 項目 症例4
- 第6回 項目 症例5
- 第7回 項目 症例6
- 第8回 項目 症例7
- 第9回 項目 症例8
- 第10回 項目 症例9
- 第11回 項目 症例10
- 第12回 項目 症例11
- 第13回 項目 症例12
- 第14回 項目 症例13
- 第15回 項目 試験14

●成績評価方法(総合) 主として本試験で評価をしますが、小試験の結果も参考にします。本試験の問題は小試験の問題を中心に出题します。2/3以上の出席必要

●教科書・参考書 教科書: 症例はこちらから渡すので、教科書の指定はありません。 / 参考書: 異常値の出るメカニズム, 河合忠, 医学書院, 2001年; 臨床検査の診かた・読みかた・考え方, 櫻林郁之介, 他, 医歯薬出版KK, 2001年; Current Medical Diagnosis & Treatment, L.M.Tierney, Jr., Lange, 2005年; Robbins Basic Pathology, Kumar, et al, Saunders, 2003年; ロビンス基礎病理学, 森亘, 他 訳, 廣川

書店, 2004 年; 有用な参考書は上記の如くです。(2) は医学ジャーナルの別冊です。(5) は (4) の訳本です。できるだけ、洋書に馴染むことをお勧めします。

- メッセージ 英語での症例では、「英辞郎」を活用することが勧められる。

開設科目	臨床検査学実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	服部幸夫・高橋睦夫・山田治・松田昌子・市原清志・日野啓輔				

- 授業の概要 病棟に1週間張り付いて、そこで行われている検査関係の見学と理解をはかる。また医師、看護師の活動を見学する。1症例をとおして、疾患がどのようにアプローチされているかをふ。
- 授業の一般目標 臨床の現場で検査がどのように扱われているかを理解する。(依頼、報告、流れ、など) 1症例の病態、検査などすべてにわたって理解する。ドクター、看護師の仕事を理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：病棟での検体、検査の動きと理解を行う。思考・判断の観点：疑問はまず自分で考え、調べ、それでも分からなければ医師や看護師に質問する。関心・意欲の観点：検査の裏には病態があり、その背後には患者がある。それを感じて検査にあたる。態度の観点：患者はじめ、医師、看護師、放射線技師、理学療法士、栄養士、そして患者の家族など多くの関係者が出入りする病棟において、失礼のない態度であるように自らの態度を常に自分でチェックする。
- 授業の計画(全体) 月曜日から金曜日までの1週間を病棟で研修する。1グループ約7名からなる6グループがそれぞれ別の診療科で研修する。各グループに保健学科の教官1名がつき、病棟医、看護師などがサポートする。最後の日(金)に各グループごとにカンファランスを行う。前もって、1日オリエンテーションを行い、カルテの見方、注意事項、システムの使い方(演習、病棟では見学のみ)を行う。
- 成績評価方法(総合) 実習中の態度、理解度、カンファランスでの発表の内容により、行う。詳細な方法は各教官で少々異なる可能性がある。出席が最も重要である。

開設科目	検査管理学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	市原清志				

●授業の概要 臨床検査値の信頼性を高めるための要件と、それを達成するために必要な一連の方法論を系統的に講義する。ここで検査の信頼性は、測定値の再現性（精度）を高め、偏りの少ない（正確な）値を出し、人為的なミス（検査過誤）の防止に依存している。測定精度・正確度の評価については、新測定法導入時の技術的評価法、管理図を用いた精度のモニターリング法を中心に講義を行う。一方、外部精度管理調査結果から、臨床検査の標準化がどのように推進され、現在の検査の精度がどのような状況にあるのかを学ぶ。さらに臨床検査の臨床的有効性を客観的に評価するための指標とその解釈についても解説する。／検索キーワード 精度管理学、標準化、臨床的評価法、技術的評価法、検査過誤

●授業の一般目標 ・臨床検査の標準化・精度の現状を理解し、将来の方向性がわかる ・検査の現場で、日常検査の精度管理を実践できる ・検査の技術的評価法を理解し、実際の基礎検討のデータを用いてその評価を行える ・検査の臨床的有用性の評価法を理解し、その計算・作図をできる

●授業の到達目標／知識・理解の観点：臨床検査の精度を定量的な評価ができる。臨床検査の精度や安全性に問題をきたす要因について基礎的な知識を持っている。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 精度管理総論
- 第 2 回 項目 内部精度管理法（1）
- 第 3 回 項目 内部精度管理法（2）
- 第 4 回 項目 外部精度管理法と臨床検査の標準化
- 第 5 回 項目 誤差許容限界の考え方と求め方
- 第 6 回 項目 個別管理法と検査過誤
- 第 7 回 項目 測定値の誤差要因（1）
- 第 8 回 項目 測定値の誤差要因（2）
- 第 9 回 項目 基準範囲とカットオフ値（1）
- 第 10 回 項目 基準範囲とカットオフ値（2）
- 第 11 回 項目 検査の有用性の評価法（1）
- 第 12 回 項目 検査の有用性の評価法（2）
- 第 13 回 項目 精度管理演習（1）
- 第 14 回 項目 精度管理演習（2）
- 第 15 回

●教科書・参考書 参考書：解説・演習用プリントを毎回配布

●メッセージ 3年後期で精度管理学の実際を学びますが、その基礎知識を整理します

●連絡先・オフィスアワー E-mail: ichihara@yamaguchi-u.ac.jp Tel/Fax: 0836-22-2884（大学）9:00～18:30

開設科目	検査精度管理学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	市原清志・岩本美江子・清水慶久				

●授業の概要 精度管理：3年前期で学んだ検査管理学の発展として、臨床検査の各部門で、日常どのような精度管理の工夫が行われているかを学ぶ。また、実際の数値例で、精度管理に必要なデータ解析法を演習する。安全管理と医療システム：臨床検査技師のための法律および医療従事者に関わる各種法律、ならびに現在の医療制度について解説する。また安全管理として、臨床検査技師の立場での医療事故、医療過誤を教示する。／検索キーワード 精度管理学、標準化、臨床的評価法、技術的評価法、関係法規、安全管理、検査過誤

●授業の一般目標 ・臨床検査の標準化・精度の現状を理解し、将来の方向性がわかる ・検査の現場で、日常検査の精度管理を実践できる ・検査の技術的評価法を理解し、実際の基礎検討のデータを用いてその評価を行える ・検査の臨床的有用性の評価法を理解し、その計算・作図をできる ・臨床検査技師に関わる法規の主な内容とその意味を理解している ・検査業務を行う上での、安全管理の基礎知識を持っている

●授業の到達目標／知識・理解の観点：臨床検査の精度を定量的な評価ができる。臨床検査の精度や安全性に問題をきたす要因について十分な知識を持っている。また、検査技師に関する法律を一通り理解している。思考・判断の観点：検査の精度管理の不備や検査過誤がどのような影響を持つかを考えることができ、計測値の扱いに関してさまざまな状況で正しい判断を行える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 臨床検査と精度管理：総復習 内容 市原
- 第 2 回 項目 臨床化学検査と精度管理 内容 大井
- 第 3 回 項目 血液検査と精度管理 内容 常岡
- 第 4 回 項目 遺伝子検査と精度管理 内容 岡山
- 第 5 回 項目 微生物・遺伝子検査と精度管理 内容 水野
- 第 6 回 項目 輸血検査の精度管理 内容 工藤
- 第 7 回 項目 臨床検査の変動要因（1） 内容 市原
- 第 8 回 項目 臨床検査の変動要因（2） 内容 市原
- 第 9 回 項目 関係法規：臨床検査技師に関する法律 内容 岩本
- 第 10 回 項目 関係法規：医療従事者に関わる法律（1） 内容 岩本
- 第 11 回 項目 関係法規：医療従事者に関わる法律（2） 内容 岩本
- 第 12 回 項目 検査過誤と安全管理（1） 内容 清水
- 第 13 回 項目 検査過誤と安全管理（2） 内容 清水
- 第 14 回 項目 医療保険と介護保険 内容 岩本
- 第 15 回

●成績評価方法（総合）市原：知識と判断力を問うため、ペーパーテストの形で小テスト、定期試験を行う。岩本・清水：定期試験で評価

●メッセージ 3年前期で精度管理学の統計学的な側面を中心に学びますが、その応用にあたります。

●連絡先・オフィスアワー 市原：E-mail: ichihara@yamaguchi-u.ac.jp Tel/Fax: 0836-22-2884（大学）9:00～18:30 岩本：E-mail: miwamoto@yamaguchi-u.ac.jp Tel/Fax: 0836-22-2854（大学）9:00～18:30

開設科目	実験動物学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	石川敏三				

●授業の概要 医学・医療の発展における動物の貢献はめざましい。すなわち疾患モデルや病理的状態の生理的、形態学的サンプルとして、極めて重要な価値がある。本講義では、生命科学の発展と人類の幸福に関する、病気の成り立ち（病態メカニズム）や薬物の開発など、幅広く教授する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 医学の発展における動物のかかわり (相似性など)
- 第 2 回 項目 2. 動物愛護とストレス緩和
- 第 3 回 項目 3. 神経研究の実際 (解剖・生理学的アプローチ)
- 第 4 回 項目 4. 神経研究の実際 (薬理学的アプローチ)
- 第 5 回 項目 5. 神経研究の実際 (神経生化学的アプローチ)
- 第 6 回 項目 6. 臨床における中枢神経障害の病態の理解
- 第 7 回 項目 7. 将来予想される治療法と基礎研究との拘り
- 第 8 回 項目 8. 先端治療薬開発・研究の話題

●教科書・参考書 参考書：神経科学研究の最先端プロトコール I, II, III, 遠山正彌監修, 厚生社, 1993 年

開設科目	発生遺伝学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	塚原正人				

●授業の概要 ヒトが健康に生まれてくるまでには、受精前から出生までの間にいくつもの段階のバリアーをクリアーすることが必要である。本講義では、生命誕生の仕組みを発生面からスポットを当てて、正常発生、異常発生に関わる遺伝子、遺伝子発現、染色体、遺伝性疾患、環境要因などについての知識を深める。／検索キーワード 配偶子（精子・卵子）、遺伝子、染色体、遺伝子異常、染色体異常、遺伝子発現、遺伝形式、遺伝性疾患

●授業の一般目標 配偶子（卵・精子）形成過程から出生に至るまでの発生途上で起こりうる異常とその発生機序および予防法について理解する。1. 単一遺伝子病の遺伝形式を理解し、疾患にはどのようなものがあるかを説明することができる。2. 染色体とDNA・遺伝子との関係を理解し、説明することができる。3. 染色体異常と単一遺伝子病の違いを説明することができる。4. 染色体異常の種類と発生機序について理解し、説明することができる。5. 主な染色体異常症について理解し、説明することができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 先天異常の原因とその発生機序について説明できる。 思考・判断の観点： 先天異常を遺伝学的観点から、考えることができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 先天異常と先天 奇形 内容 先天異常の分類・発生頻度
- 第 2 回 項目 配偶子（精子・卵子）形成過程 内容 成熟分裂（精子・卵子形成過程）
- 第 3 回 項目 遺伝子と染色体 内容 DNA、遺伝子、染色体
- 第 4 回 項目 遺伝子異常と染色体異常 内容 遺伝子異常と染色体異常の発生機序
- 第 5 回 項目 染色体異常症 内容 主な染色体異常症
- 第 6 回 項目 遺伝子発現と疾病 内容 遺伝子発現 X 染色体不活性化
- 第 7 回 項目 遺伝形式と遺伝性疾患 内容 メンデル遺伝形式（常染色体優性・劣性、X連鎖優性・劣性）と主な遺伝性疾患
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法（総合） レポート、試験、出席率などによる（単位認定の最低条件：総授業数の2/3以上の出席およびレポート提出）

●教科書・参考書 教科書：臨床検査学講座 遺伝子・染色体検査学, 奈良信夫 他, 医歯薬出版, 2002年

●メッセージ 先天異常が生じる機序をよく理解して欲しい。

開設科目	病態生化学演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	服部幸夫				

- 授業の概要 検査部のカンファランスに参加して、その発表内容の要旨をまとめる。
- 授業の一般目標 検査がどのように検討されているか、あるいは研究されているかを臨床の現場でのカンファランスに参加することにより、具体的に学ぶ。将来、検査技師あるいは他の職種で働く時に同様の検討（研究）を自分が行う時の参考とする。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：検査の検討の仕方を学ぶ 思考・判断の観点：発表されている課題は完全に理解する。 関心・意欲の観点：単に聴くだけでなく、発表者に質問をする。 態度の観点：集団の中での自分の立場を心がけて、失礼のないように、そして萎縮しないように心がける。 技能・表現の観点：検査項目の検討、研究の仕方（方法）を獲得する。（テーマは小さいかもしれませんが、検討にはほぼ決まった方法があります。これを獲得しておくこと、将来自分でそれを行う時に大変役立ちます。将来、テーマの検討、研究とその発表を重ねていくことが大切です。）
- 授業の計画（全体）カンファランスは時間外なので、時間内のスケジュールには原則として拘束されない。カンファランスへの参加回数は6回以上とします。
- 成績評価方法（総合）レポート提出（6以上）。1回に演題が2つあったら、それぞれ別個に1個のレポートとします。レポートには必ず出席日付を記載する。（出席はチェックする）出席していないのに、レポートのみ提出した者にはこの単位は出ない。

開設科目	バイオサイエンス概説	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	石川敏三				

開設科目	国際看護学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	C. メルビー				

開設科目	検査技術科学卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教員	専任教員・医学科教員				

- 授業の概要 早い時期に医学部保健学科および医学科教員の各研究テーマが示されます。そのテーマ中から各自の希望に沿って(第5希望の範囲で指導教員を決めます)、卒業研究のテーマを決めます。指導は前期と後期の2グループに分かれ、各テーマ毎に約8週間で行われます。研究成果の発表は12月の合同研究発表会で行い、質疑を受けます。その後、発表内容をまとめて卒業研究論文集を作成します。
- 授業の一般目標 1. 研究テーマの背景を調査し説明できる。 2. 研究内容の方法論を検討することができる。 3. 得られたデータを考察し研究内容を説明できる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 研究テーマの背景を理解している。 2. 研究に必要な方法論を理解している。 思考・判断の観点： 1. 予想外のデータがでた時にその原因を考察できる。 2. 各種のデータをもとに必要な実験計画を建てることができる。 3. 得られたデータをもとに考察を加えることができる 関心・意欲の観点： 研究内容の問題点を明確にし、解決するための努力をしている。 態度の観点： 指導教員とよく打合せを行い、研究内容の理解、解決のための検討、発表内容の整理などの態度。 技能・表現の観点： 得られた結果を纏め、その意義を考察し、論文に纏める。
- 授業の計画(全体) 限られた時間であることから、研究内容の背景をできるだけ速やかに理解する。研究内容を把握できたら、どこまで明確にされどこがわかっていないかを検討する。問題点が明確になったら、どのような方法論でそれを解決するかを検討する。得られたデータをもとに更に検討を行う。検討内容を取り纏め、論文にまとめ発表する。
- 成績評価方法(総合) 研究内容に対する取り組み、態度を評価する。指導者に自分の考えを述べ、検討することができる一独創性、判断力、表現力を評価する。データを取り纏め、論文作成発表一判断力、表現力を評価する。
- メッセージ 指導教員と十分な打合せを行う。その際、どこで研究を行うか、不在の場合の連絡などは確実に行うこと。身だしなみ、言葉遣いも十分注意する。夏休み中の研究指導についても十分相談すること。